

第3次南あわじ市
男女共同参画計画策定にかかる
アンケート調査
結果報告書

令和4年10月
南あわじ市

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	2
II アンケート調査結果.....	3
1 市民対象調査.....	3
2 事業所調査.....	80
3 高校3年生調査.....	92
4 市役所職員調査.....	102

I アンケート調査の概要

I 調査の目的

本調査は、市民・事業所・学生・市職員の男女共同参画に関する意識等について把握し、「第3次南あわじ市男女共同参画計画」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	市民対象調査	事業所調査	高校3年生調査	市役所職員調査
調査対象者	市内在住の18歳以上の方 2,500人 (無作為抽出)	市内事業所 30箇所	市内高校3年生	市役所職員
調査期間	令和4年 8月23日(火) ～9月9日(金)	令和4年 8月23日(火) ～9月6日(火)	令和4年 9月1日(木) ～9月8日(木)	令和4年 8月23日(火) ～9月9日(金)
調査方法	郵送配布・郵送回収 による本人記入方式 またはWEBによる 回答方式	郵送配布・郵送回収 による記入方式	WEBによる回答方 式	WEBによる回答方 式

3 回収結果

項目	市民対象調査	事業所調査	高校3年生調査	市役所職員調査
配布数	2,500件	30件	240件	478件
有効回収数	1,004件 (うち、WEB回答161件)	19件	179件	123件
有効回収率	40.2%	63.3%	74.6%	25.7%

4 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇単純集計グラフ、クロスグラフにおける「その他」または「不明・無回答」について、0.0%の表記は省略しています。また、単純集計グラフにおいては、数値が0.0%の場合、図表中の選択肢の表記を省略している場合があります。

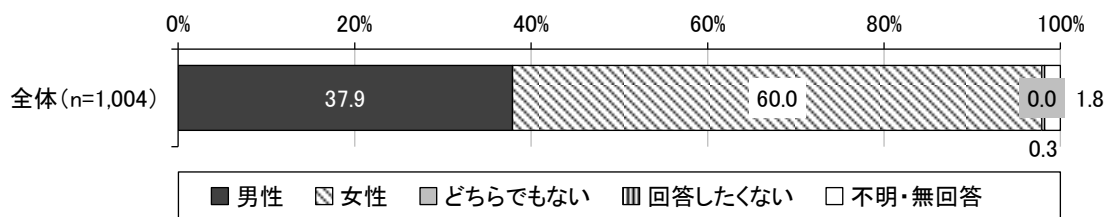
Ⅱ アンケート調査結果

Ⅰ 市民対象調査

1) あなたご自身のことについて

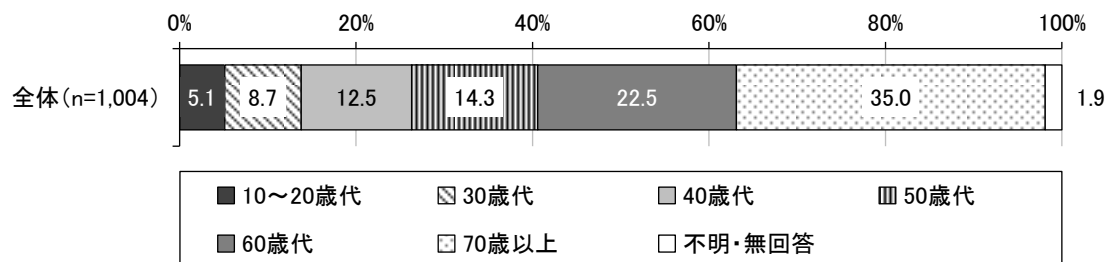
問1 あなたの性別はどちらですか。(ひとつに○)

性別についてみると、「女性」が60.0%と最も高く、次いで「男性」が37.9%、「回答したくない」が0.3%となっています。



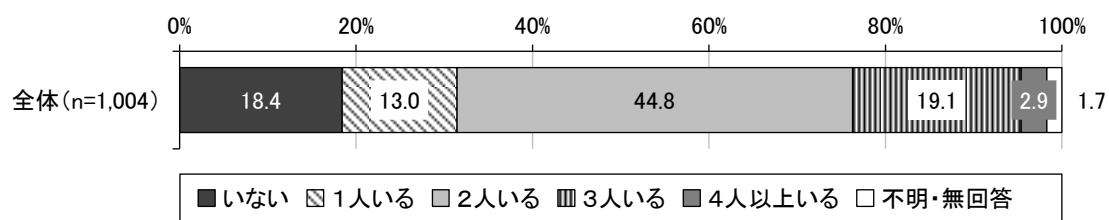
問2 あなたの年代はおいくつですか。(ひとつに○)

年代についてみると、「70歳以上」が35.0%と最も高く、次いで「60歳代」が22.5%、「50歳代」が14.3%となっています。



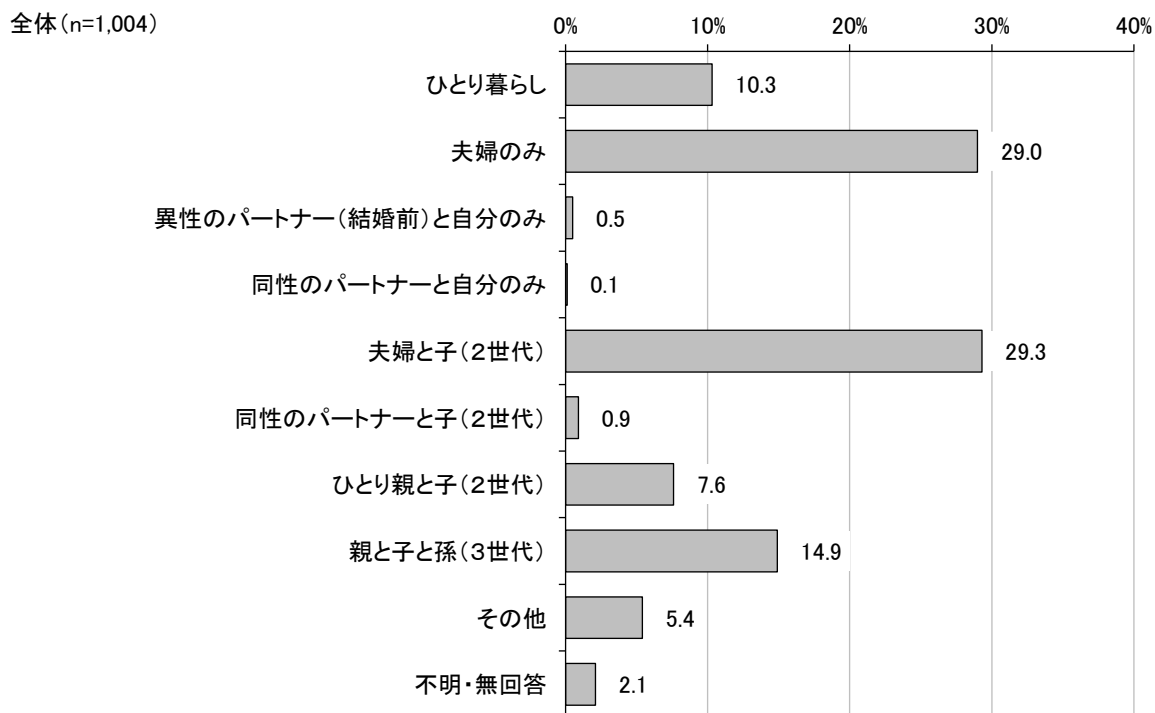
問3 あなたはお子さんがいますか。また、何人いますか。(ひとつに○)

お子さんの人数についてみると、「2人いる」が44.8%と最も高く、次いで「3人いる」が19.1%、「いない」が18.4%となっています。



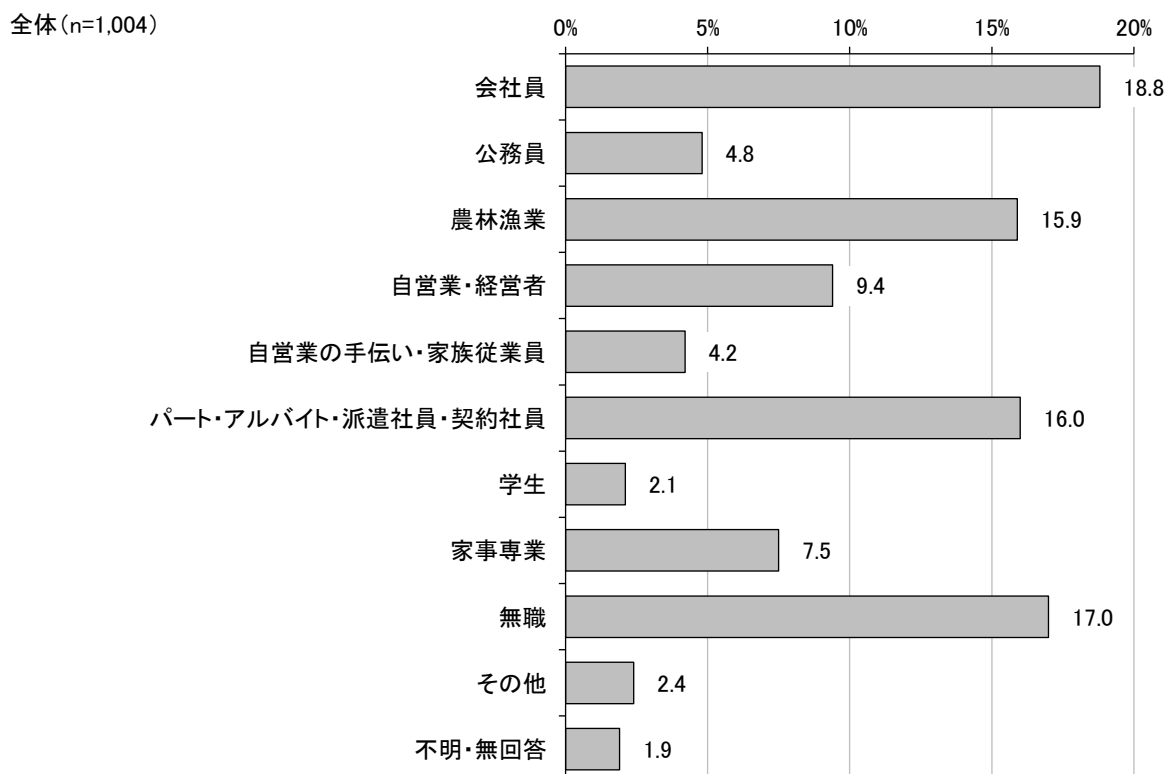
問4 あなたの同居の家族構成はどれにあたりますか。(ひとつに○)

同居の家族構成についてみると、「夫婦と子(2世代)」が29.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が29.0%、「親と子と孫(3世代)」が14.9%となっています。



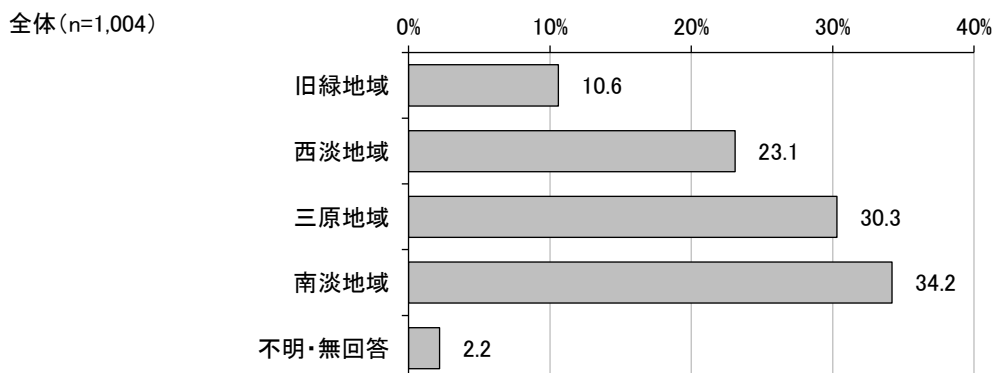
問5 あなたの主な職業はどれにあたりますか。(ひとつに○)

主な職業についてみると、「会社員」が18.8%と最も高く、次いで「無職」が17.0%、「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が16.0%となっています。



問6 あなたの住んでいる地区はどこですか。(ひとつに○)

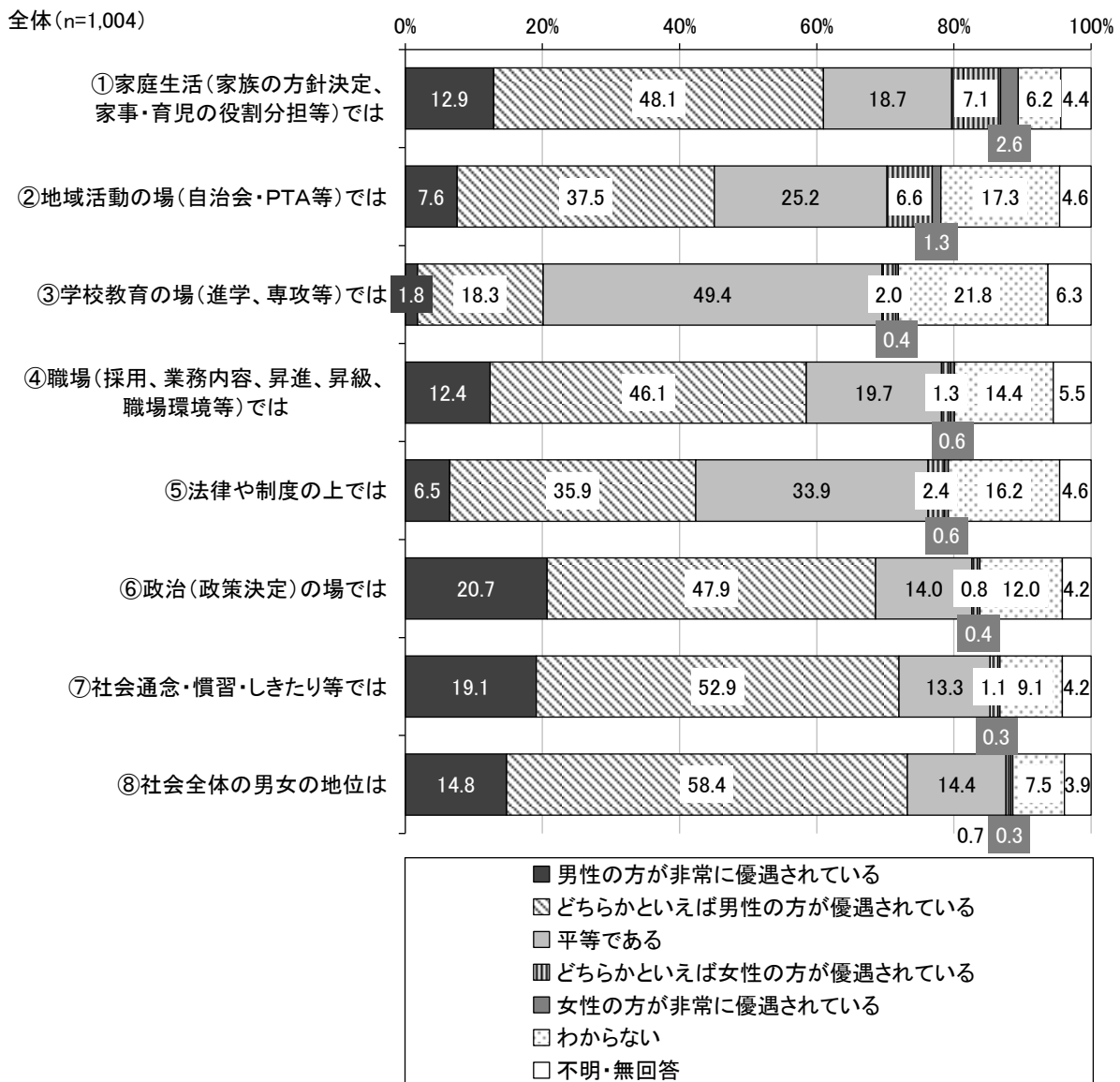
住んでいる地区についてみると、「南淡地域」が34.2%と最も高く、次いで「三原地域」が30.3%、「西淡地域」が23.1%となっています。



2) あなたが感じる男女平等の意識について

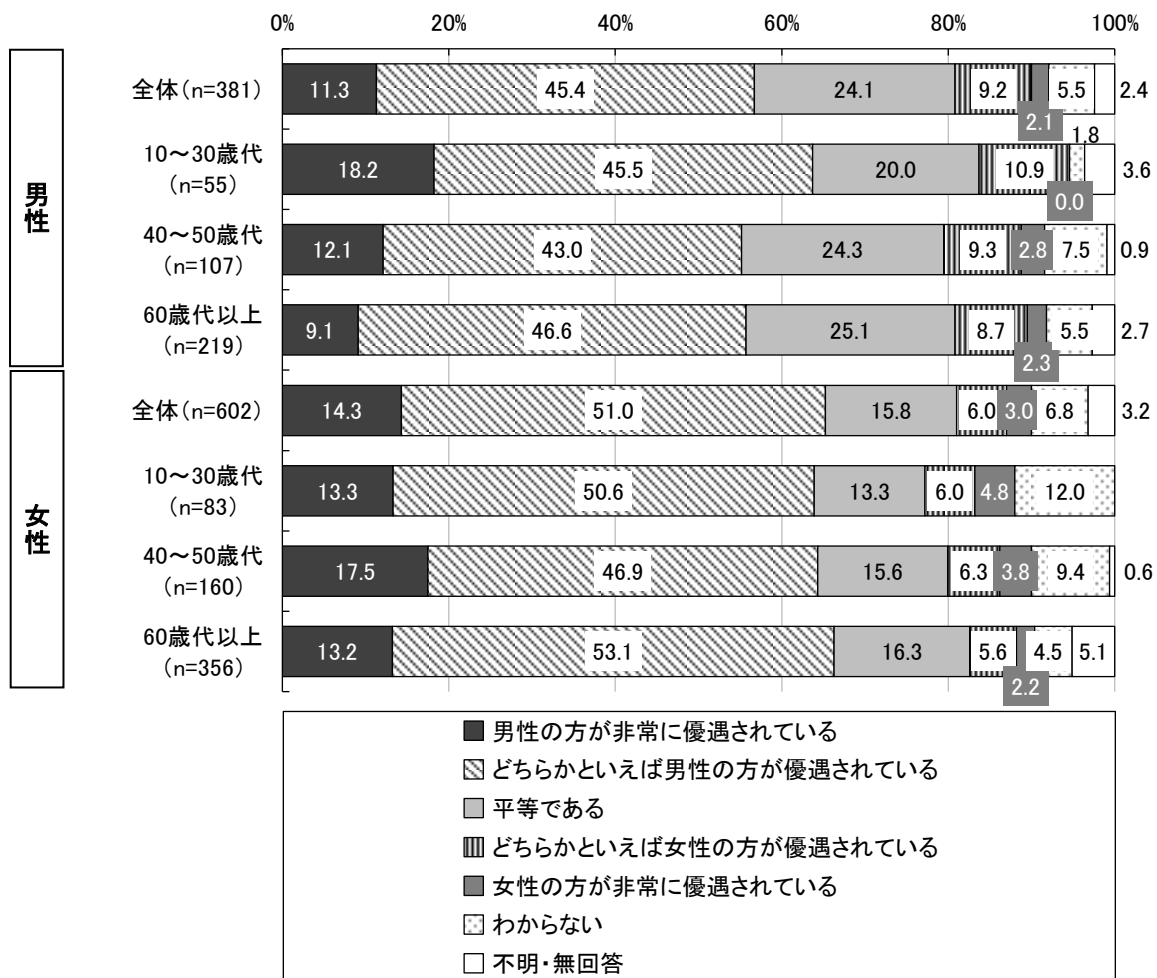
問7 現在、日本の社会での男女の地位は、どれにあてはまると思いますか。
(それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

現在の日本の社会での男女の地位について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）、「平等である」、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）で比較すると、〔③学校教育の場（進学、専攻等）では〕では「平等である」が最も高く、それ以外の項目では『男性優遇』が高くなっており、〔②地域活動の場（自治会・PTA等）では〕〔⑤法律や制度の上では〕を除いた項目で『男性優遇』が5割以上となっています。



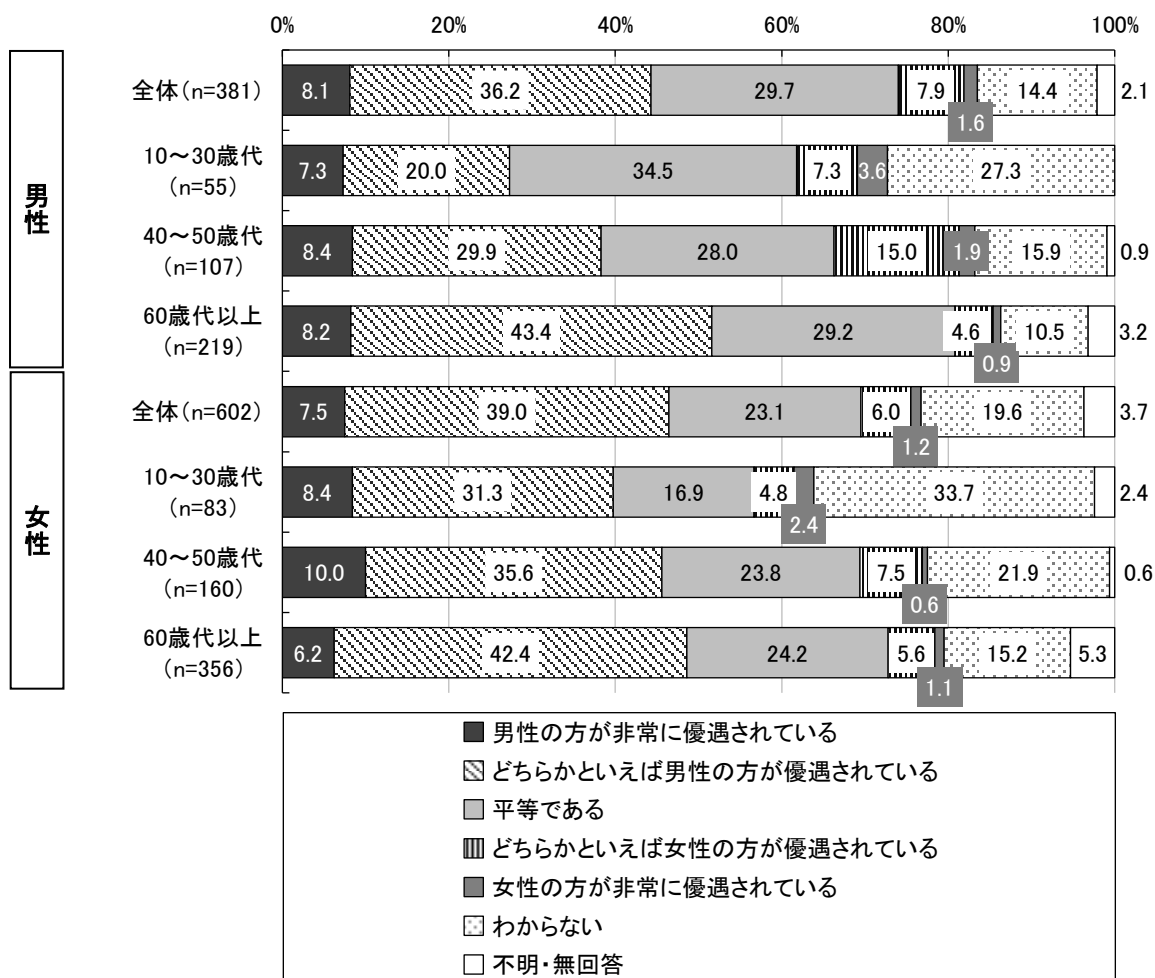
①家庭生活（家族の方針決定、家事・育児の役割分担等）では

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっています。



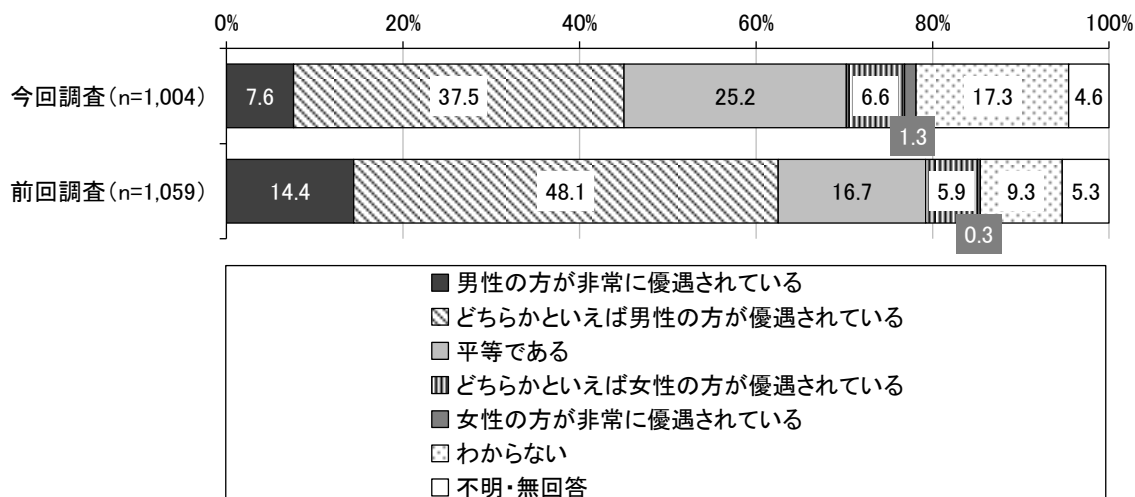
②地域活動の場（自治会・PTA等）では

男女別年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて『男性優遇』の割合が高くなっています。



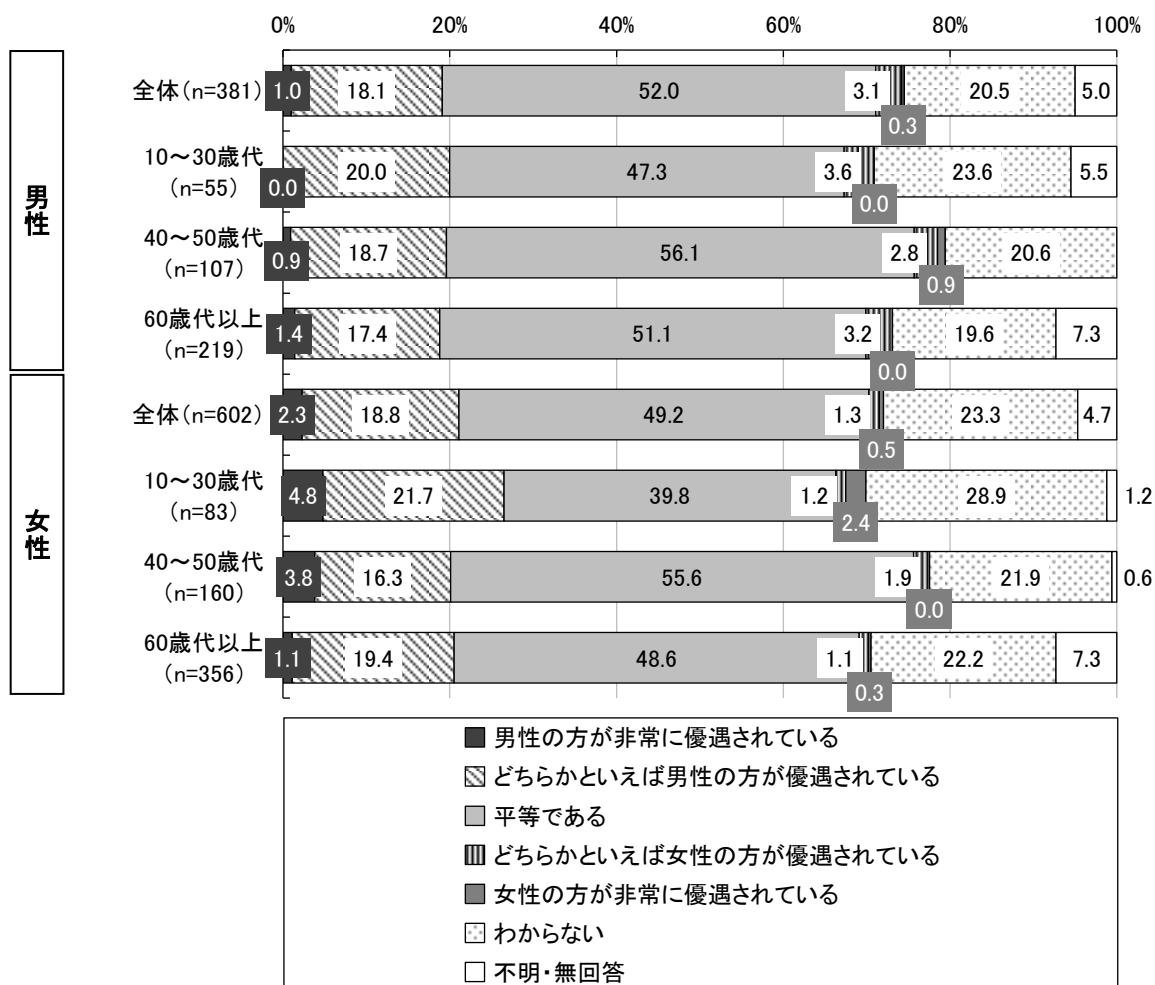
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、『男性優遇』が17.4ポイント低下し、「平等である」が8.5ポイント上昇しています。



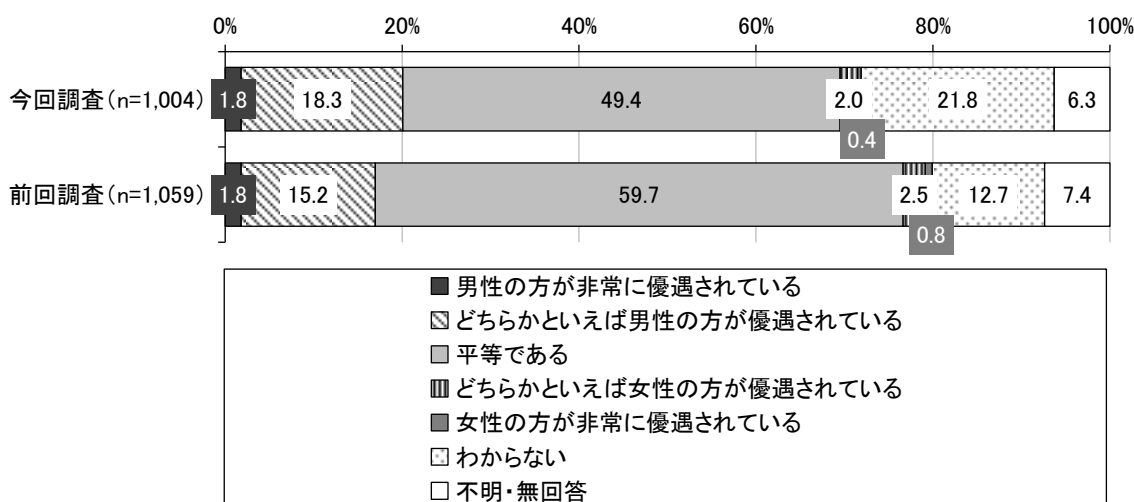
③学校教育の場（進学、専攻等）では

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



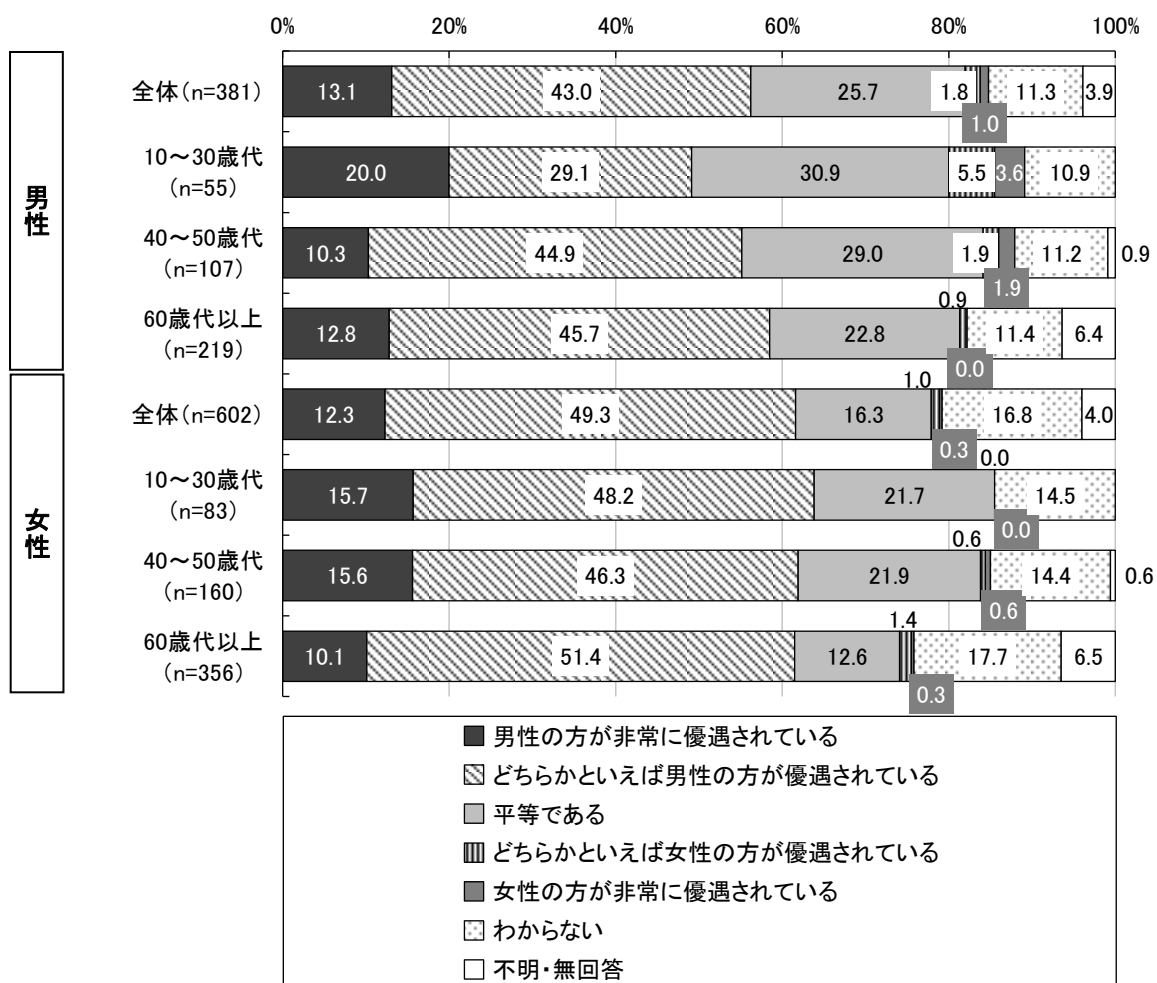
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、「平等である」が10.3ポイント低下しており、「わからない」が9.1ポイント上昇しています。



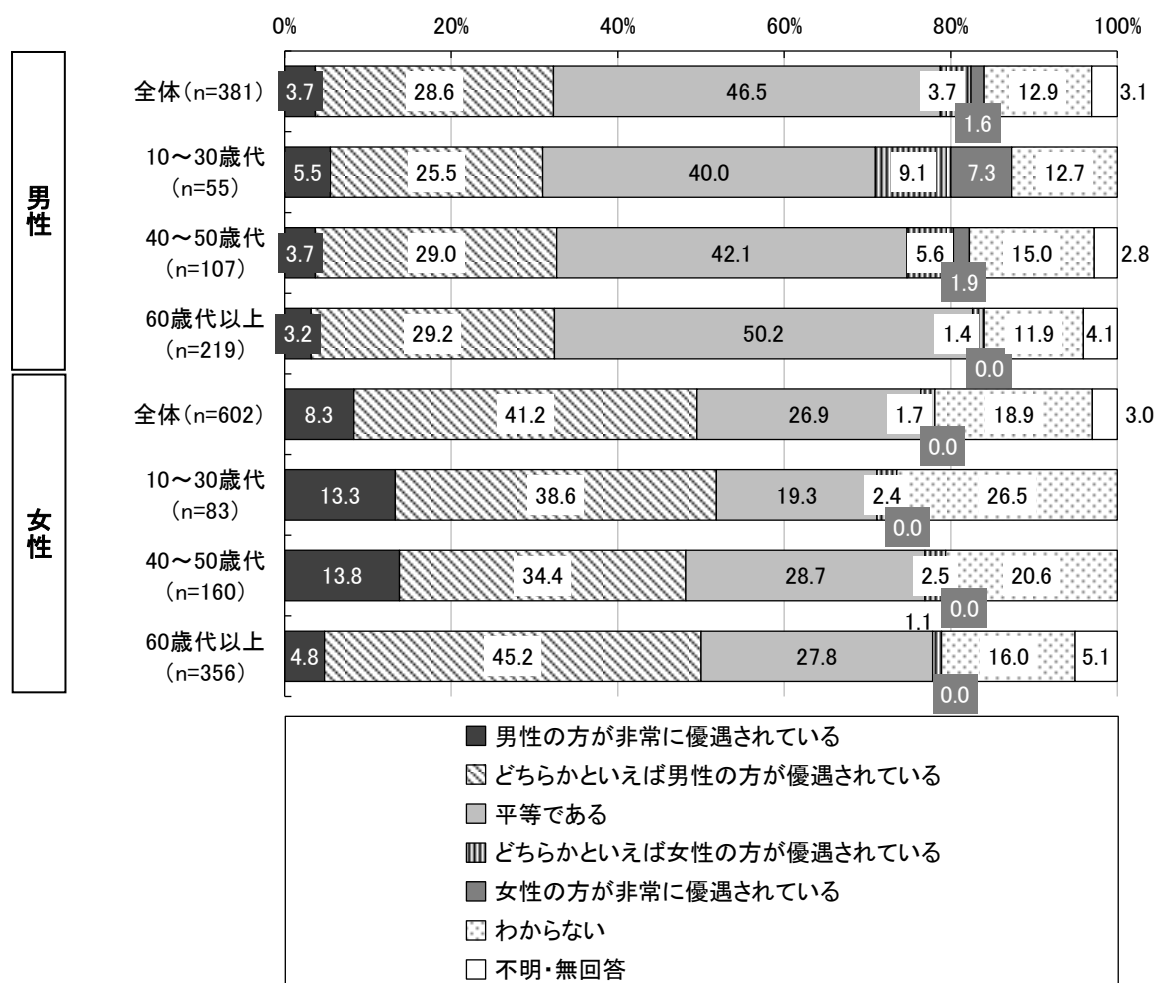
④職場（採用、業務内容、昇進、昇級、職場環境等）では

男女別年代別にみると、男性では年代が上がるにつれて『男性優遇』の割合が高くなっています。女性ではすべての年代で『男性優遇』が6割を超えています。



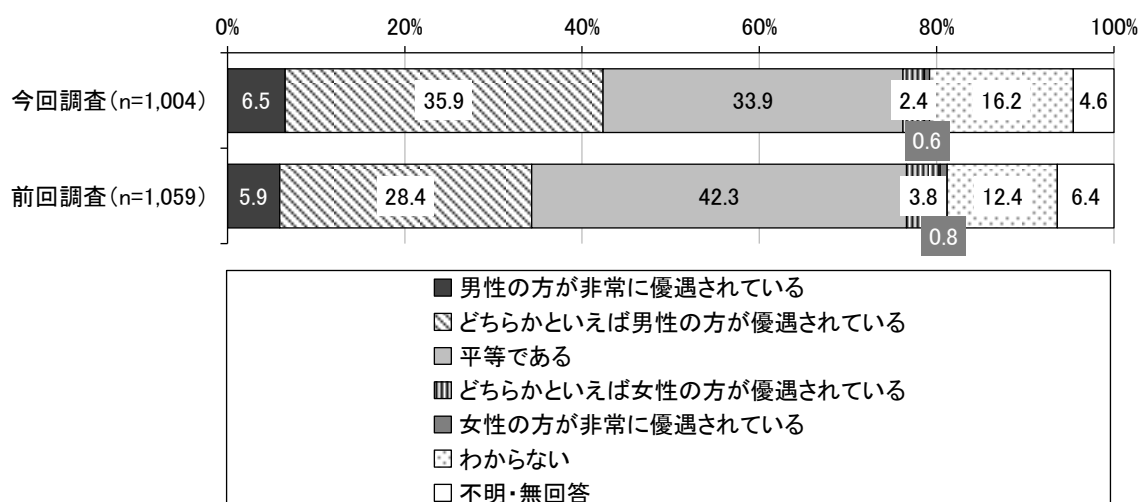
⑤法律や制度の上では

男女別年代別にみると、すべての年代で男性では「平等である」、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



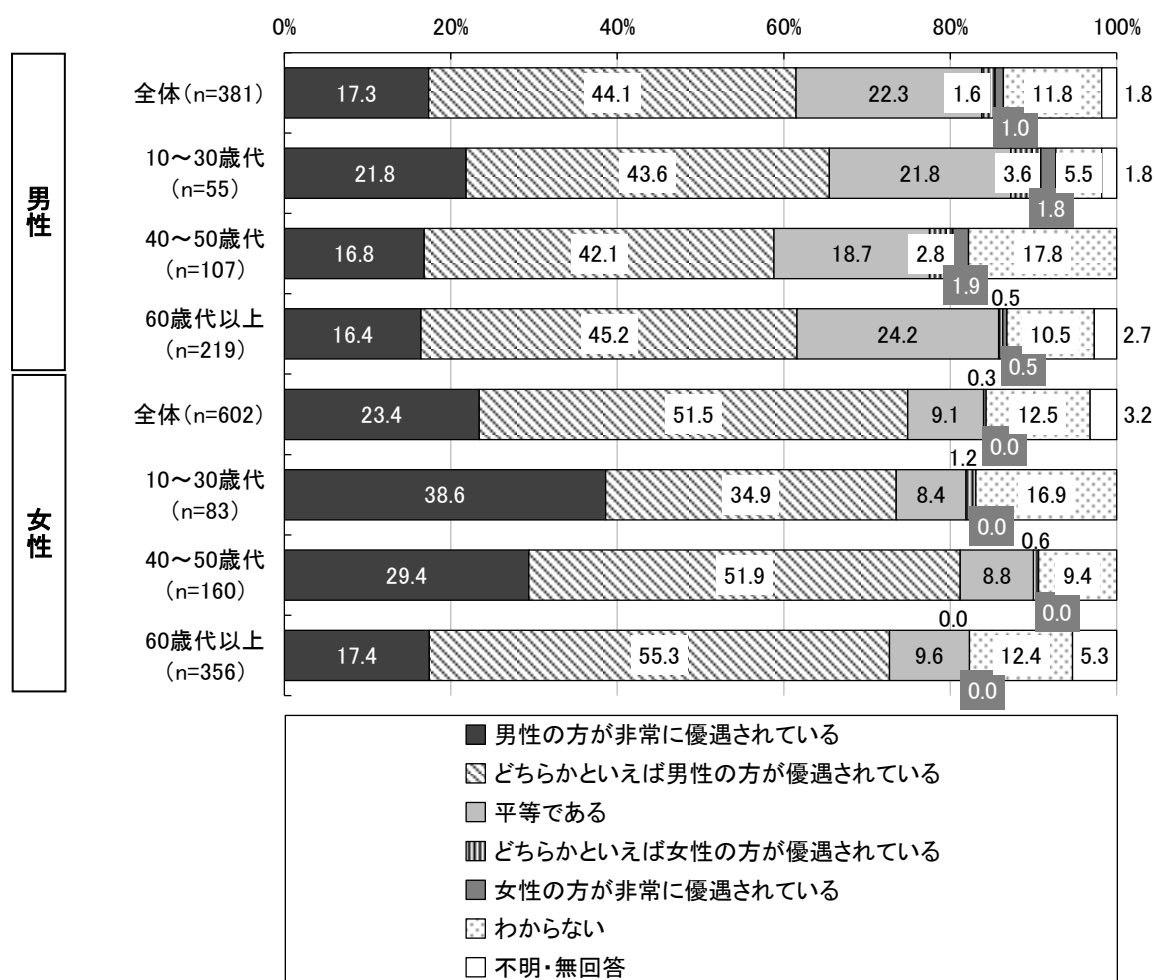
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、『男性優遇』が8.1ポイント上昇し、「平等である」が8.4ポイント低下しています。



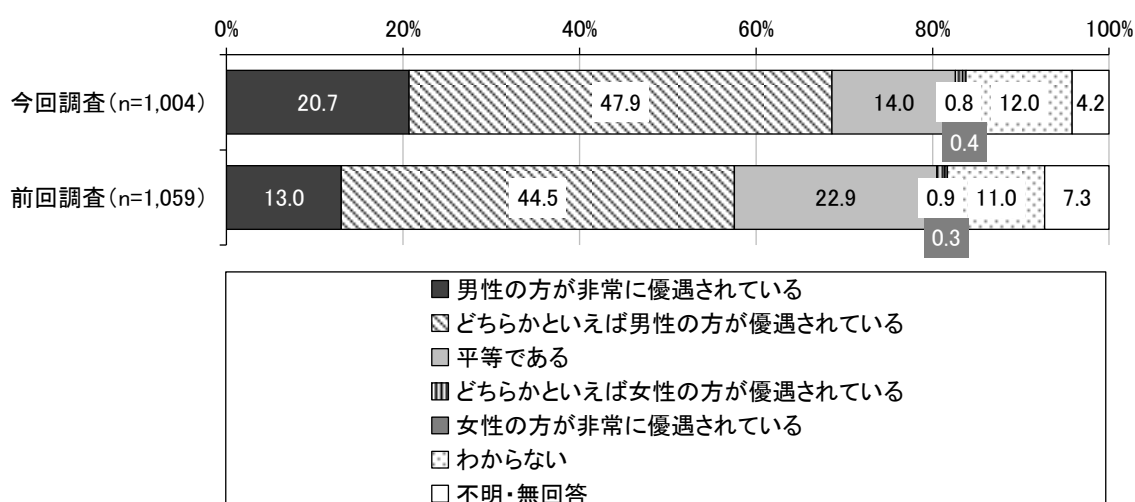
⑥政治（政策決定）の場では

男女別にみると、『男性優遇』は女性の方が13.5ポイント高くなっています。年代別にみると、女性の40～50歳代では『男性優遇』が8割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



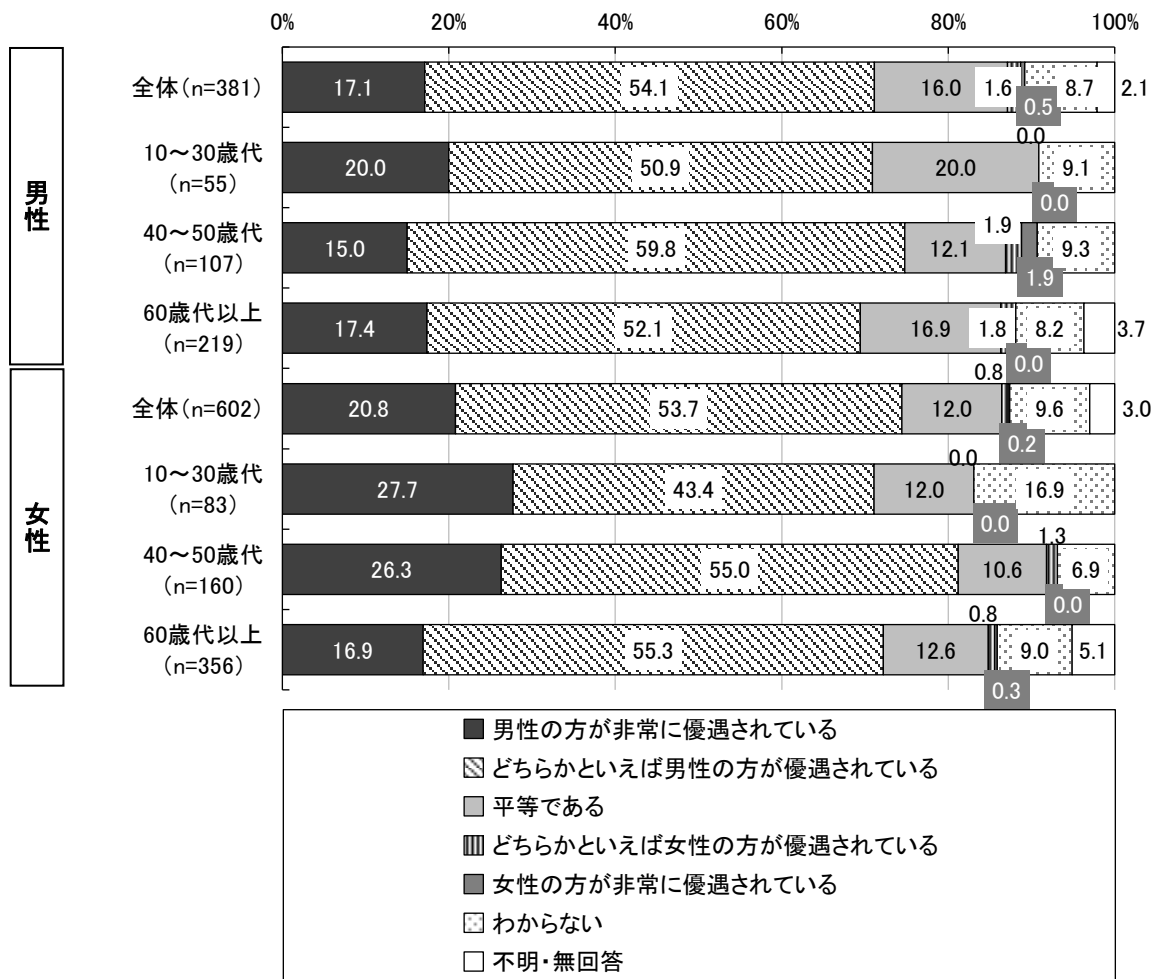
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、『男性優遇』が11.1ポイント上昇し、「平等である」が8.9ポイント低下しています。



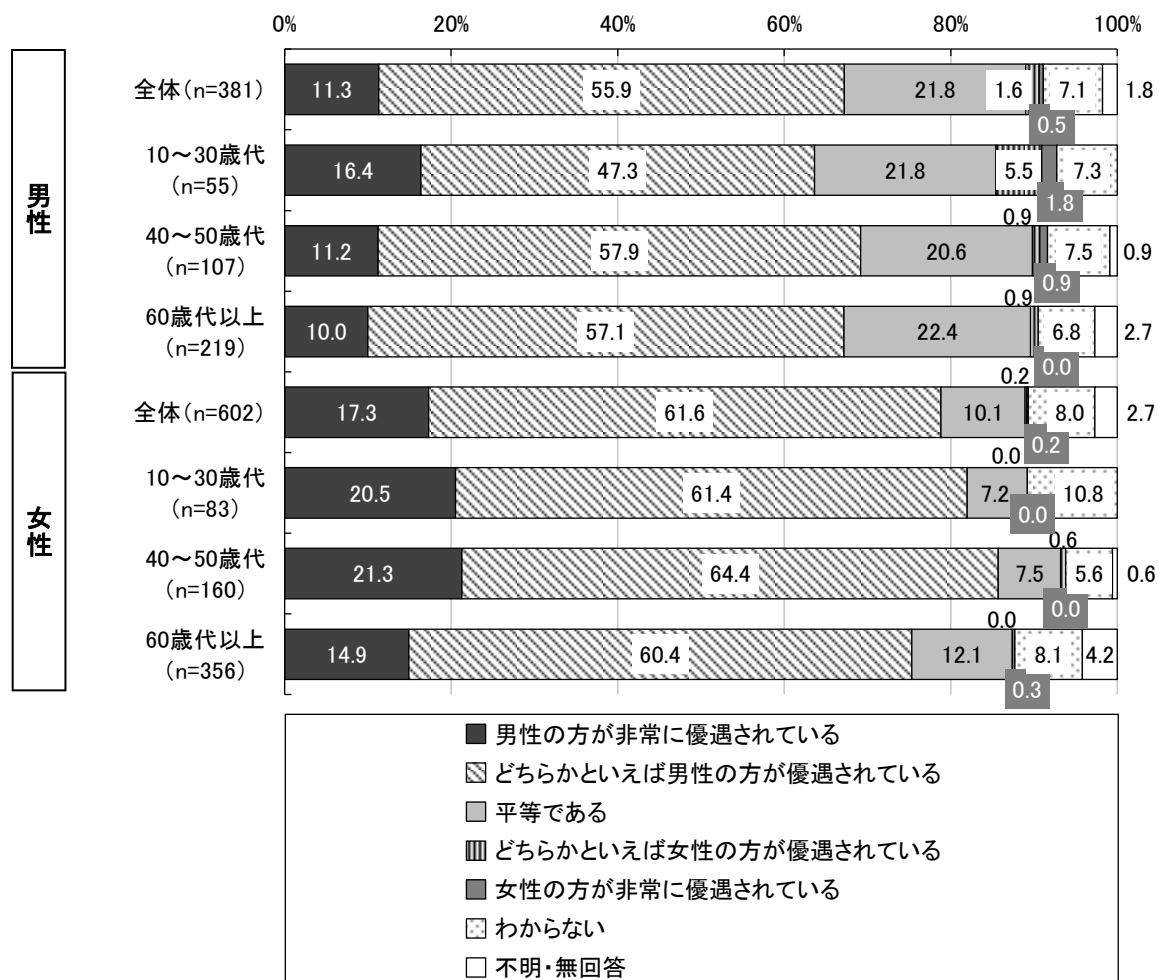
⑦社会通念・慣習・しきたり等では

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。



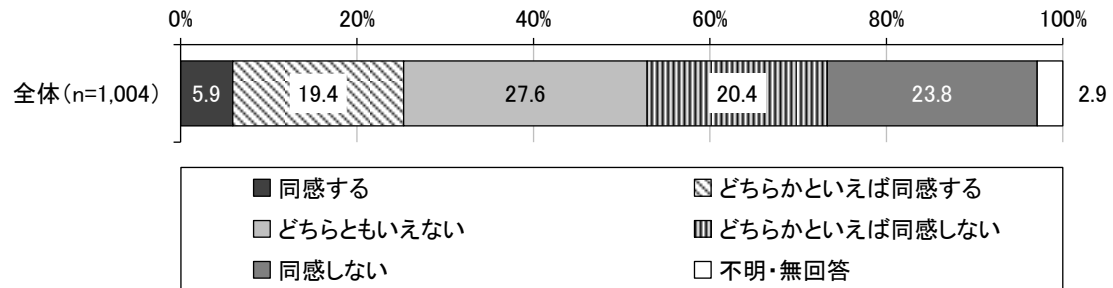
⑧社会全体の男女の地位は

男女別にみると、『男性優遇』は女性の方が11.7ポイント高くなっています。年代別にみると、すべての年代で女性の方が男性より『男性優遇』の割合が高く、特に女性の10～30歳代、40～50歳代では8割を超えています。

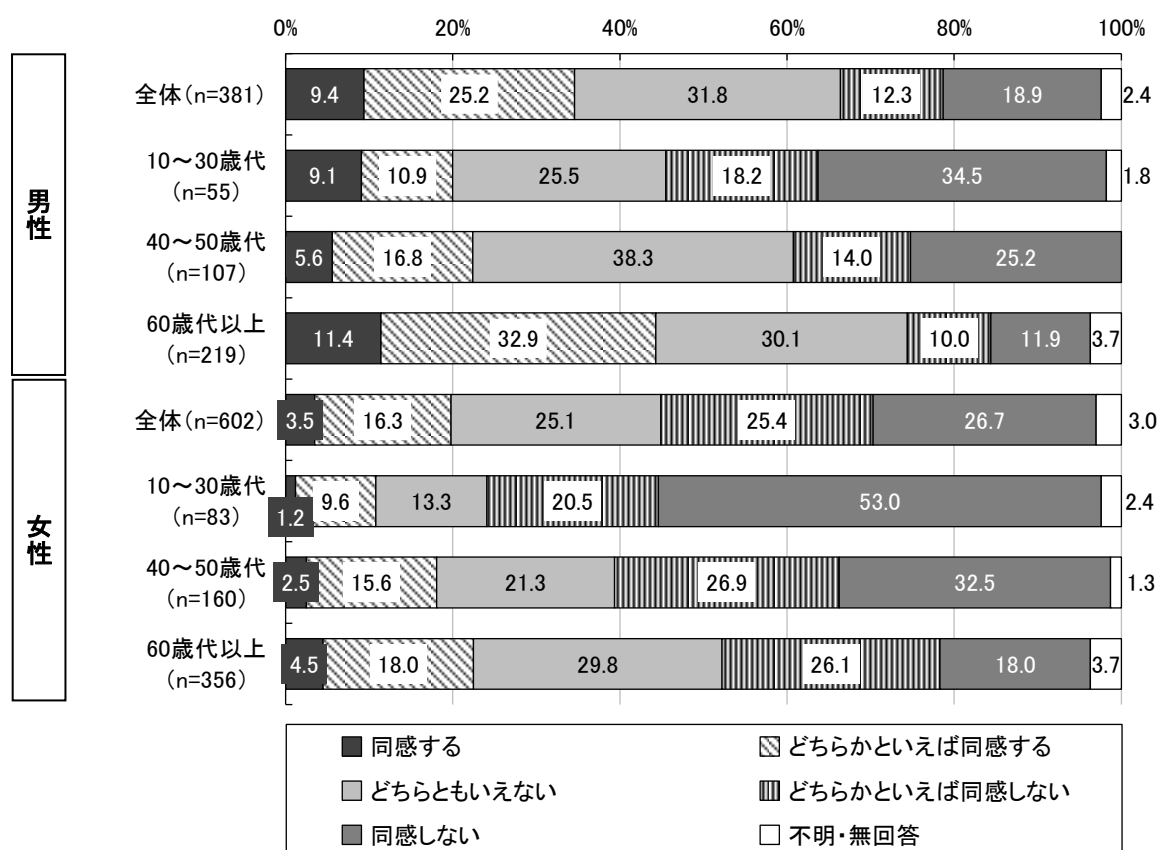


問8 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。(ひとつに○)

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方をどう思うかについてみると、「どちらともいえない」が27.6%と最も高く、次いで「同感しない」が23.8%、「どちらかといえば同感しない」が20.4%となっています。

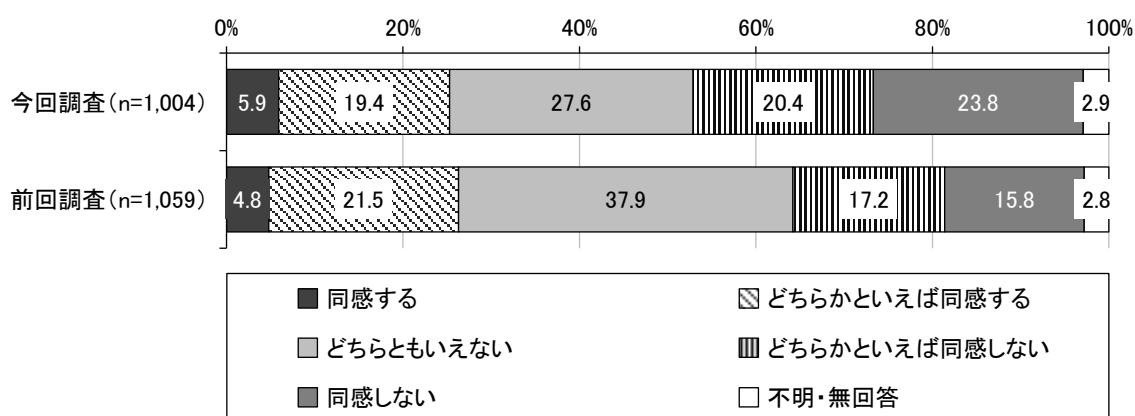


男女別にみると、男性では「どちらともいえない」、女性では「同感しない」が最も高くなっています。年代別にみると、男女ともに10～30歳代では「同感しない」、男性の60歳代以上では「どちらかといえば同感する」が最も高くなっています。



【前回調査との比較】

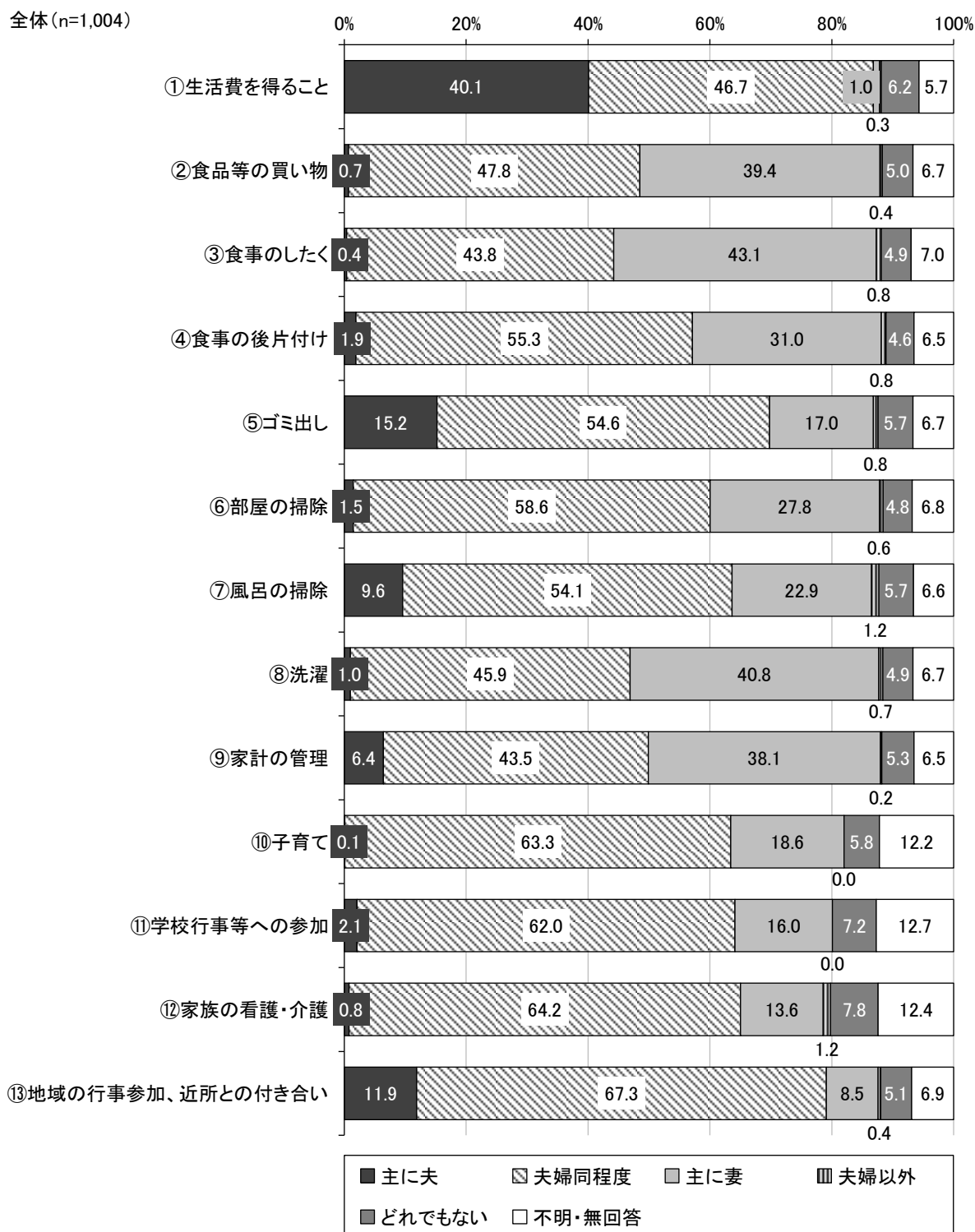
前回調査との比較をみると、「どちらともいえない」が11.2ポイント低下し、「どちらかといえば同感しない」が3.2ポイント、「同感しない」が8.0ポイント上昇しています。



問9 日常生活における男女の役割分担について、夫婦のどちらが主に次のことをされていますか。
 (それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○。「A. 理想」はすべての方がお答えください。「B. 現状」は配偶者がいる方のみ、子育て・介護に関する項目は該当する方のみお答えください。)

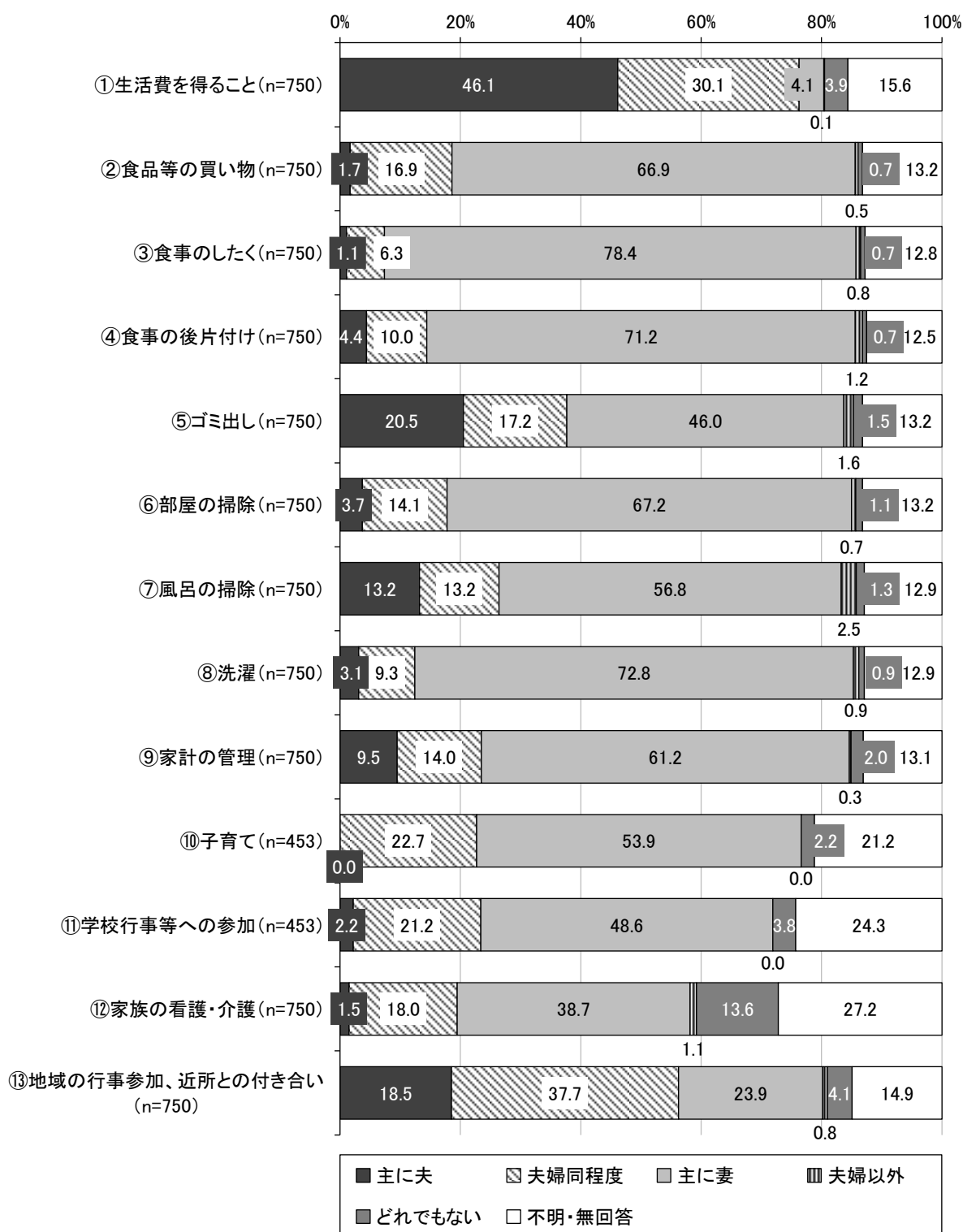
A. 理想

日常生活における男女の役割分担についてみると、理想においてはすべての項目で「夫婦同程度」が最も高くなっています。〔①生活費を得ること〕では「主に夫」が4割となっており、「夫婦同程度」と大きな差がない結果となっています。



B. 現状

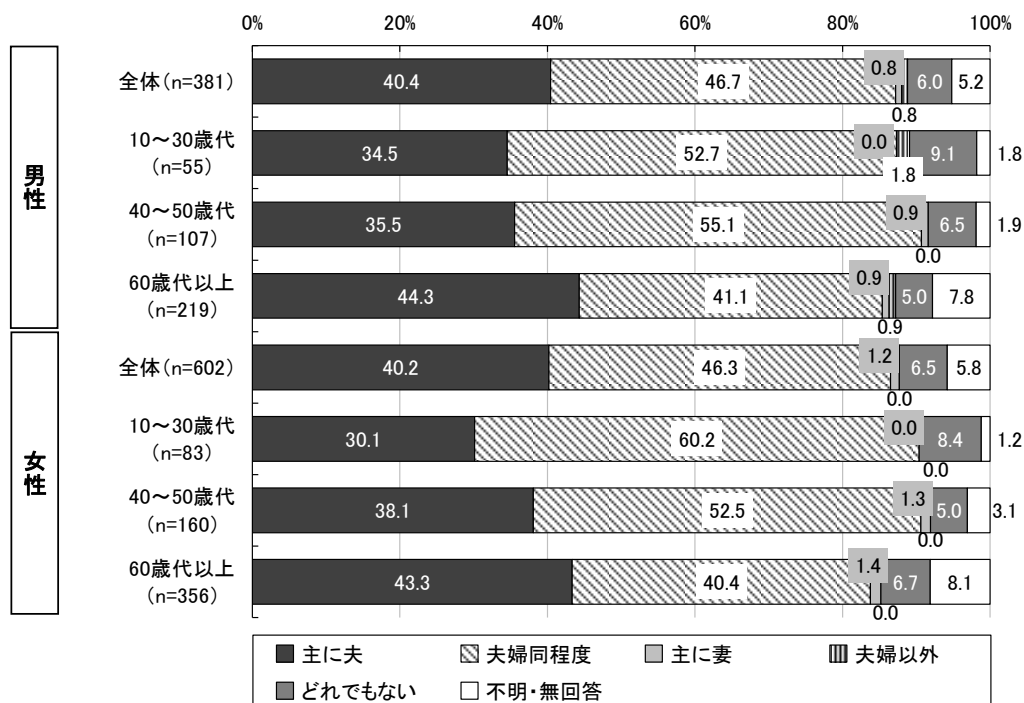
現状においては〔①生活費を得ること〕では「主に夫」、〔⑬地域の行事参加、近所との付き合い〕では「夫婦同程度」、それ以外の項目では「主に妻」が最も高くなっています。



①生活費を得ること

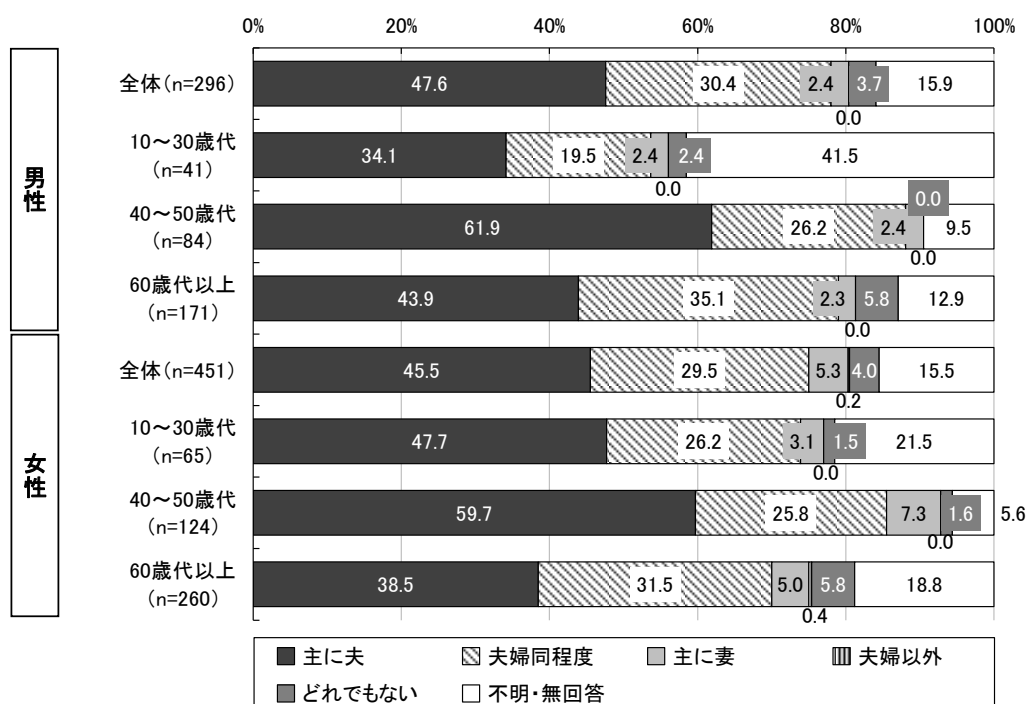
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともに 10～30 歳代、40～50 歳代では「夫婦同程度」、60 歳代以上では「主に夫」が最も高くなっています。



【現状】

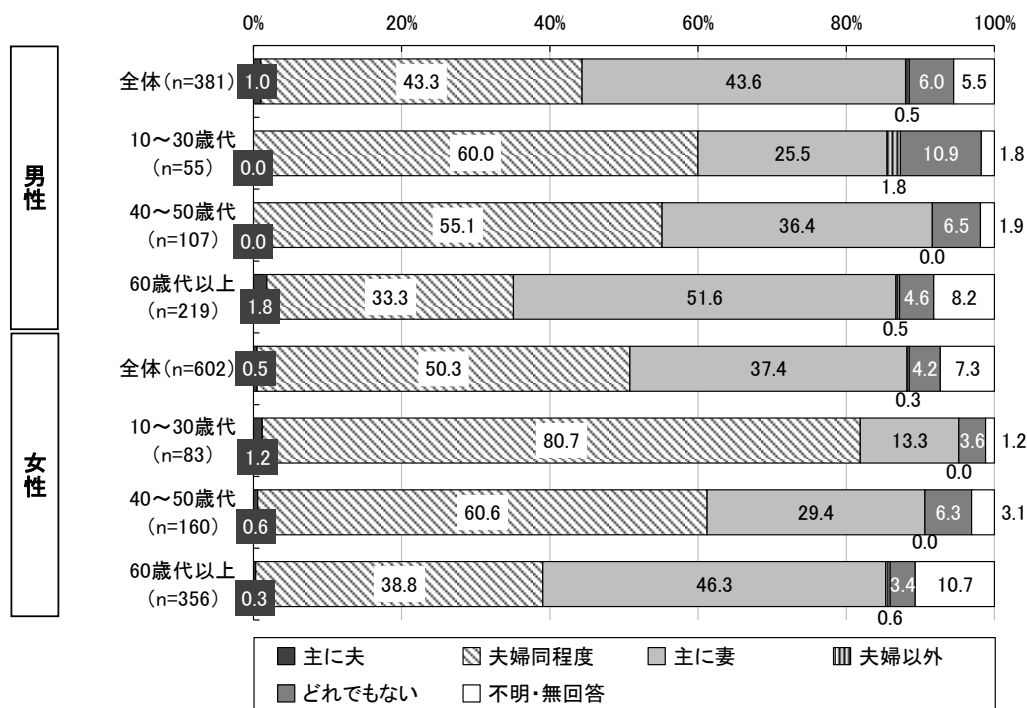
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に夫」が最も高くなっています。



②食品等の買い物

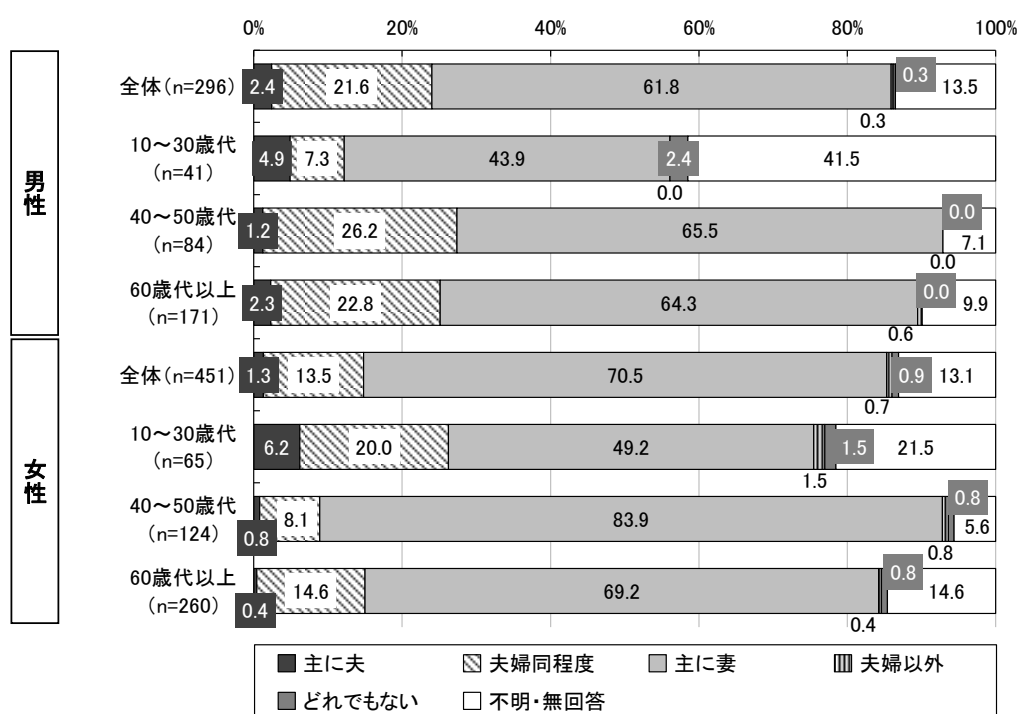
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともに 10～30 歳代、40～50 歳代では「夫婦同程度」、60 歳代以上では「主に妻」が最も高くなっています。



【現状】

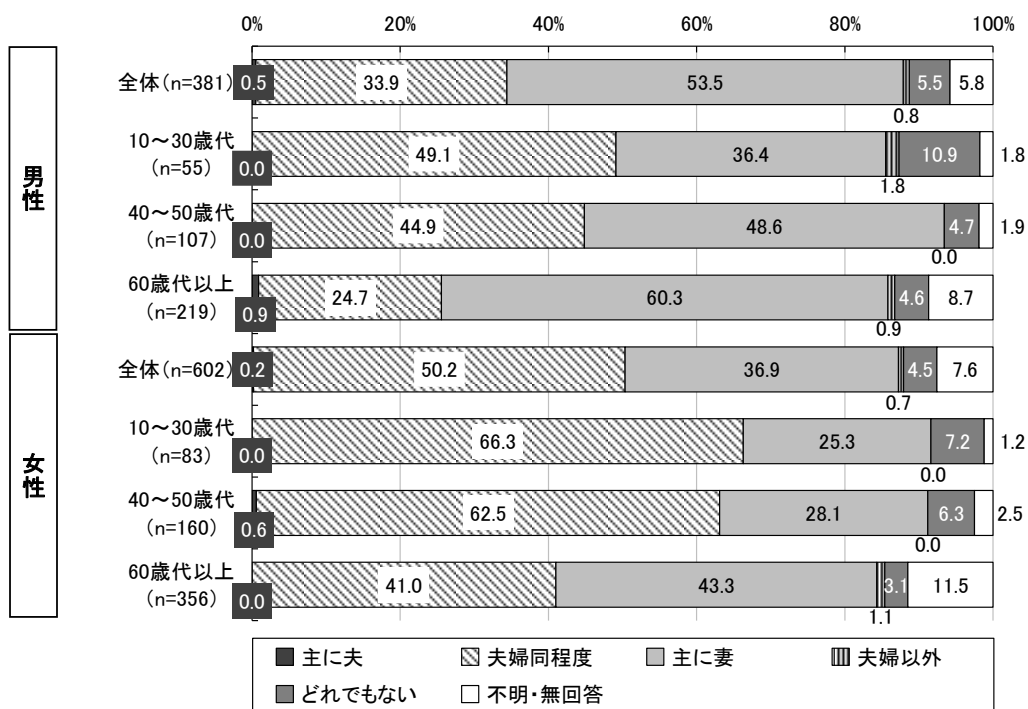
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高く、特に女性の 40～50 歳代では 8 割を超えています。



③食事のしたく

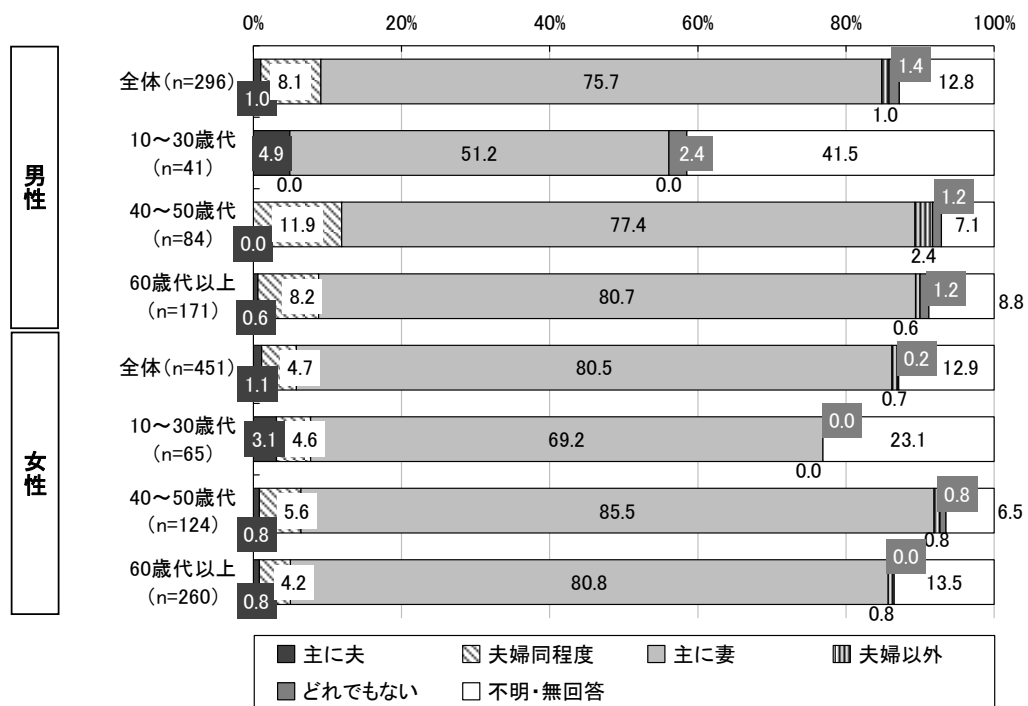
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「夫婦同程度」の割合が低くなっています。



【現状】

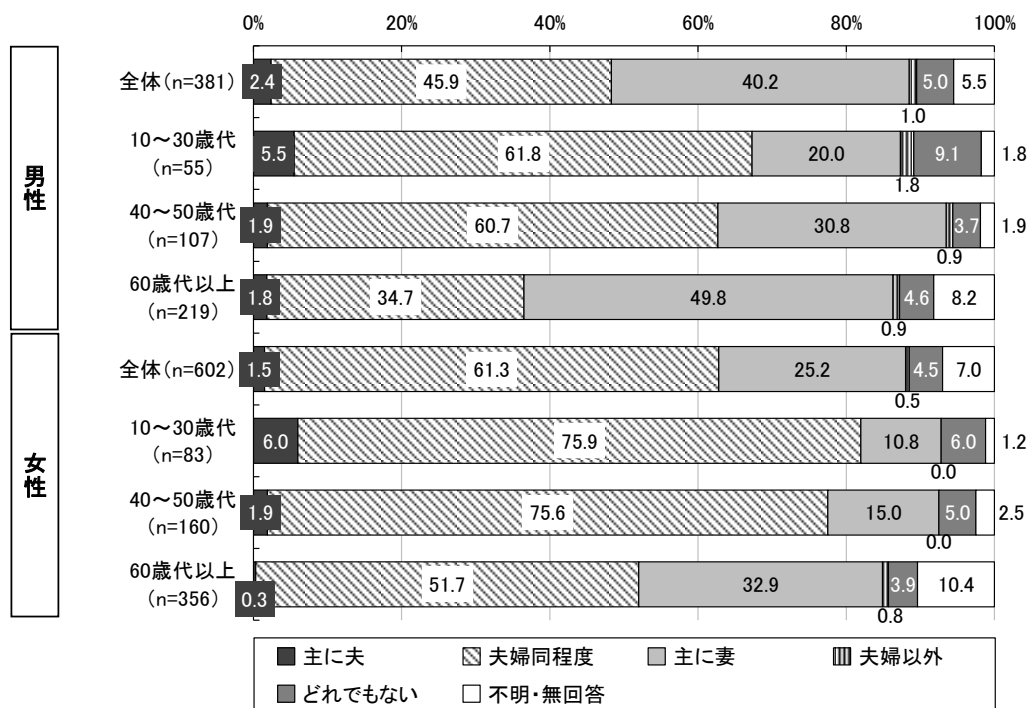
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



④食事の後片付け

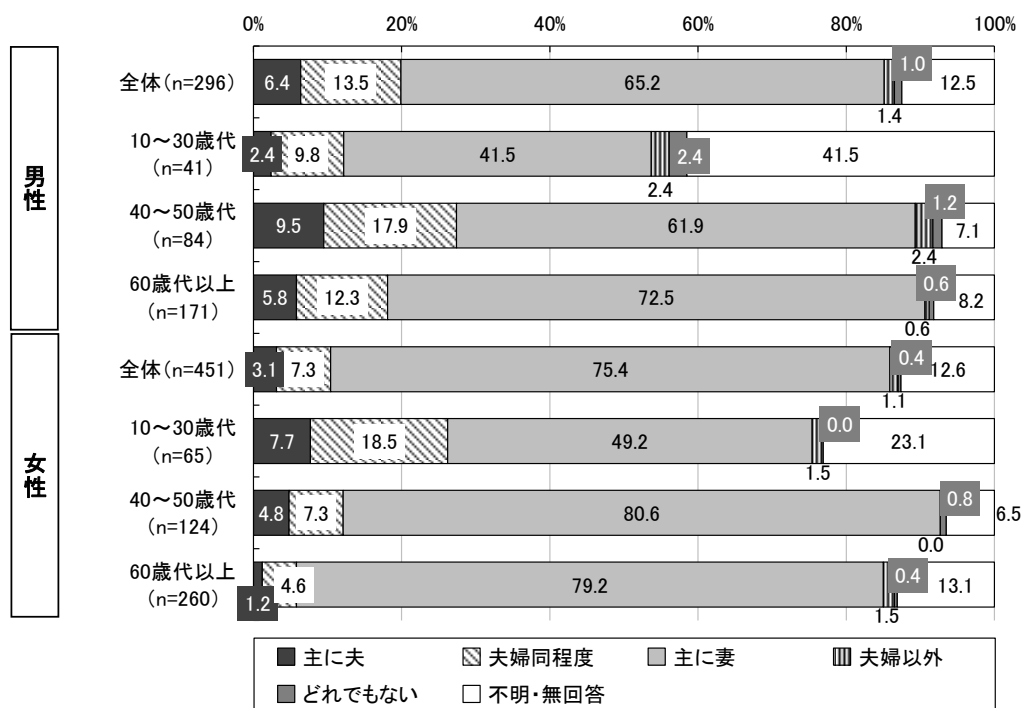
【理想】

男女別年代別にみると、男性の60歳代以上では「主に妻」、それ以外の年代では男女ともに「夫婦同程度」が最も高くなっています。



【現状】

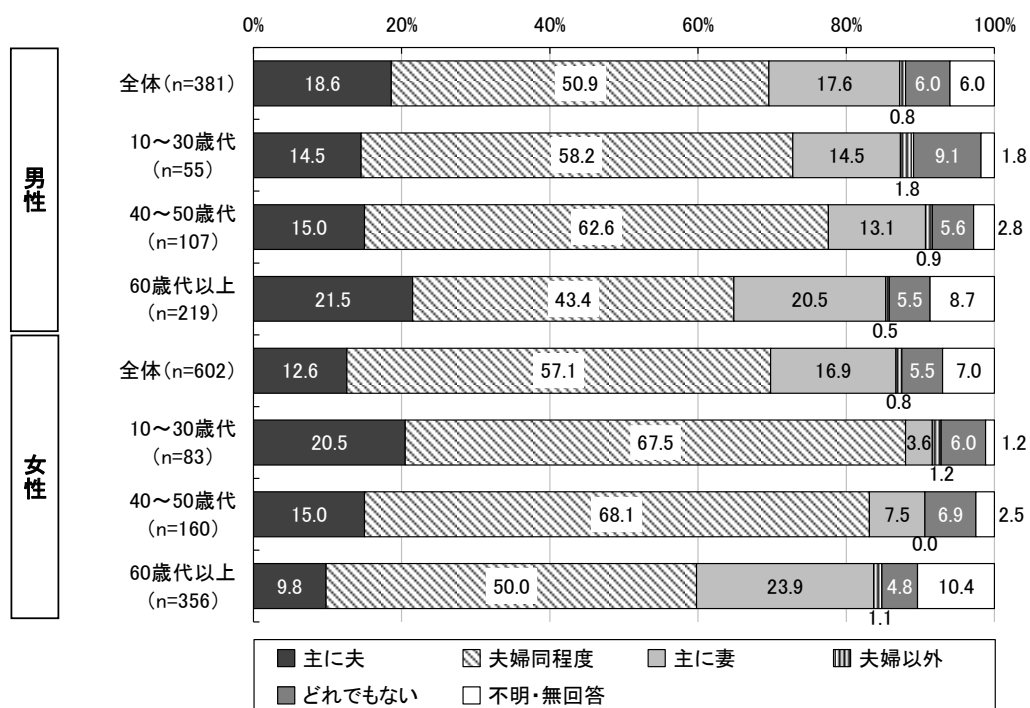
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑤ゴミ出し

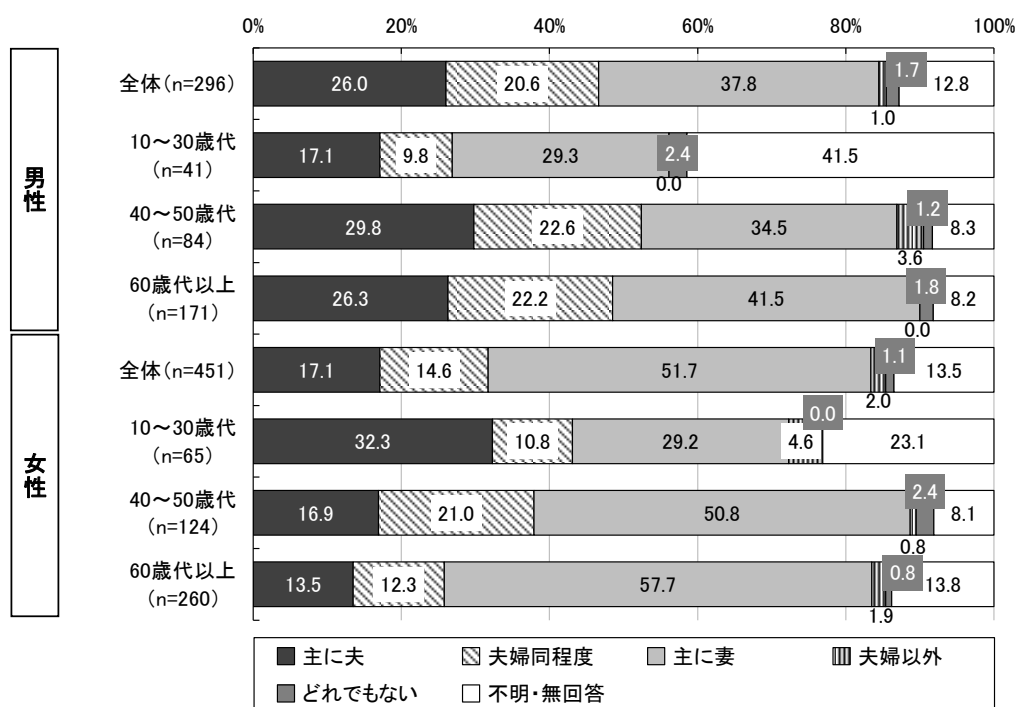
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっています。



【現状】

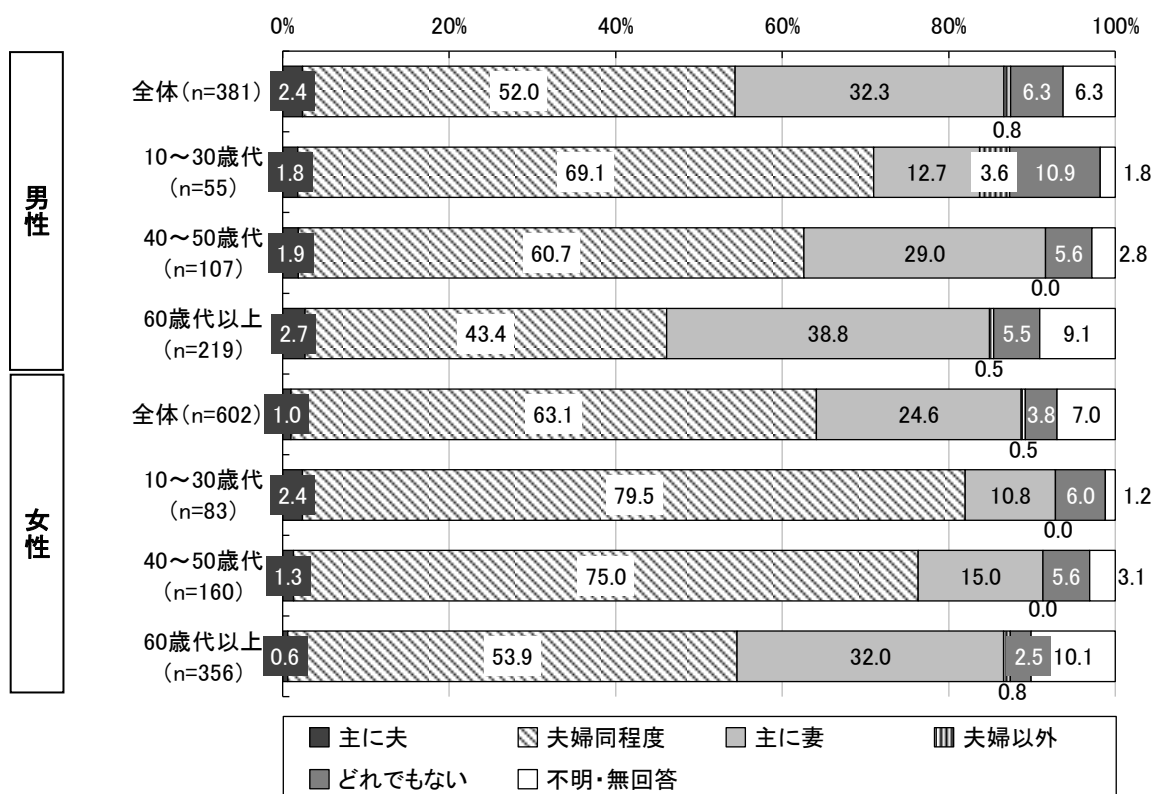
男女別年代別にみると、女性の10～30歳代では「主に夫」、それ以外の年代では男女ともに「主に妻」が最も高くなっています。



⑥部屋の掃除

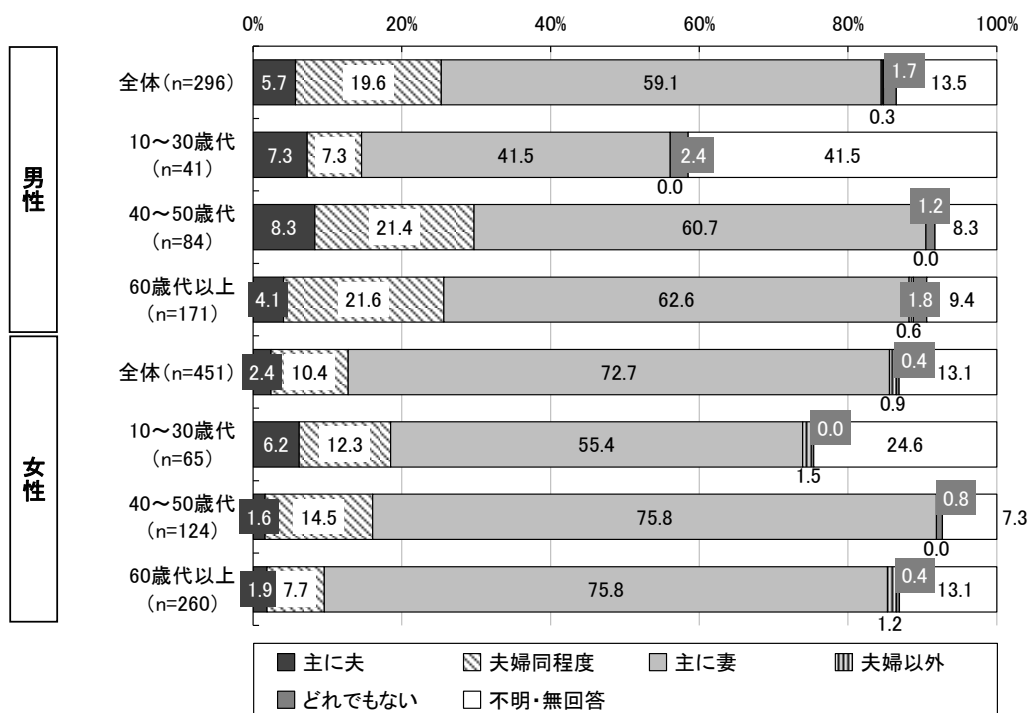
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっています。



【現状】

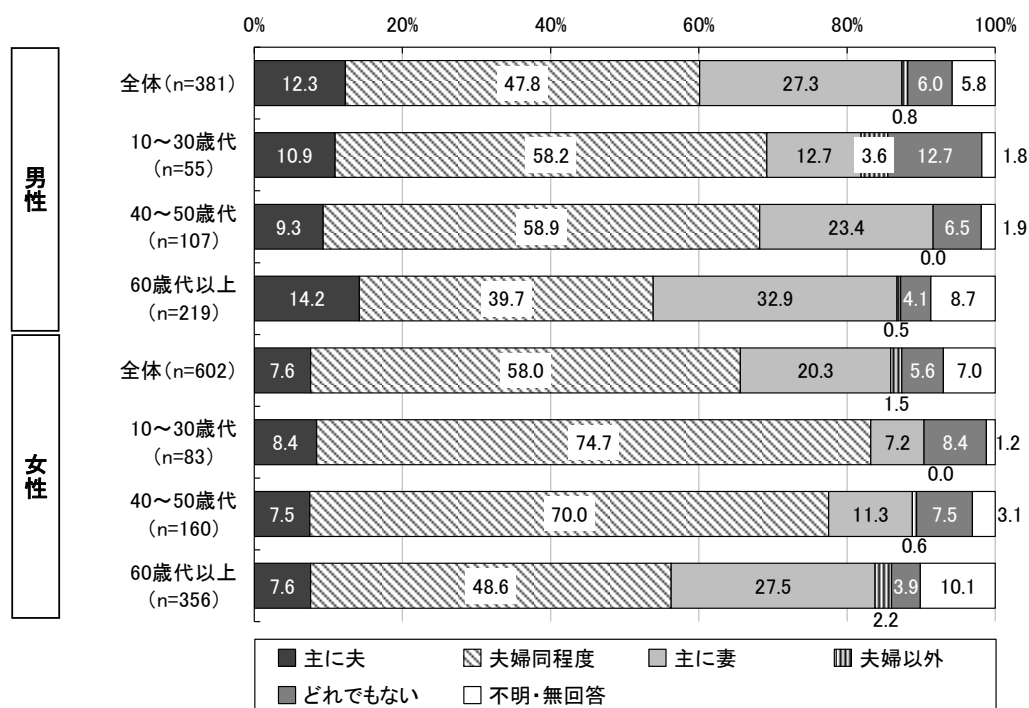
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑦風呂の掃除

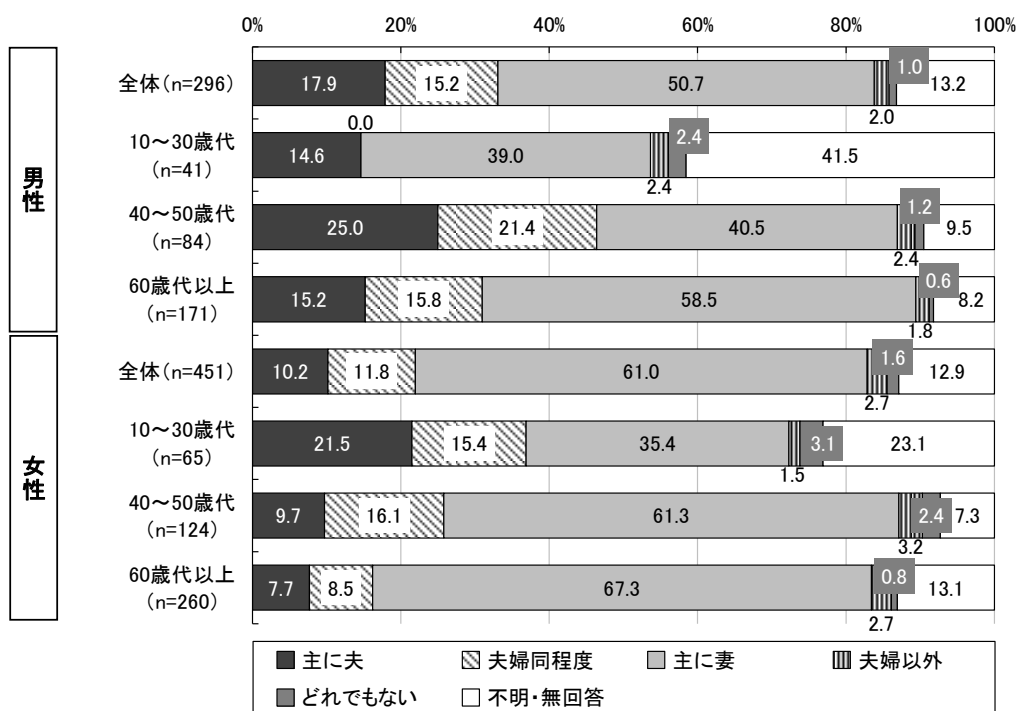
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっています。



【現状】

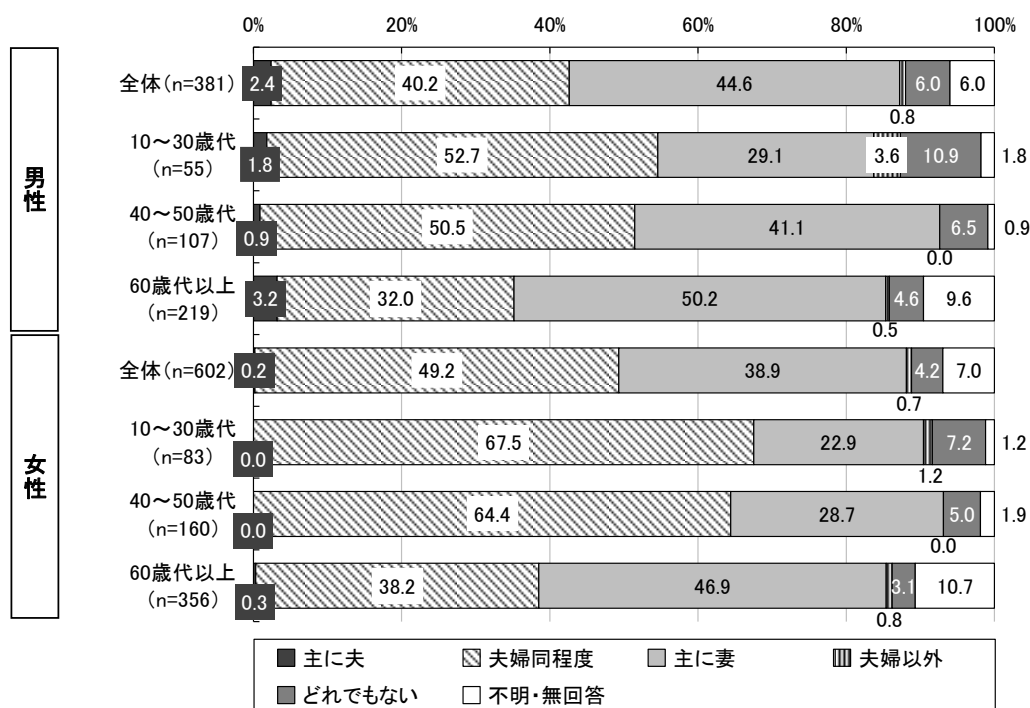
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑧洗濯

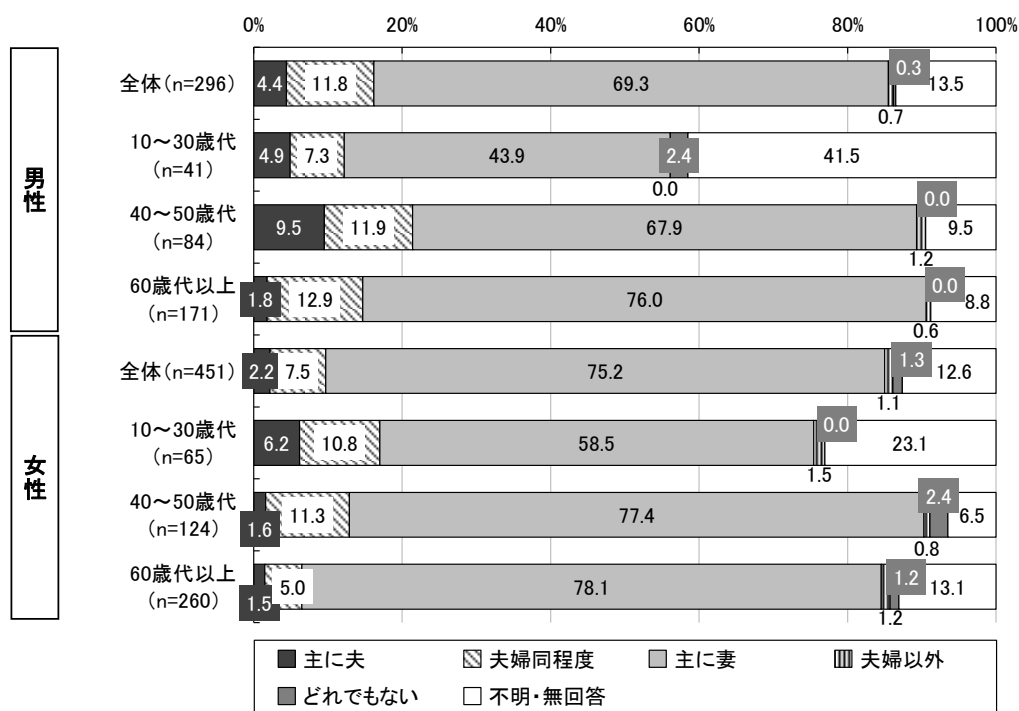
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともに 10～30 歳代、40～50 歳代では「夫婦同程度」、60 歳代以上では「主に妻」が最も高くなっています。



【現状】

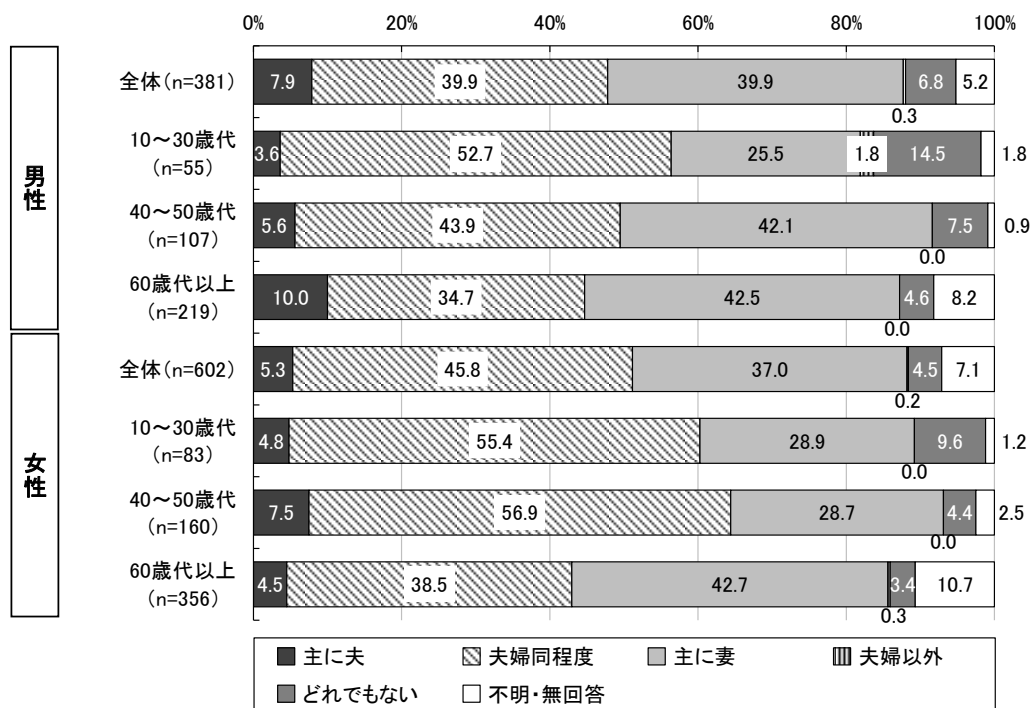
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑨家計の管理

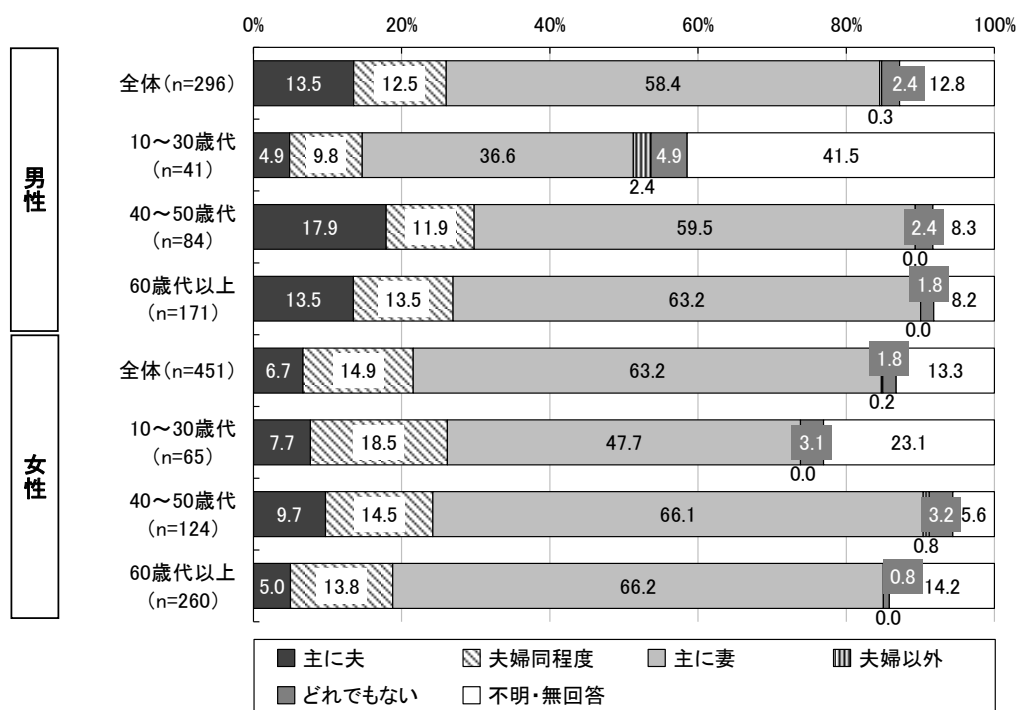
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともに 10～30 歳代、40～50 歳代では「夫婦同程度」、60 歳代以上では「主に妻」が最も高くなっています。



【現状】

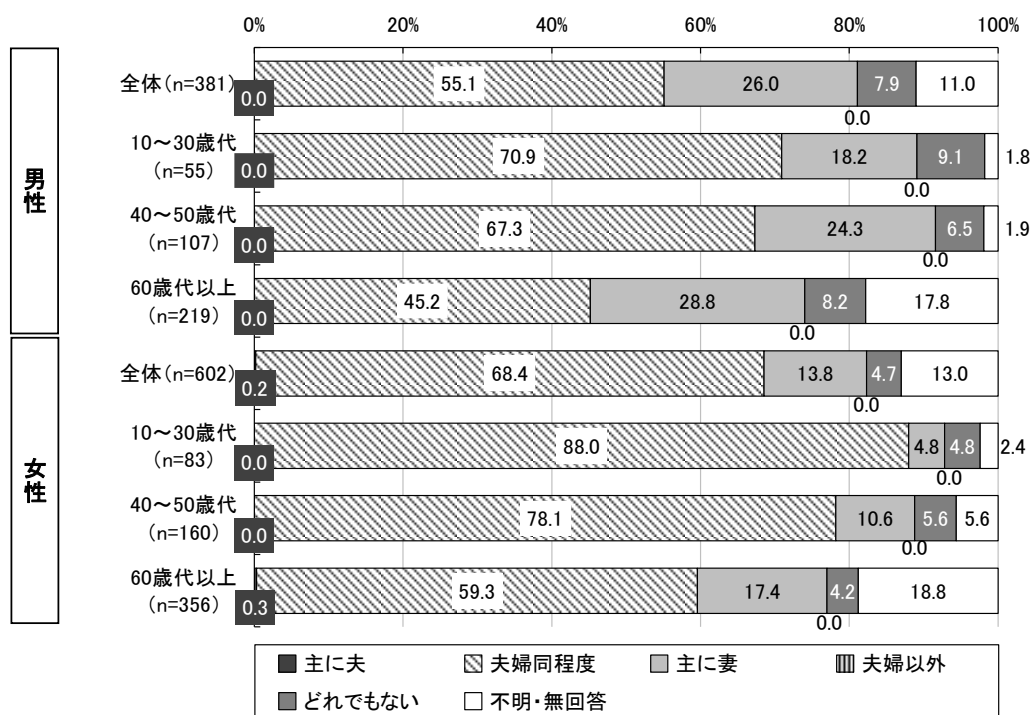
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑩子育て

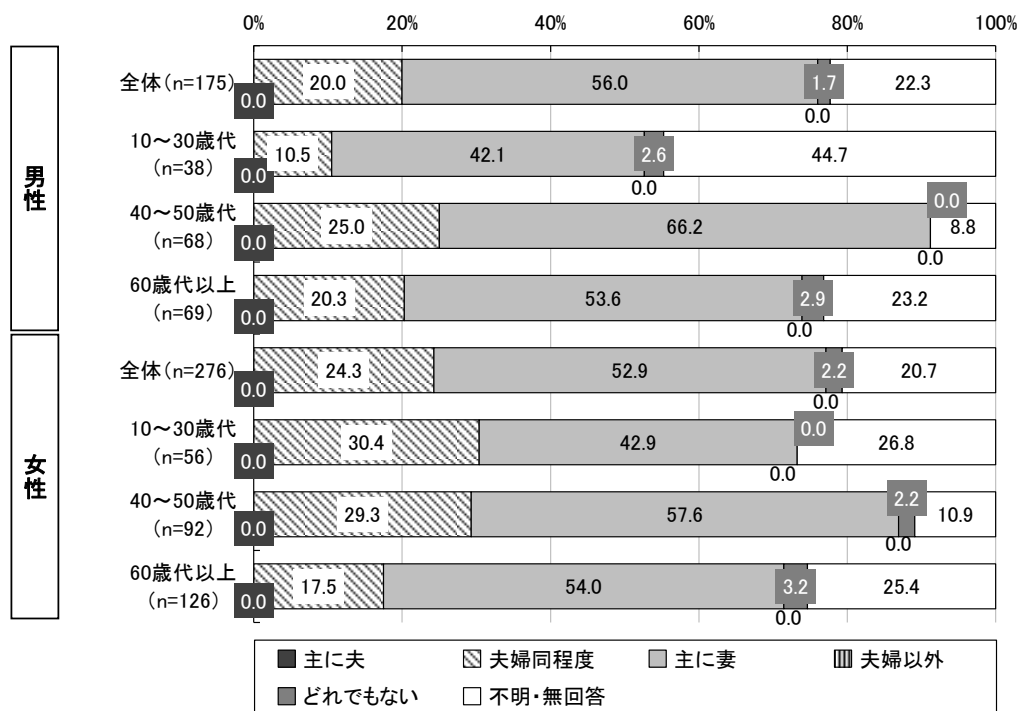
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



【現状】

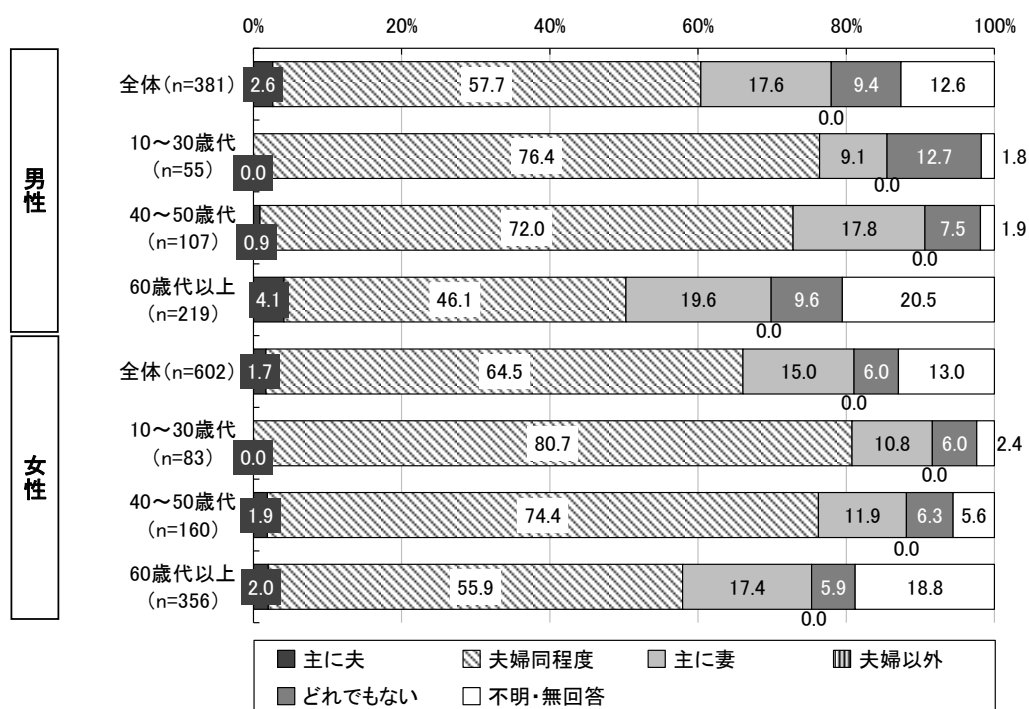
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。



⑪学校行事等への参加

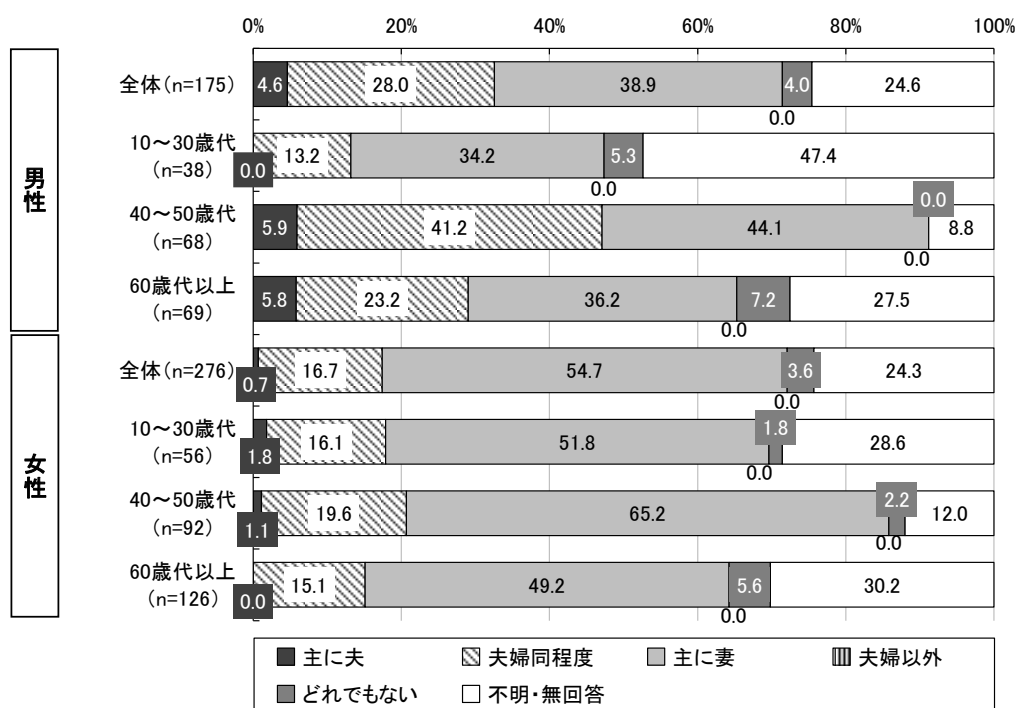
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



【現状】

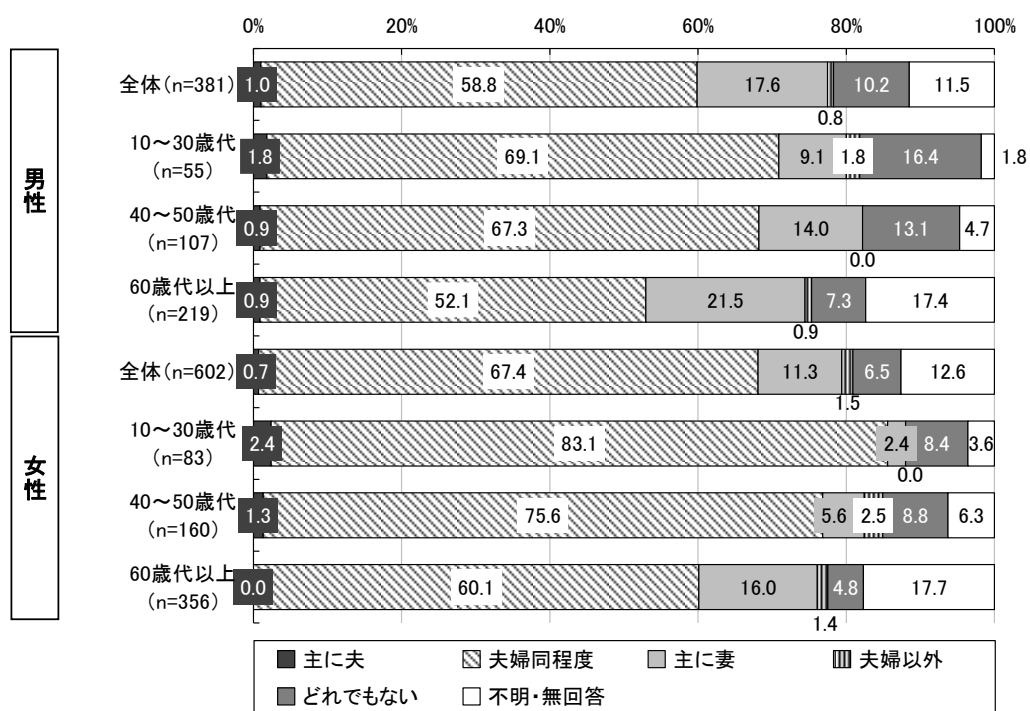
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「主に妻」が最も高くなっています。男性の40～50歳では「夫婦同程度」が4割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



⑫家族の看護・介護

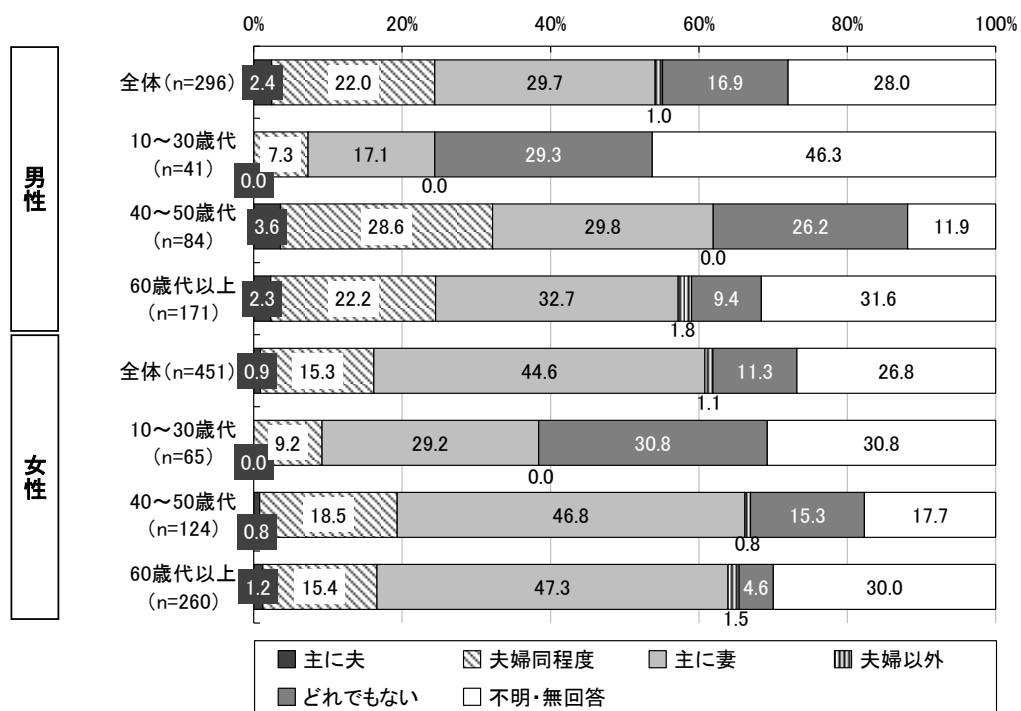
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



【現状】

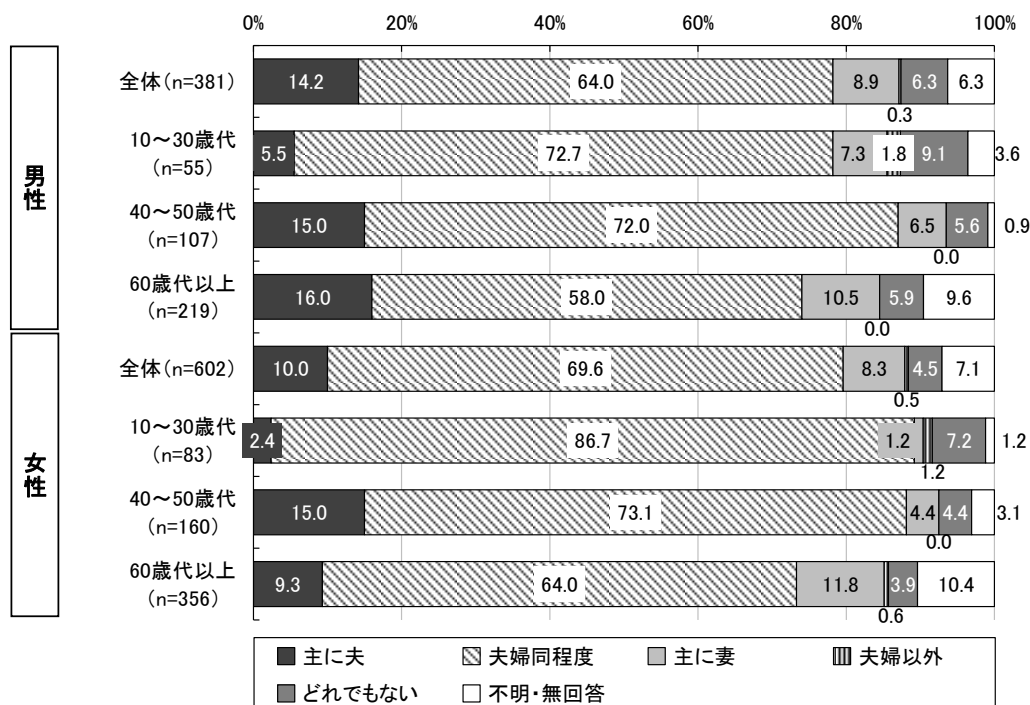
男女別年代別にみると、男女ともに 40~50 歳代、60 歳代以上では「主に妻」が最も高くなっています。



⑬地域の行事参加、近所との付き合い

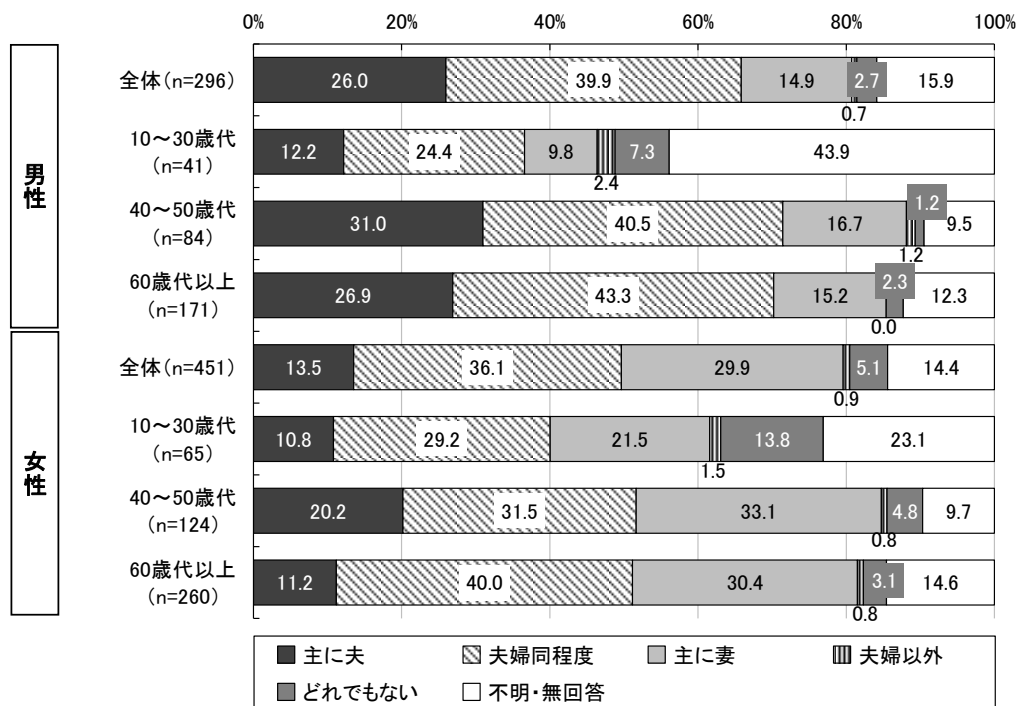
【理想】

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「夫婦同程度」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



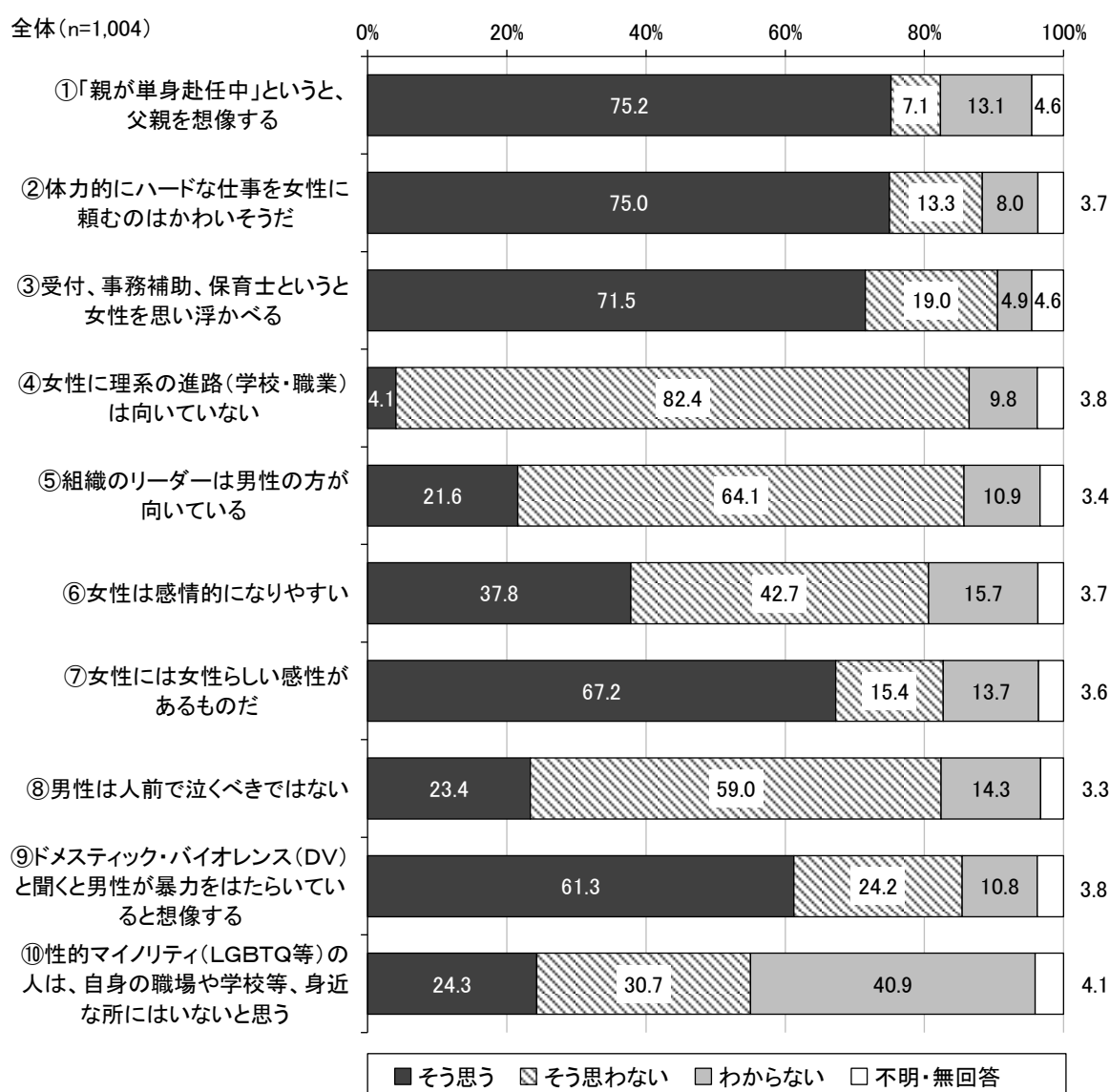
【現状】

男女別年代別にみると、女性の40～50歳代では「主に妻」、それ以外の年代では男女ともに「夫婦同程度」が最も高くなっています。



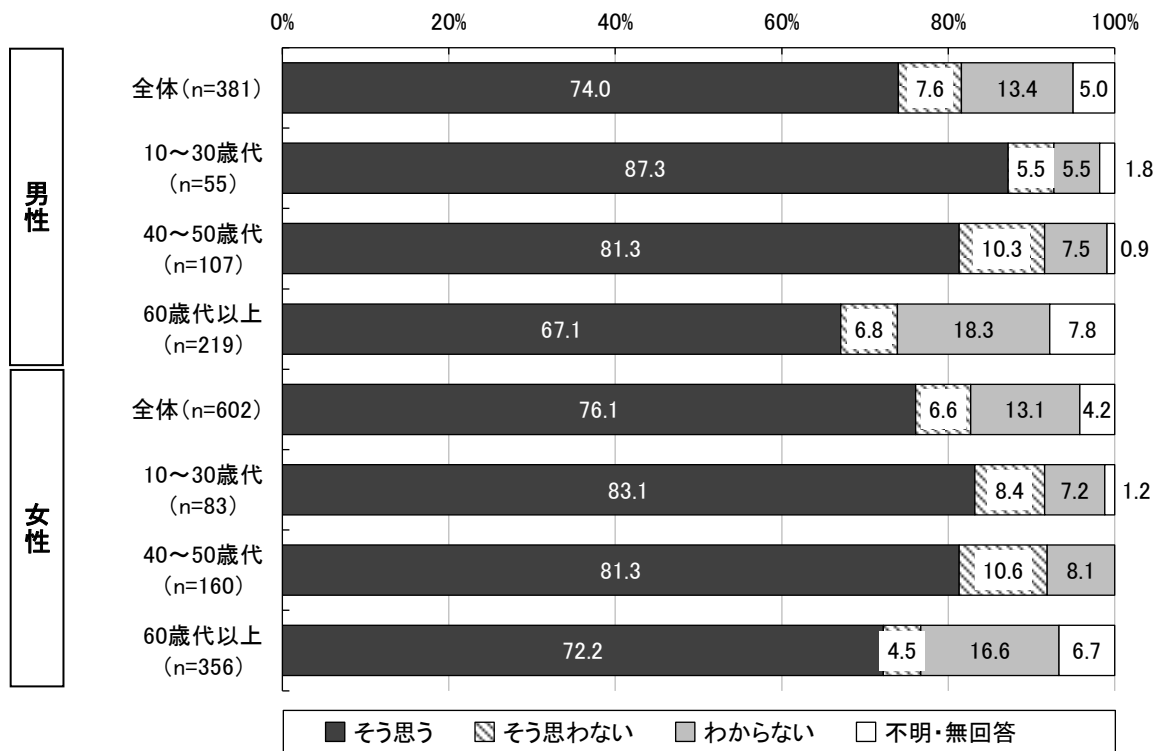
問10 あなたは、次の項目についてどのように思いますか。
(それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

各項目についてどう思うかでは、〔①「親が単身赴任中」というと、父親を想像する〕〔②体力的にハードな仕事を女性に頼むのはかわいそうだ〕〔③受付、事務補助、保育士という女性を思い浮かべる〕〔⑦女性には女性らしい感性があるものだ〕〔⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）と聞くと男性が暴力をはたらいていると想像する〕では「そう思う」が最も高く、〔④女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない〕〔⑤組織のリーダーは男性の方が向いている〕〔⑥女性に感情的になりやすい〕〔⑧男性は人前で泣くべきではない〕では「そう思わない」が最も高くなっています。〔⑩性的マイノリティ（LGBTQ等）の人は、自身の職場や学校等、身近な所にはいないと思う〕では「わからない」が最も高くなっています。



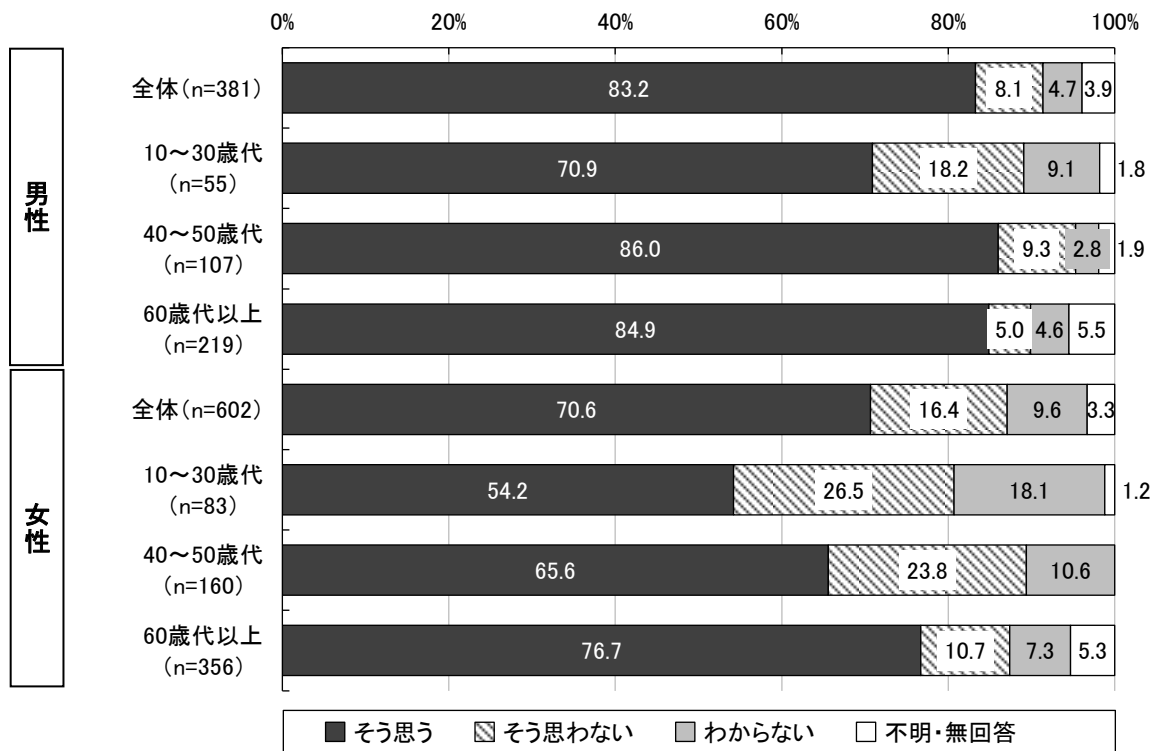
①「親が単身赴任中」というと、父親を想像する

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。



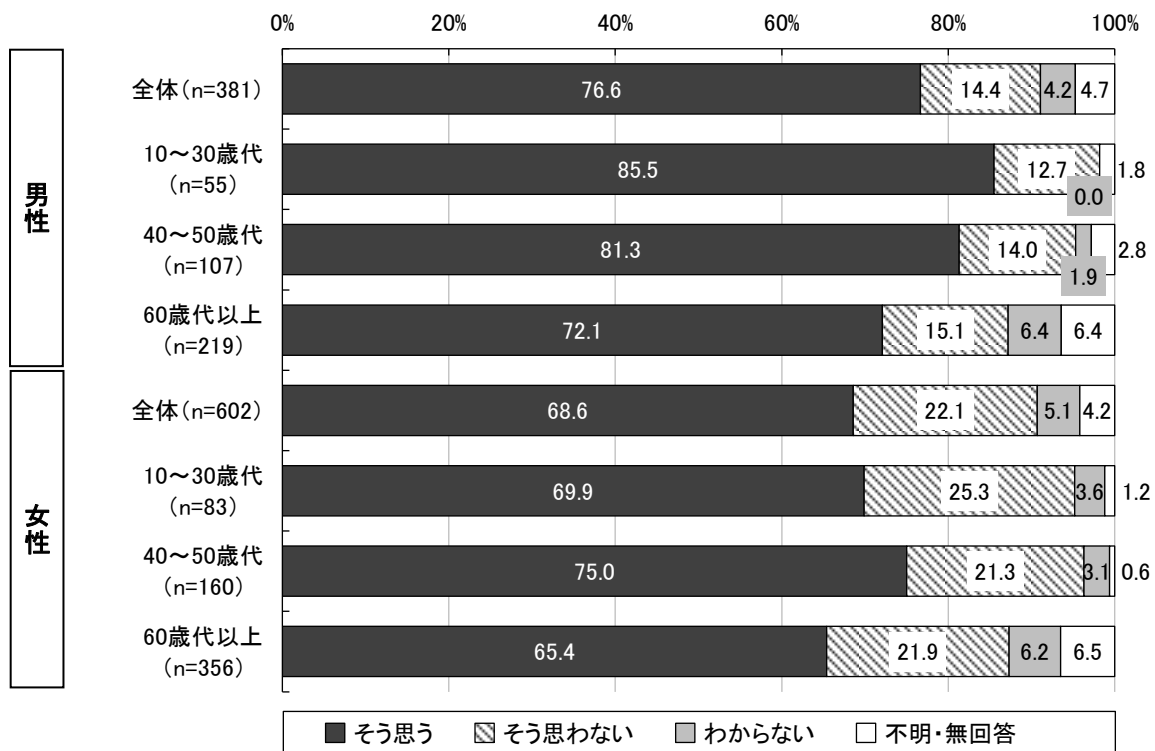
②体力的にハードな仕事を女性に頼むのはかわいそうだ

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。



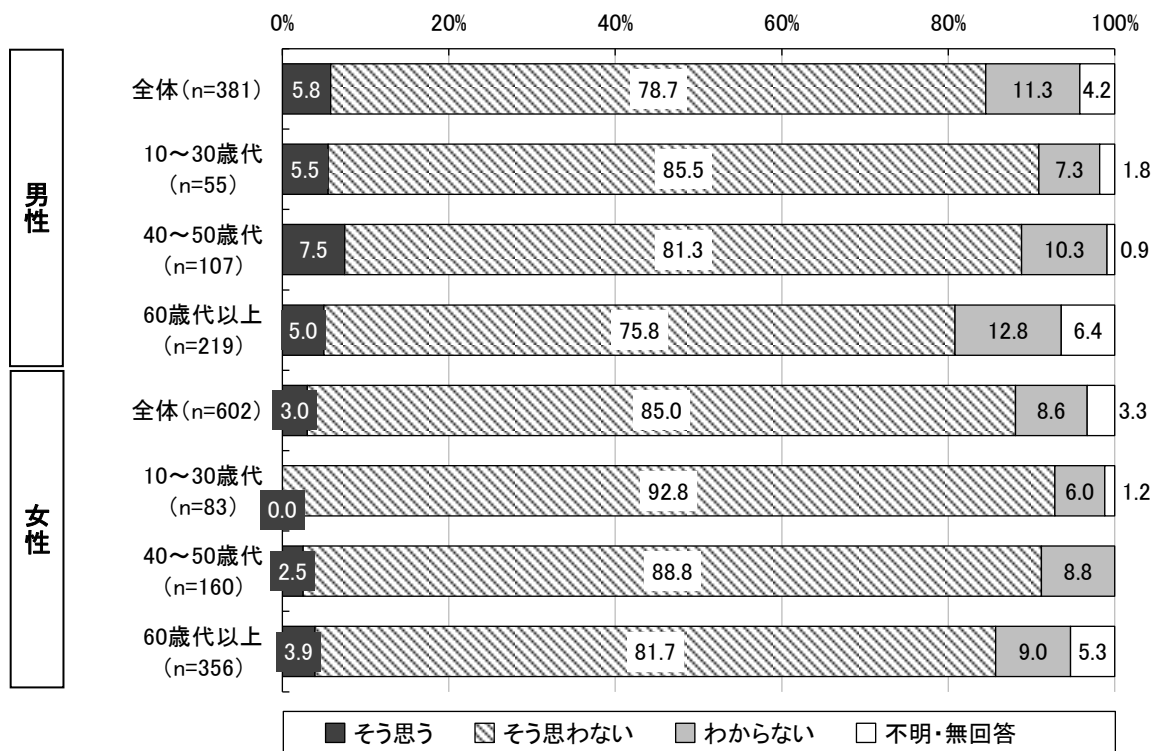
③受付、事務補助、保育士というと女性を思い浮かべる

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思う」が最も高く、特に男性の10～30歳代、40～50歳代では8割を超えています。



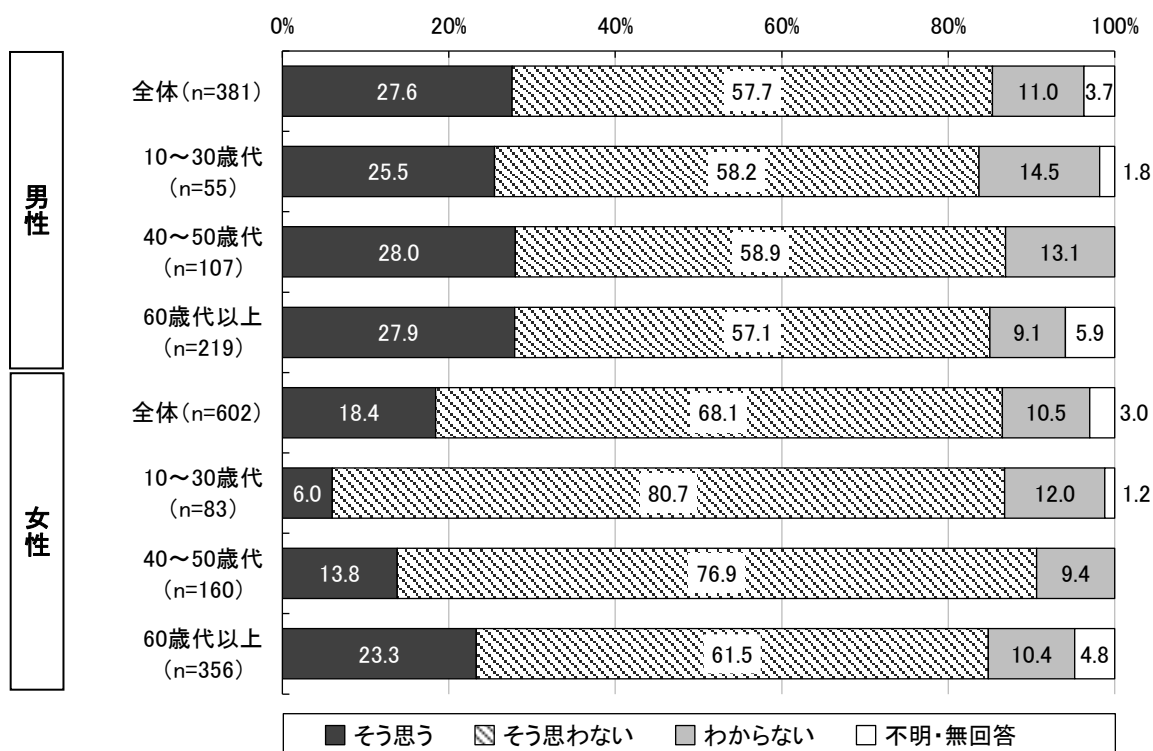
④女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思わない」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



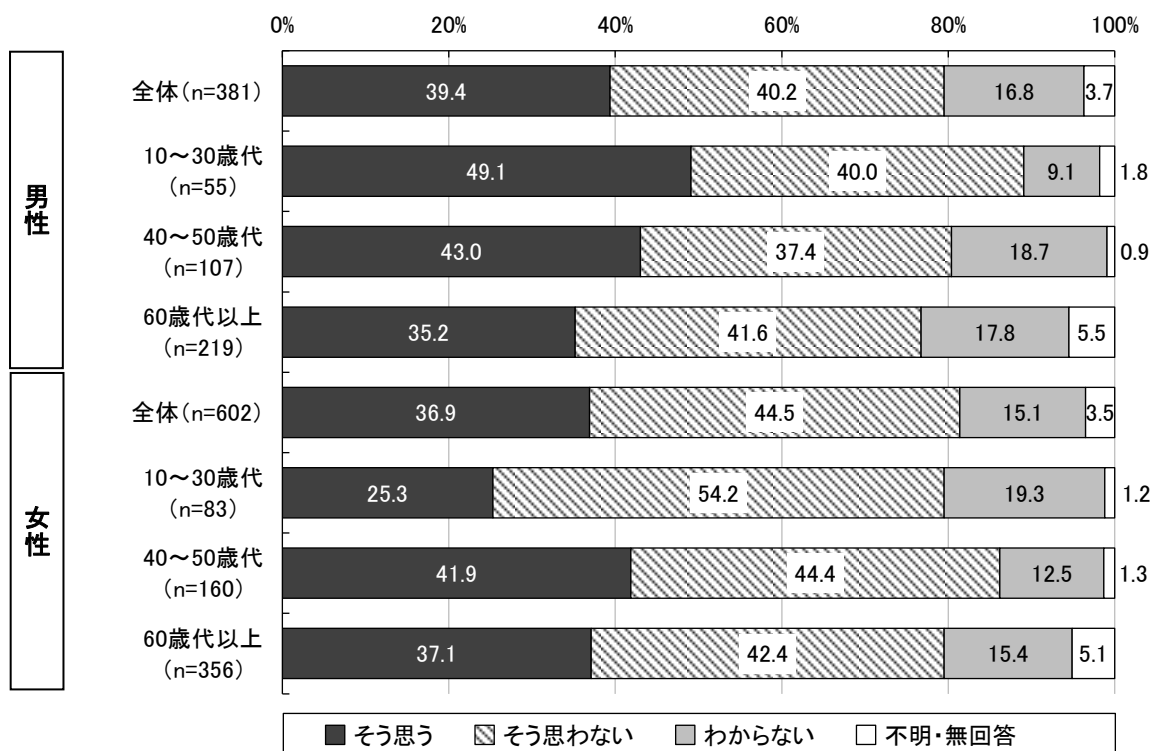
⑤組織のリーダーは男性の方が向いている

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思わない」が最も高くなっていますが、すべての年代で女性の方が男性よりその割合が高く、特に女性の10～30歳代では8割を超えています。



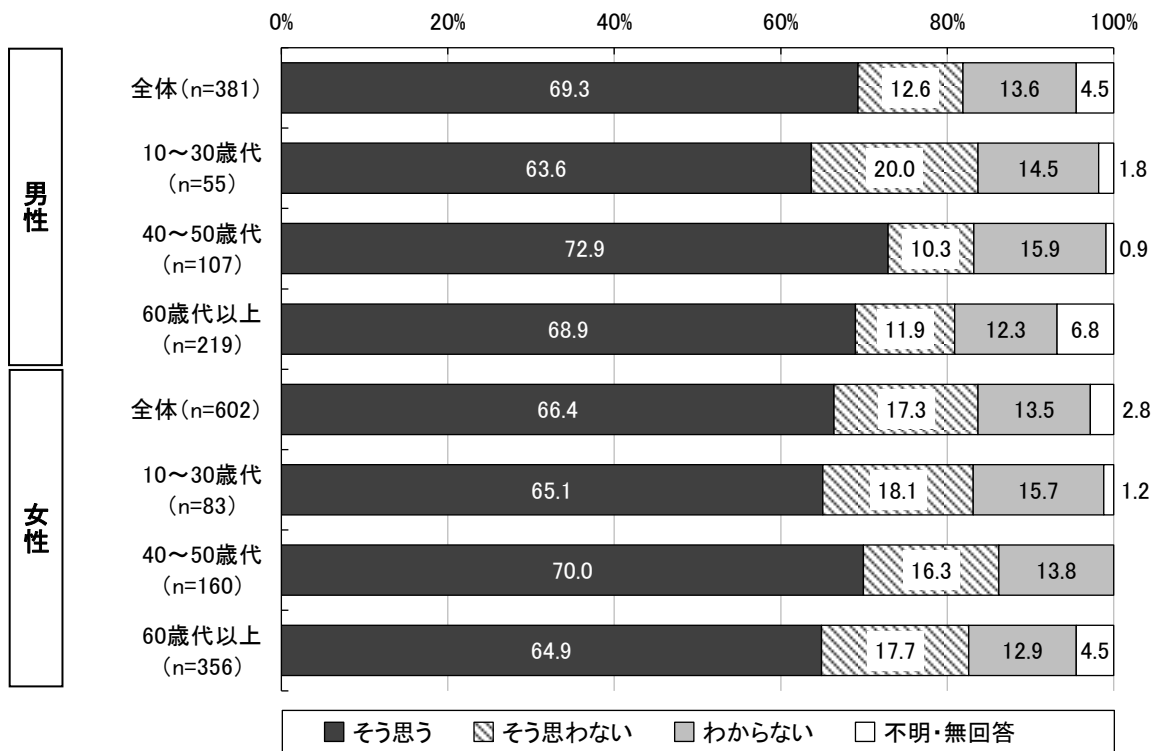
⑥女性は感情的になりやすい

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代、40～50歳代では「そう思う」、それ以外の年代では男女ともに「そう思わない」が最も高くなっています。



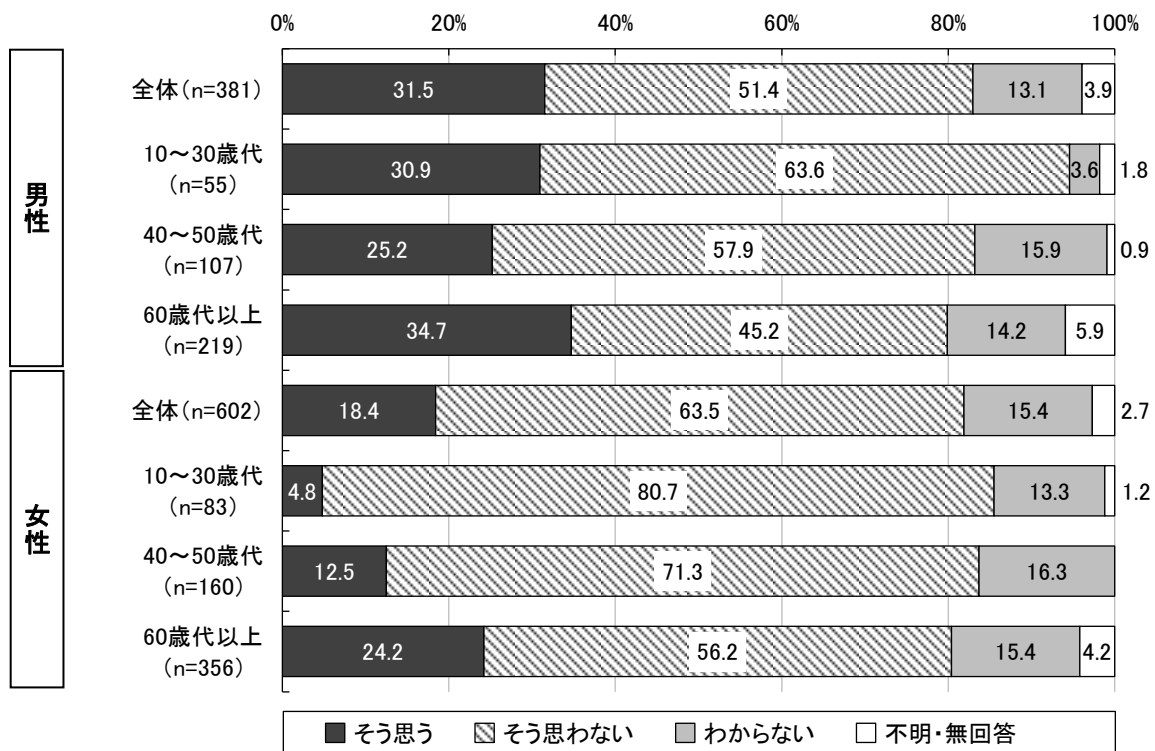
⑦女性には女性らしい感性があるものだ

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。



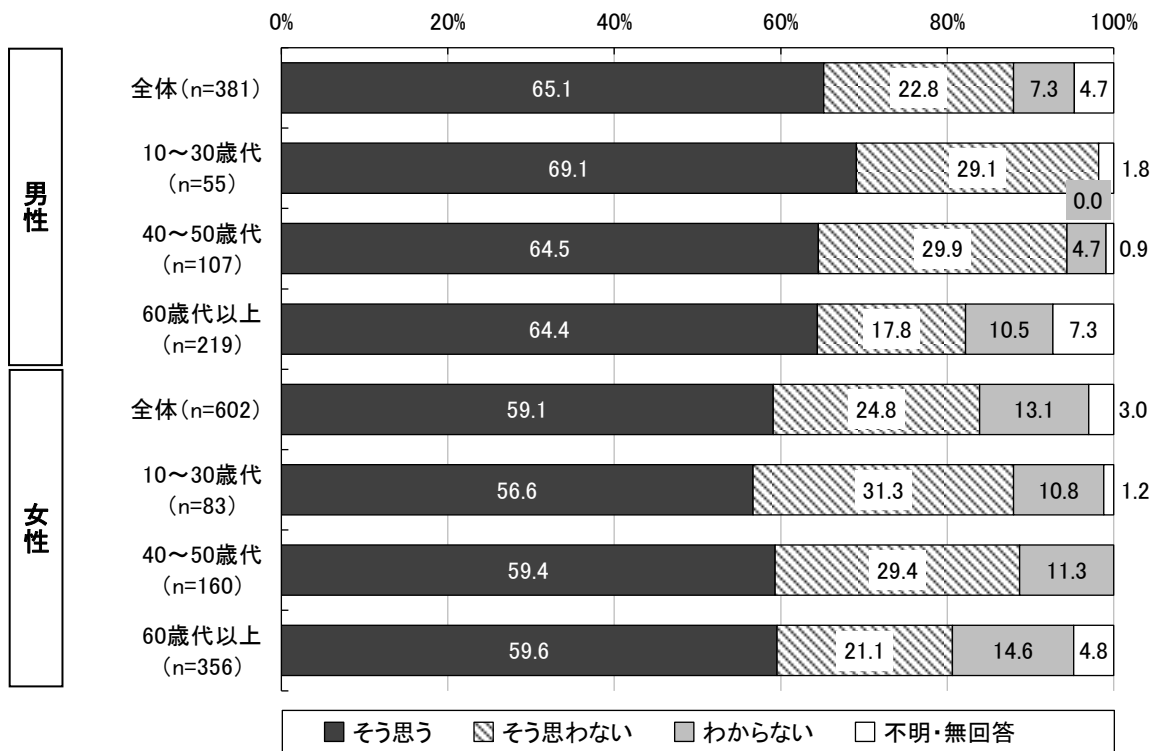
⑧男性は人前で泣くべきではない

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思わない」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



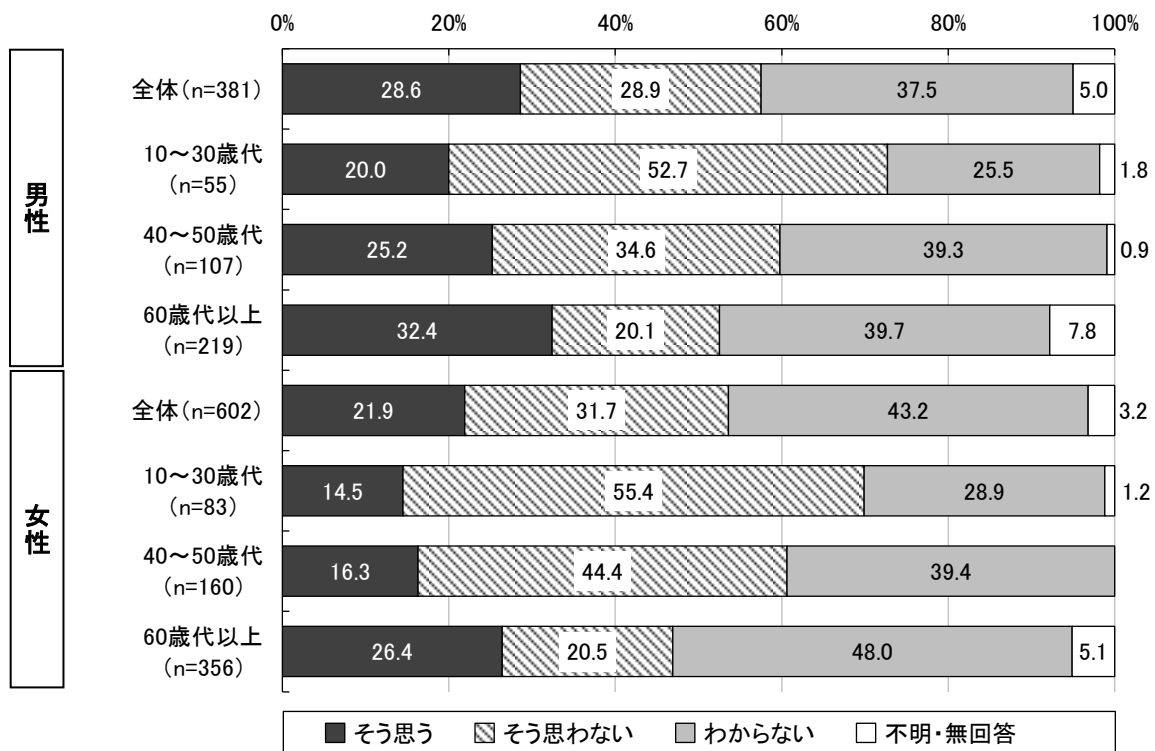
⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）と聞くと男性が暴力をはたらいていると想像する

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。



⑩性的マイノリティ（LGBTQ等）の人は、自身の職場や学校等、身近な所にはいないと思う

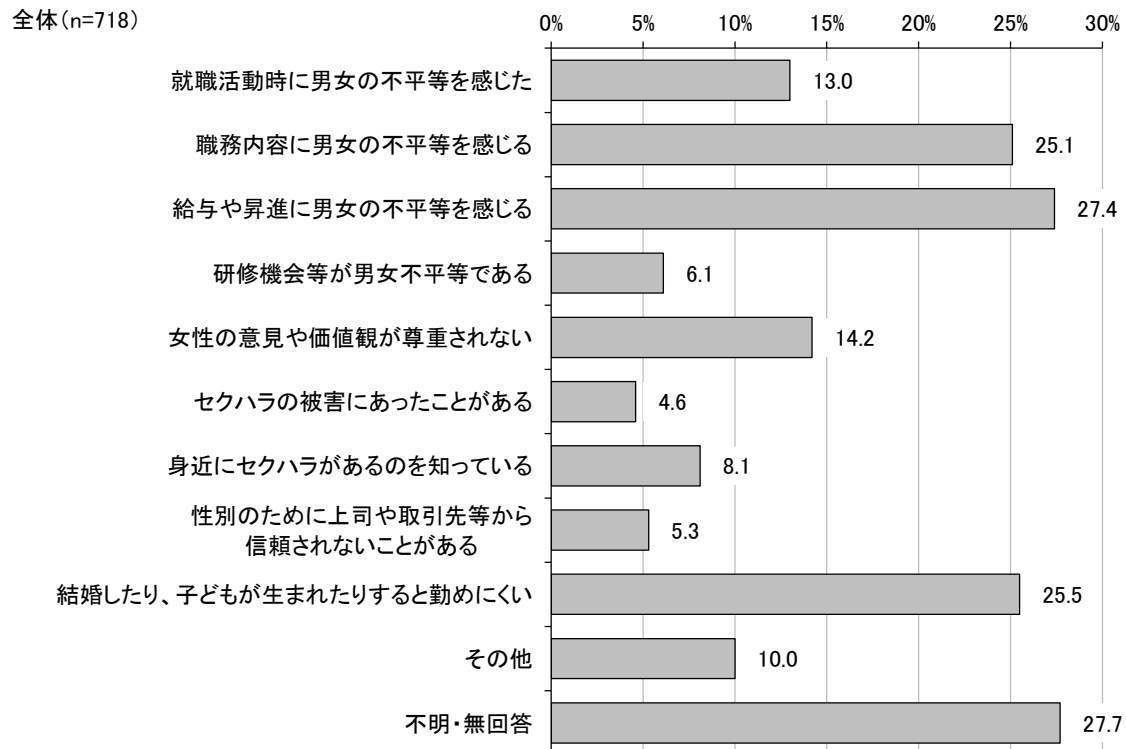
男女別年代別にみると、男女 10～30 歳代、女性の 40～50 歳代では「そう思わない」が最も高くなっています。



3) 職業生活における男女意識について

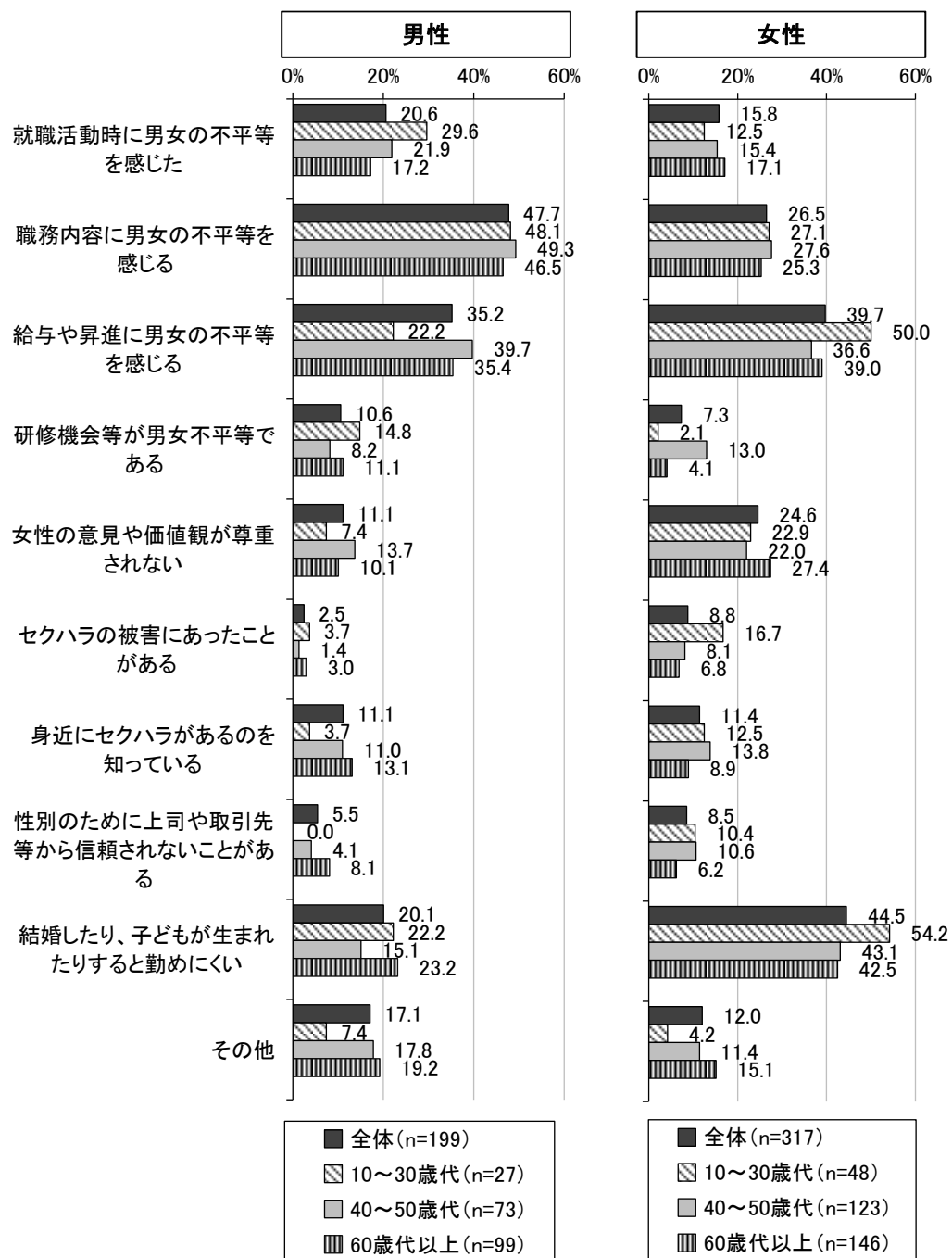
問 11 あなたの職業・職場についてどう思いますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の職業・職場をどう思うかについてみると、「給与や昇進に男女の不平等を感じる」が 27.4%と最も高く、次いで「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」が 25.5%、「職務内容に男女の不平等を感じる」が 25.1%となっています。



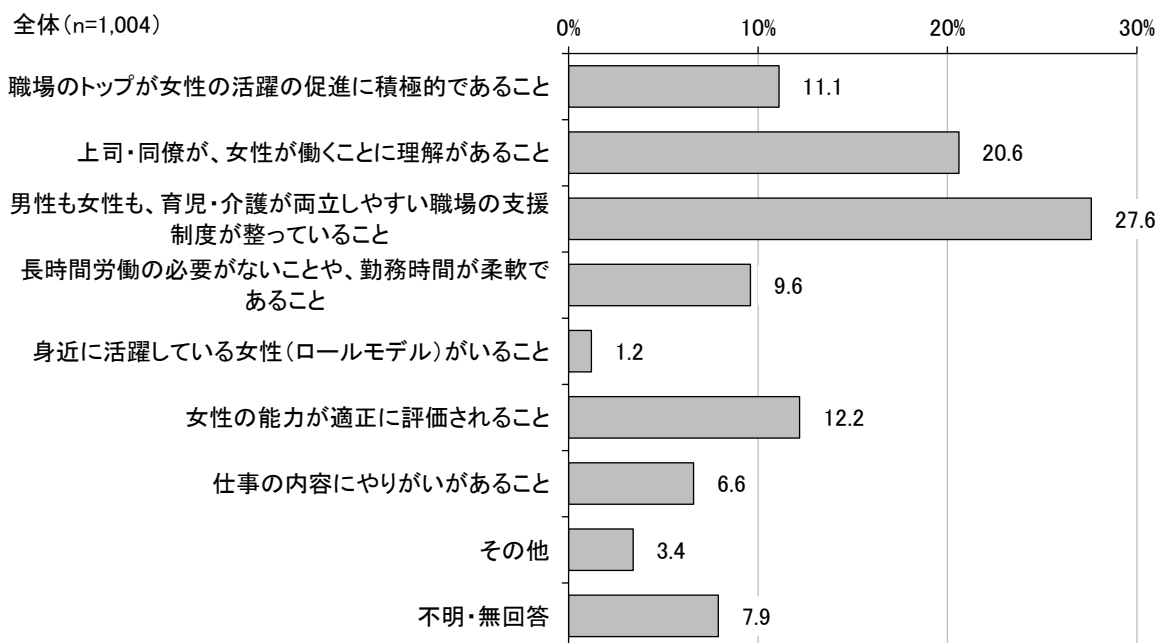
※問 5 で「学生」「専業主婦」「無職」と答えられた方を除外して集計しています。

男女別年代別にみると、男性ではすべての年代で「職務内容に男女の不平等を感じる」、女性ではすべての年代で「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」が最も高くなっています。

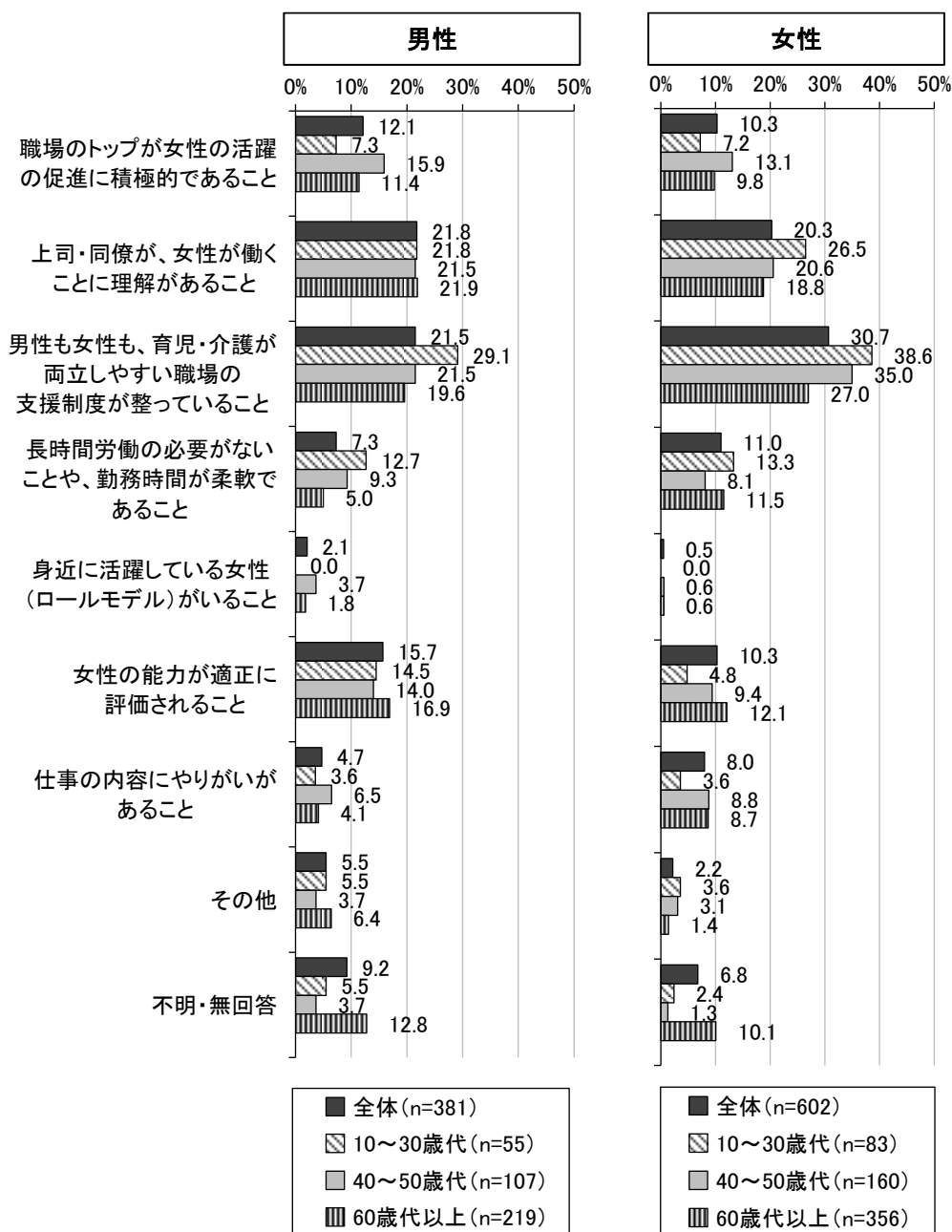


問 12 職業・職場を女性が活躍できる環境にするために、あなたは何が必要だと思いますか。
(最も考えに近いもののひとつに○)

職業・職場を女性が活躍できる環境にするために必要だと思うことについてみると、「男性も女性も、育児・介護が両立しやすい職場の支援制度が整っていること」が 27.6%と最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が 20.6%、「女性の能力が適正に評価されること」が 12.2%となっています。



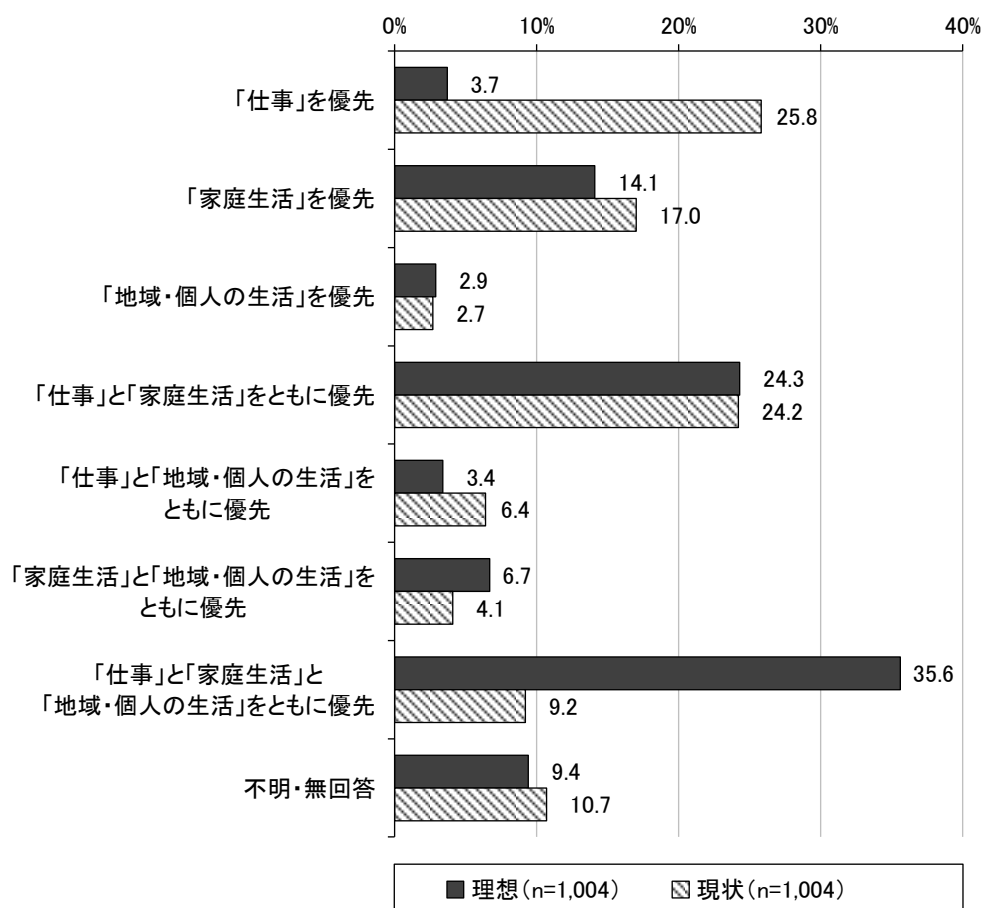
男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「男性も女性も、育児・介護が両立しやすい職場の支援制度が整っていること」、40～50歳代では「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」「男性も女性も、育児・介護が両立しやすい職場の支援制度が整っていること」、60歳代以上では「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」、女性ではすべての年代で「男性も女性も、育児・介護が両立しやすい職場の支援制度が整っていること」が最も高くなっています。



問 13 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活(家事や育児、介護等)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」のうち、優先したいこと(理想)、優先していること(現状)はどれですか。(①、②それぞれひとつに○)

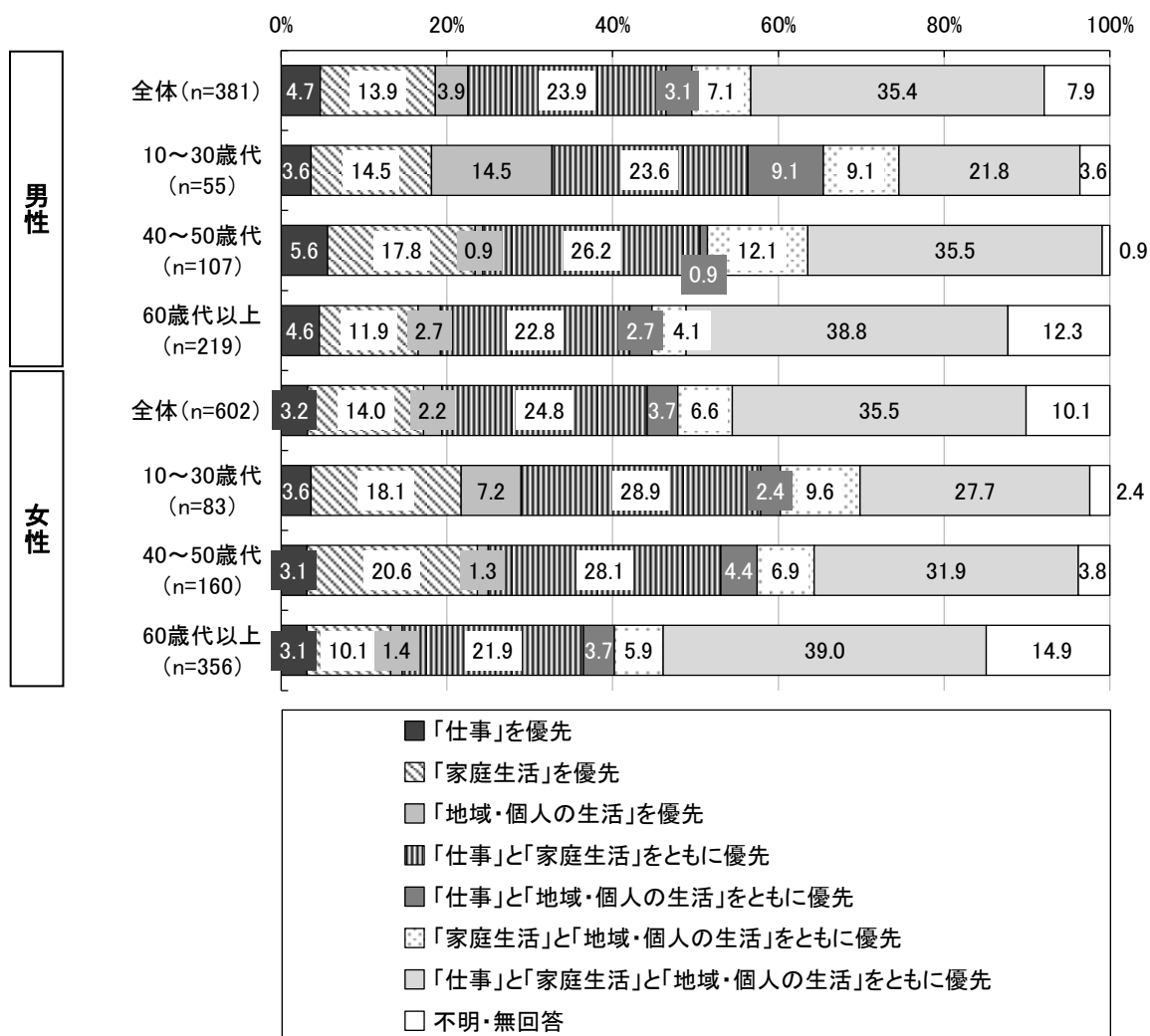
生活の中で優先したいこと(理想)についてみると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が35.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.3%、「家庭生活」を優先」が14.1%となっています。

優先していること(現状)についてみると、「仕事」を優先」が25.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が24.2%、「家庭生活」を優先」が17.0%となっています。



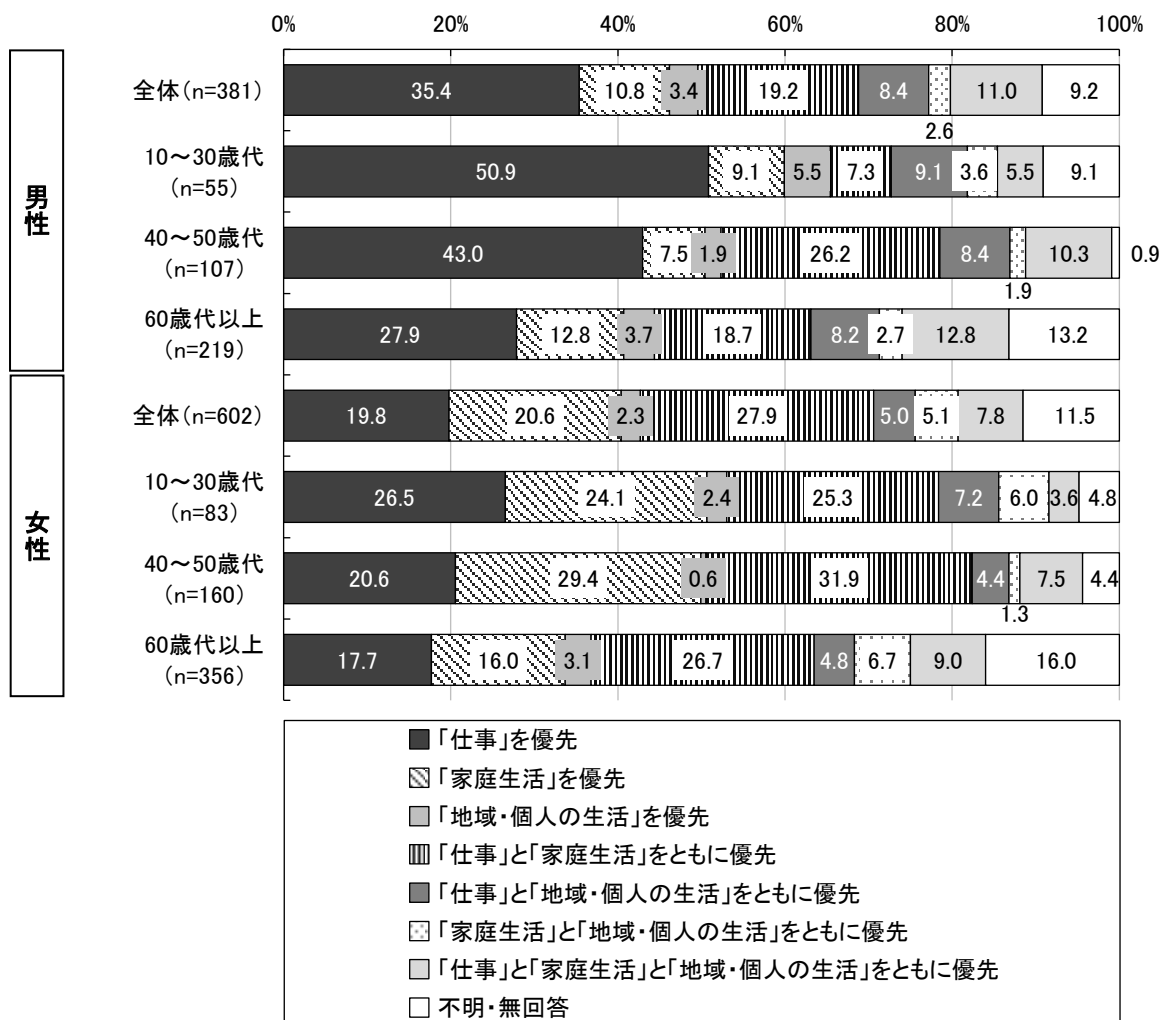
①理想

男女別年代別にみると、男女ともに10～30歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」、それ以外の年代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が最も高くなっています。



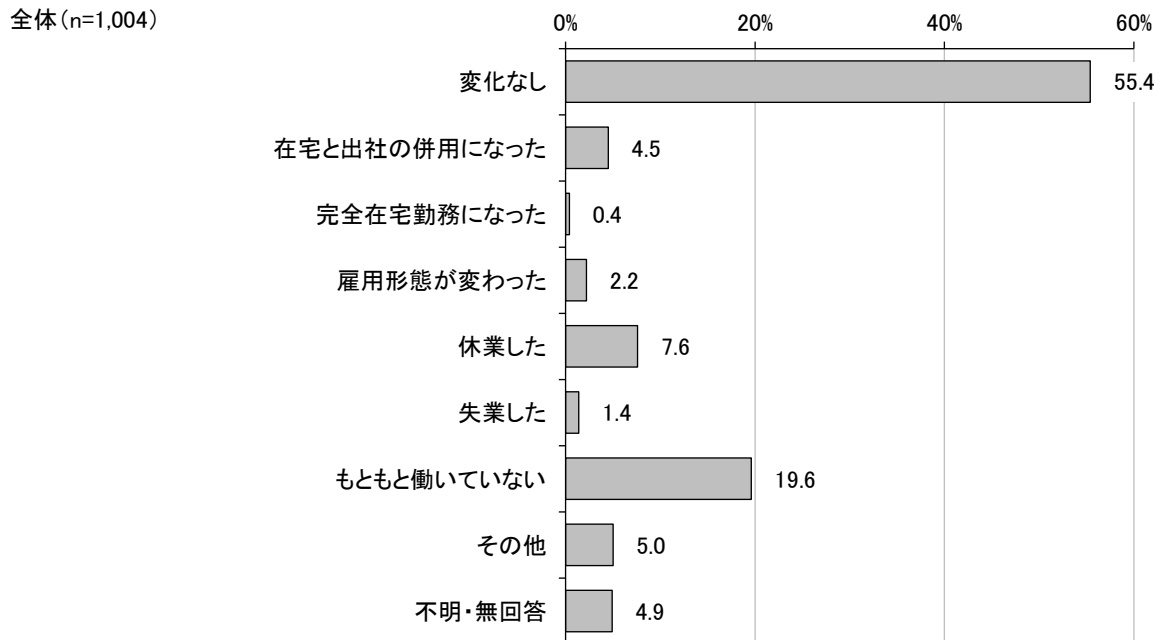
②現状

男女別年代別にみると、男性ではすべての年代で「仕事」を優先、女性の10～30歳代では「仕事」を優先、40～50歳代、60歳代以上では「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も高くなっています。

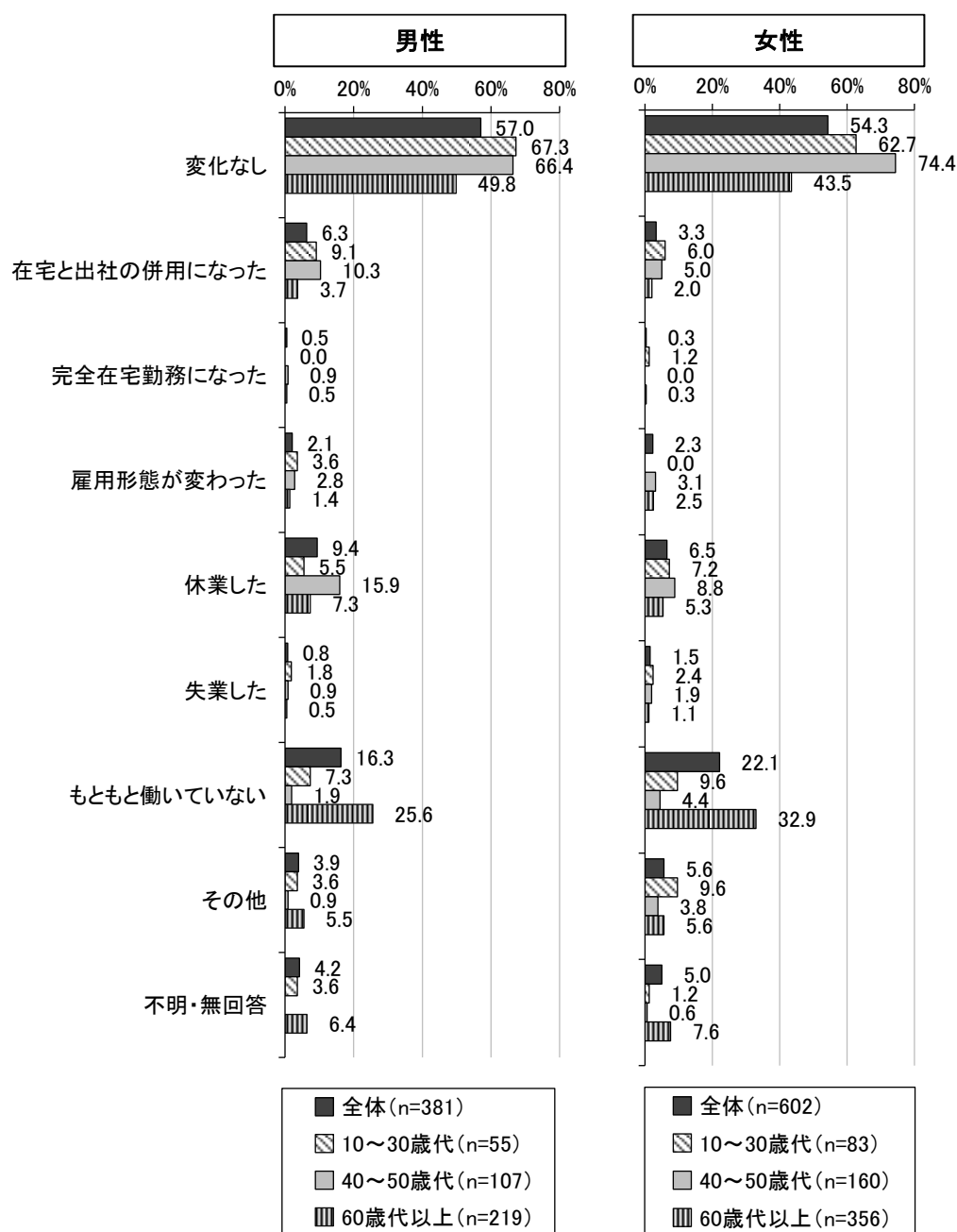


問 14 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響による働き方の変化を経験しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス感染症の影響による働き方の変化についてみると、「変化なし」が 55.4%と最も高く、次いで「もともと働いていない」が 19.6%、「休業した」が 7.6%となっています。

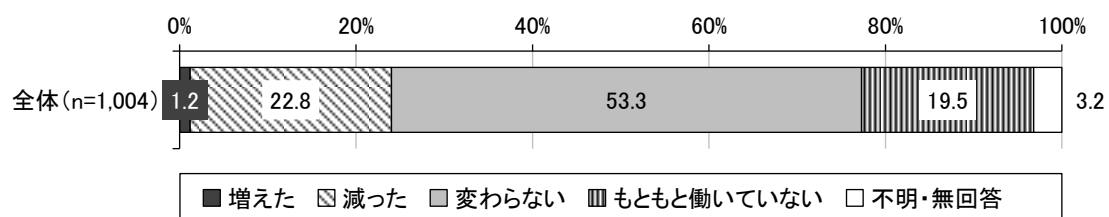


男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「変化なし」が最も高くなっています。

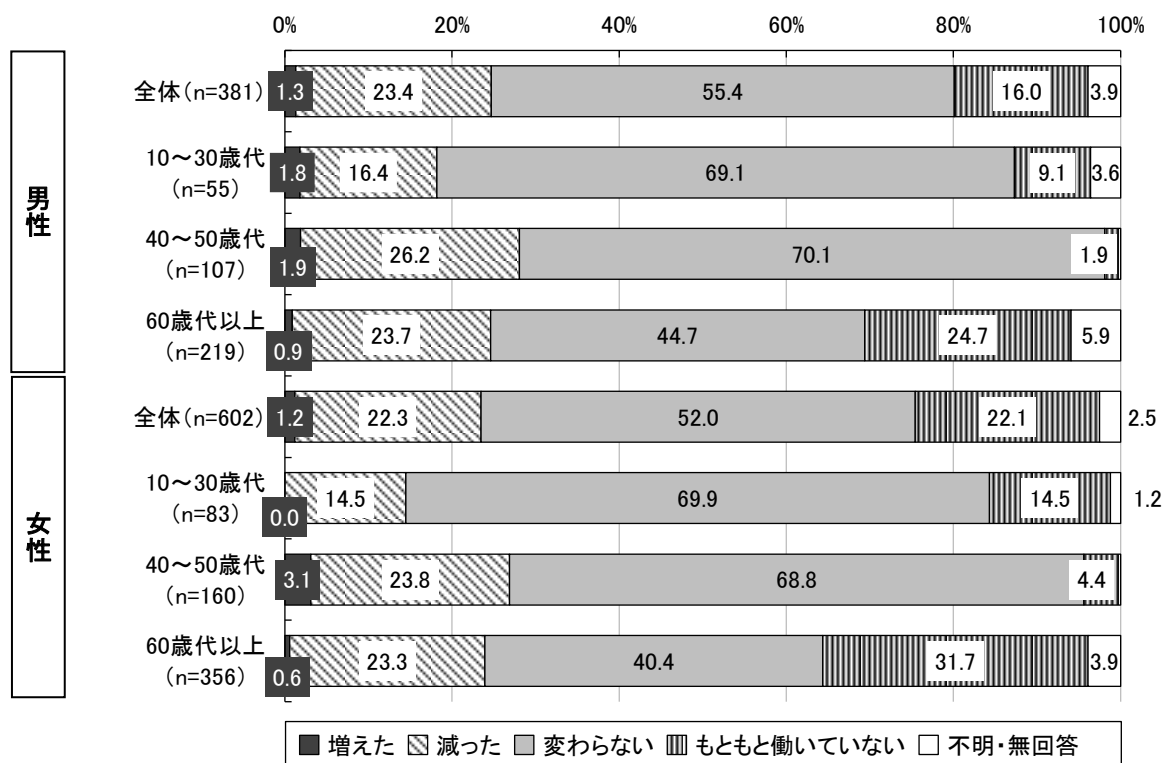


問 15 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響によって、収入が変わりましたか。
(ひとつに○)

新型コロナウイルス感染症の影響による収入の変動についてみると、「変わらない」が 53.3%と最も高く、次いで「減った」が 22.8%、「もともと働いていない」が 19.5%となっています。



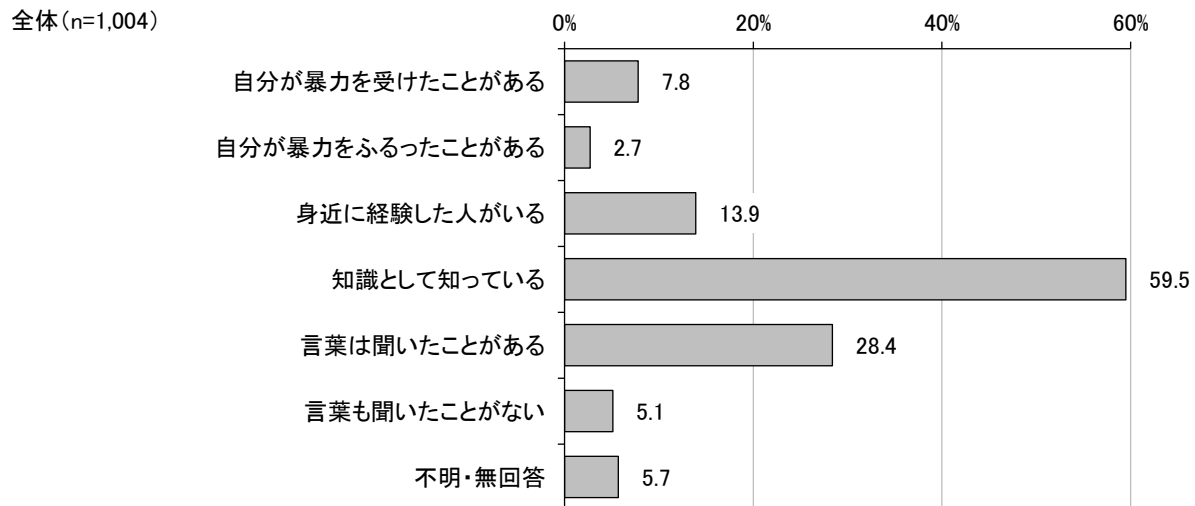
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「変わらない」が最も高くなっていますが、男女ともに 40～50 歳代、60 歳代以上では「減った」が 2 割を超え、10～30 歳代に比べて高くなっています。



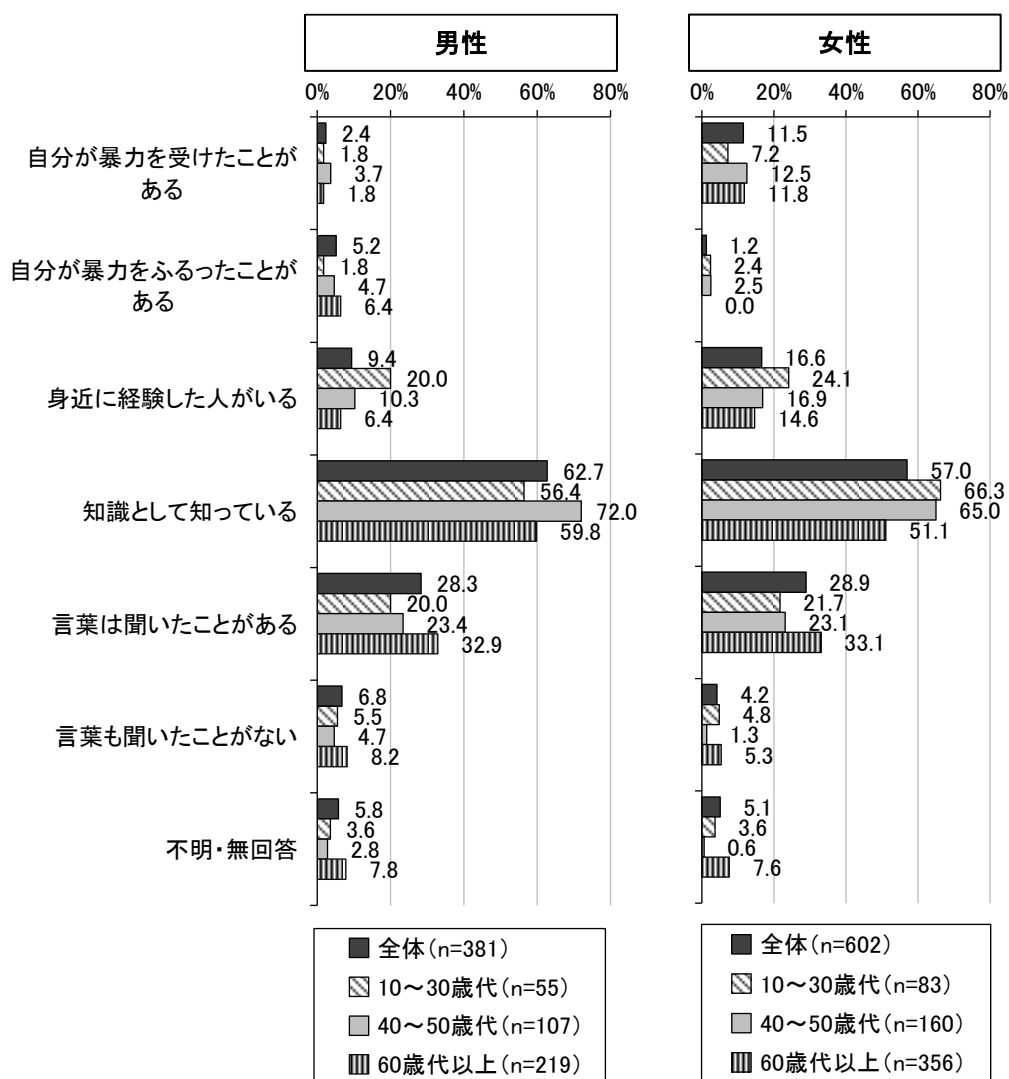
4) 男女平等に関する様々な課題について

問 16 あなたは配偶者等からのDVについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

配偶者等からのDVの経験や見聞きしたことがあるかについてみると、「知識として知っている」が59.5%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が28.4%、「身近に経験した人がある」が13.9%となっています。

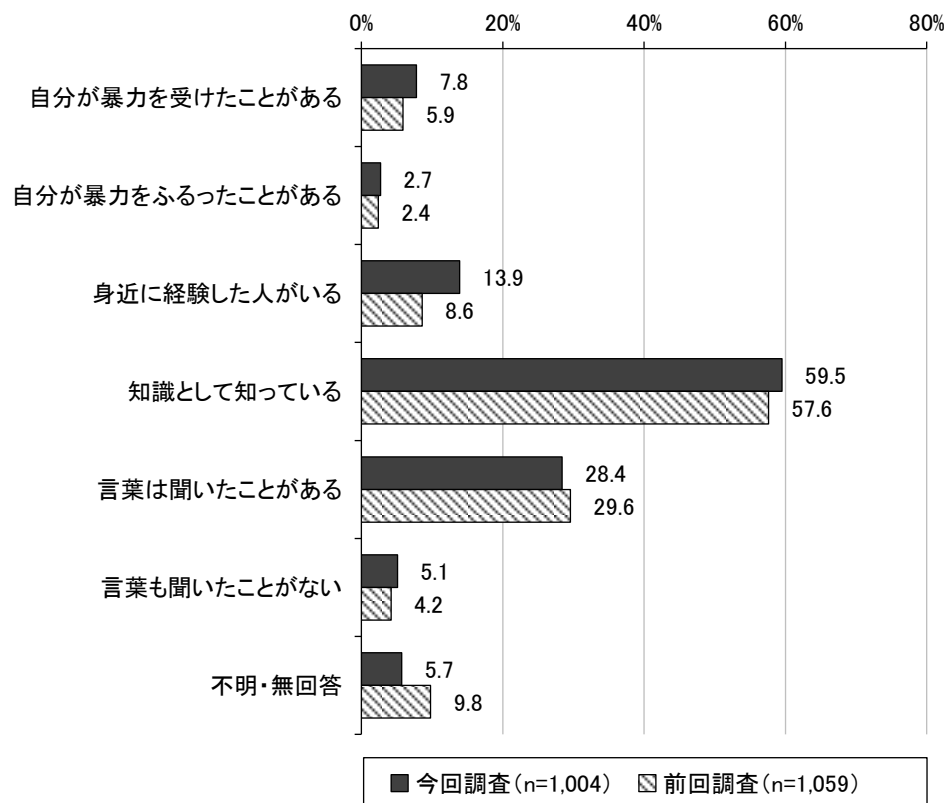


男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「知識として知っている」が最も高くなっています。女性では、すべての年代で「自分が暴力を受けたことがある」が男性に比べて高くなっており、全体で1割を超えています。



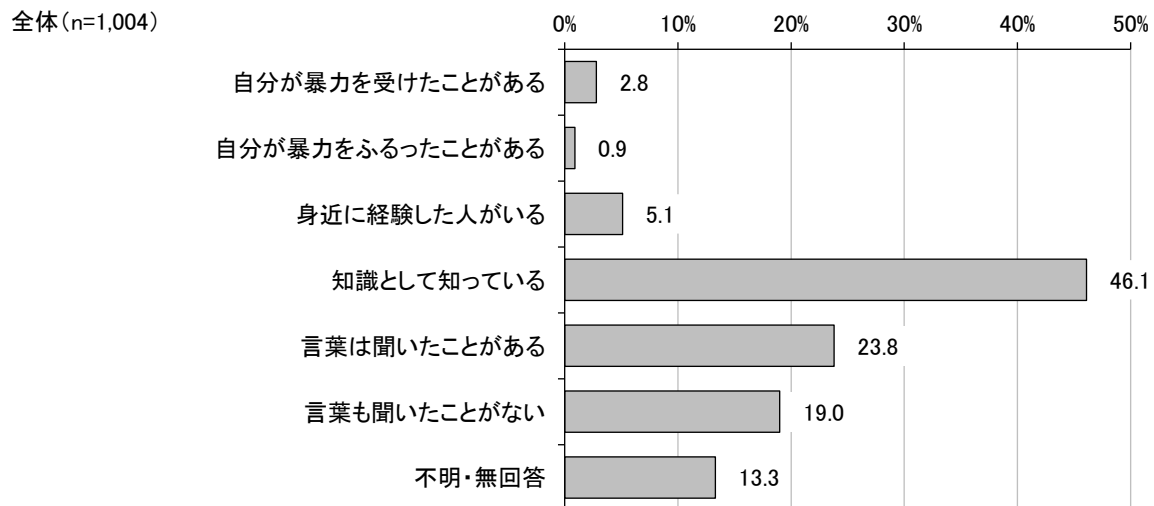
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、「身近に経験した人がある」が 5.3 ポイント、「自分が暴力を受けたことがある」が 1.9 ポイント、「自分が暴力をふるったことがある」が 0.3 ポイント上昇しています。

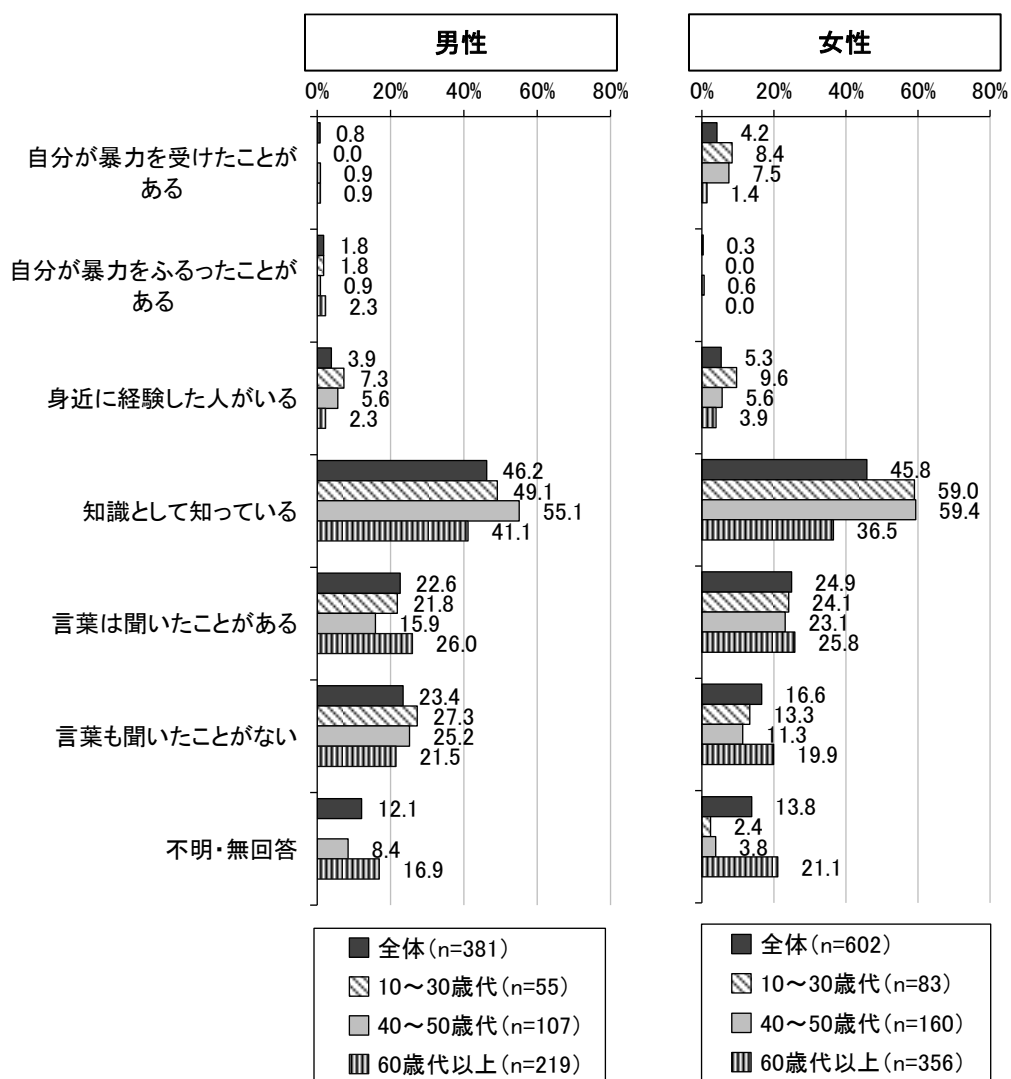


問 17 あなたは恋人からのデートDVについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

恋人からのデートDVの経験や見聞きしたことがあるかについてみると、「知識として知っている」が 46.1%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が 23.8%、「言葉も聞いたことがない」が 19.0%となっています。

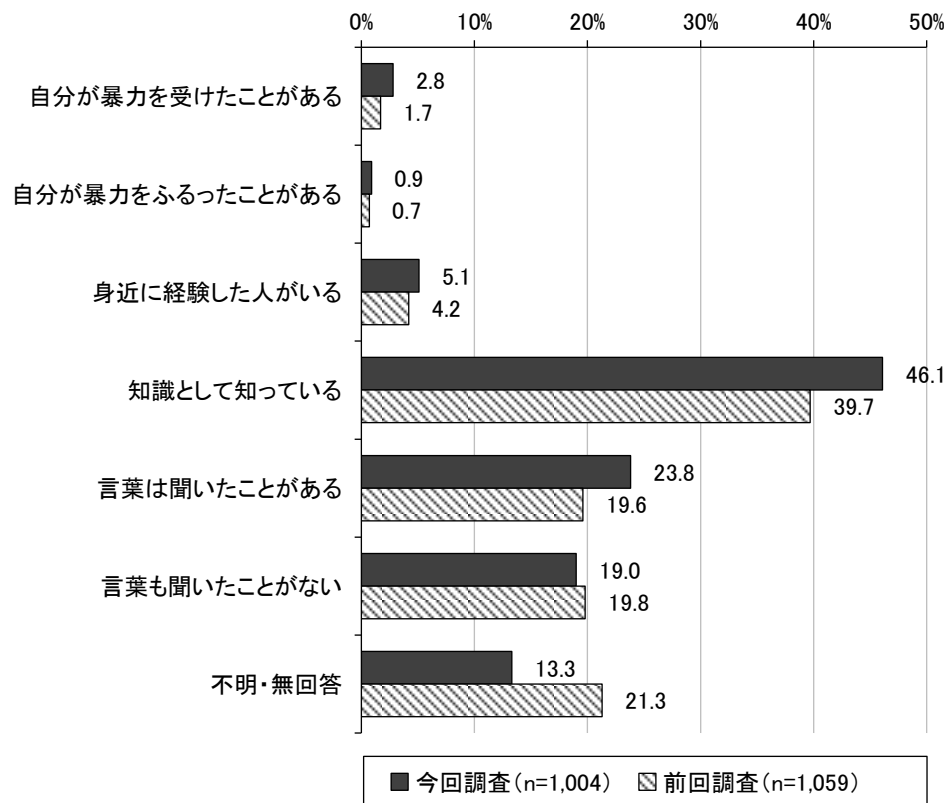


男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「知識として知っている」が最も高くなっています。男性ではすべての年代で「言葉も聞いたことがない」が2割台となっており、女性に比べて高くなっています。



【前回調査との比較】

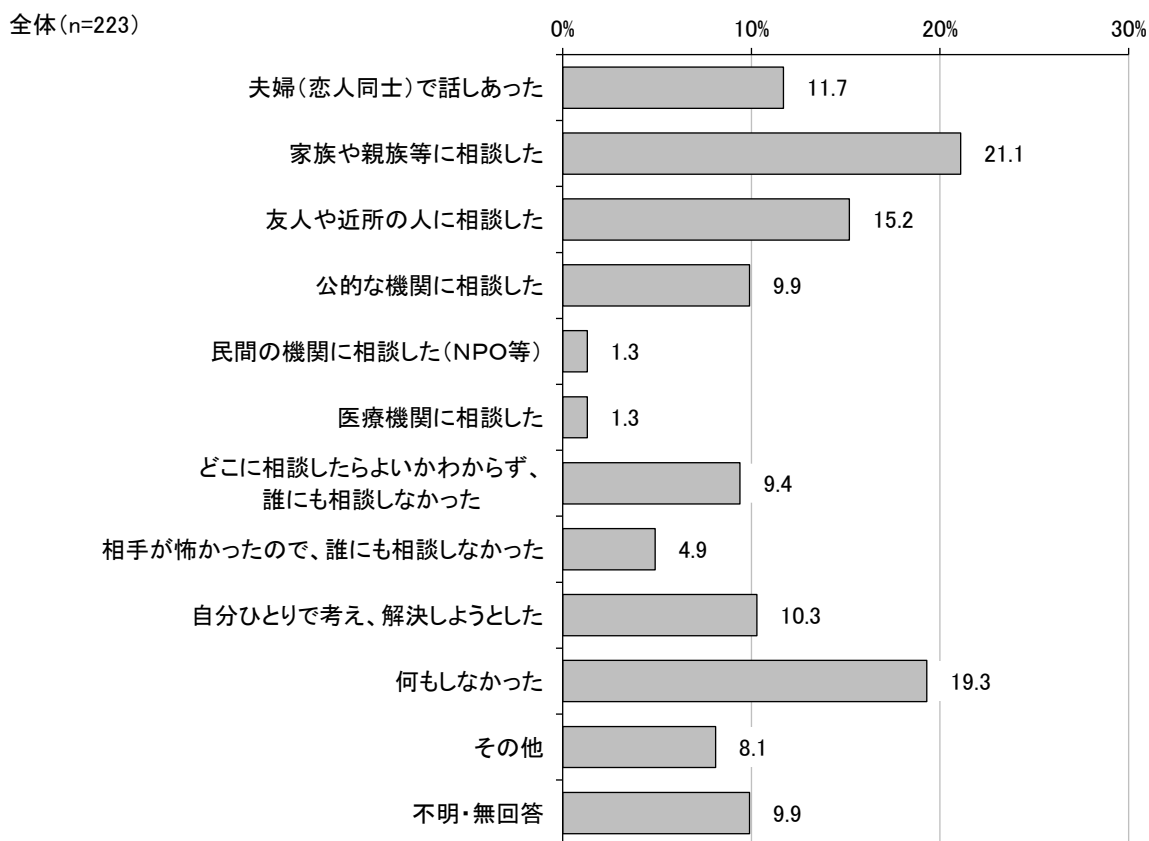
前回調査との比較をみると、「自分が暴力を受けたことがある」が 1.1 ポイント、「自分が暴力をふるったことがある」が 0.2 ポイント、「身近に経験した人がある」が 0.9 ポイント上昇しています。



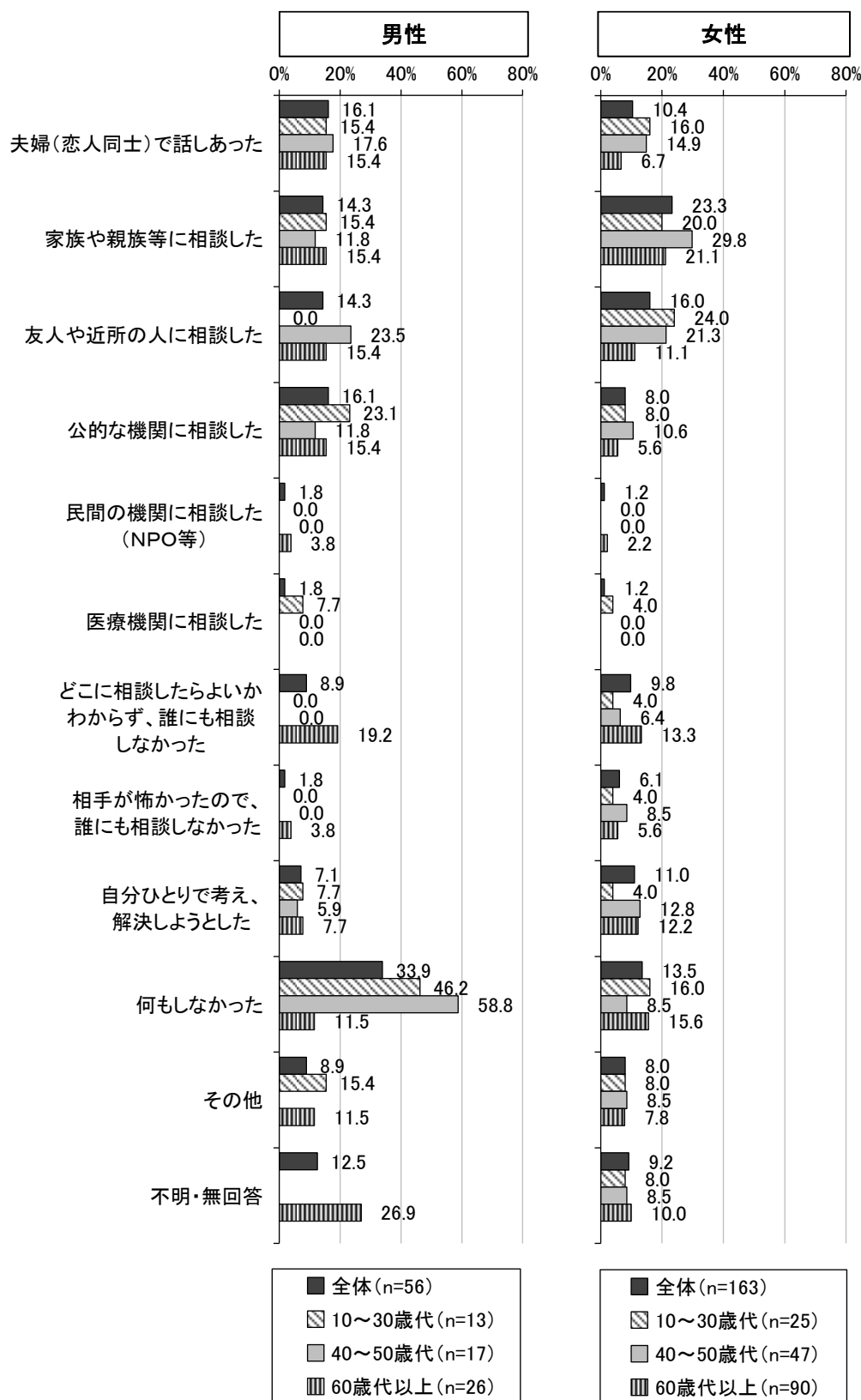
【問 16 又は問 17 で、「自分が暴力を受けたことがある」「自分が暴力をふるったことがある」「身近に経験した人がいる」のいずれかにひとつにでも○をつけた方におたずねします】

問 18 その時、あなたはどうしましたか。（あてはまるものすべてに○）

DVについて経験したり見聞きした際の対応についてみると、「家族や親族等に相談した」が 21.1%と最も高く、次いで「何もしなかった」が 19.3%、「友人や近所の人に相談した」が 15.2%となっています。

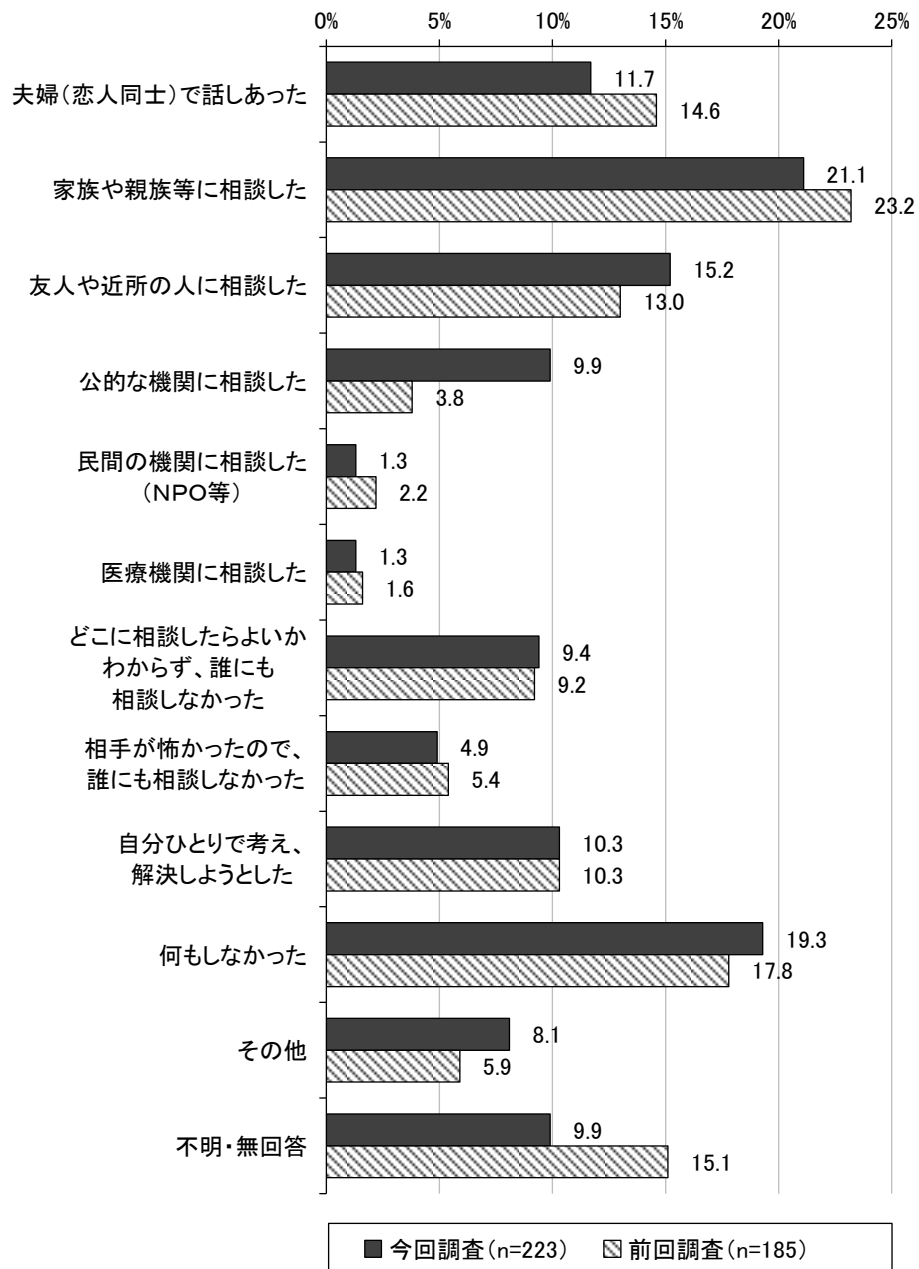


男女別年代別にみると、男性の 10～30 歳代、40～50 歳代では「何もしなかった」、60 歳代以上では「どこに相談したらよいかわからず、誰にも相談しなかった」、女性の 10～30 歳代では「友人や近所の人に相談した」、40～50 歳代、60 歳代以上では「家族や親族等に相談した」が最も高くなっています。



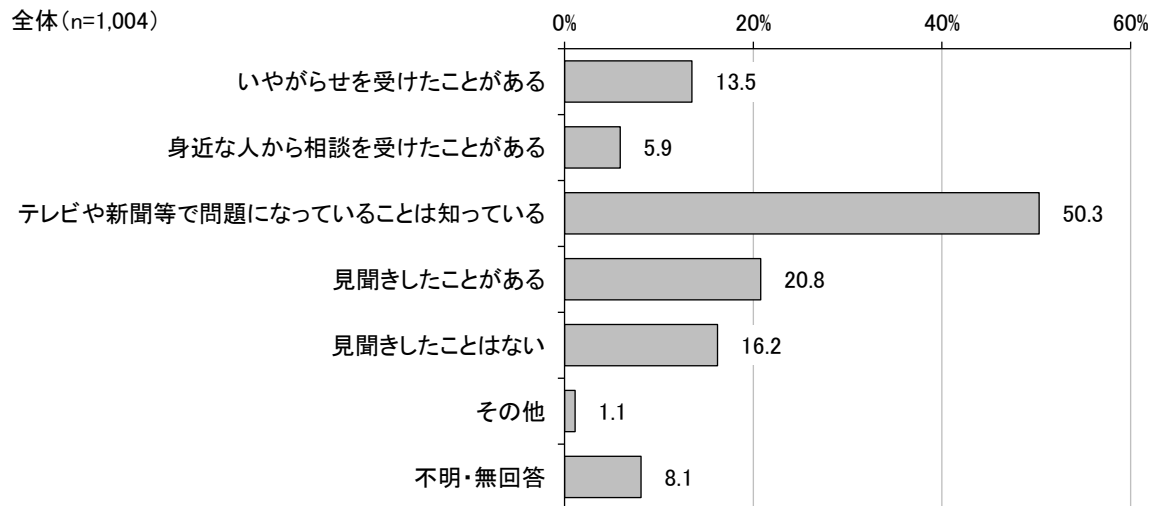
【前回調査との比較】

前回調査との比較をみると、「公的な機関に相談した」が6.1ポイント上昇しており、「何もなかった」が1.5ポイント、「どこに相談したらよいかわからず、誰にも相談しなかった」が0.2ポイント低下しています。

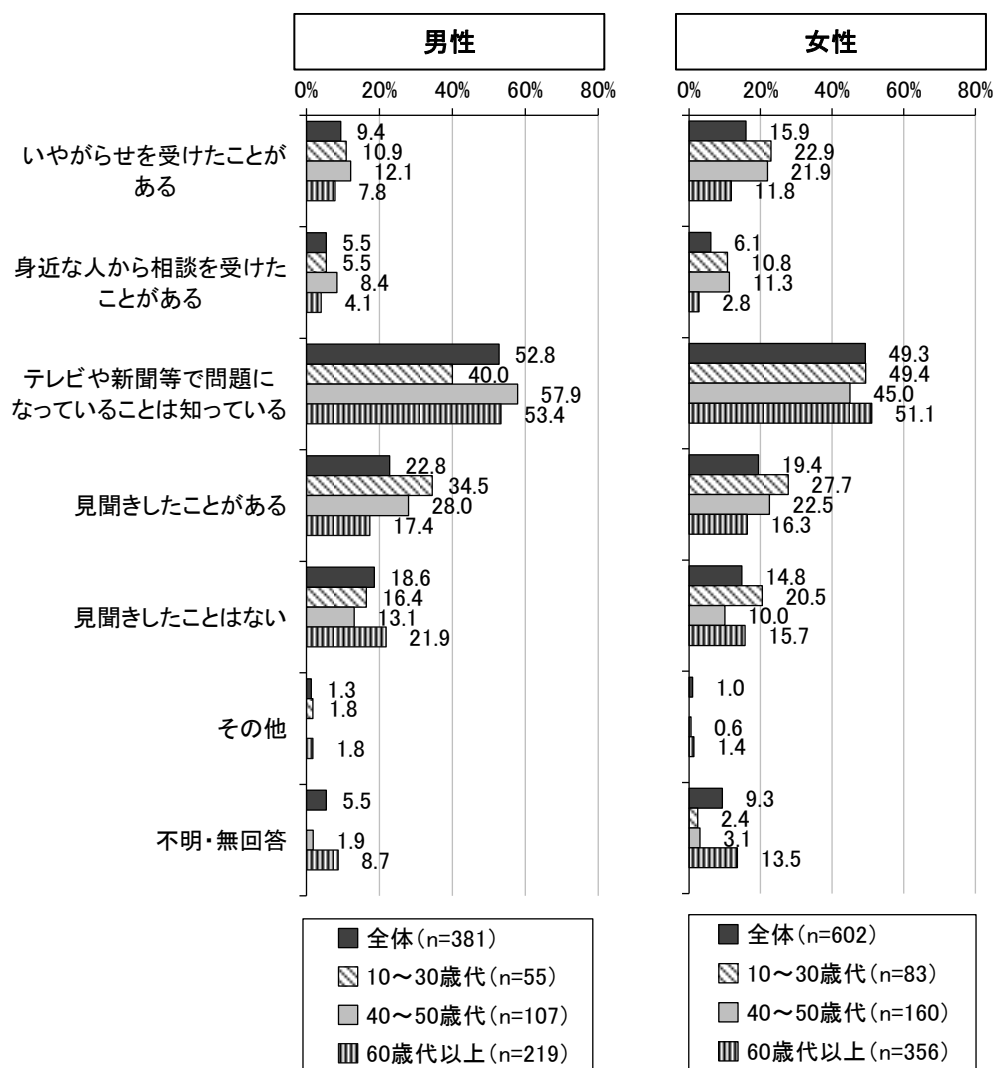


問 19 あなたは、セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)・パワーハラスメント(職権を濫用したいいやがらせ)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの経験や見聞きしたことがあるかについてみると、「テレビや新聞等で問題になっていることは知っている」が50.3%と最も高く、次いで「見聞きしたことがある」が20.8%、「見聞きしたことはない」が16.2%となっています。

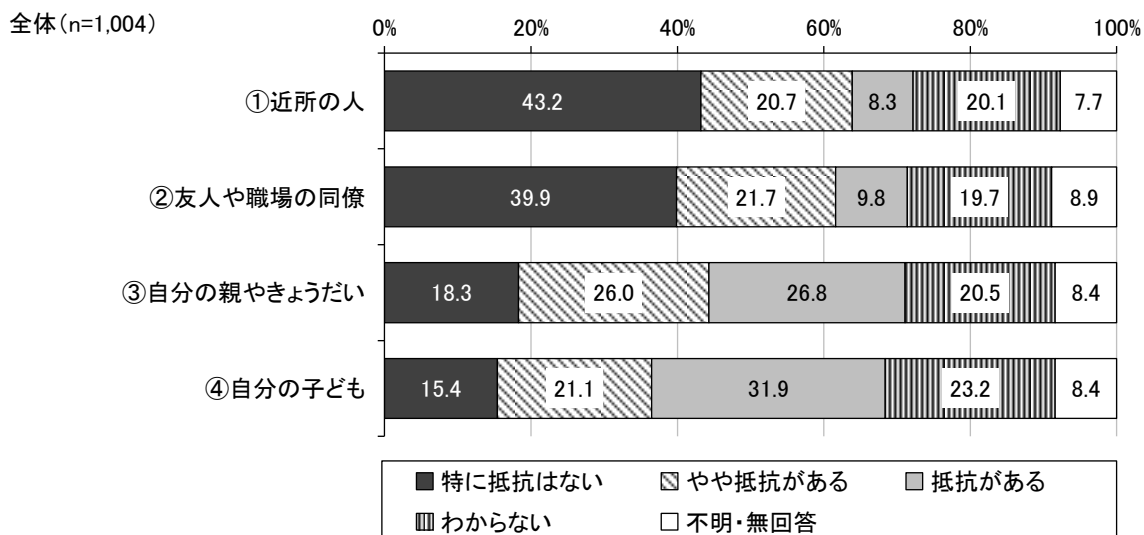


男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビや新聞等で問題になっていることは知っている」が最も高くなっています。女性の10～30歳代、40～50歳代では「いやがらせを受けたことがある」が2割台と高くなっています。



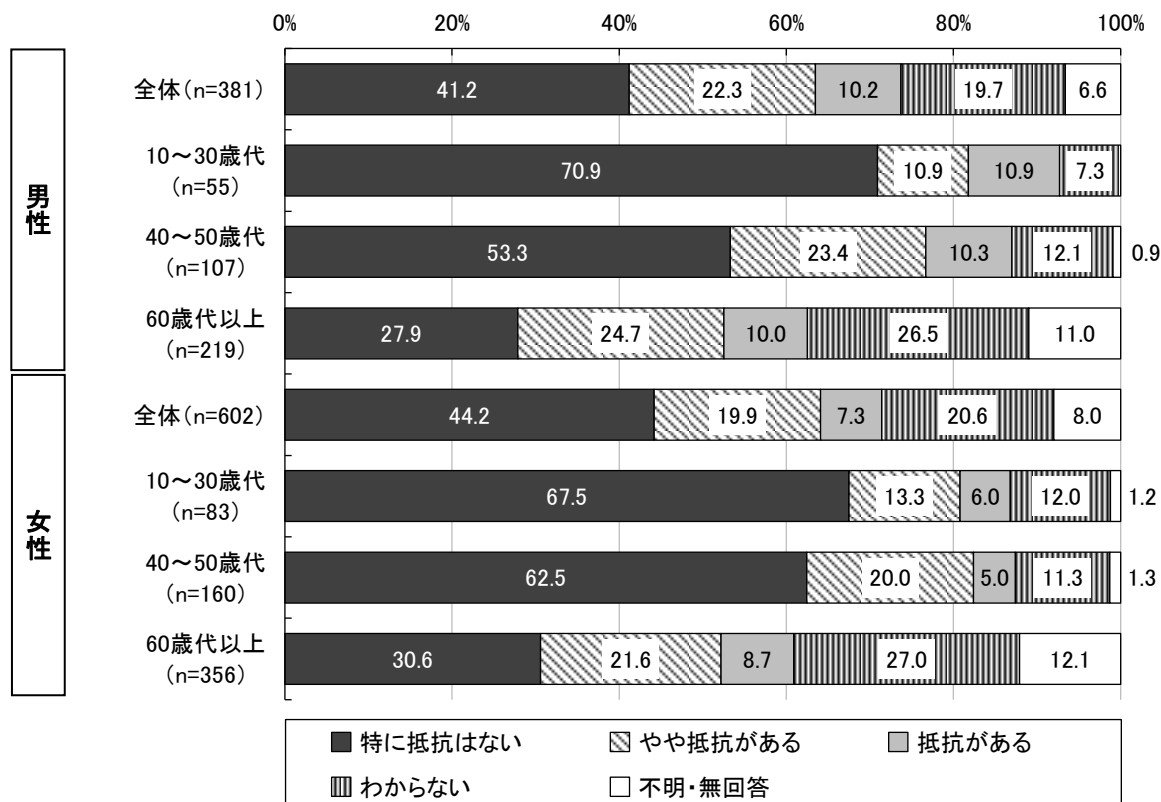
問 20 この設問はあくまで多様な性についての意識を把握するためにお聞きするものです。あなたは身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ等）だとしたらどう思いますか。
（それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○）

身近な人が性的マイノリティ（LGBTQ等）だとしたらどう思うかについてみると、〔近所の人〕〔友人や職場の同僚〕では「特に抵抗はない」、〔自分の親やきょうだい〕〔自分の子ども〕では「抵抗がある」が最も高くなっています。



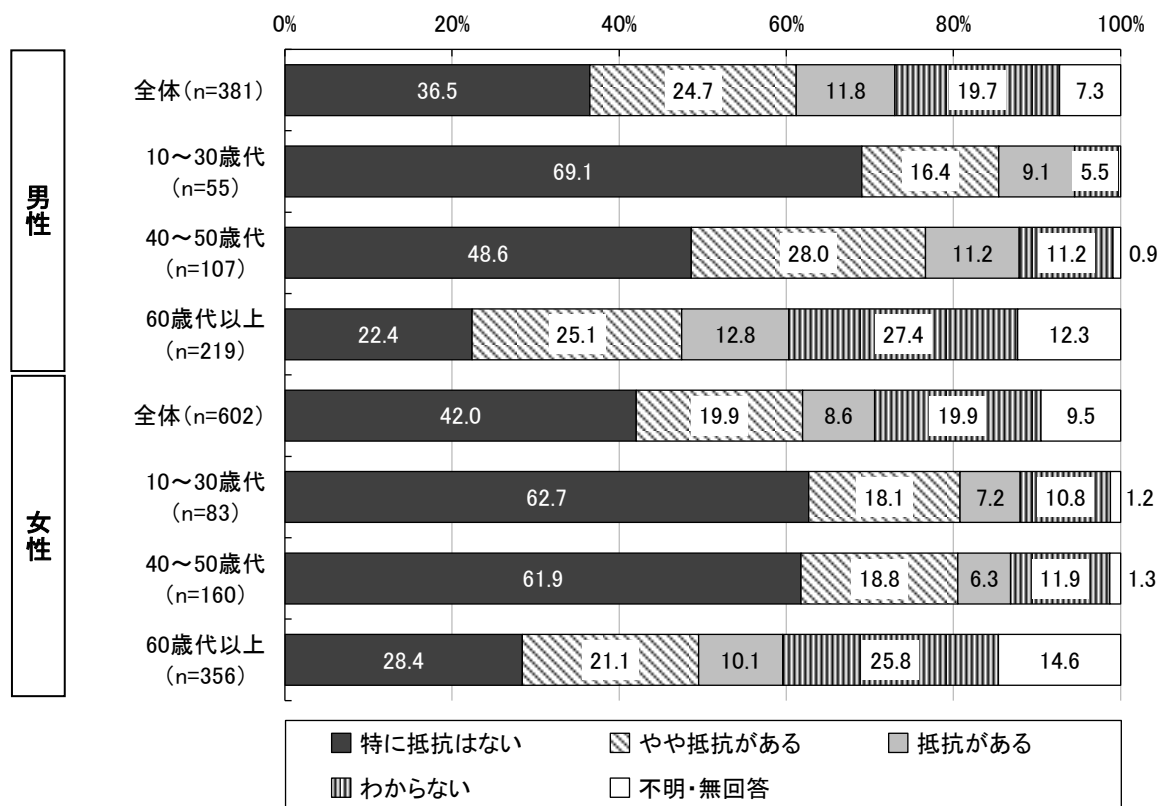
①近所の人

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「特に抵抗はない」が最も高くなっていますが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっています。



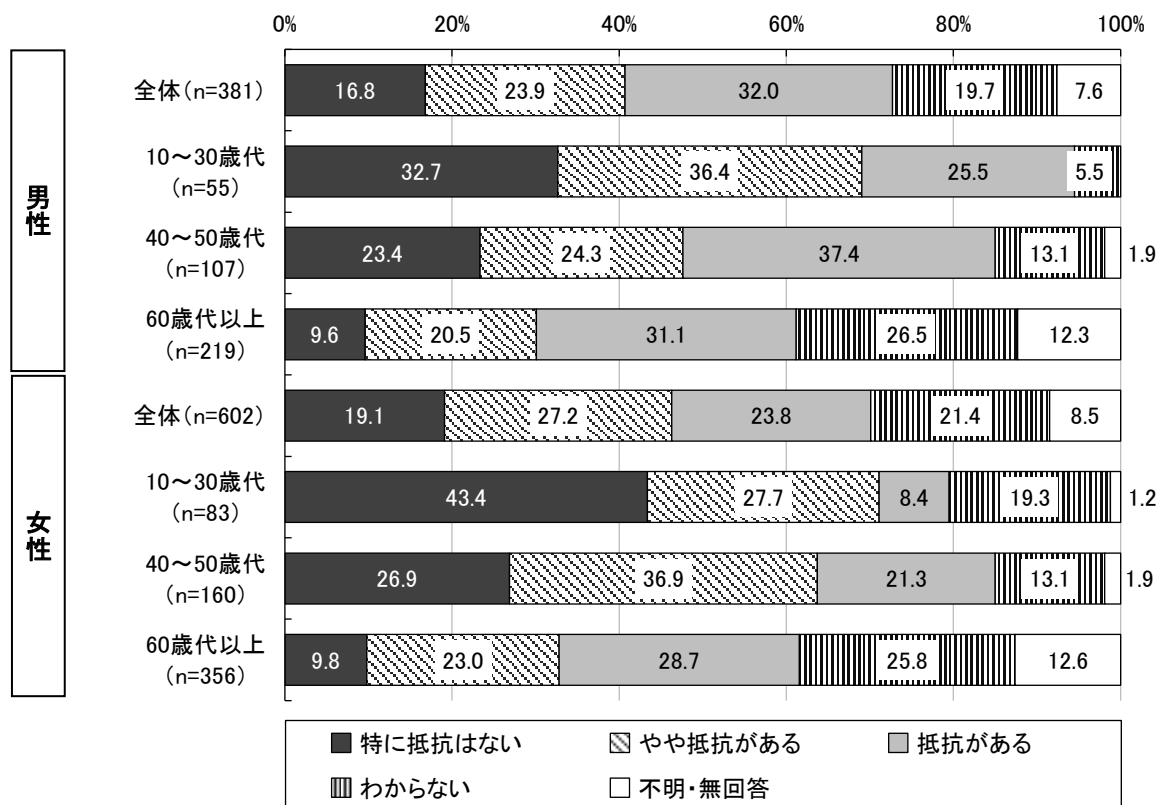
②友人や職場の同僚

男女別年代別にみると、男性の60歳代以上では「わからない」、それ以外の年代では男女ともに「特に抵抗はない」が最も高くなっています。



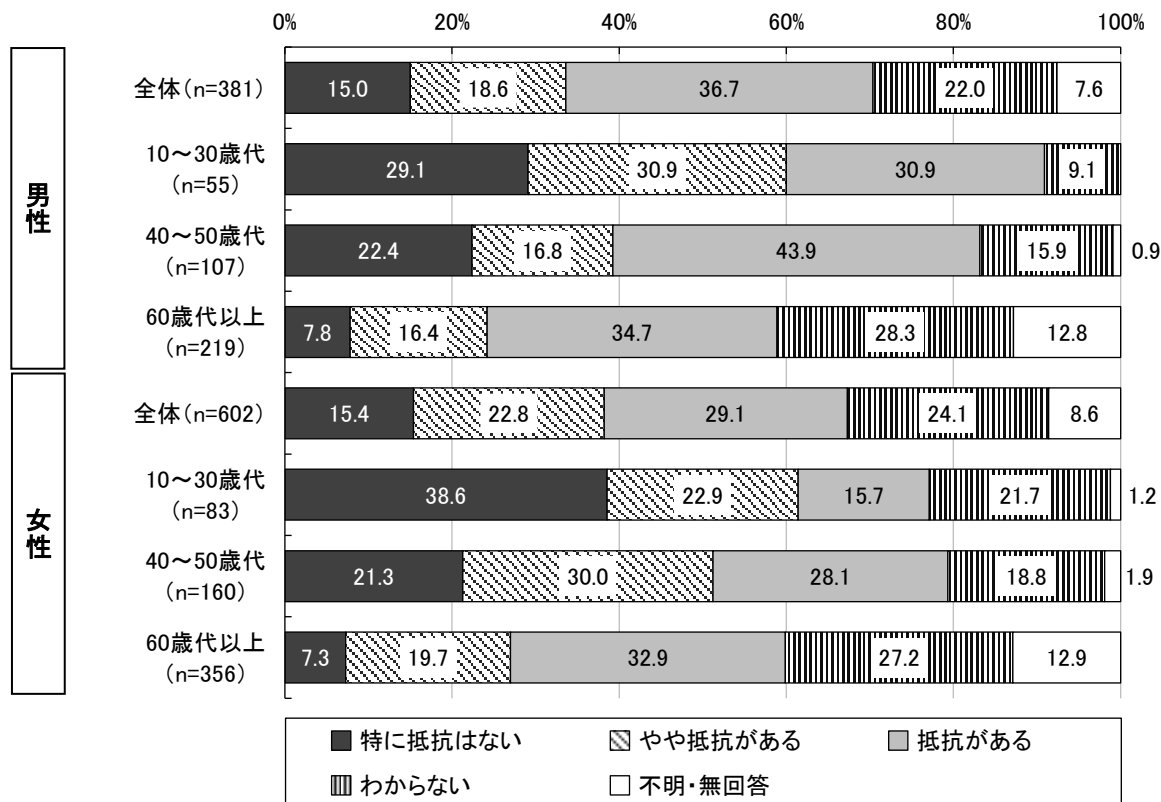
③自分の親やきょうだい

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「やや抵抗がある」、40～50歳代、60歳代以上では「抵抗がある」、女性の10～30歳代では「特に抵抗はない」、40～50歳代では「やや抵抗がある」、60歳代以上では「抵抗がある」が最も高くなっています。



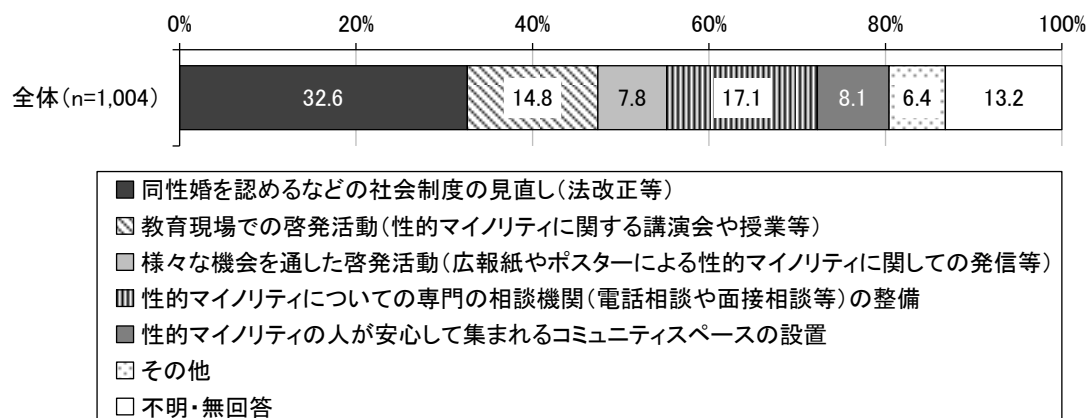
④自分の子ども

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「やや抵抗がある」「抵抗がある」、40～50歳代、60歳代以上では「抵抗がある」、女性の10～30歳代では「特に抵抗はない」、40～50歳代では「やや抵抗がある」、60歳代以上では「抵抗がある」が最も高くなっています。

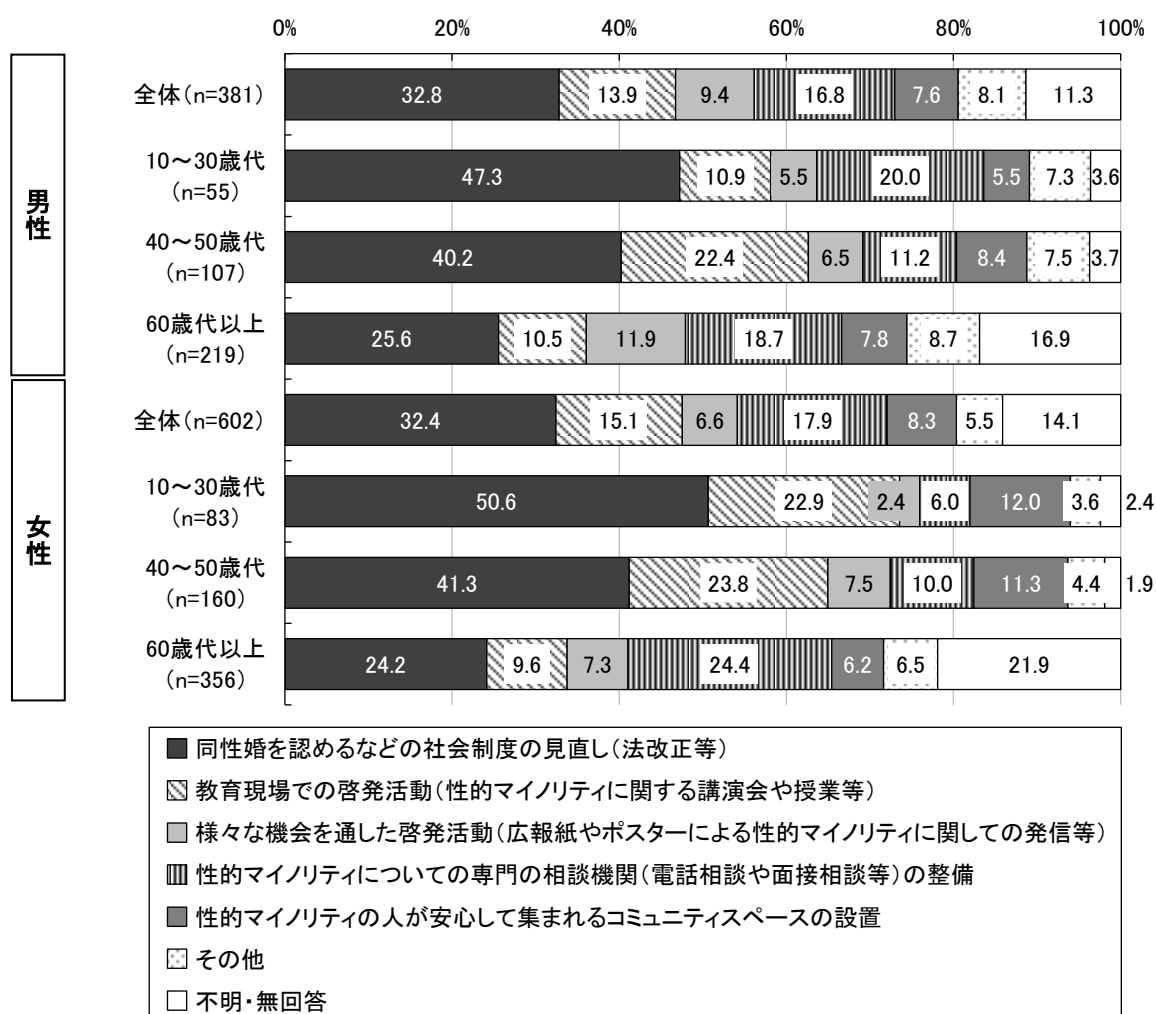


問 21 あなたは、性的マイノリティ（L G B T Q等）の人たちも暮らしやすい社会をつくるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。（最も考えに近いものひとつに○）

性的マイノリティの人たちも暮らしやすい社会をつくるために必要な取り組みについてみると、「同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正等）」が 32.6%と最も高く、次いで「性的マイノリティについての専門の相談機関（電話相談や面接相談等）の整備」が 17.1%、「教育現場での啓発活動（性的マイノリティに関する講演会や授業等）」が 14.8%となっています。



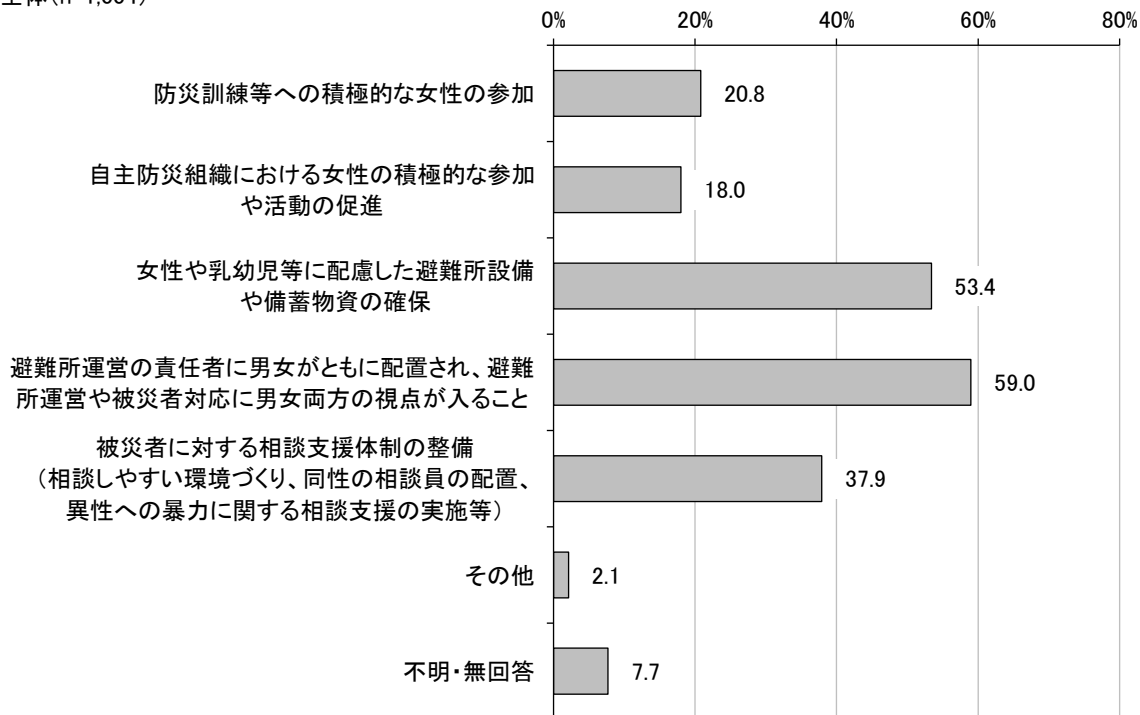
男女別年代別にみると、女性の60歳代以上では「性的マイノリティについての専門の相談機関（電話相談や面接相談等）の整備」、それ以外の年代では男女ともに「同性婚を認めるなどの社会制度の見直し（法改正等）」が最も高くなっています。



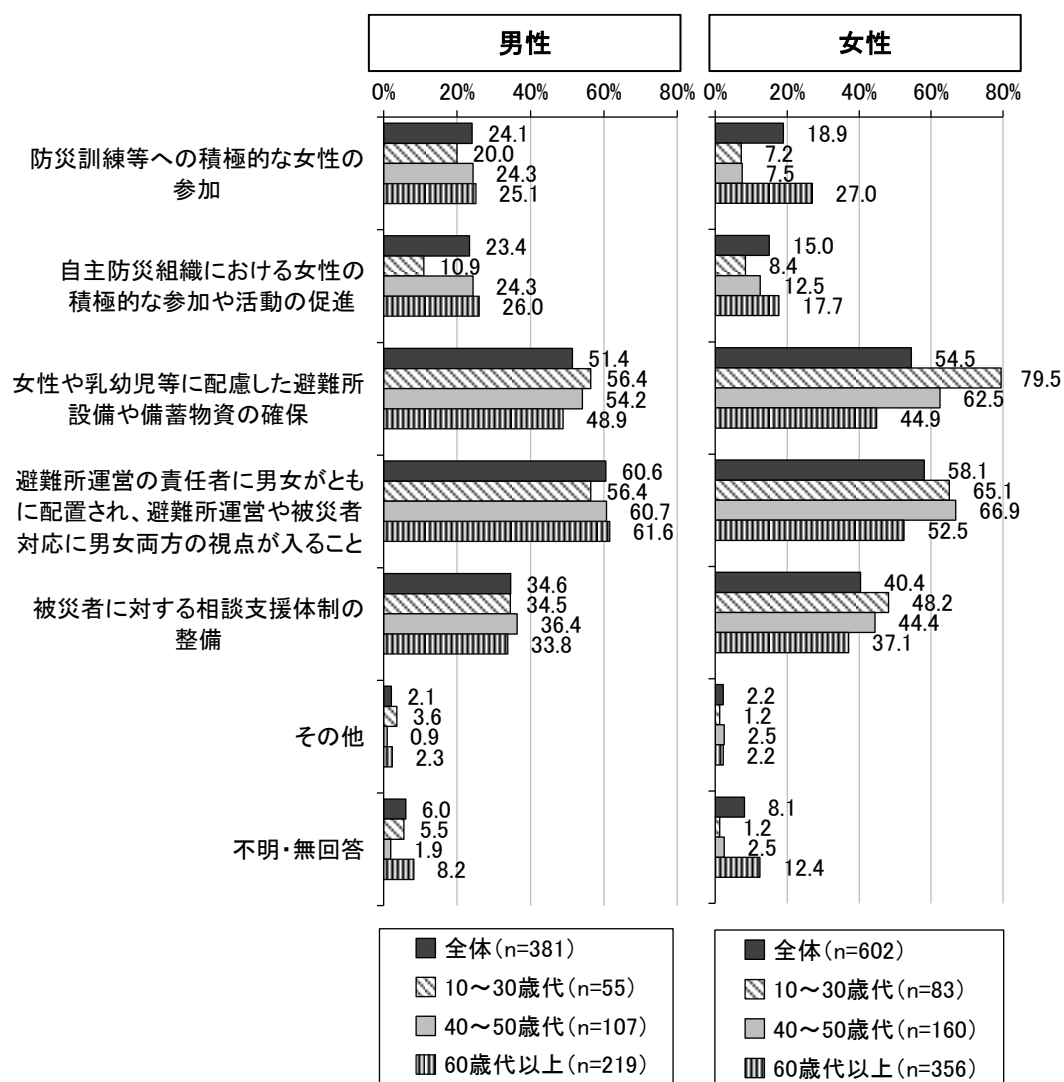
問 22 防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点から何が必要だと思いますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点から必要なことについてみると、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 59.0%と最も高く、次いで「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備や備蓄物資の確保」が 53.4%、「被災者に対する相談支援体制の整備（相談しやすい環境づくり、同性の相談員の配置、異性への暴力に関する相談支援の実施等）」が 37.9%となっています。

全体(n=1,004)

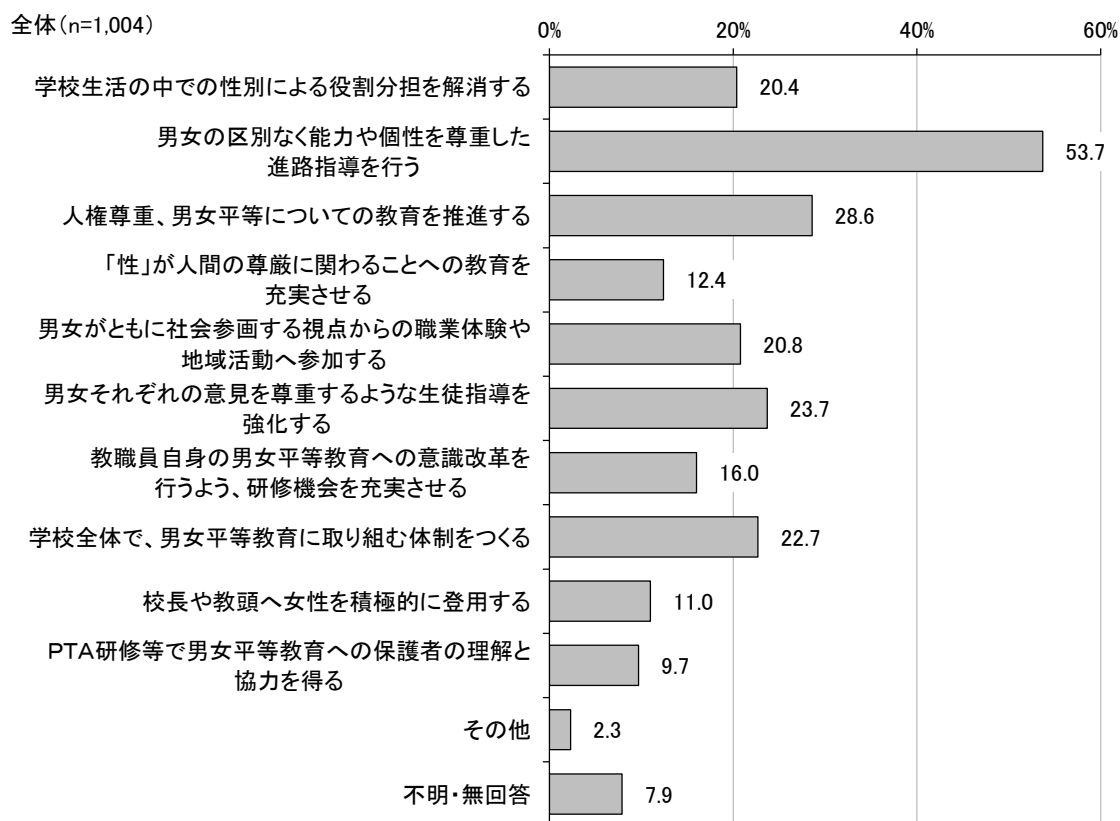


男女別年代別にみると、男性の 10～30 歳代では「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備や備蓄物資の確保」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」、女性の 10～30 歳代では「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備や備蓄物資の確保」、それ以外の年代では男女ともに「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が最も高くなっています。

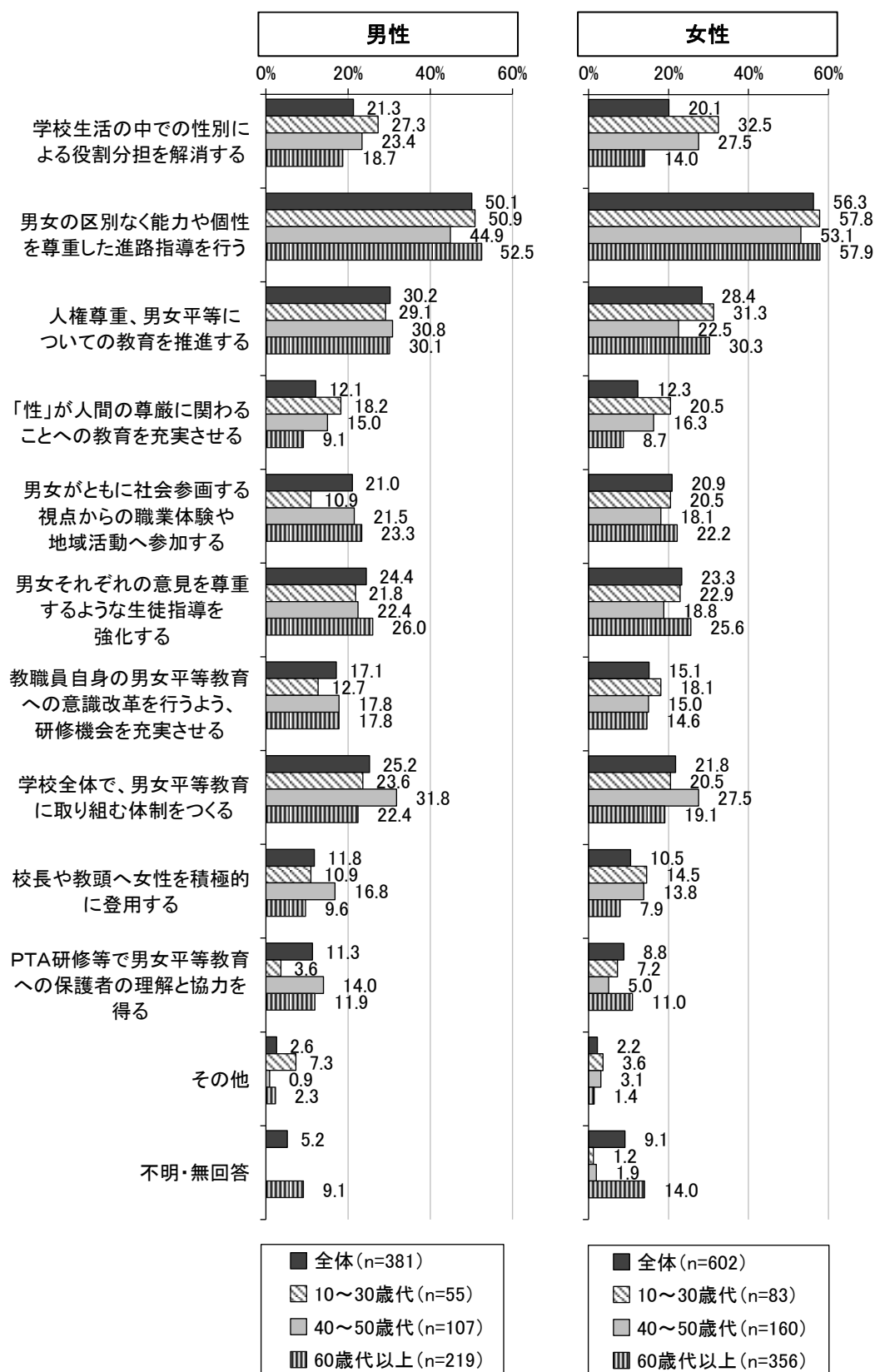


問 23 学校教育の場で、男女平等を進めるためには、何が必要だと思いますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

学校教育の場で男女平等を進めるために必要なことについてみると、「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が53.7%と最も高く、次いで「人権尊重、男女平等についての教育を推進する」が28.6%、「男女それぞれの意見を尊重するような生徒指導を強化する」が23.7%となっています。



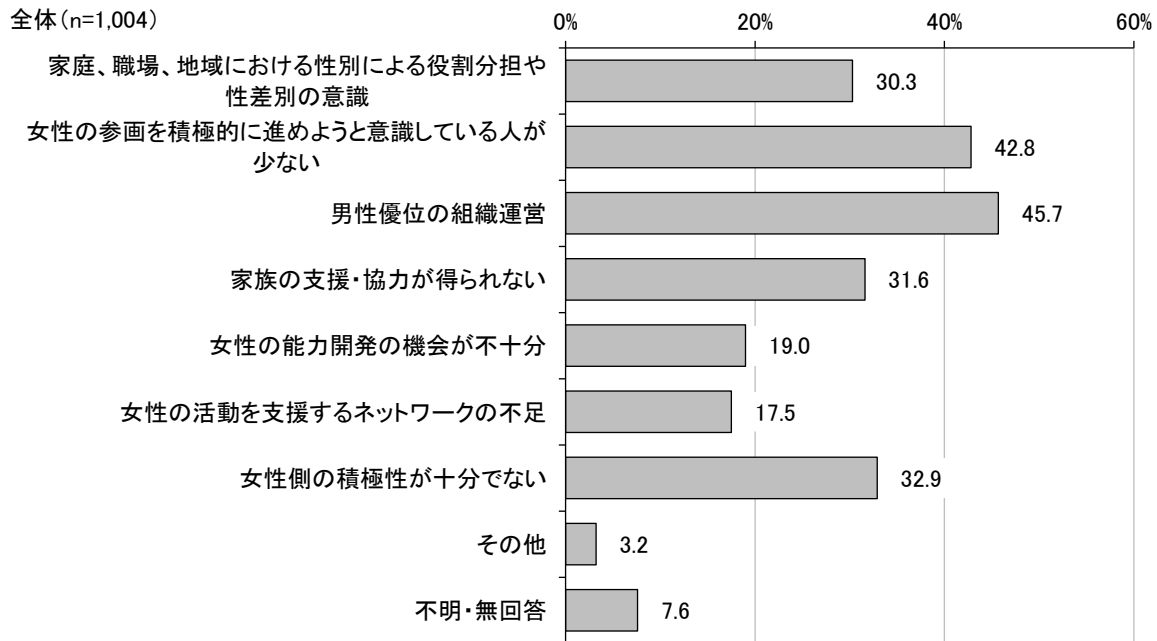
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が最も高くなっています。



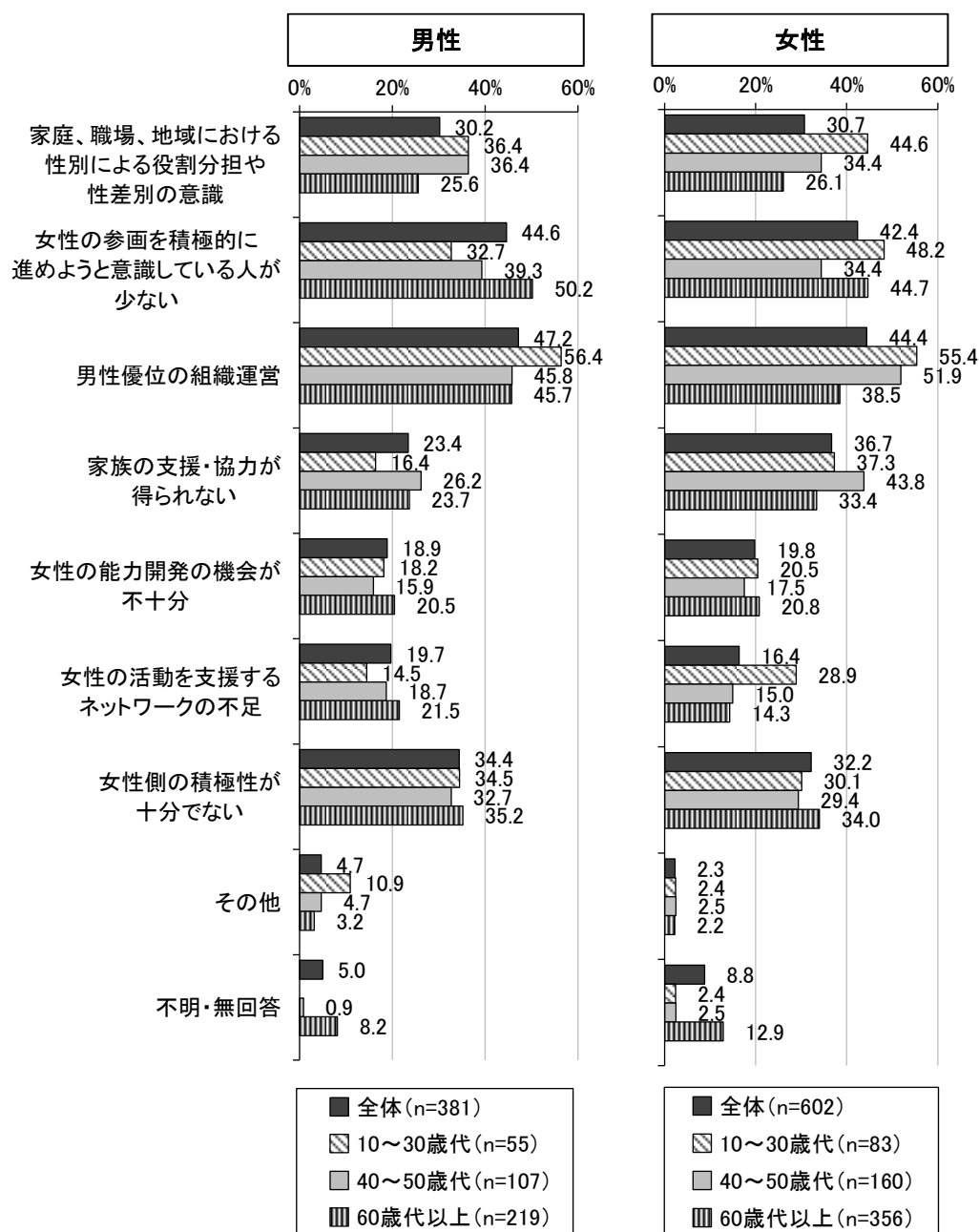
5) 南あわじ市における男女共同参画について

問 24 政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてみると、「男性優位の組織運営」が45.7%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が42.8%、「女性側の積極性が十分でない」が32.9%となっています。

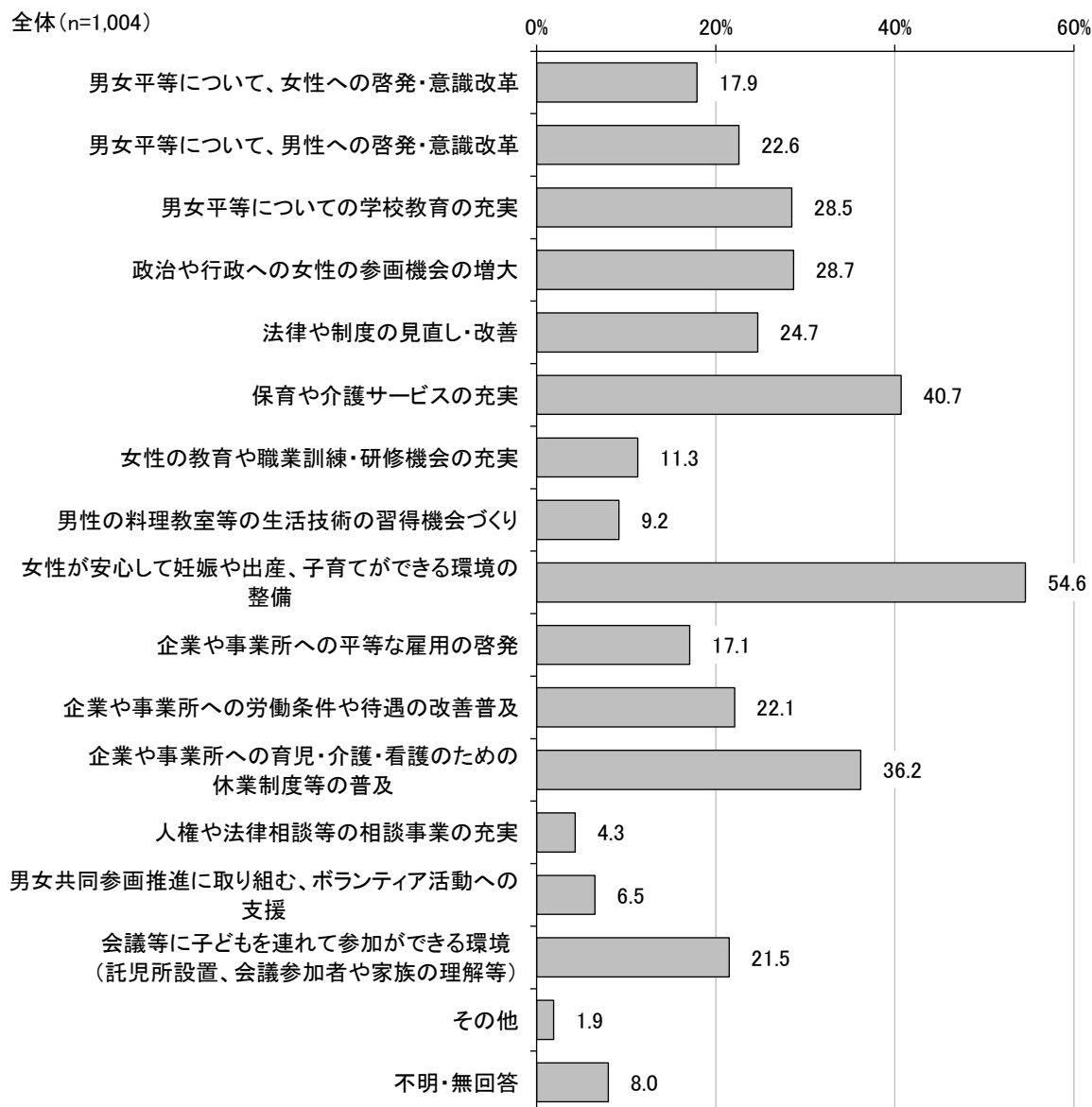


男女別年代別にみると、男女ともに 60 歳代以上では「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」、それ以外の年代では「男性優位の組織運営」が最も高くなっています。

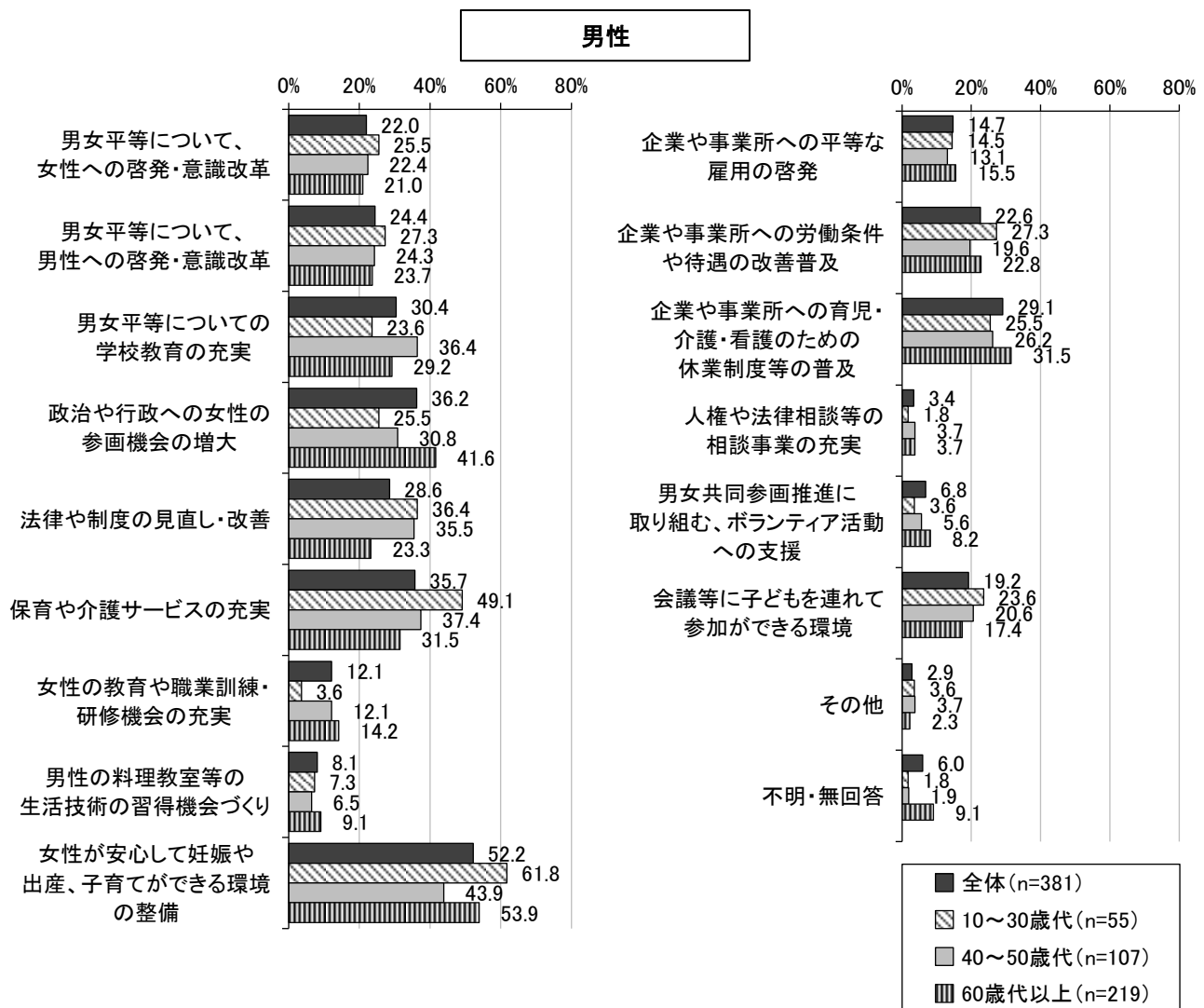


問 25 男女共同参画を推進していくために、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるもの5つまでに○)

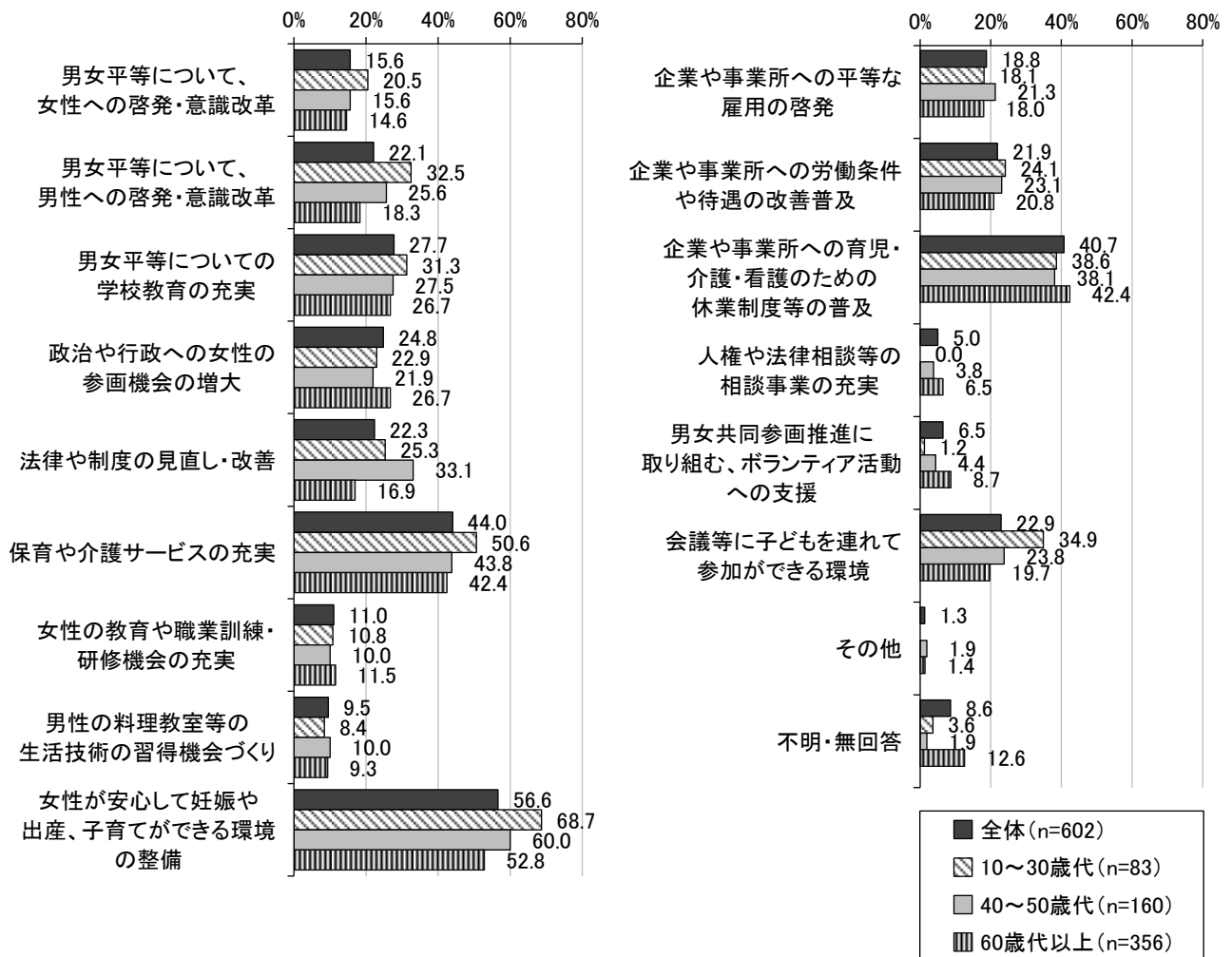
男女共同参画推進のために必要なことについてみると、「女性が安心して妊娠や出産、子育てができる環境の整備」が54.6%と最も高く、次いで「保育や介護サービスの充実」が40.7%、「企業や事業所への育児・介護・看護のための休業制度等の普及」が36.2%となっています。



男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「女性が安心して妊娠や出産、子育てができる環境の整備」が最も高くなっています。



女性

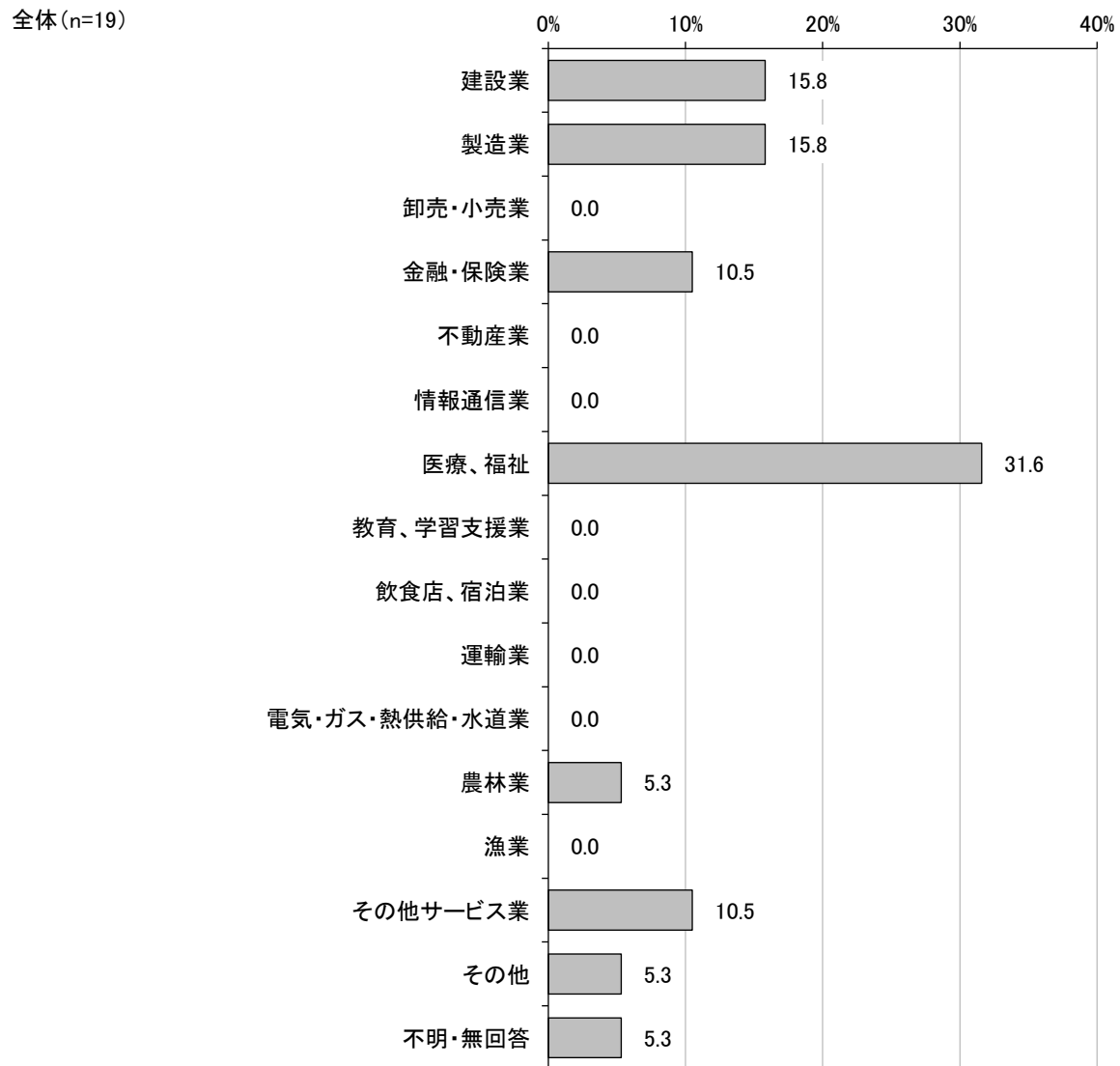


2 事業所調査

1) 貴事業所の概要について

問1 貴事業所の主な業種についてお答えください。(ひとつに○)

主な業種についてみると、「医療、福祉」が 31.6%（6 件）と最も高く、次いで「建設業」「製造業」が 15.8%（3 件）、「金融・保険業」「その他サービス業」が 10.5%（2 件）となっています。

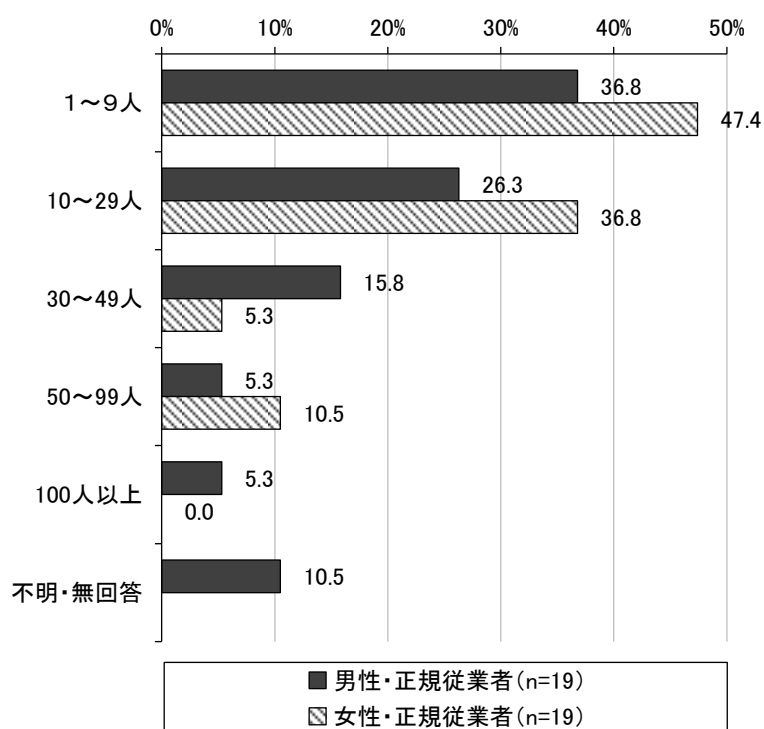


問2 貴事業所の従業員の状況（市内に所在する支店、工場単位で）についてお聞きします。それぞれの人数をお書きください。

【正規従業員】

正規従業員についてみると、男性では「1～9人」が36.8%（7件）と最も高く、次いで「10～29人」が26.3%（5件）、「30～49人」が15.8%（3件）となっています。

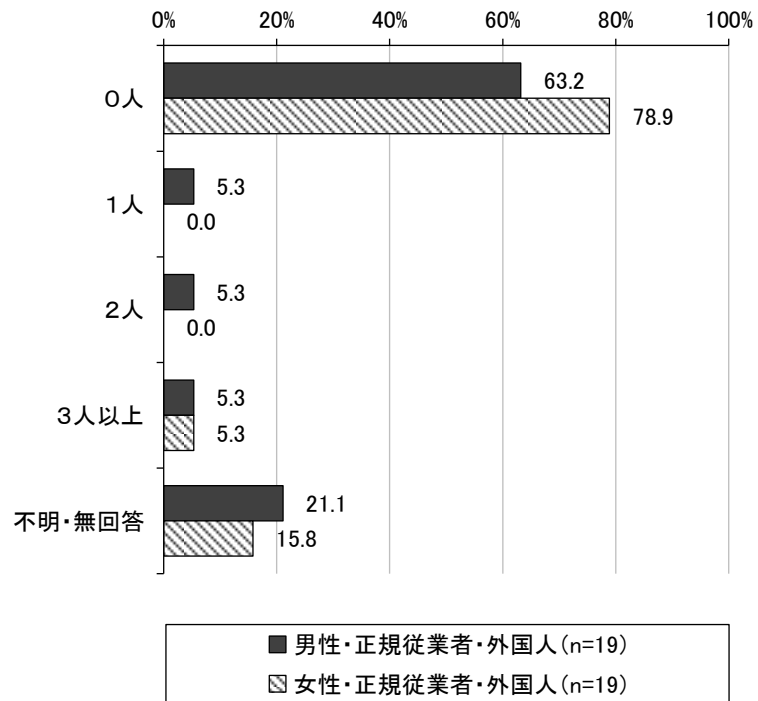
女性では「1～9人」が47.4%（9件）と最も高く、次いで「10～29人」が36.8%（7件）、「50～99人」が10.5%（2件）となっています。



【正規従業者・外国人】

外国人の正規従業者についてみると、男性では「0人」が63.2%（12件）と最も高く、次いで「1人」「2人」「3人以上」が5.3%（1件）となっています。

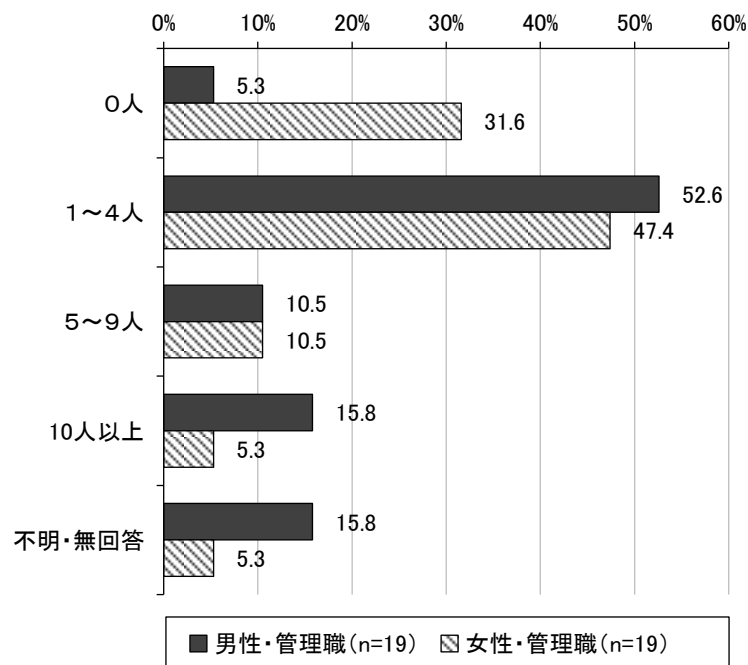
女性では「0人」が78.9%（15件）と最も高く、次いで「3人以上」が5.3%（1件）となっています。



【管理職】

管理職についてみると、男性では「1～4人」が52.6%（10件）と最も高く、次いで「10人以上」が15.8%（3件）、「5～9人」が10.5%（2件）となっています。

女性では「1～4人」が47.4%（9件）と最も高く、次いで「0人」が31.6%（6件）、「5～9人」が10.5%（2件）となっています。



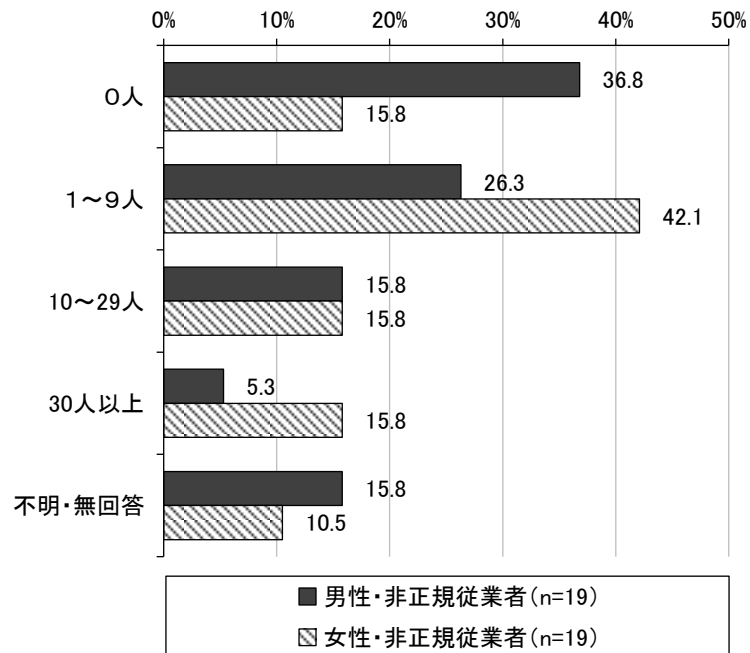
【管理職・外国人】

外国人の管理職についてみると、男性女性ともに「0人」「不明・無回答」のいずれかの回答となっています。

【非正規従業者】

非正規従業者についてみると、男性では「0人」が36.8%（7件）と最も高く、次いで「1～9人」が26.3%（5件）、「10～29人」が15.8%（3件）となっています。

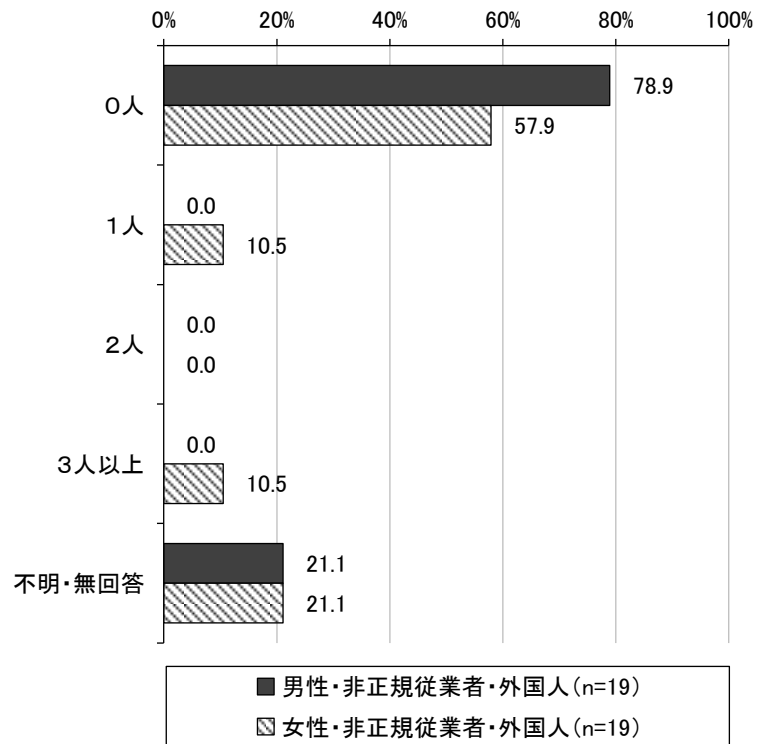
女性では「1～9人」が42.1%（8件）と最も高く、次いで「0人」「10～29人」「30人以上」が15.8%（3件）となっています。



【非正規従業者・外国人】

外国人の非正規従業者についてみると、男性では「0人」が78.9%（15件）と最も高くなっています。

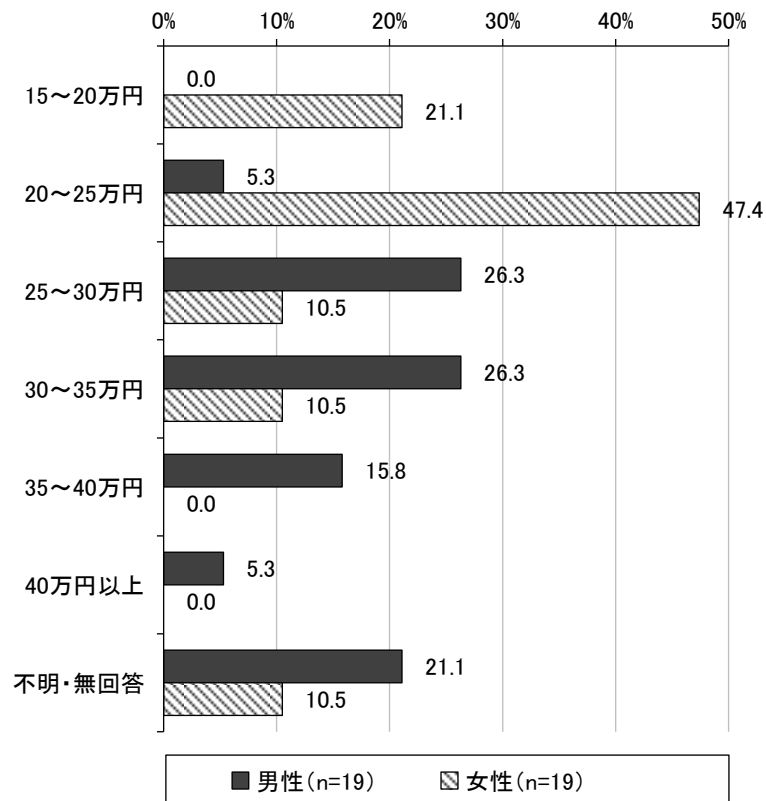
女性では「0人」が57.9%（11件）と最も高く、次いで「1人」「3人以上」が10.5%（2件）となっています。



問3 貴事業所の、おおよその男女別平均給与（月給）を教えてください。

おおよその平均給与（月給）についてみると、男性では「25～30万円」「30～35万円」が26.3%（5件）と最も高く、次いで「35～40万円」が15.8%（3件）、「20～25万円」「40万円以上」が5.3%（1件）となっています。

女性では「20～25万円」が47.4%（9件）と最も高く、次いで「15～20万円」が21.1%（4件）、「25～30万円」「30～35万円」が10.5%（2件）となっています。

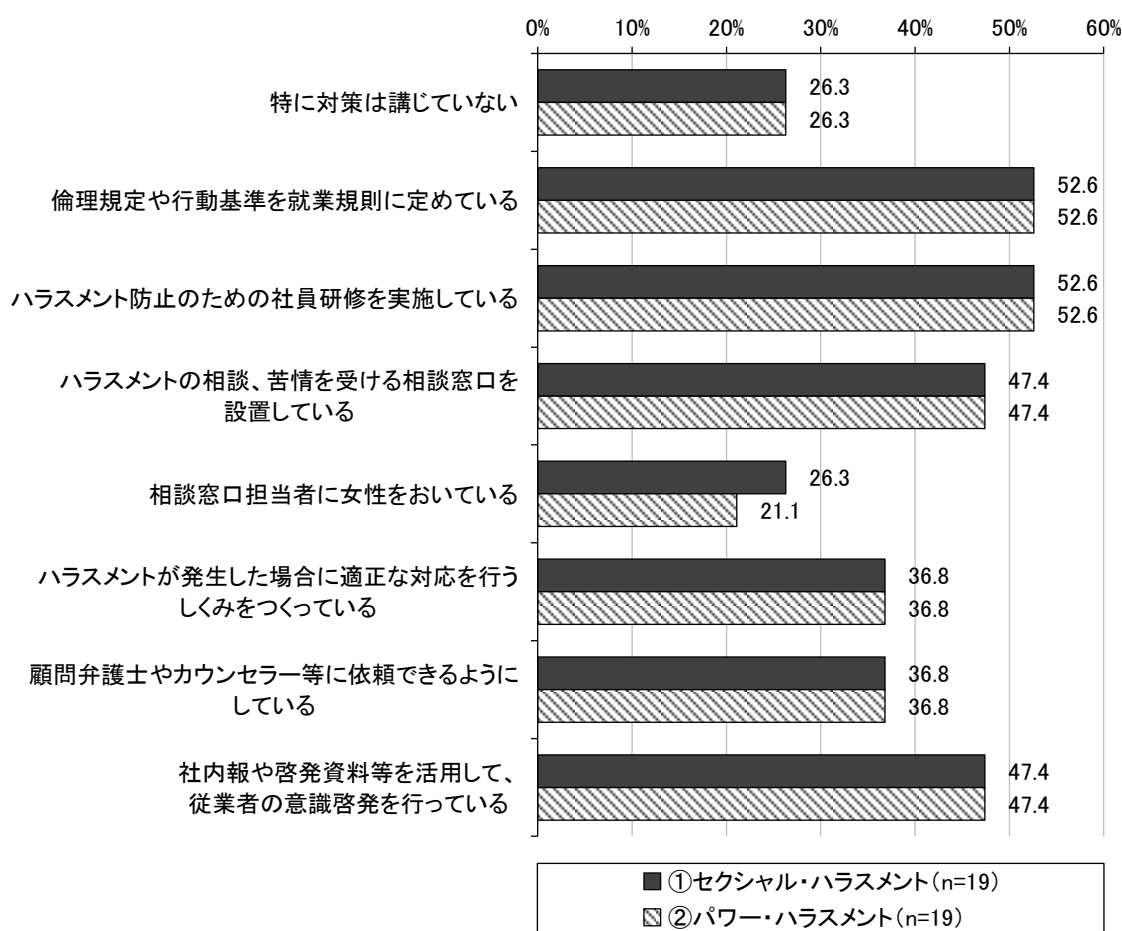


2) 男女共同参画の状況について

問4 貴事業所ではハラスメント(①セクシャル・ハラスメント、②パワー・ハラスメント)に対する対策を講じていますか。(それぞれの項目についてあてはまるものすべてに○)

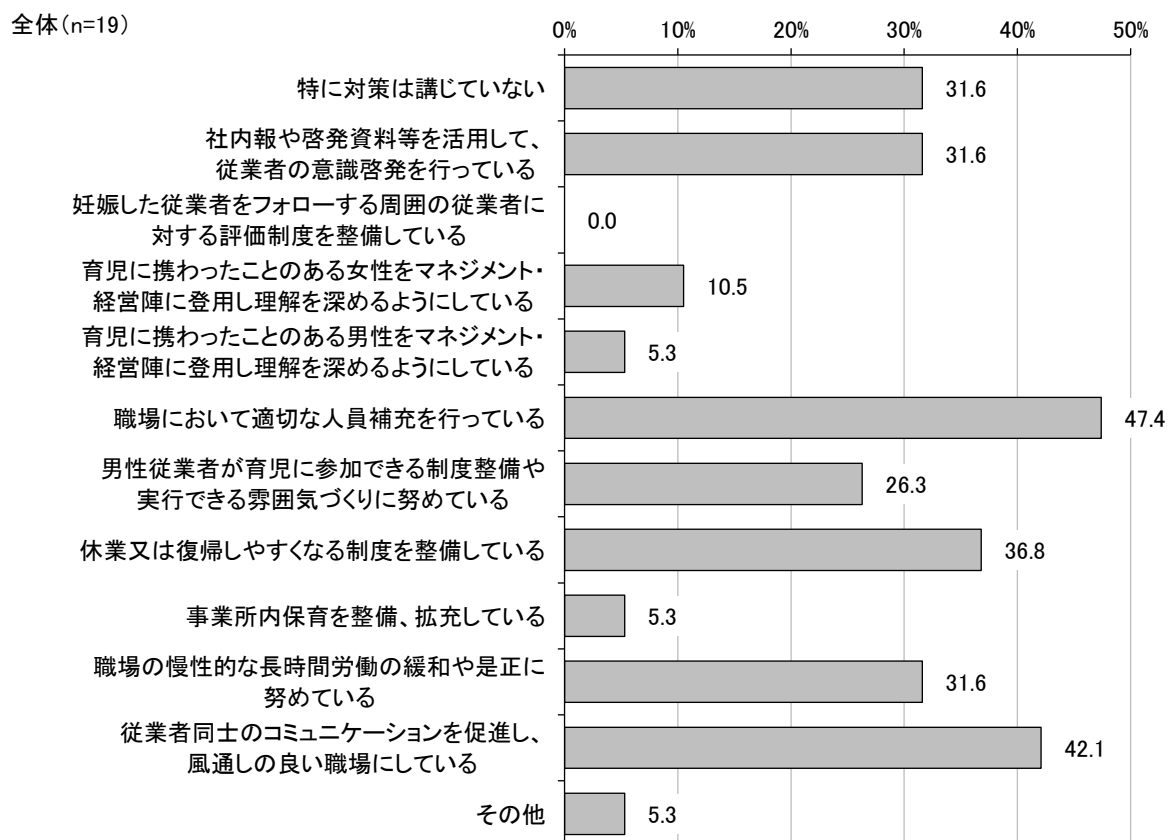
①セクシャル・ハラスメントに対する対策についてみると、「倫理規定や行動基準を就業規則に定めている」「ハラスメント防止のための社員研修を実施している」が52.6% (10件)と最も高く、次いで「ハラスメントの相談、苦情を受ける相談窓口を設置している」「社内報や啓発資料等を活用して、従業員の意識啓発を行っている」が47.4% (9件)、「ハラスメントが発生した場合に適正な対応を行うしくみをつくっている」「顧問弁護士やカウンセラー等に依頼できるようにしている」が36.8% (7件)となっています。

②パワー・ハラスメントに対する対策についてみると、①セクシャル・ハラスメントと同様の結果となっていますが、「相談窓口担当者に女性をおいている」の項目では、①セクシャル・ハラスメントが26.3% (5件)、②パワーハラスメントが21.1% (4件)となっています。



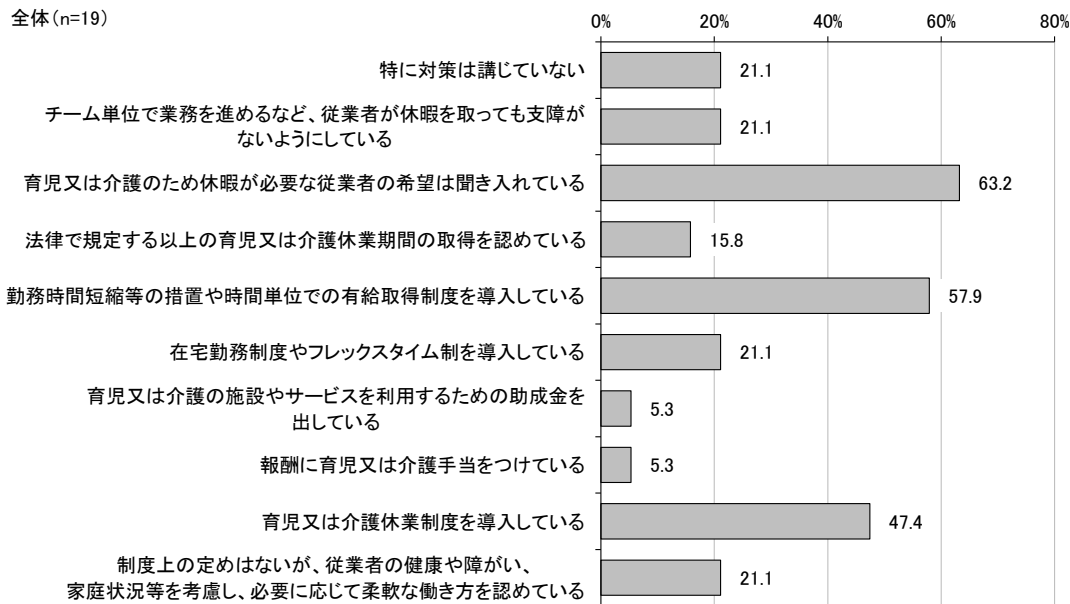
問5 貴事業所ではマタニティ・ハラスメントに対する対策を講じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

マタニティ・ハラスメントに対する対策についてみると、「職場において適切な人員補充を行っている」が47.4%（9件）と最も高く、次いで「従業員同士のコミュニケーションを促進し、風通しの良い職場にしている」が42.1%（8件）、「休業又は復帰しやすくなる制度を整備している」が36.8%（7件）となっています。



問6 貴事業所では働きやすい職場づくりの対策を講じていますか。(あてはまるものすべてに○)

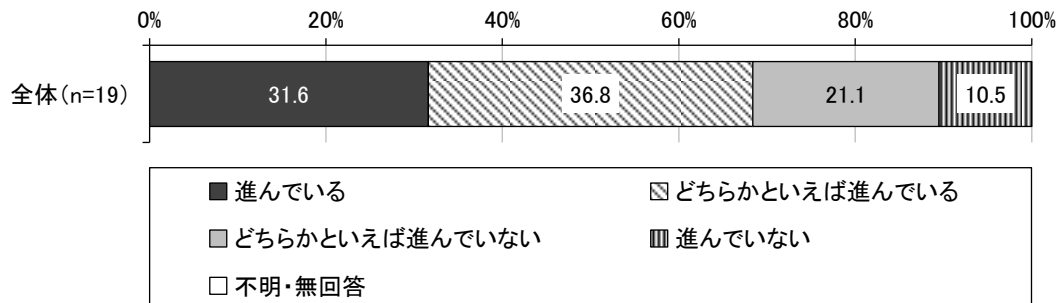
働きやすい職場づくりの対策についてみると、「育児又は介護のため休暇が必要な従業員の希望は聞き入れている」が63.2%（12件）と最も高く、次いで「勤務時間短縮等の措置や時間単位での有給取得制度を導入している」が57.9%（11件）、「育児又は介護休業制度を導入している」が47.4%（9件）となっています。



3) 女性活躍・多様な人材の活躍について

問7 貴事業所では、女性の雇用・管理職登用が進んでいると思いますか。(ひとつに○)

女性の雇用・管理職登用が進んでいるかについてみると、「どちらかといえば進んでいる」が36.8% (7件)と最も高く、次いで「進んでいる」が31.6% (6件)、「どちらかといえば進んでいない」が21.1% (4件)となっています。

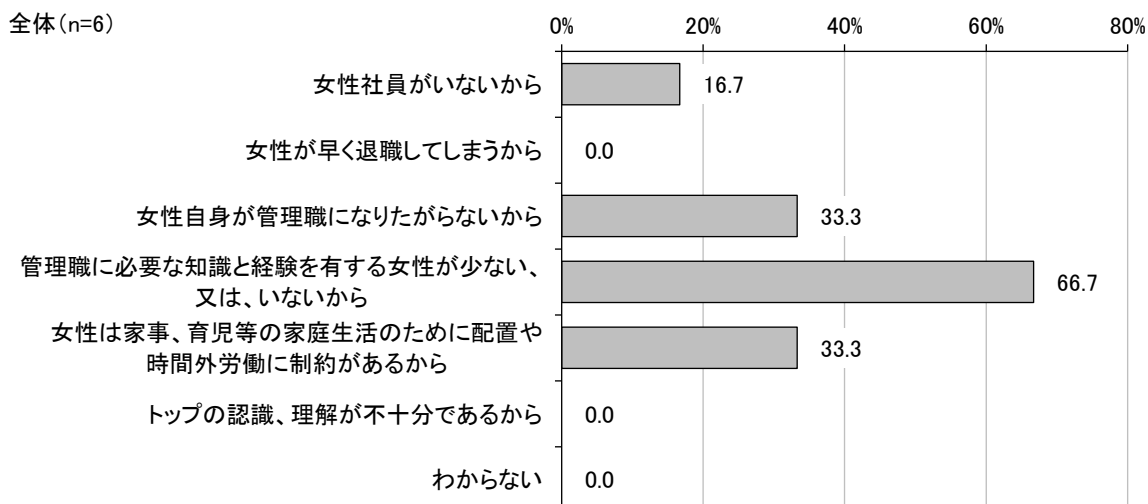


【問7で「どちらかといえば進んでいない」「進んでいない」に○をつけた方におたずねします】

問8 女性の雇用・管理職登用が進んでいない理由にはどのようなことがあると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

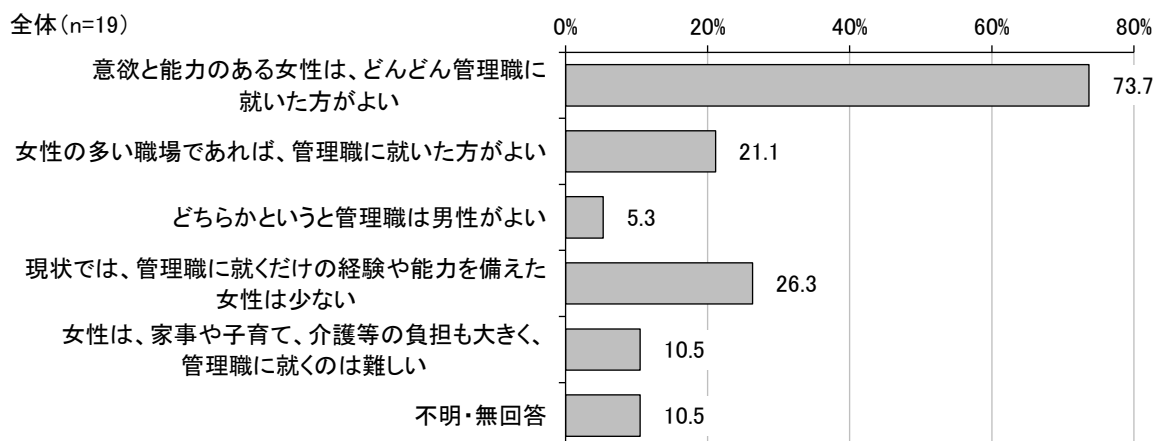
女性の雇用・管理職登用が進んでいない理由についてみると、「管理職に必要な知識と経験を有する女性が少ない、又は、いないから」が66.7% (4件)と最も高く、次いで「女性自身が管理職になりたがらないから」「女性は家事、育児等の家庭生活のために配置や時間外労働に制約があるから」が33.3% (2件)、「女性社員がいないから」が16.7% (1件)となっています。



問9 貴事業所では、女性が管理職に就くことについてどのようにお考えですか。

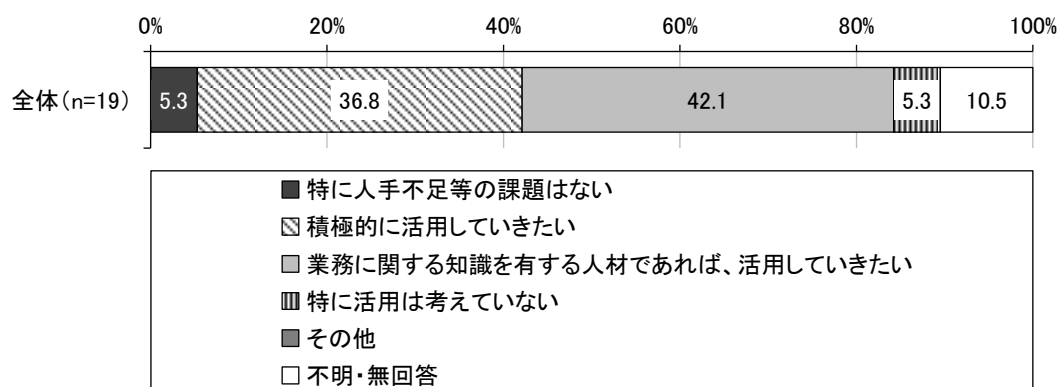
(あてはまるものすべてに○)

女性が管理職に就くことへの考えについてみると、「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職に就いた方がよい」が73.7%（14件）と最も高く、次いで「現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性は少ない」が26.3%（5件）、「女性の多い職場であれば、管理職に就いた方がよい」が21.1%（4件）となっています。



問10 人手不足解消のため、女性や高齢者等、多様な人材の力を活用することについてどのようにお考えですか。（最も考えに近いものひとつに○）

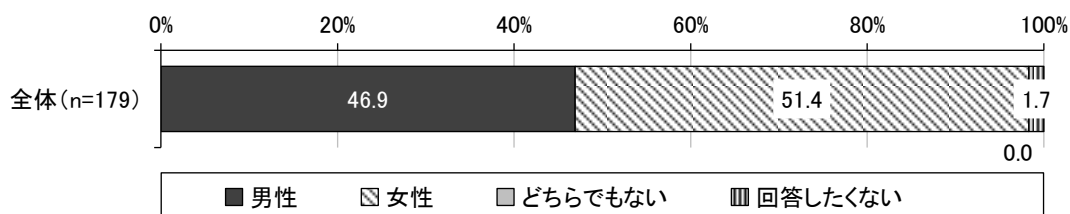
人手不足解消のため、女性や高齢者等、多様な人材を活用することについてみると、「業務に関する知識を有する人材であれば、活用していきたい」が42.1%（8件）と最も高く、次いで「積極的に活用していきたい」が36.8%（7件）、「特に人手不足等の課題はない」「特に活用は考えていない」が5.3%（1件）となっています。



3 高校3年生調査

問1 あなたの性別はどちらですか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

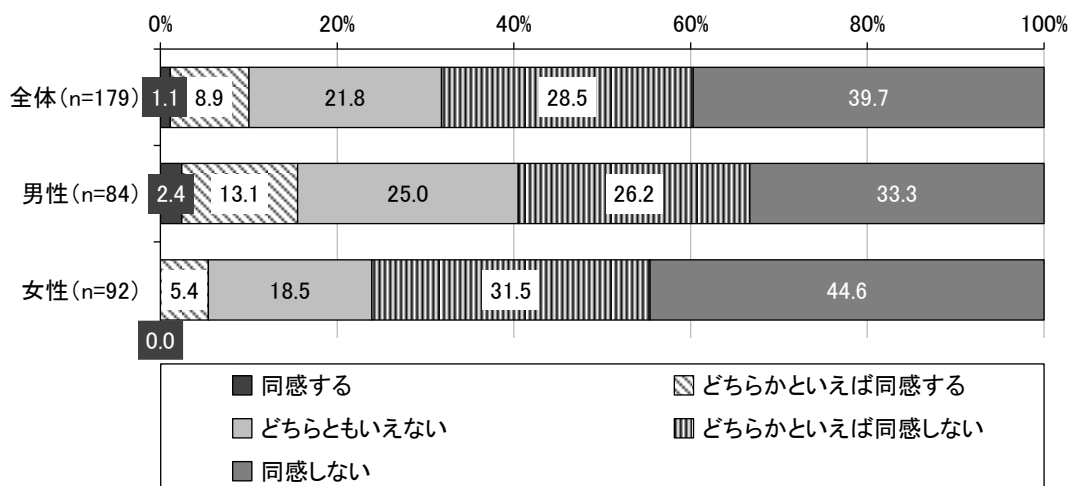
性別についてみると、「女性」が51.4%と最も高く、次いで「男性」が46.9%、「回答したくない」が1.7%となっています。



問2 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてみると、「同感しない」が39.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」が28.5%、「どちらともいえない」が21.8%となっています。

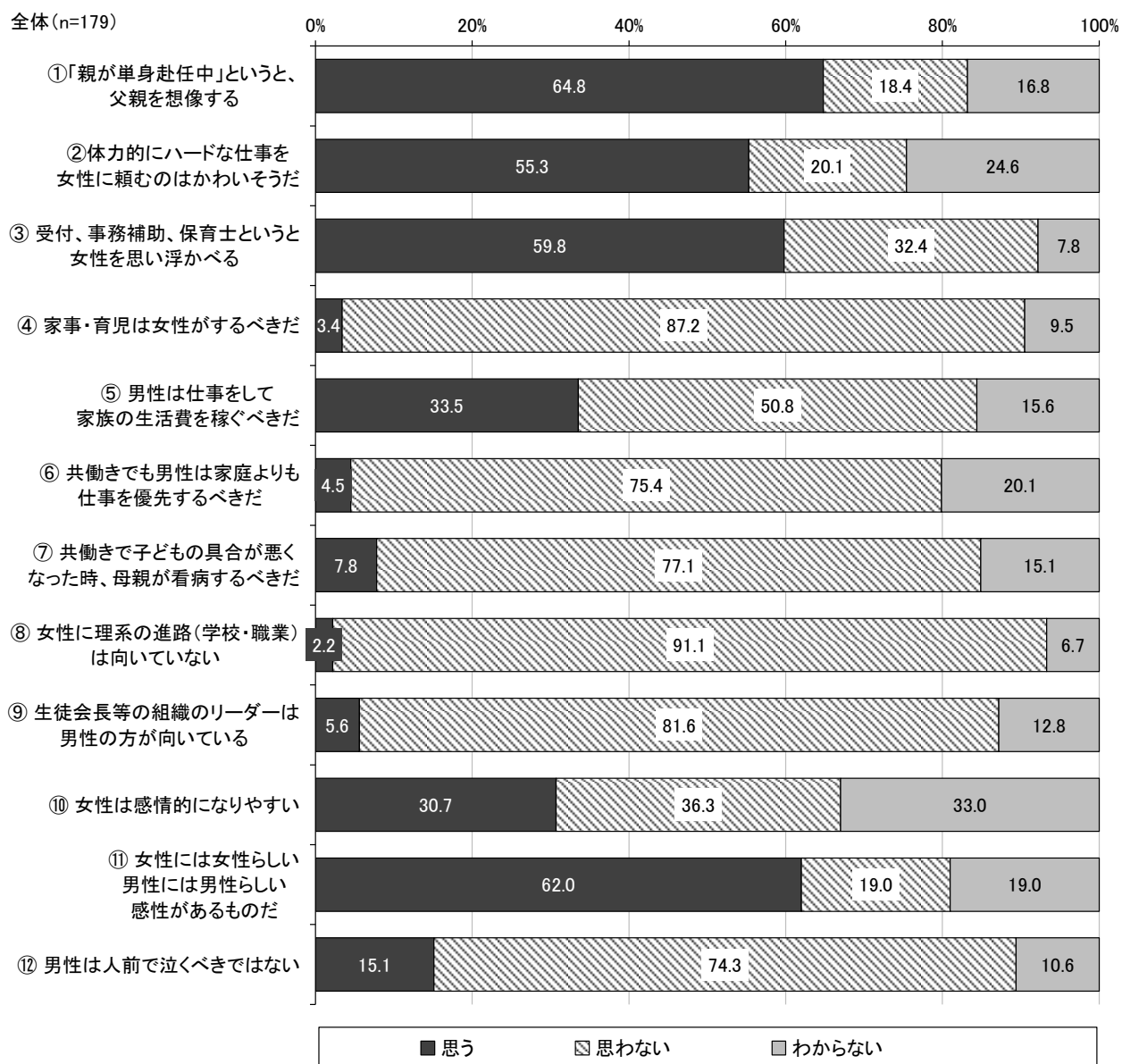
男女別にみると、『同感しない』（「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」の計）は男性に比べて女性で割合が高くなっています。



問3 次の内容について、あなたはどのように思いますか。

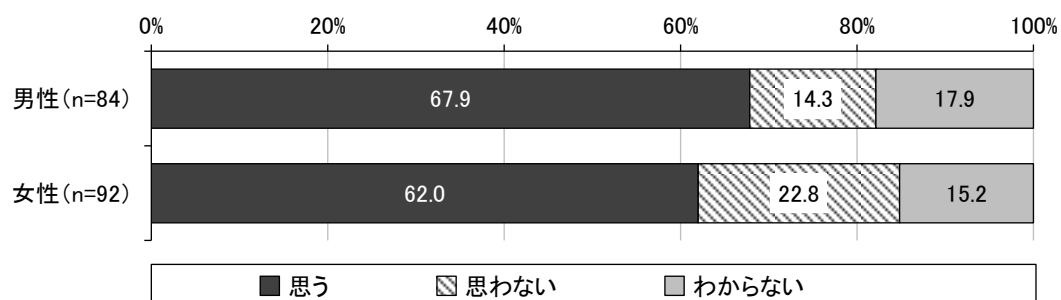
(それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○をつけてください。)

各項目についてどう思うかでは、〔①「親が単身赴任中」というと、父親を想像する〕〔②体力的にハードな仕事を女性に頼むのはかわいそうだ〕〔③受付、事務補助、保育士というと女性を思い浮かべる〕〔⑪女性には女性らしい感性があるものだ〕では「思う」が最も高く、それ以外の項目では「思わない」が最も高くなっています。



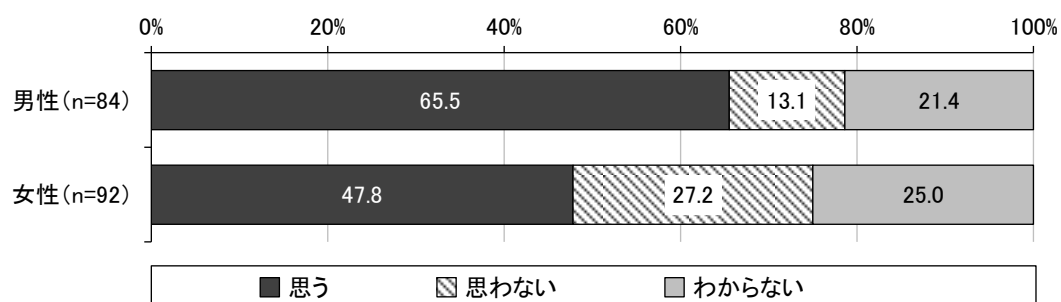
①「親が単身赴任中」というと、父親を想像する

男女別にみると、「思う」が男女ともに6割を超えており、女性に比べて、男性の割合が高くなっています。



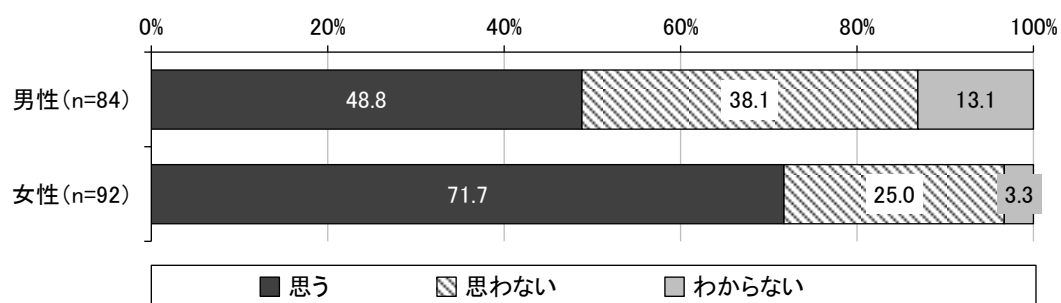
②体力的にハードな仕事を女性に頼むのはかわいそうだ

男女別にみると、「思う」が男性では6割を超えており、「思わない」は男性に比べて、女性の割合が10ポイント以上高くなっています。



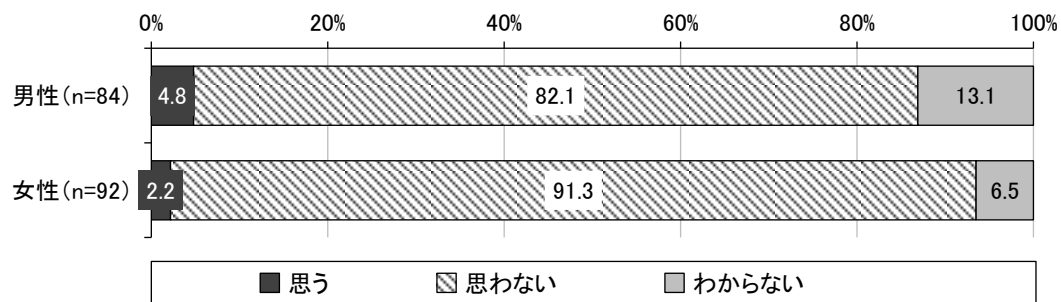
③受付、事務補助、保育士というと女性を思い浮かべる

男女別にみると、「思う」が女性では7割を超えており、男性に比べて20ポイント以上高くなっています。



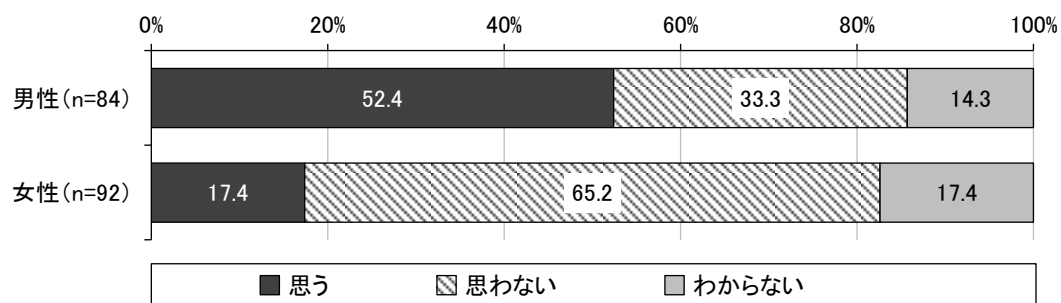
④家事・育児は女性がするべきだ

男女別にみると、「思わない」が男性では約8割、女性では約9割となっています。



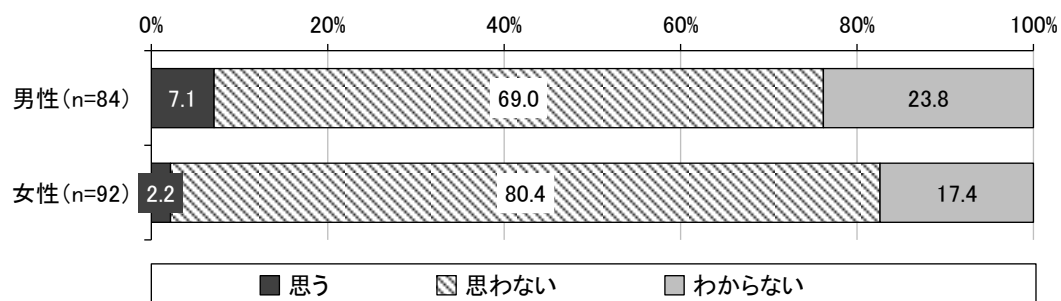
⑤男性は仕事をして家族の生活費を稼ぐべきだ

男女別にみると、男性では「思う」が5割を超えており、女性に比べて30ポイント以上高くなっています。



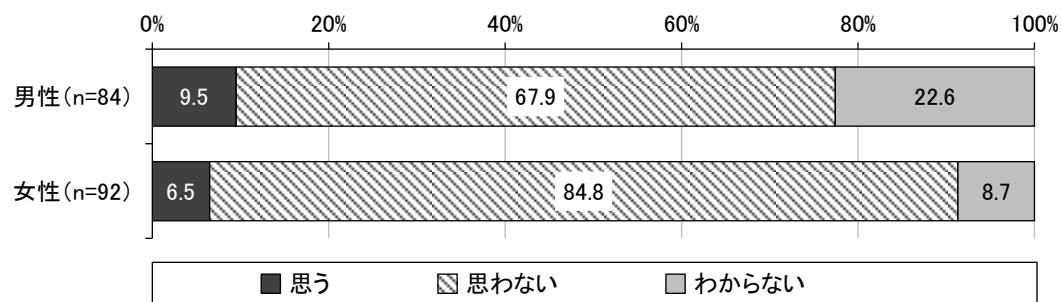
⑥共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ

男女別にみると、「思わない」が男女ともに6割を超えており、男性に比べて、女性の割合が10ポイント以上高くなっています。



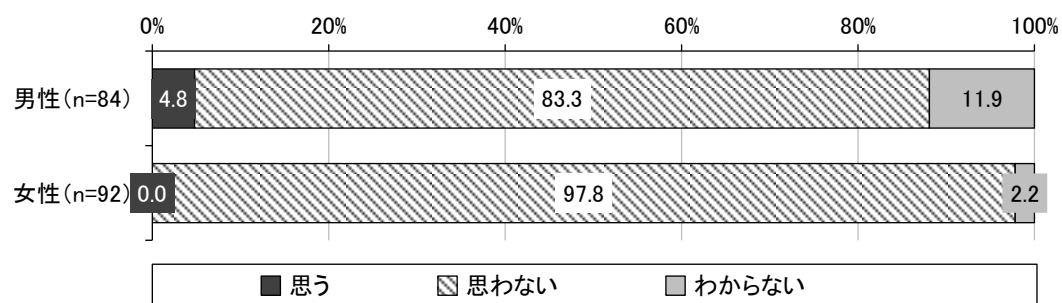
⑦共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ

男女別にみると、「思わない」が男女ともに6割を超えており、男性に比べて、女性の割合が10ポイント以上高くなっています。



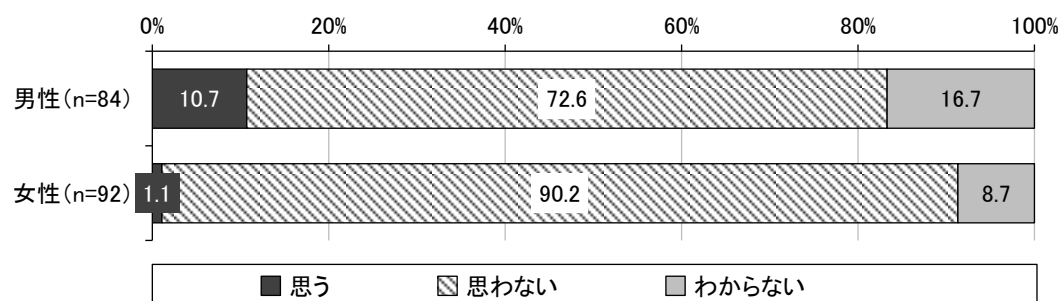
⑧女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない

男女別にみると、「思わない」が男女ともに8割を超えており、男性に比べて、女性の割合が10ポイント以上高くなっています。



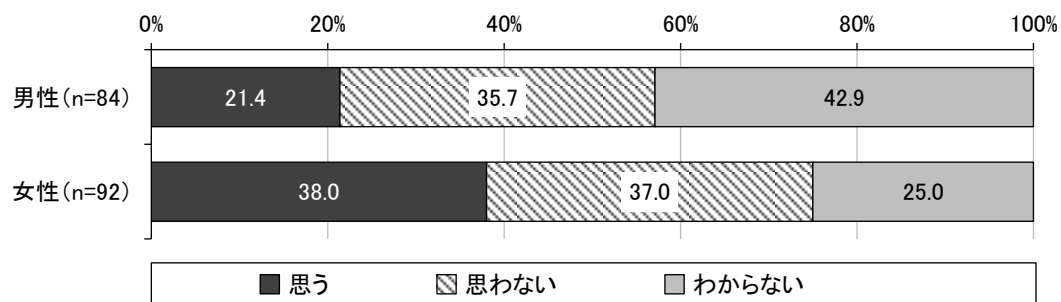
⑨生徒会長等の組織のリーダーは男性の方が向いている

男女別にみると、「思わない」が男性では7割、女性では約9割となっており、男性に比べて、女性の割合が約20ポイント高くなっています。



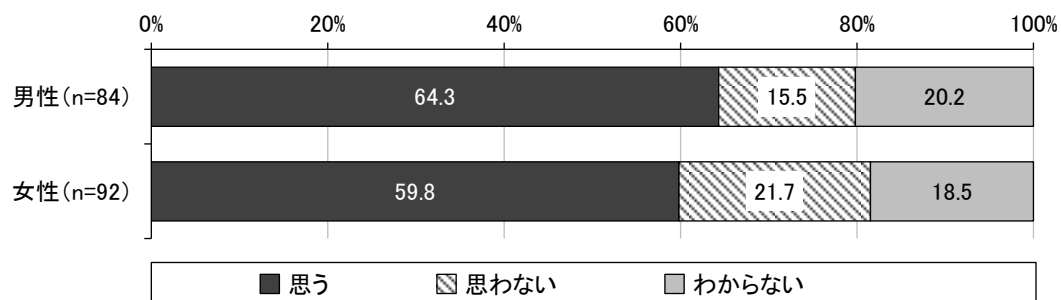
⑩女性は感情的になりやすい

男女別にみると、男性では「わからない」、女性では「思う」が最も高くなっており、「思う」は男性に比べて、女性の割合が15ポイント以上高くなっています。



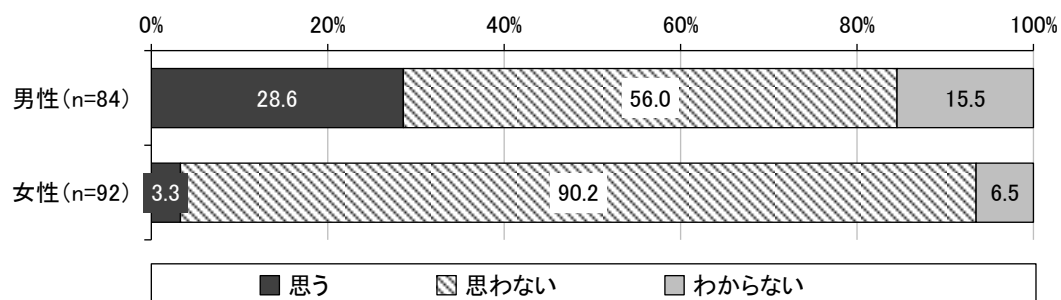
⑪女性には女性らしい男性には男性らしい感性があるものだ

男女別にみると、「思う」が男女ともに6割を超えており、女性に比べて、男性の割合が高くなっています。



⑫男性は人前で泣くべきではない

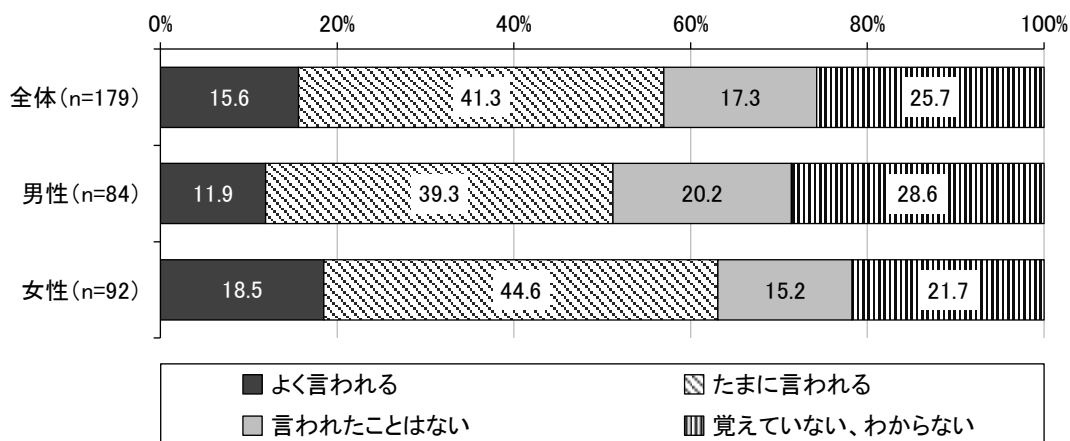
男女別にみると、「思わない」が男女ともに5割を超えており、男性に比べて、女性の割合が30ポイント以上高くなっています。



問4 あなたは「男の子だから〇〇しなさい」「女の子だから〇〇しなさい」と言われたことはありますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

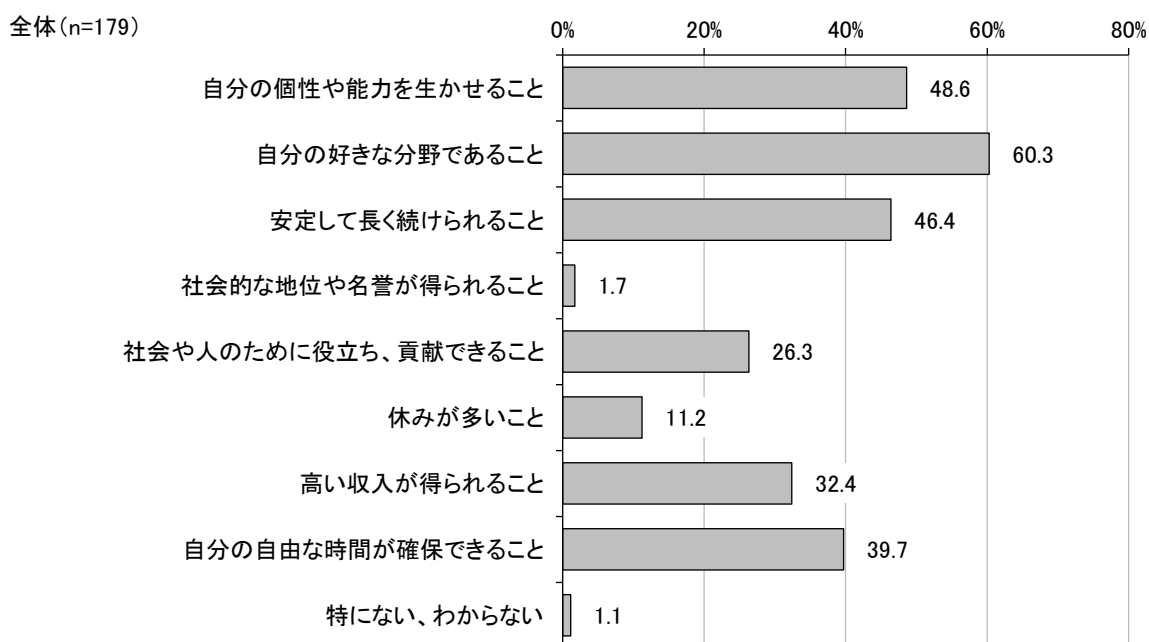
「男の子だから、女の子だから、〇〇しなさい」と言われたことがあるかについてみると、「たまに言われる」が41.3%と最も高く、次いで「覚えていない、わからない」が25.7%、「言われたことはない」が17.3%となっています。

男女別にみると、男女ともに「たまに言われる」が最も高くなっています。

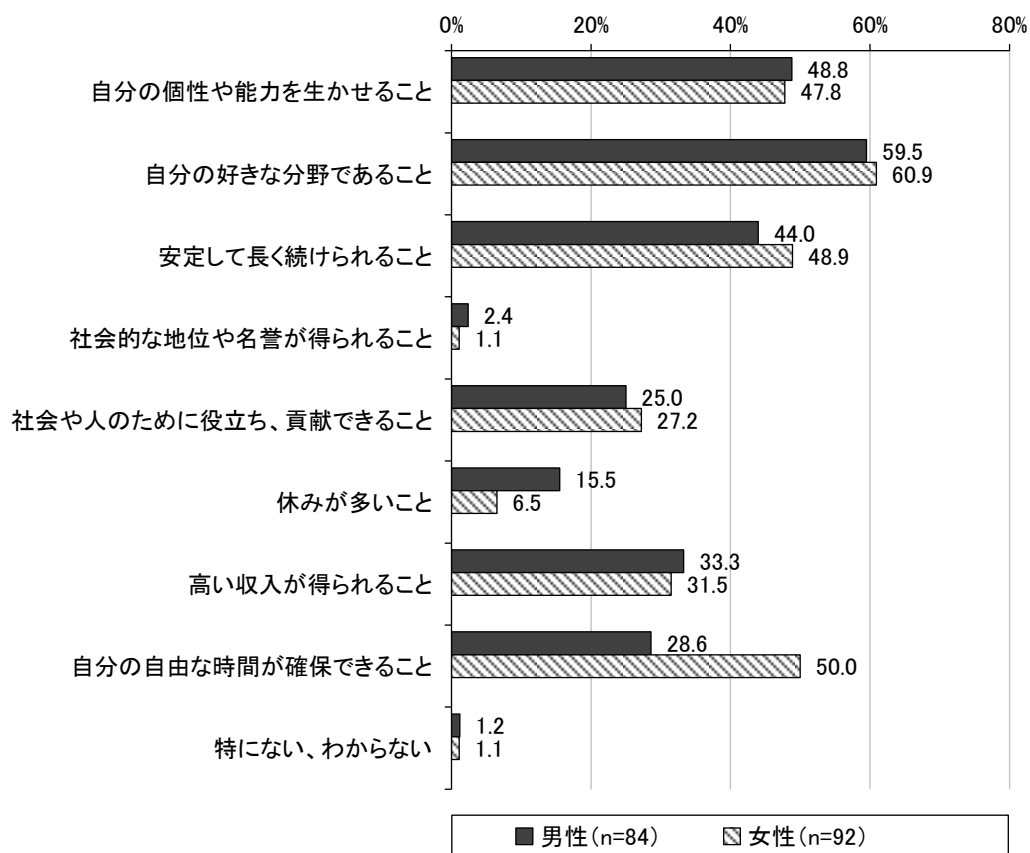


問5 あなたは将来、どのようなことを重視して職業や仕事を選びたいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○をつけてください。)

将来、どのようなことを重視して職業や仕事を選びたいと思うかについてみると、「自分の好きな分野であること」が60.3%と最も高く、次いで「自分の個性や能力を生かせること」が48.6%、「安定して長く続けられること」が46.4%となっています。



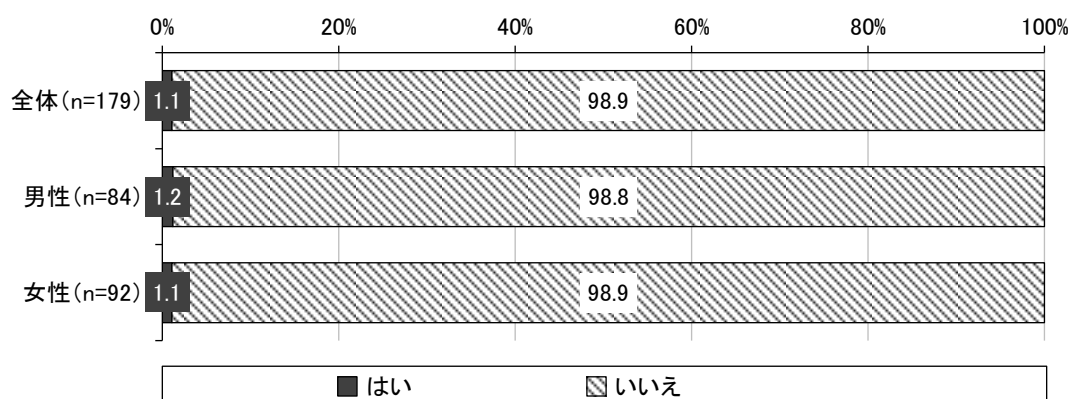
男女別にみると、男女ともに「自分の好きな分野であること」が最も高く、次いで男性では「自分の個性や能力を生かせること」、女性では「自分の自由な時間が確保できること」となっています。



問6 あなたは、性別を理由に将来の夢や将来就きたい職業をあきらめた経験がありますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

性別を理由に将来の夢や将来就きたい職業をあきらめた経験があるかについてみると、「いいえ」が98.9%と大半を占めています。

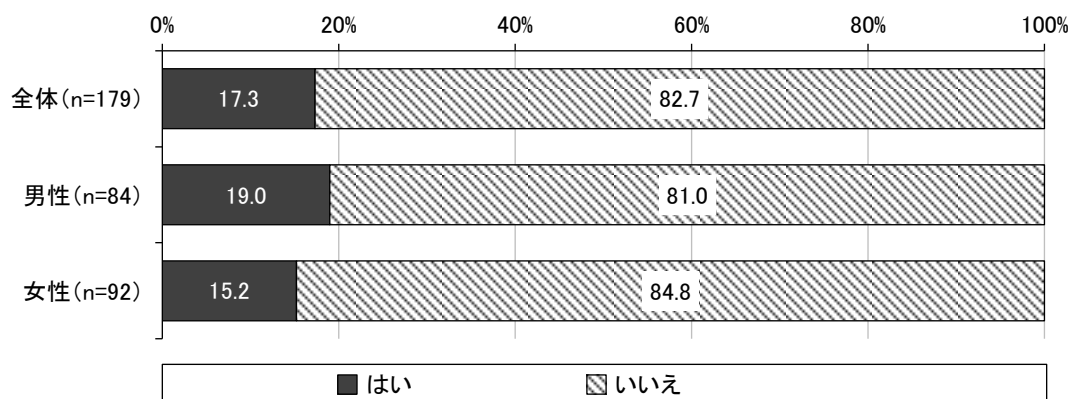
男女別にみると、男女ともに「いいえ」が大半を占めています。



問7 これまでに学んだ男女共同参画に関することで普段の生活の中で活かしていることや覚えていることはありますか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

これまでに学んだ男女共同参画に関することを普段の生活で活かしていることがあるかについてみると、「いいえ」が82.7%と大半を占めています。

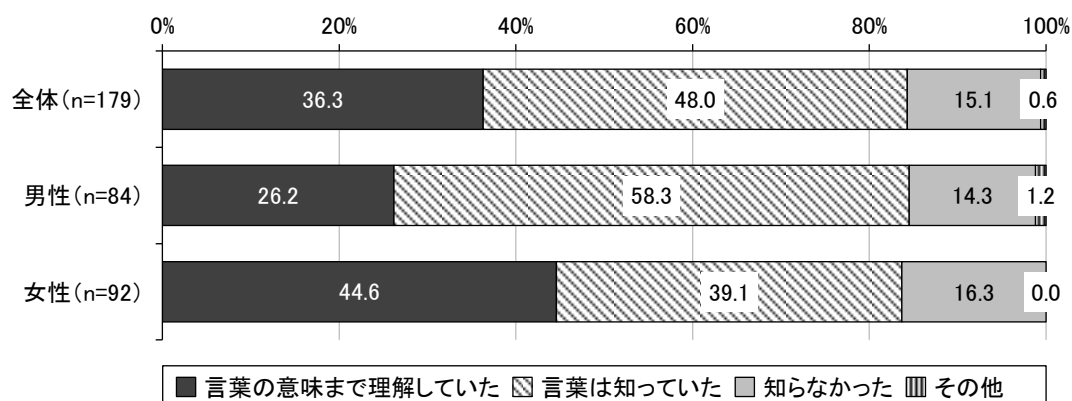
男女別にみると、男女ともに「いいえ」が大半を占めています。



問8 多様な性(LGBTQ等)について知っていましたか。(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

多様な性(LGBTQ等)について知っているかについてみると、「言葉は知っていた」が48.0%と最も高く、次いで「言葉の意味まで理解していた」が36.3%、「知らなかった」が15.1%となっています。

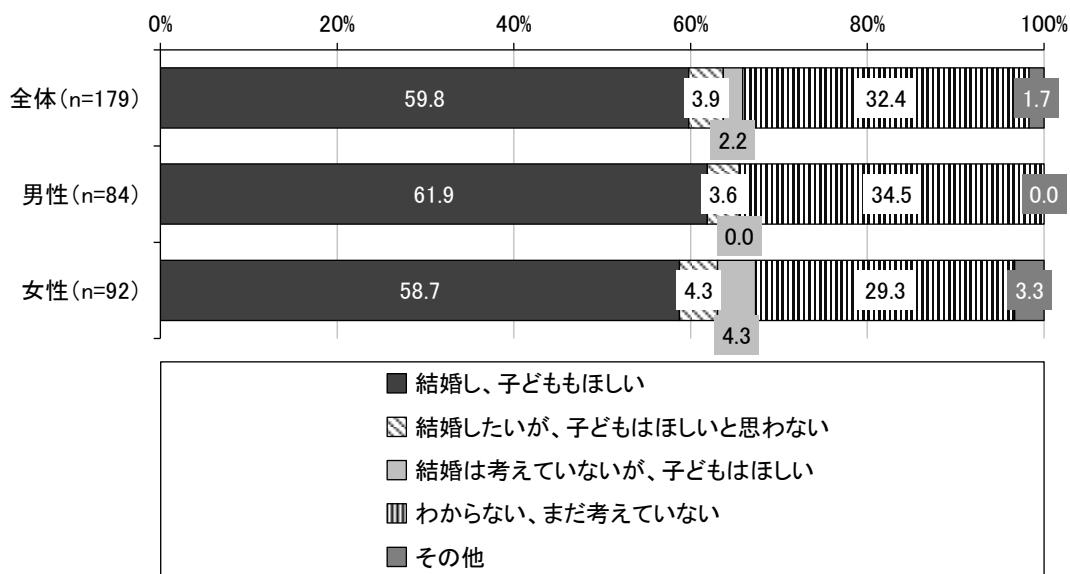
男女別にみると、男性では「言葉は知っていた」、女性では「言葉の意味まで理解していた」が最も高くなっています。



問9 あなたは将来、結婚したり、子どもがほしいと思いますか。
(あてはまるものひとつに○をつけてください。)

将来、結婚したり、子どもがほしいと思うかについてみると、「結婚し、子どももほしい」が59.8%と最も高く、次いで「わからない、まだ考えていない」が32.4%、「結婚したいが、子どもはほしくないと思わない」が3.9%となっています。

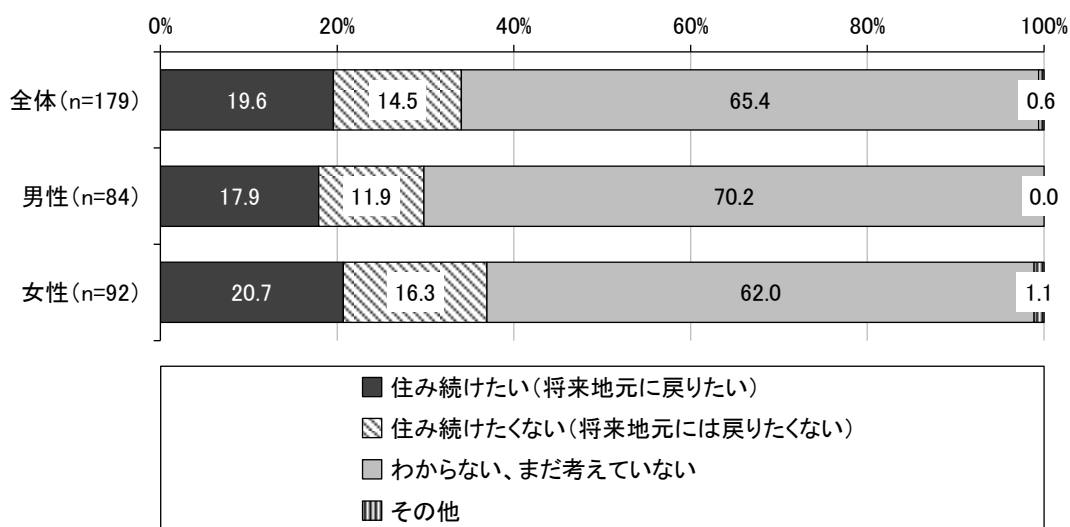
男女別にみると、男女ともに「結婚し、子どもがほしい」が最も高くなっています。



問10 あなたは、南あわじ市に住み続けたいと思いますか。

南あわじ市に住み続けたいと思うかについてみると、「わからない、まだ考えていない」が65.4%と最も高く、次いで「住み続けたい(将来地元に戻りたい)」が19.6%、「住み続けたくない(将来地元には戻りたくない)」が14.5%となっています。

男女別にみると、男女ともに「わからない、まだ考えていない」が最も高くなっています。

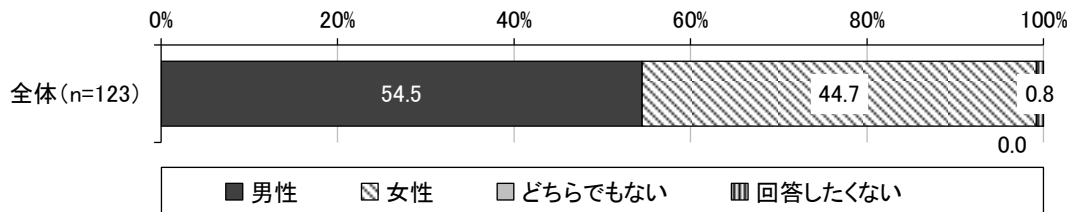


4 市役所職員調査

1) あなたご自身のことについておたずねします

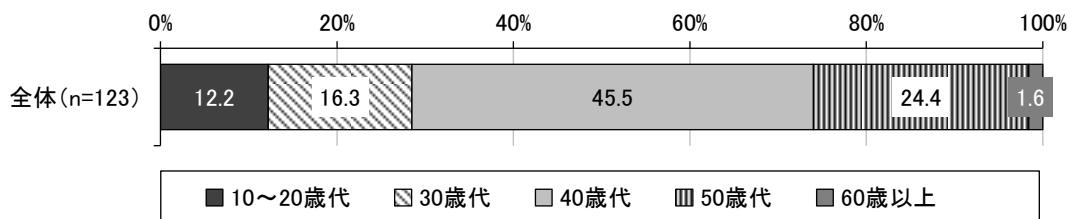
問1 あなたの性別はどちらですか。(ひとつに○)

性別についてみると、「男性」が 54.5%と最も高く、次いで「女性」が 44.7%、「回答したくない」が 0.8%となっています。



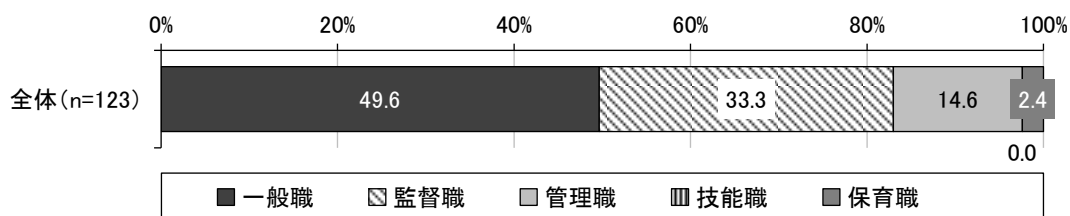
問2 あなたの年代はおいくつですか。(ひとつに○)

年代についてみると、「40 歳代」が 45.5%と最も高く、次いで「50 歳代」が 24.4%、「30 歳代」が 16.3%となっています。



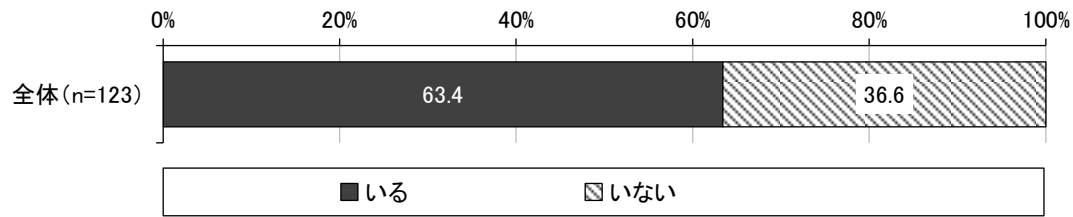
問3 あなたの職位はどれにあたりますか。(ひとつに○)

職位についてみると、「一般職」が 49.6%と最も高く、次いで「監督職」が 33.3%、「管理職」が 14.6%となっています。



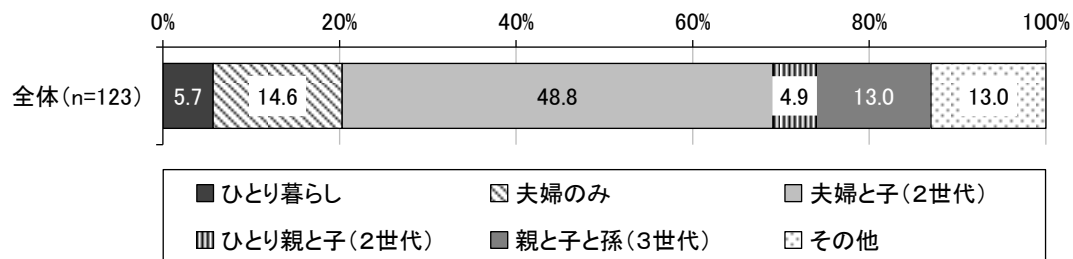
問4 あなたはお子さんがいますか。(ひとつに○)

子どもの有無についてみると、「いる」が63.4%と、「いない」の36.6%を上回っています。



問5 あなたの同居の家族構成はどれにあたりますか。(ひとつに○)

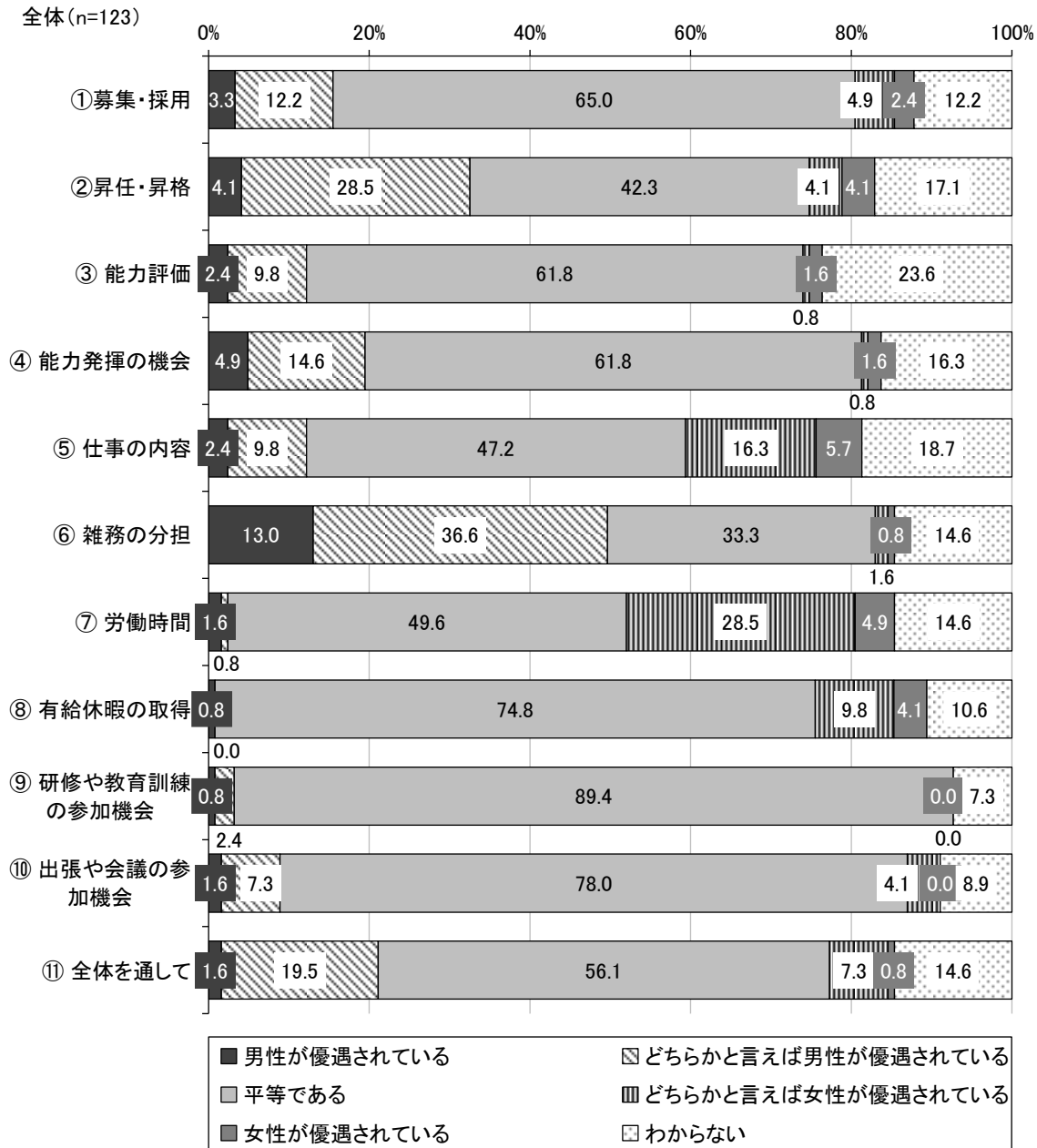
同居の家族構成についてみると、「夫婦と子(2世代)」が48.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が14.6%、「親と子と孫(3世代)」「その他」が13.0%となっています。



2) 職場での男女共同参画の状況について

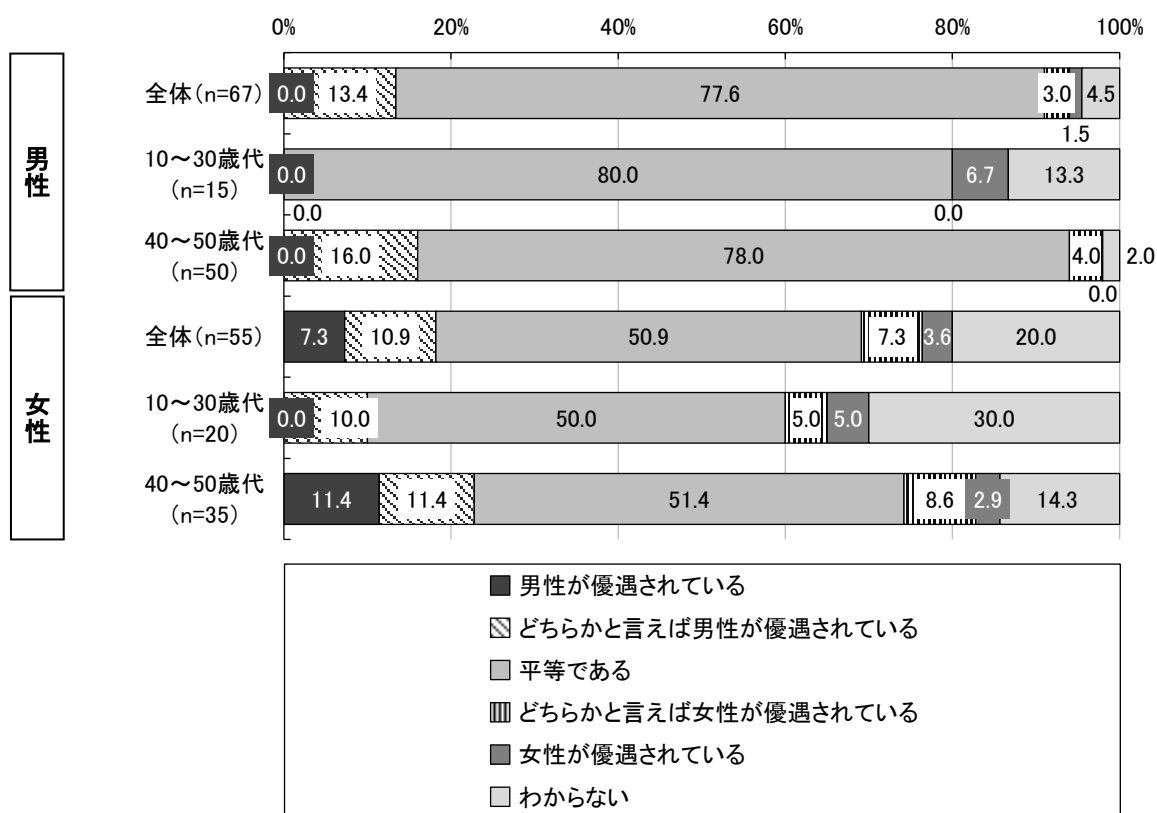
問6 あなたは今の職場において男女共同参画は進んでいると思いますか。
(それぞれの項目について、最も考えに近いものひとつに○)

今の職場において男女共同参画は進んでいると思うかについて、『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」の計）、「平等である」、『女性優遇』（「女性が優遇されている」と「どちらかと言えば女性が優遇されている」の計）で比較すると、〔⑥雑務の分担〕では『男性優遇』が最も高く、それ以外の項目では「平等である」が最も高くなっています。また、〔⑤仕事の内容〕〔⑦労働時間〕〔⑧有給休暇の取得〕では『女性優遇』が『男性優遇』を上回っています。



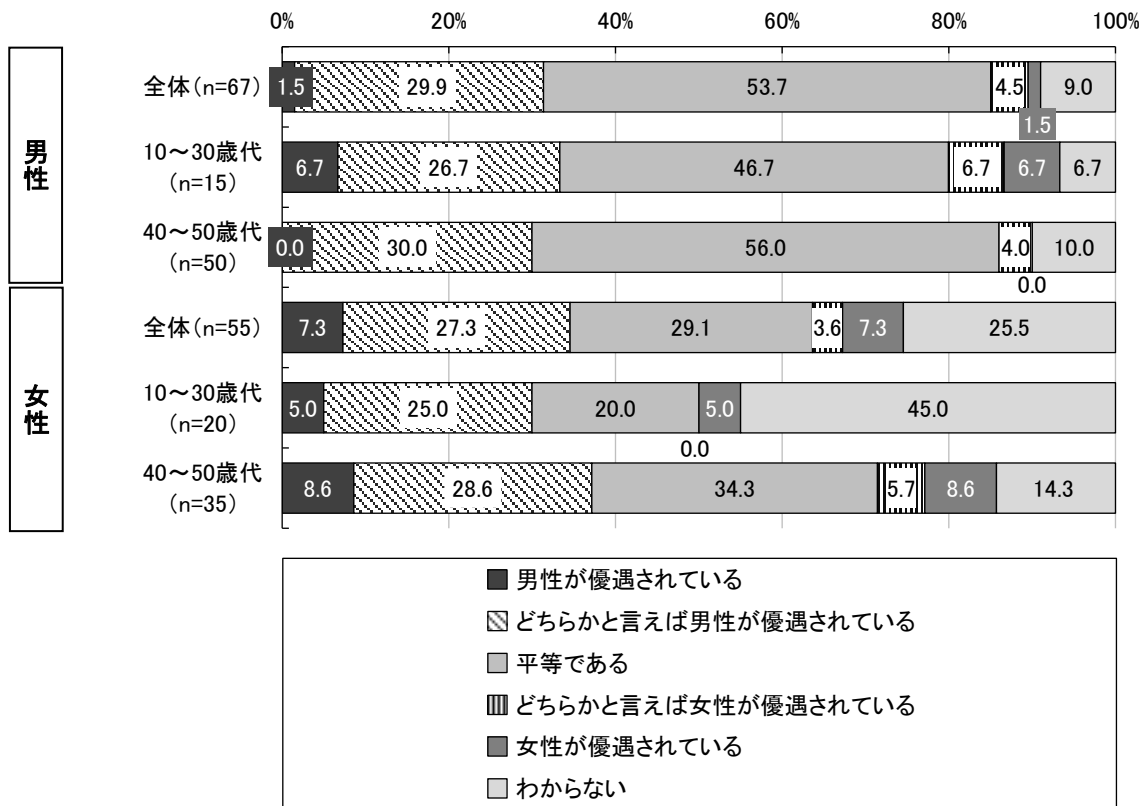
①募集・採用

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。また、男女ともに『男性優遇』が10～30歳代に比べて、40～50歳代では10ポイント以上高くなっています。



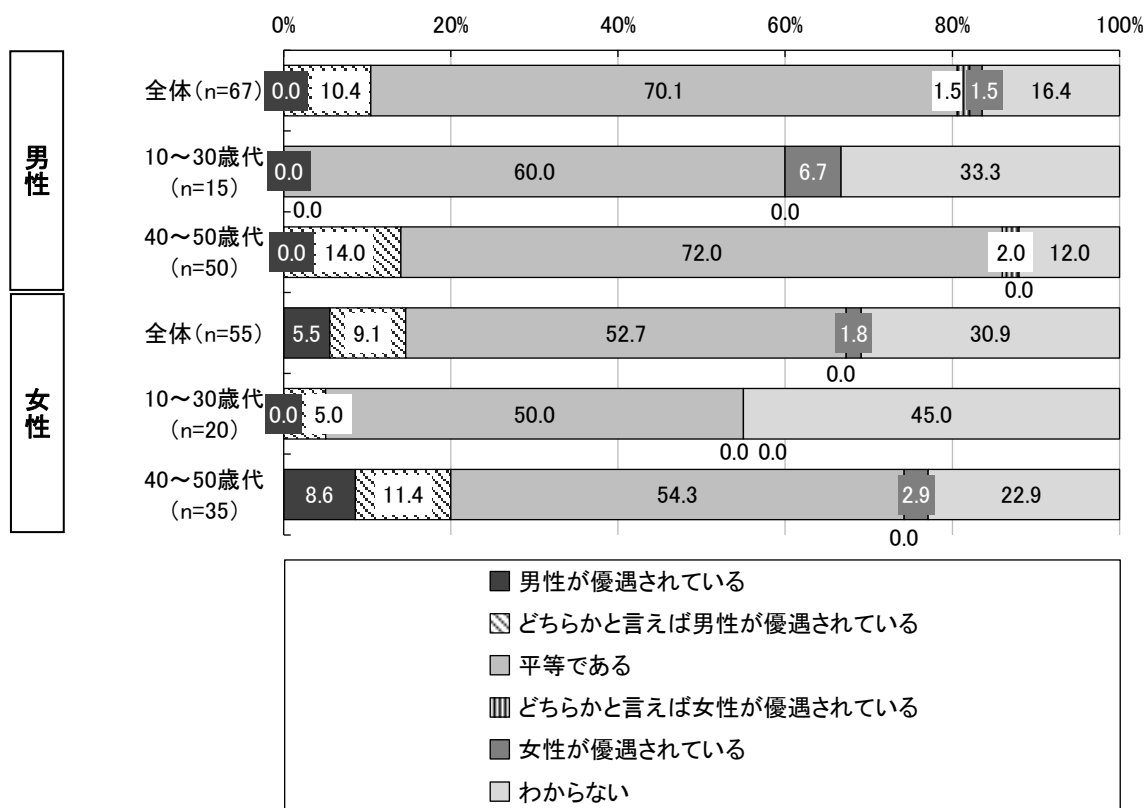
②昇任・昇格

男女別年代別にみると、女性の10～30歳代では「わからない」、女性の40～50歳代では『男性優遇』、男性のすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。男女別にみると、「平等である」は、男性に比べて、女性の割合が20ポイント以上低くなっています。



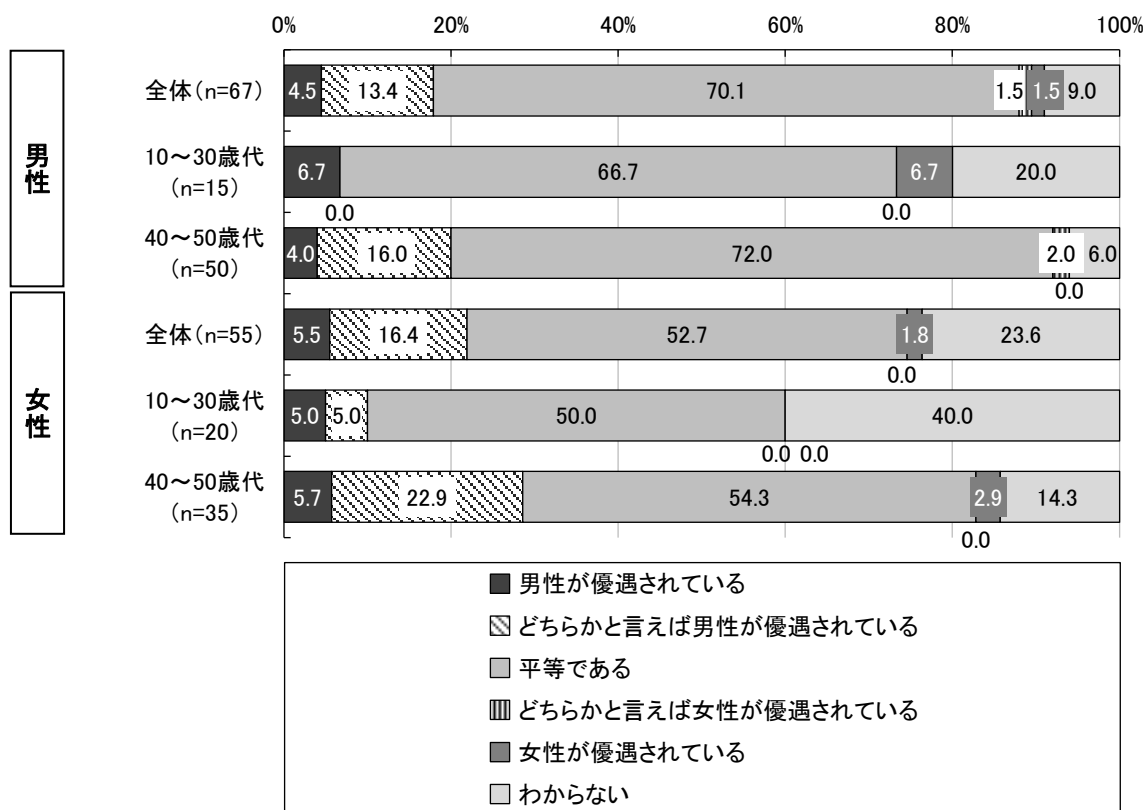
③能力評価

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。また、男女ともに『男性優遇』が10～30歳代に比べて、40～50歳代では10ポイント以上高くなっています。



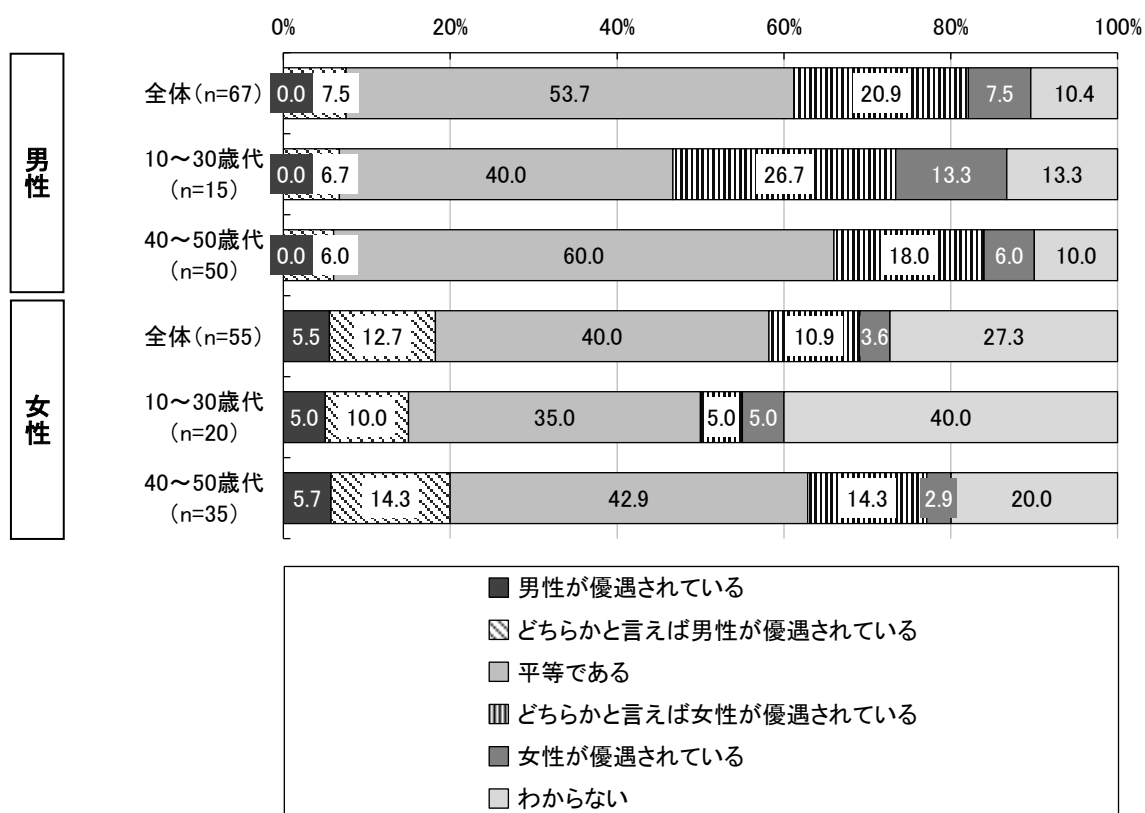
④能力発揮の機会

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。また、男女ともに『男性優遇』が10～30歳代に比べて、40～50歳代で10ポイント以上高くなっています。



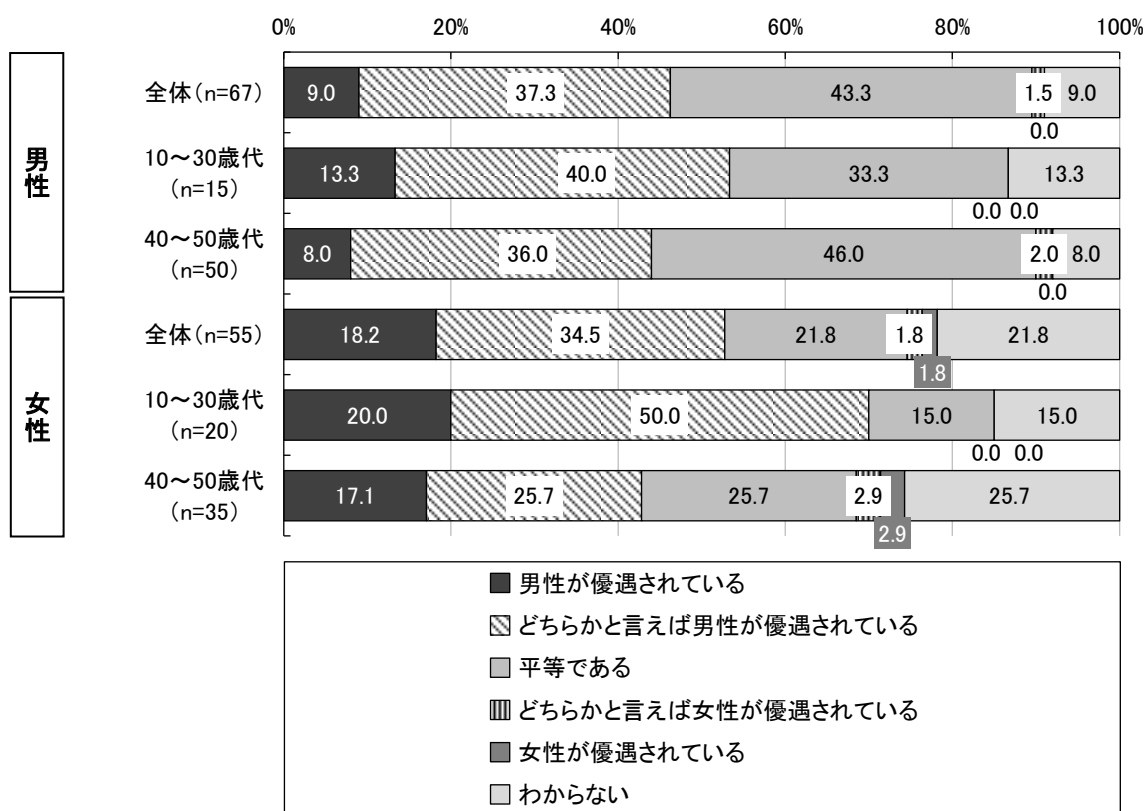
⑤仕事の内容

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では『女性優遇』、女性の10～30歳代では「わからない」、40～50歳代では男女ともに「平等である」が最も高くなっています。また、「平等である」が男性の10～30歳代では、40～50歳代と比べて20ポイント低くなっています。



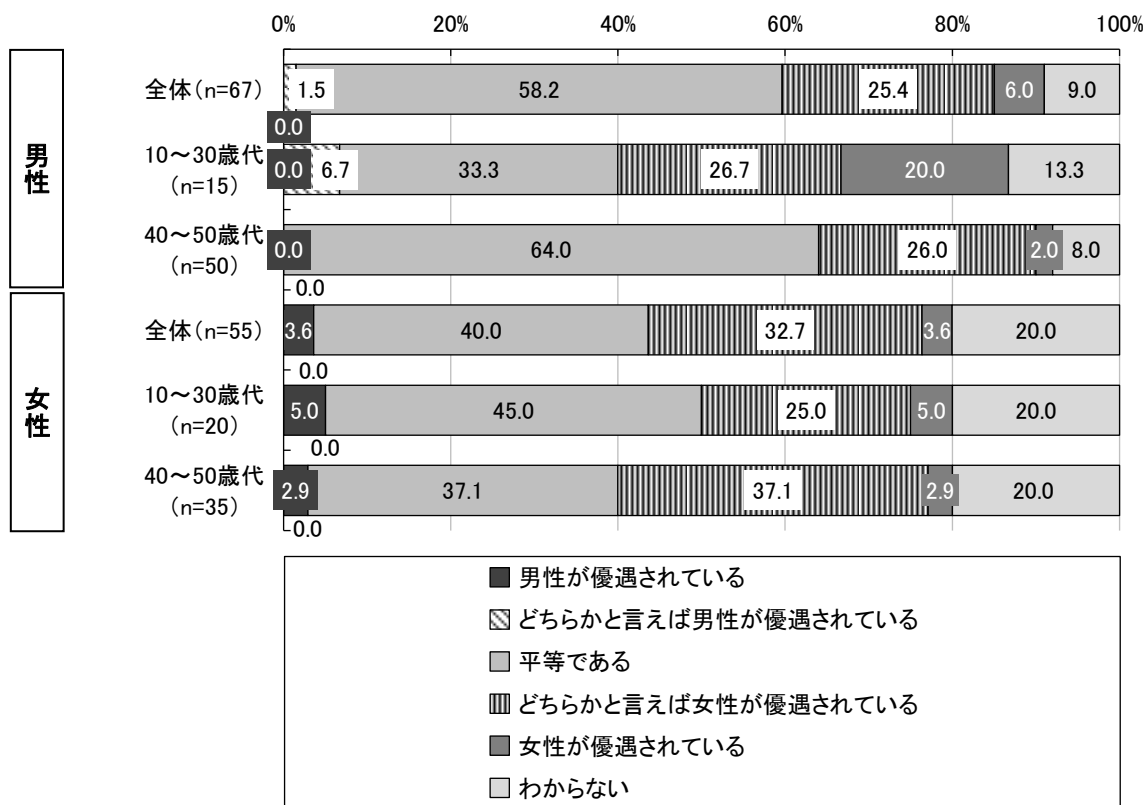
⑥雑務の分担

男女別年代別にみると、男性の40～50歳代では「平等である」、それ以外の年代では男女ともに『男性優遇』が最も高くなっています。また、『男性優遇』が女性の10～30歳代では、40～50歳代と比べて20ポイント以上高くなっています。



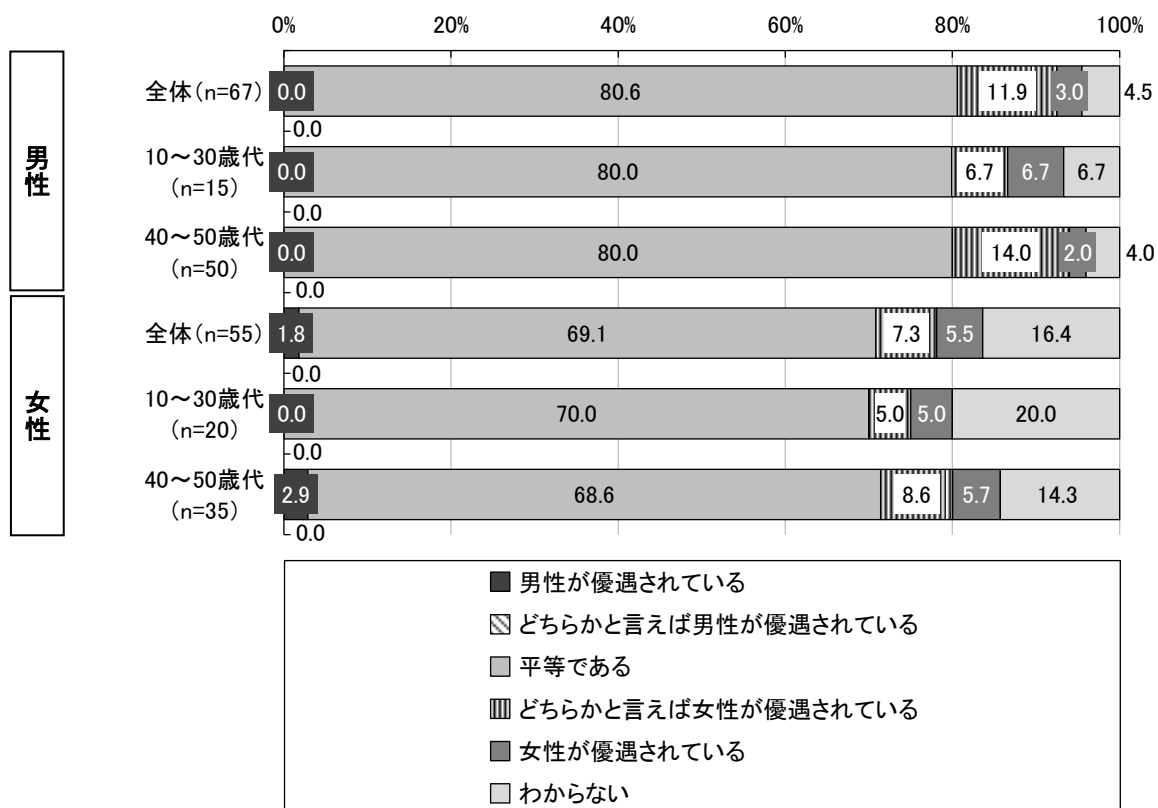
⑦労働時間

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代と女性の40～50歳代では『女性優遇』、それ以外の年代では男女ともに「平等である」が最も高くなっています。また、「平等である」が男性の40～50歳代では、10～30歳代と比べて30ポイント以上高くなっています。



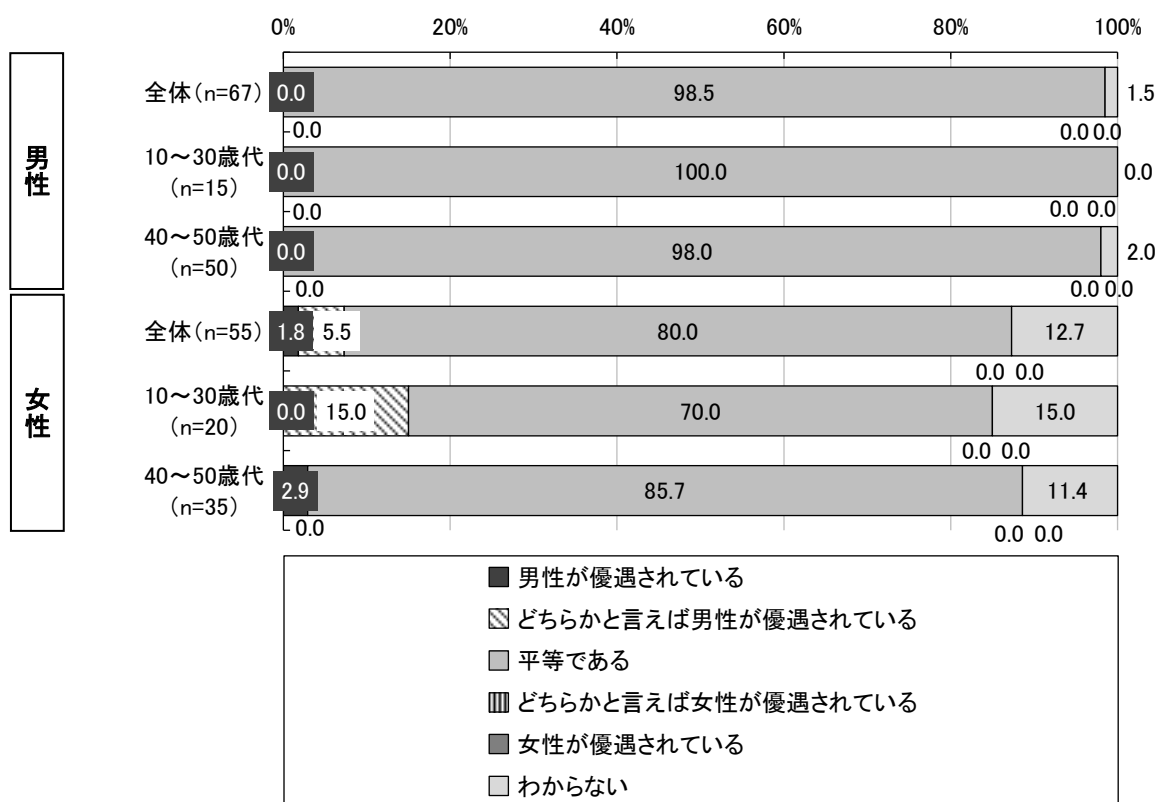
⑧有給休暇の取得

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。男女別にみると、「平等である」は女性に比べて、男性が10ポイント以上高くなっています。



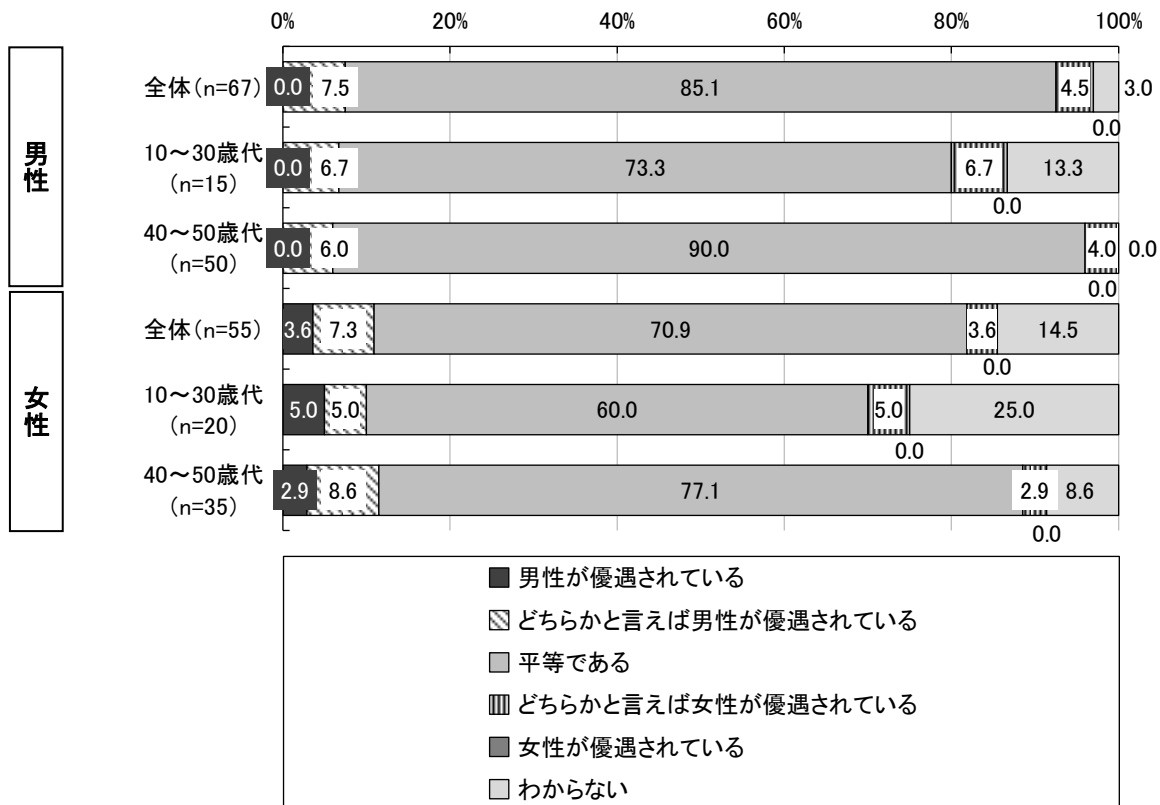
⑨研修や教育訓練の参加機会

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。また、『男性優遇』が女性の10～30歳代では、40～50歳代と比べて10ポイント以上高くなっています。



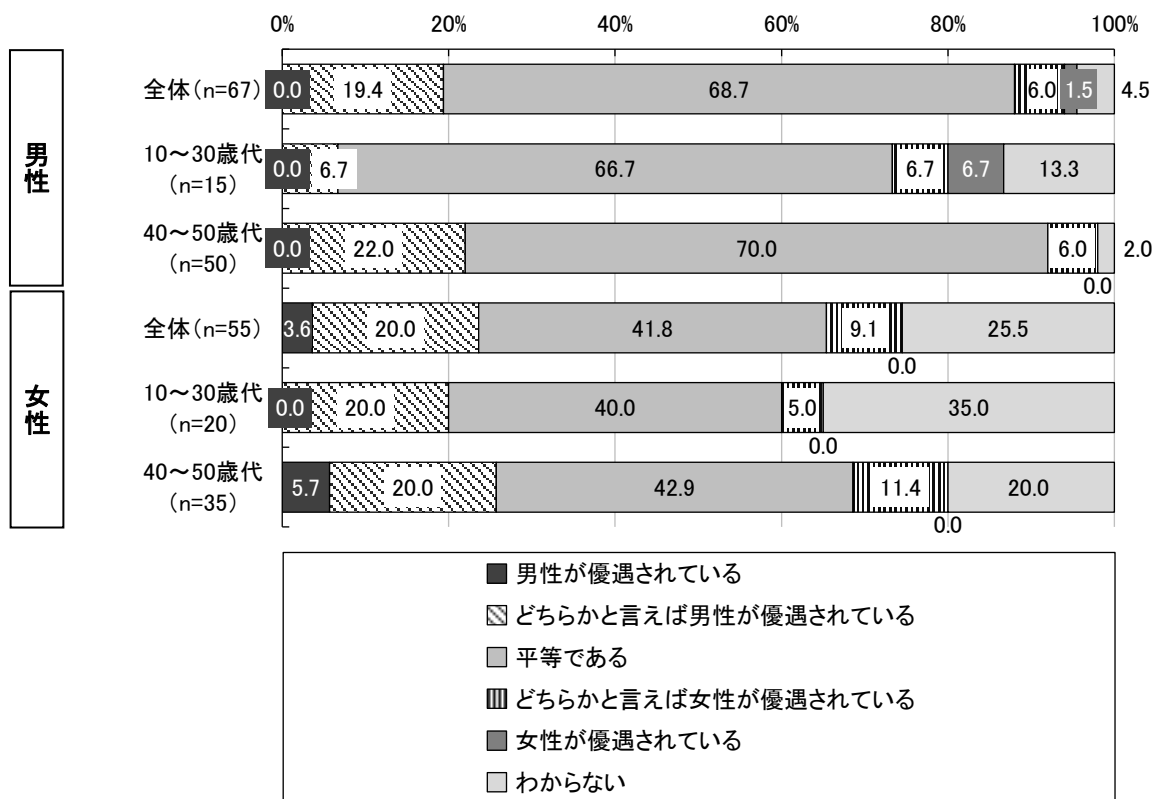
⑩出張や会議の参加機会

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。また、男女ともに、「平等である」が10～30歳代に比べて、40～50歳代では10ポイント以上高くなっています。



⑪全体を通して

男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっています。男女別にみると、「平等である」は女性に比べて、男性が 20 ポイント以上高くなっています。

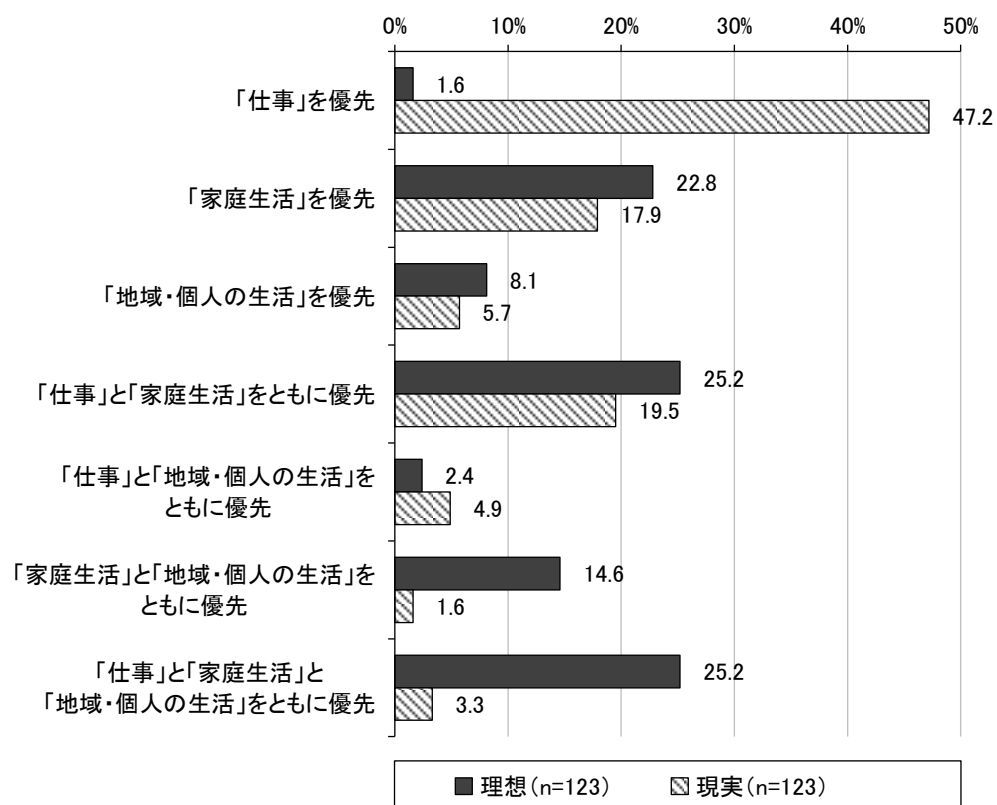


3) ワークライフバランスの状況について

問7 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活(家事や育児、介護等)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)」のうち、優先したいこと(理想)と優先していること(現状)はどれですか。(それぞれの項目について、最も考えに近いものひとつに○)

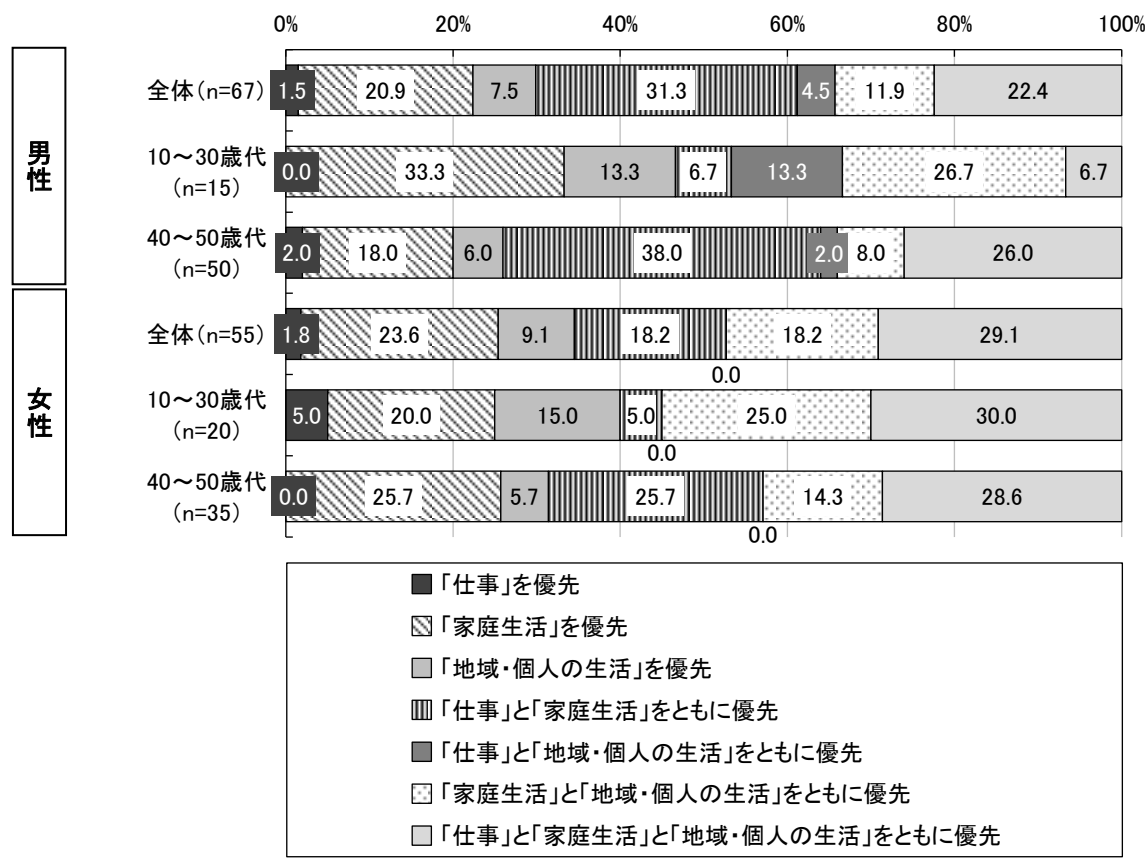
生活の中で優先したいこと(理想)についてみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が25.2%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先」が22.8%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が14.6%となっています。

現状についてみると、「仕事」を優先」が47.2%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が19.5%、「家庭生活」を優先」が17.9%となっています。



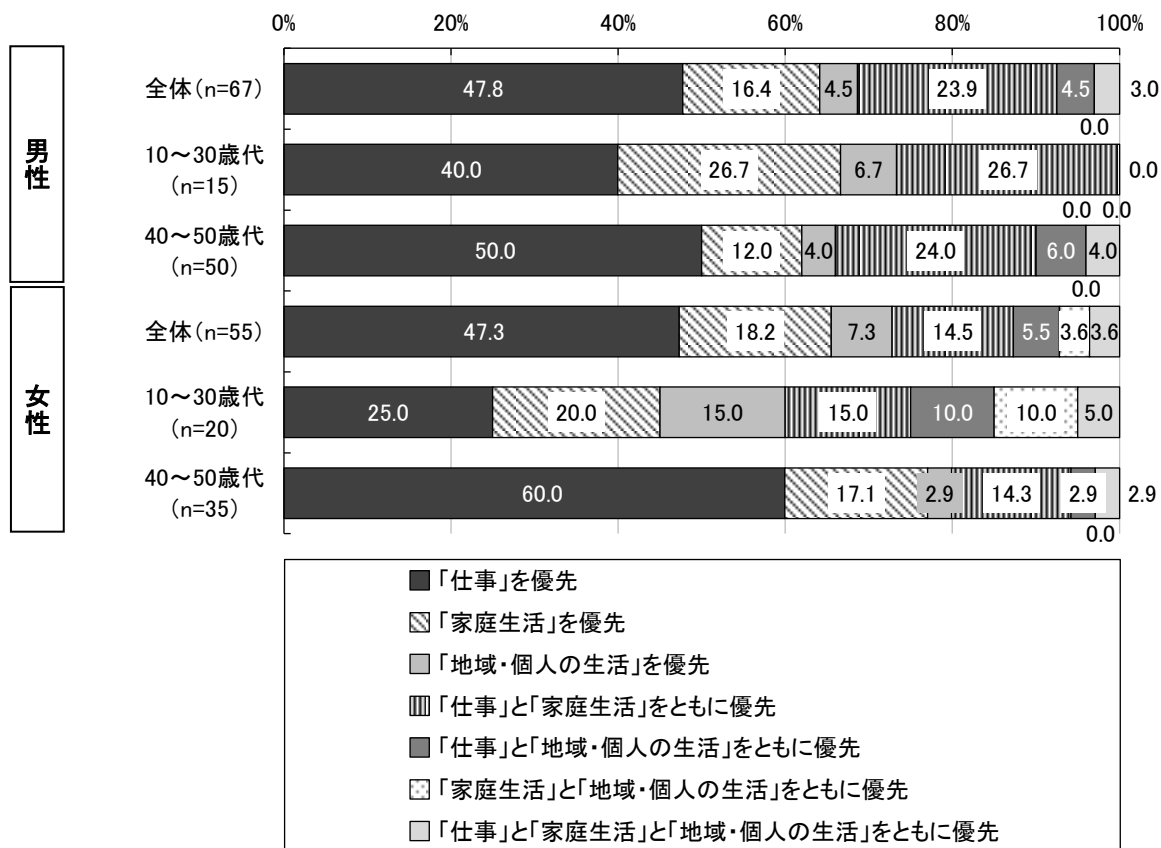
優先したいこと（理想）

男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「家庭生活」を優先、男性の40～50歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先、それ以外の年代では男女ともに「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高くなっています。



優先していること（現状）

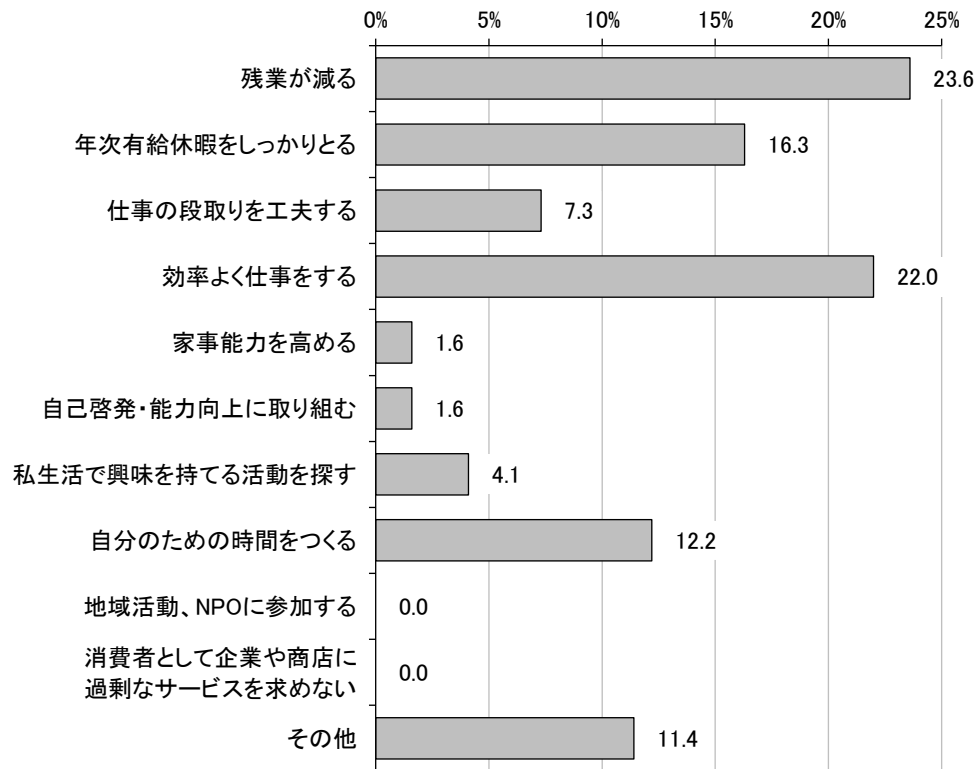
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「仕事」を優先」が最も高くなっています。



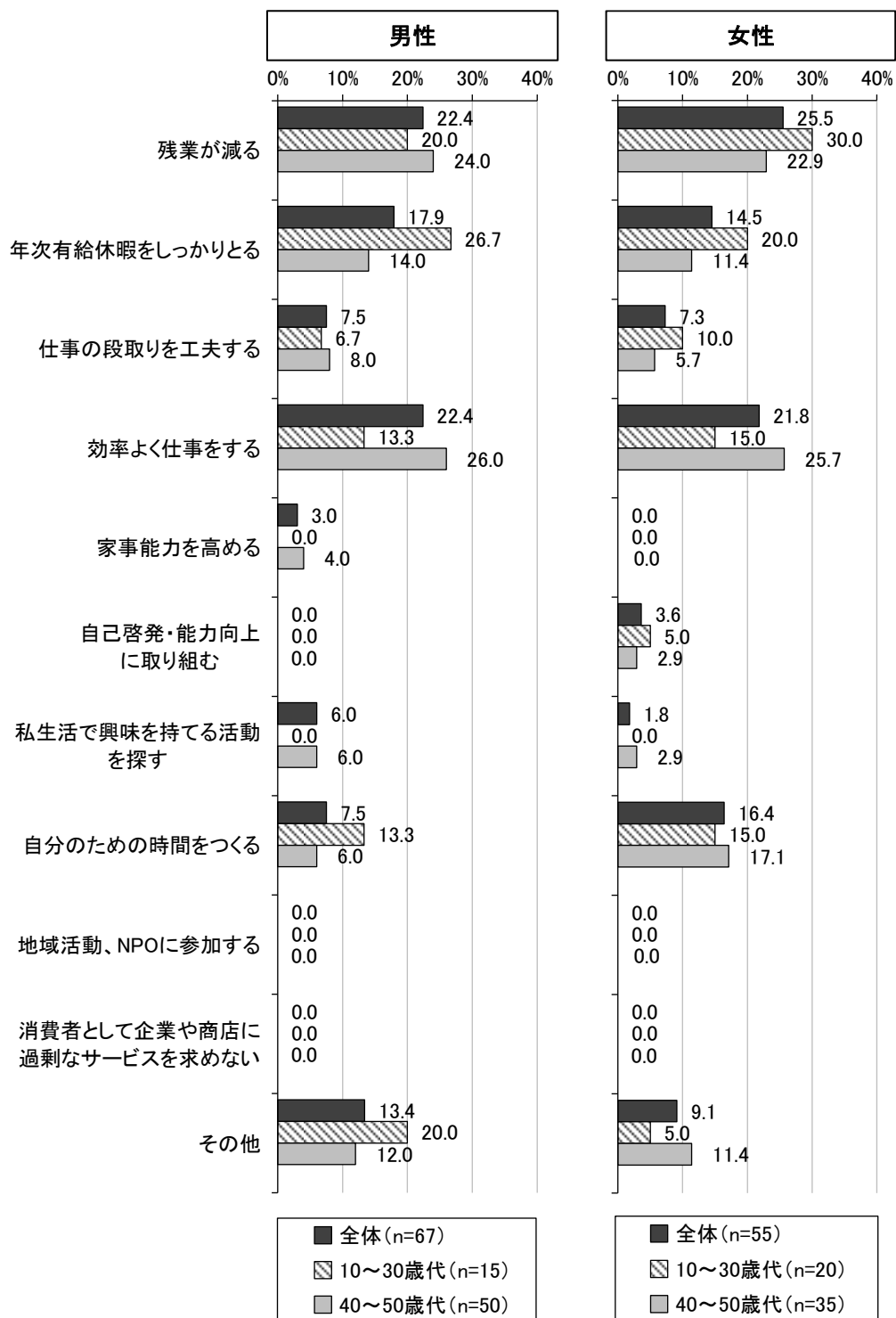
問8 ワークライフバランスの推進に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。
(最も考えに近いもののひとつに○)

ワークライフバランスの推進に向けて必要なことについてみると、「残業が減る」が23.6%と最も高く、次いで「効率よく仕事をする」が22.0%、「年次有給休暇をしっかりとる」が16.3%となっています。

全体(n=123)

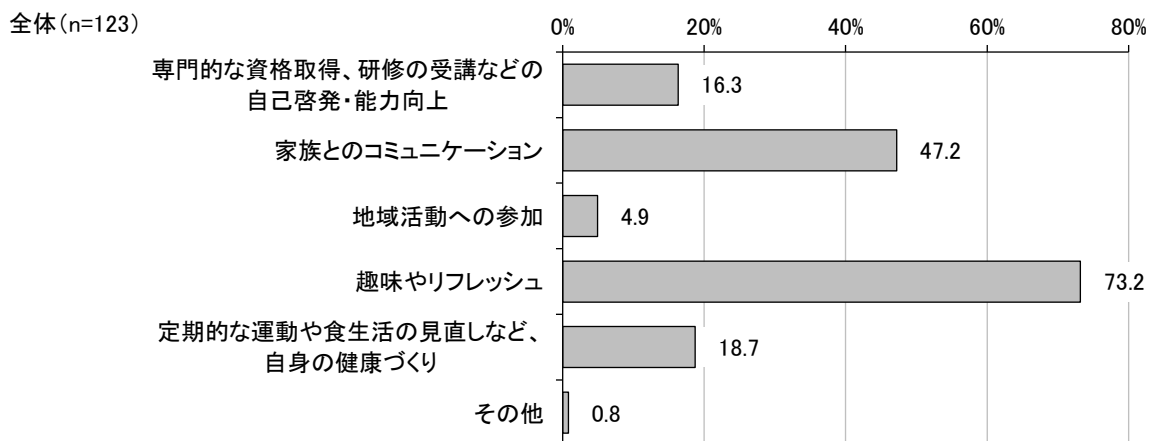


男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「年次有給休暇をしっかりとる」、女性の10～30歳代では「残業が減る」が最も高く、40～50歳代では男女ともに「効率よく仕事をする」が最も高くなっています。

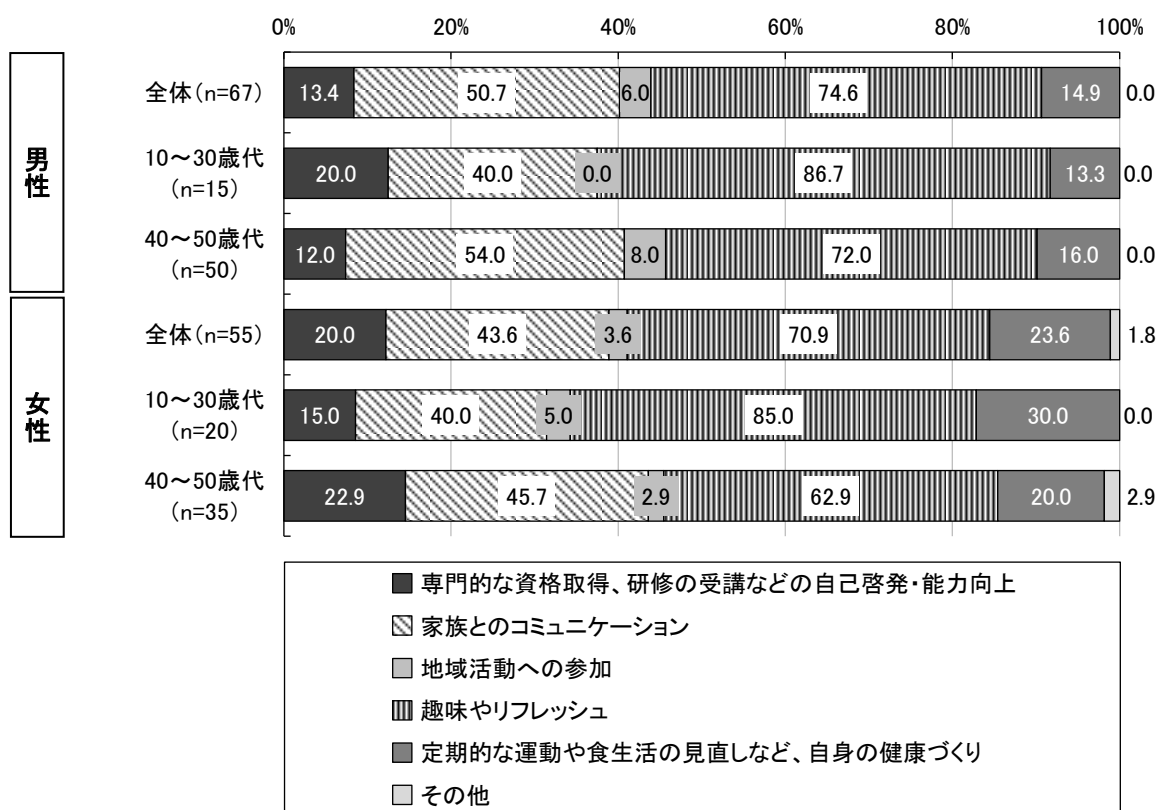


問9 問8のような取り組みにより、理想とするワークライフバランスが実現した場合、どのように時間を使いたいと思いますか。(あてはまるもの2つまでに○)

理想とするワークライフバランスが実現した場合の時間の使い方についてみると、「趣味やリフレッシュ」が73.2%と最も高く、次いで「家族とのコミュニケーション」が47.2%、「定期的な運動や食生活の見直しなど、自身の健康づくり」が18.7%となっています。



男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「趣味やリフレッシュ」が最も高くなっています。



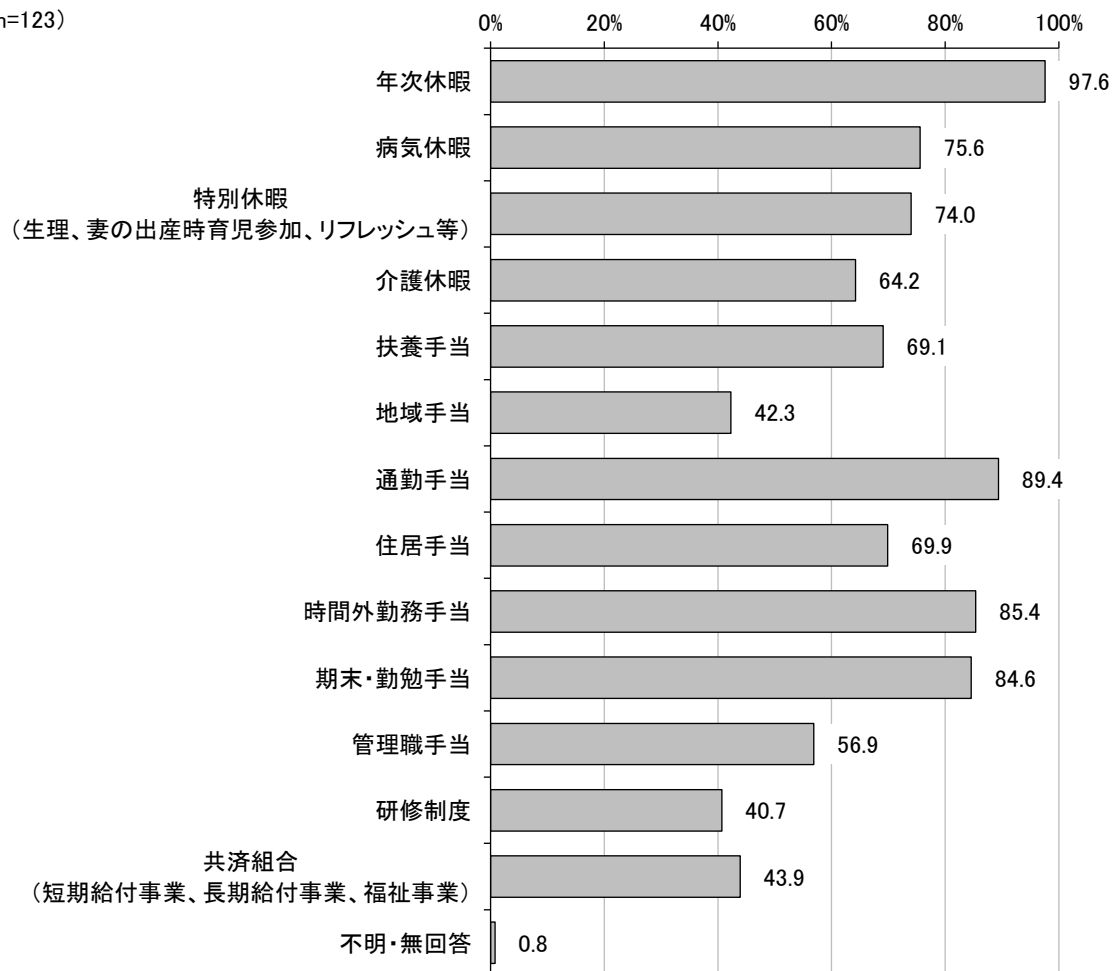
4) 介護・育児の休業制度等について

問 10 あなたは、本市の人事等に関する制度について知っていますか。

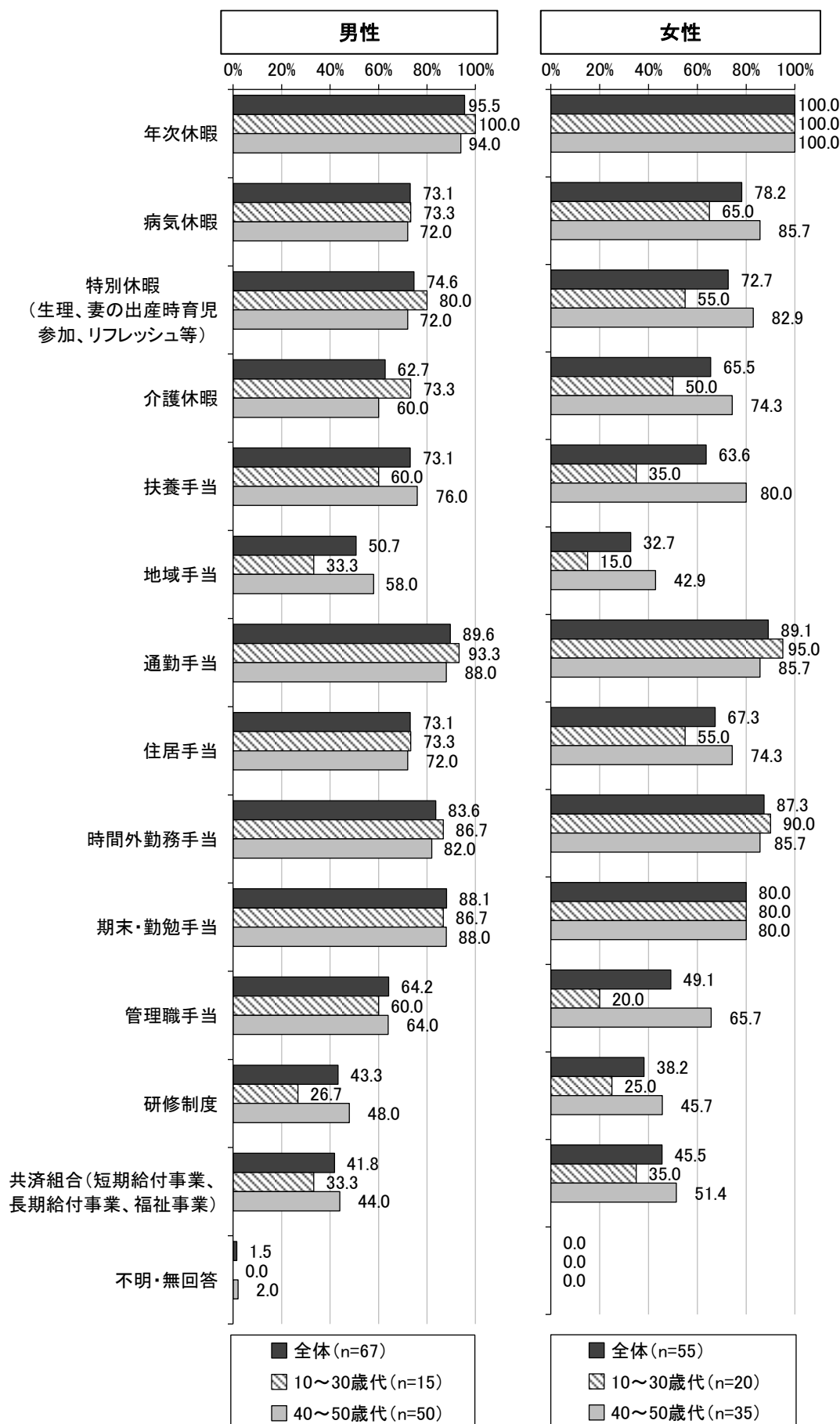
(制度の内容まで知っているものすべてに○)

知っている本市の人事等に関する制度についてみると、「年次休暇」が 97.6%と最も高く、次いで「通勤手当」が 89.4%、「時間外勤務手当」が 85.4%となっています。

全体(n=123)



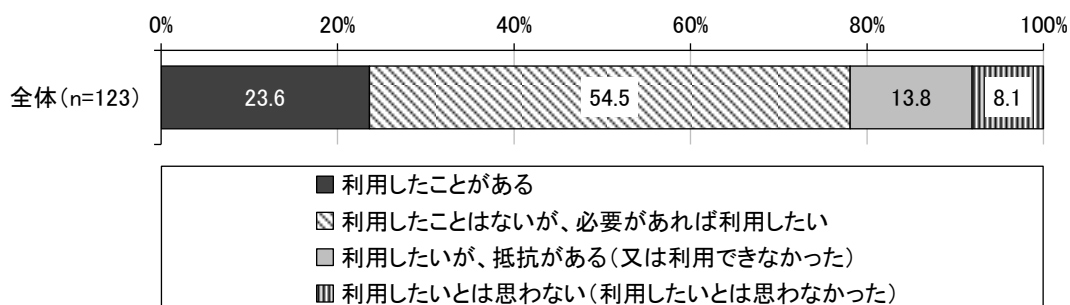
男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「年次休暇」が最も高くなっています。



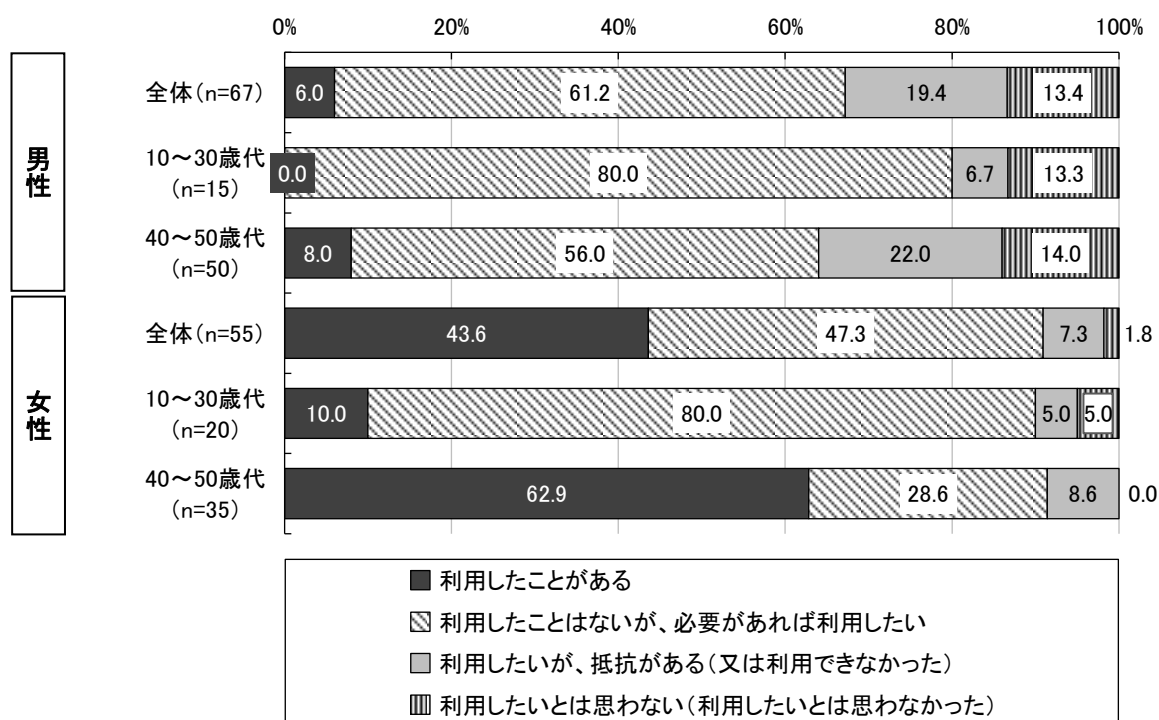
問 11 あなたは、育児や介護を行うために、これまでに育児休業・介護休業制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。
 (それぞれの項目について、最も考えに近いものひとつに○)

①育児休業制度

育児休業制度の利用についてみると、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が 54.5%と最も高く、次いで「利用したことがある」が 23.6%、「利用したいが、抵抗がある（又は利用できなかった）」が 13.8%となっています。

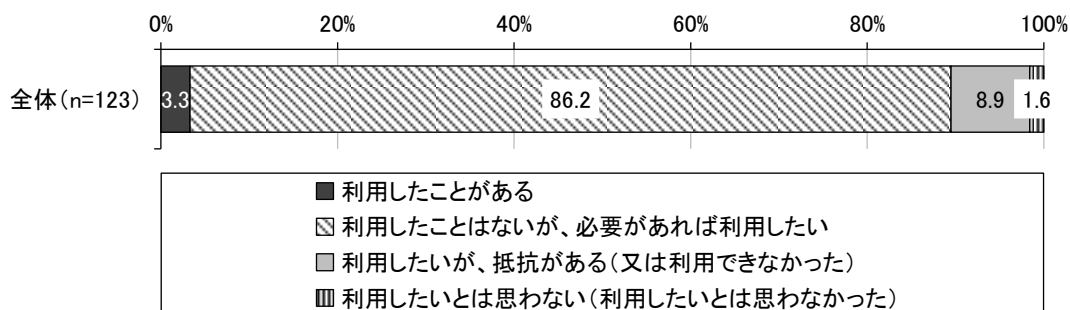


男女別年代別にみると、女性の 40～50 歳代では「利用したことがある」、それ以外の年代では男女ともに「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が最も高くなっています。

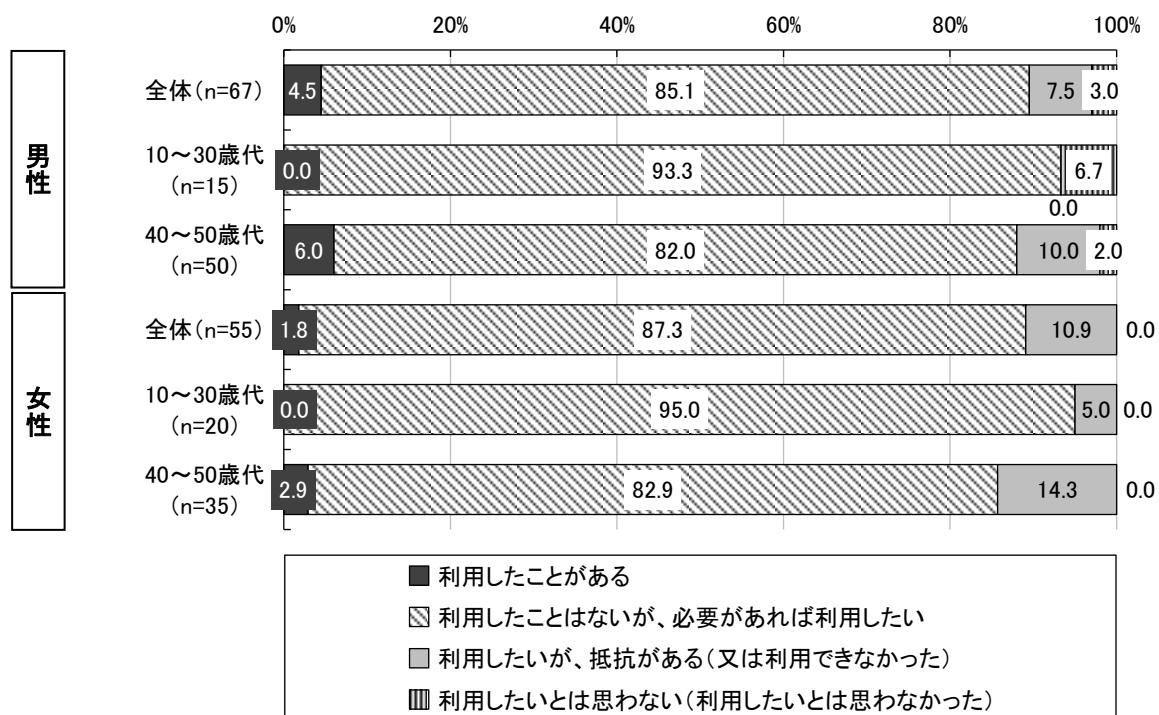


②介護休業制度

介護休業制度の利用についてみると、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が86.2%と最も高く、次いで「利用したいが、抵抗がある（又は利用できなかった）」が8.9%、「利用したことがある」が3.3%となっています。

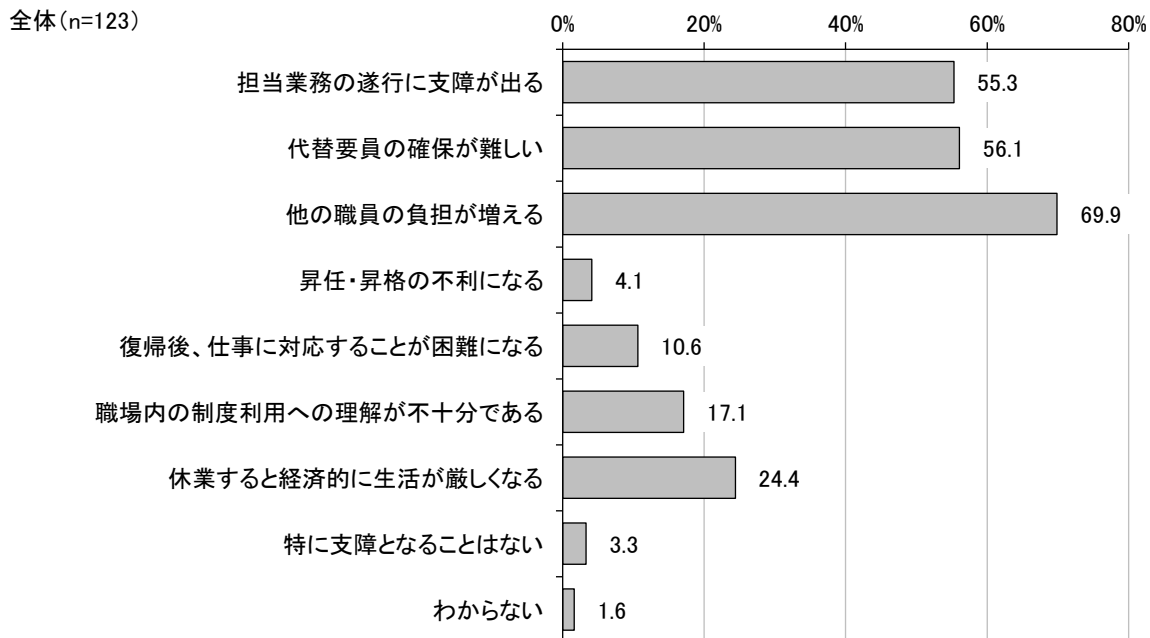


男女別年代別にみると、男女ともにすべての年代で「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が最も高くなっています。

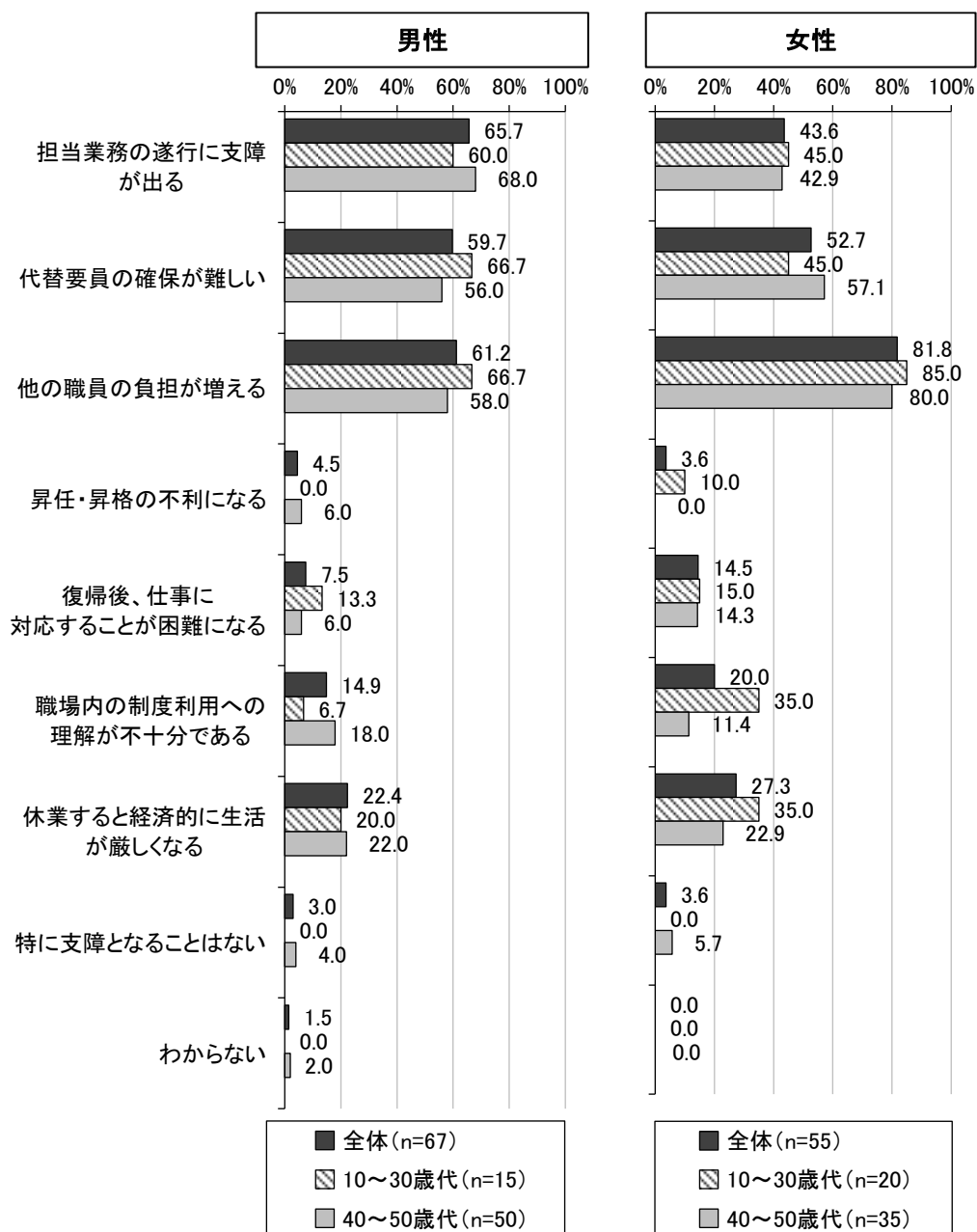


問 12 育児休業・介護休業制度を利用しようとする上で、どのようなことが支障となりますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

育児休業・介護休業制度を利用しようとする上で、支障となることについてみると、「他の職員の負担が増える」が69.9%と最も高く、次いで「代替要員の確保が難しい」が56.1%、「担当業務の遂行に支障が出る」が55.3%となっています。



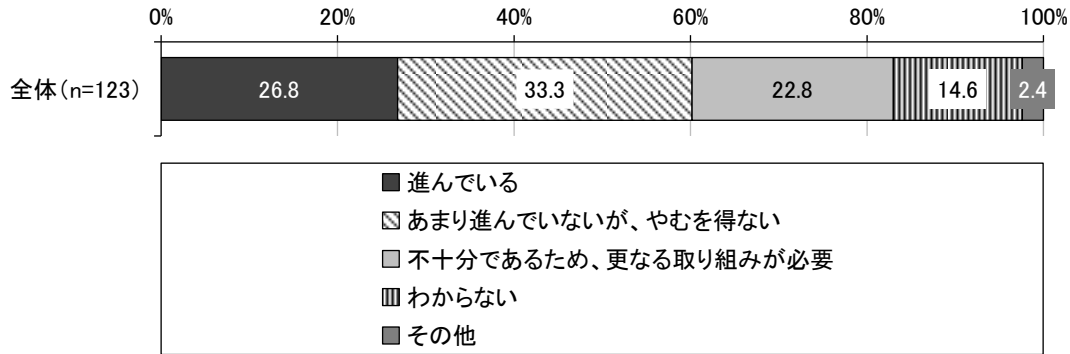
男女別年代別にみると、男性の10～30歳代では「代替要員の確保が難しい」「他の職員の負担が増える」、男性の40～50歳代では「担当業務の遂行に支障が出る」が最も高くなっており、女性ではすべての年代で「他の職員の負担が増える」が最も高くなっています。



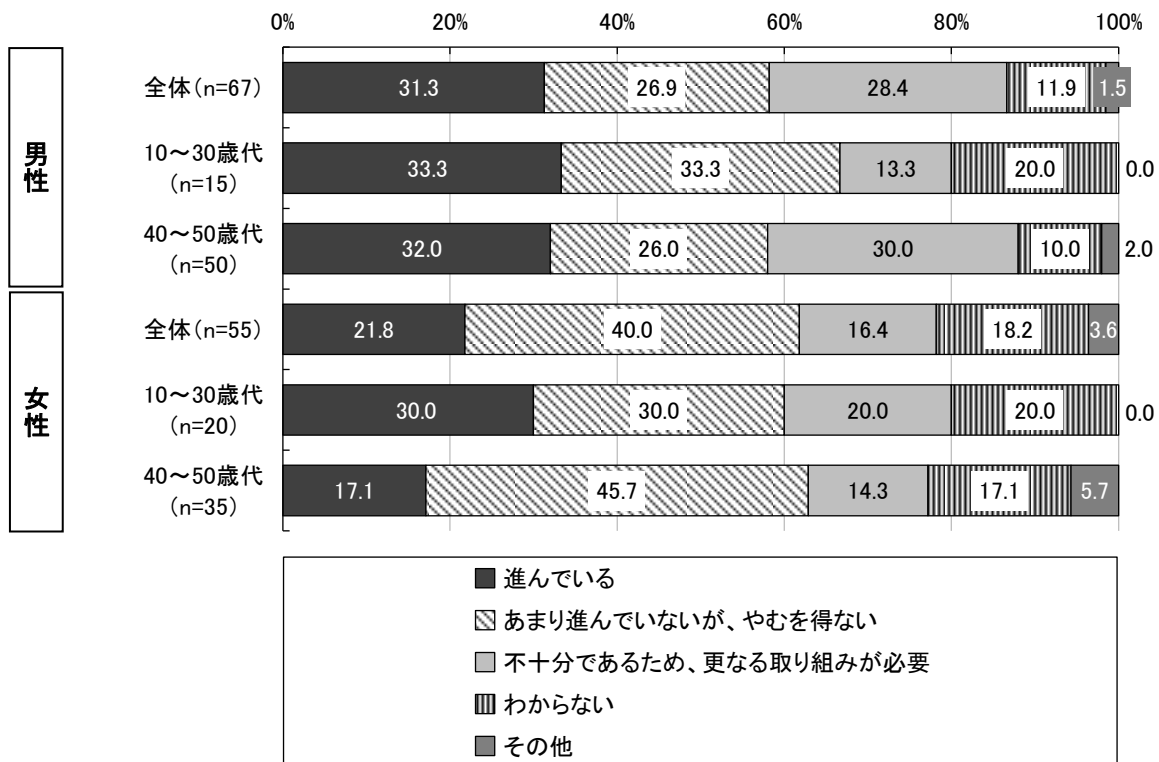
5) 女性活躍の推進について

問 13 本市における女性職員の活躍(職域の拡大、管理職への登用等)は進んでいると思いますか。
(最も考えに近いものひとつに○)

本市における女性職員の活躍は進んでいると思うかについてみると、「あまり進んでいないが、やむを得ない」が33.3%と最も高く、次いで「進んでいる」が26.8%、「不十分であるため、更なる取り組みが必要」が22.8%となっています。



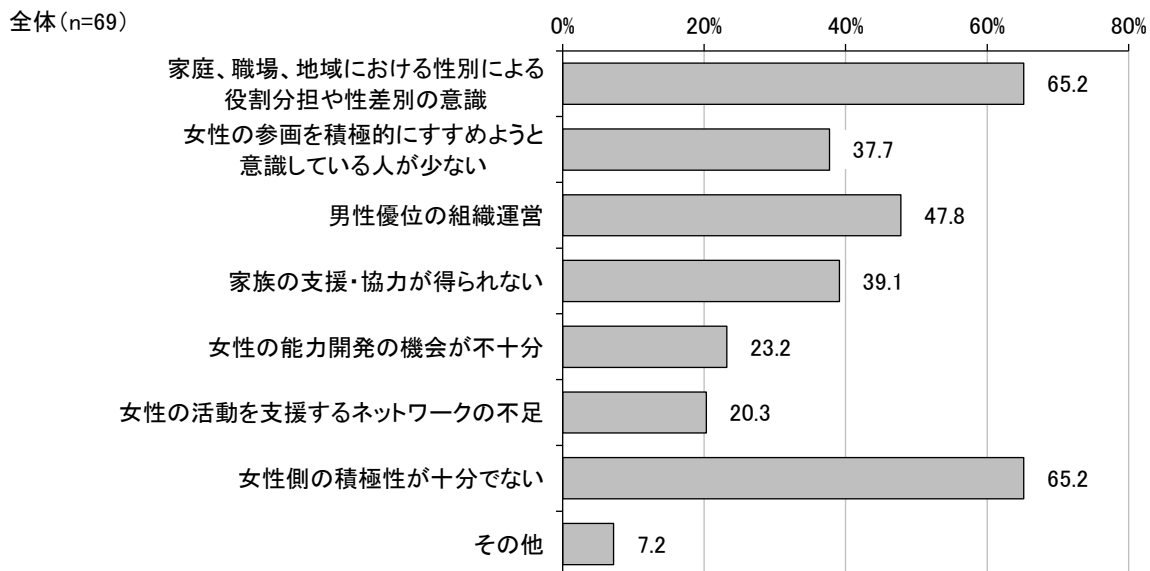
男女別年代別にみると、10～30 歳代では男女ともに「進んでいる」「あまり進んでいないが、やむを得ない」、男性の40～50 歳代では「進んでいる」、女性の40～50 歳代では「あまり進んでいないが、やむを得ない」が最も高くなっています。



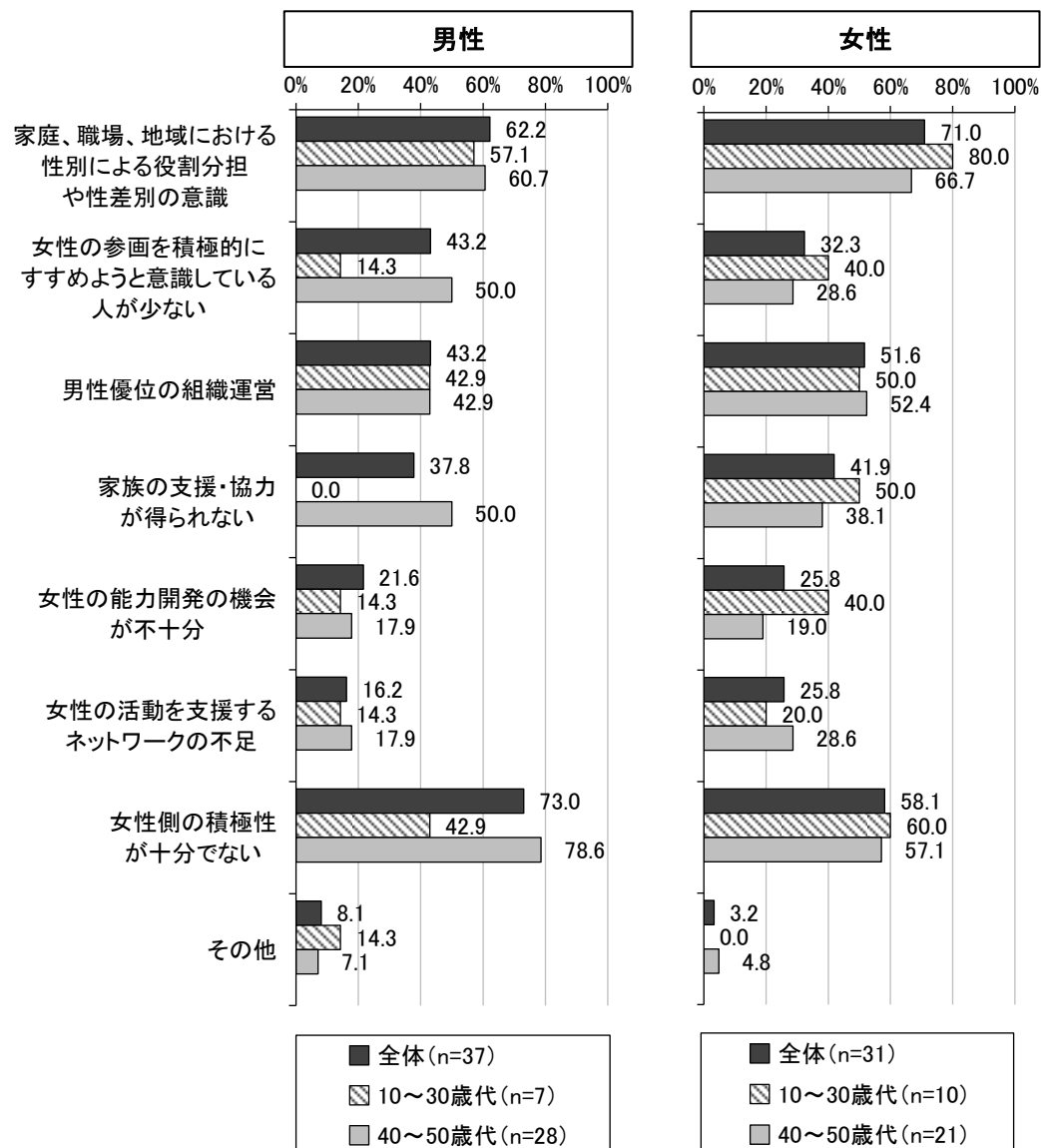
【問 13 で「あまり進んでいないが、やむを得ない」「不十分であるため、更なる取り組みが必要」に○をつけた方におたずねします】

問 14 政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてみると、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」「女性側の積極性が十分でない」が 65.2%と最も高く、次いで「男性優位の組織運営」が 47.8%、「家族の支援・協力が得られない」が 39.1%となっています。

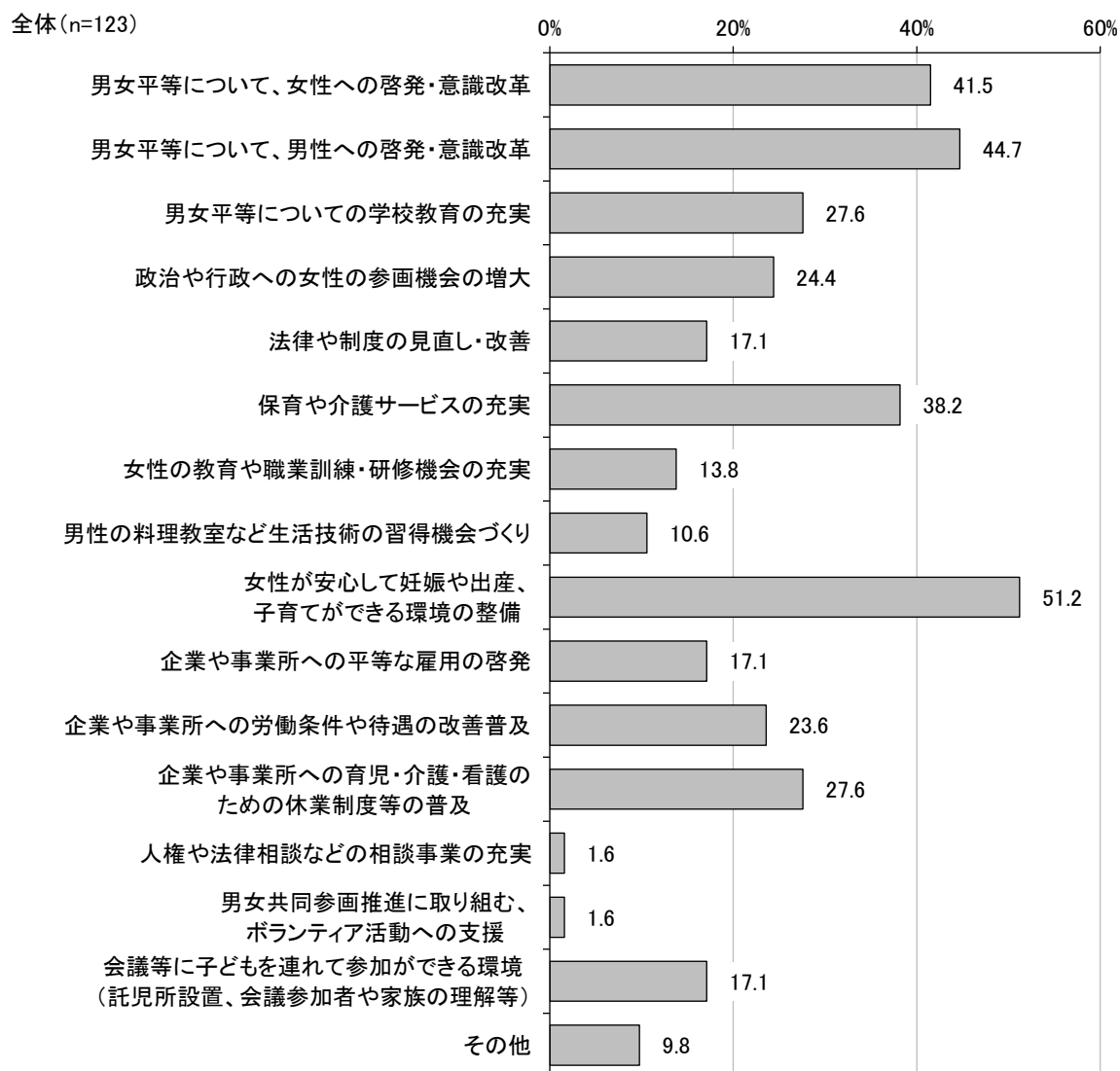


男女別年代別にみると、男性の40～50歳代では「女性側の積極性が十分でない」、それ以外の年代では男女ともに「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」が最も高くなってなっています。

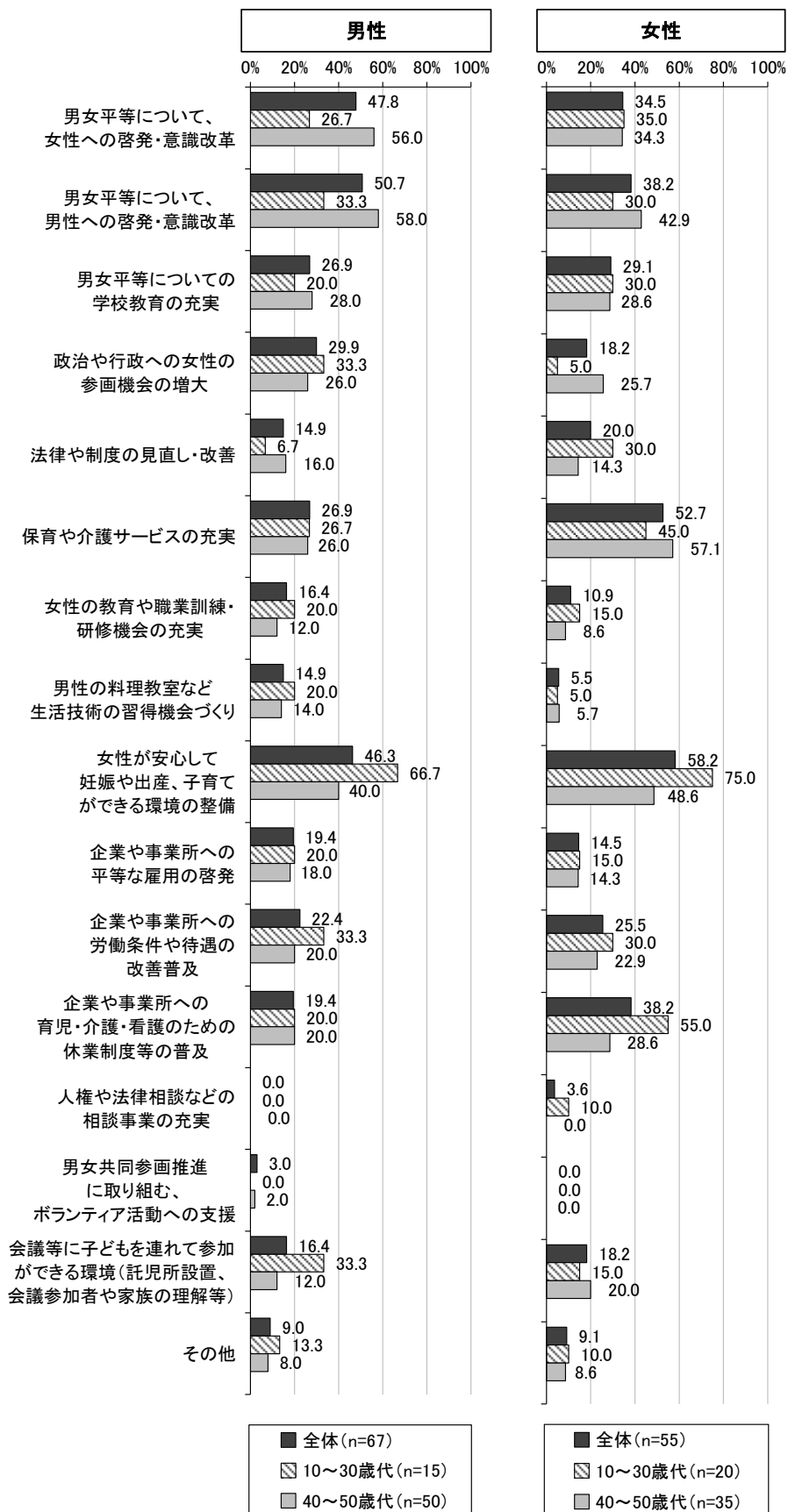


問 15 男女共同参画を推進していくために、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるもの5つまでに○)

男女共同参画推進のために必要なことについてみると、「女性が安心して妊娠や出産、子育てができる環境の整備」が51.2%と最も高く、次いで「男女平等について、男性への啓発・意識改革」が44.7%、「男女平等について、女性への啓発・意識改革」が41.5%となっています。



男女別年代別にみると、10～30 歳代では男女ともに「女性が安心して妊娠や出産、子育てができる環境の整備」、男性の 40～50 歳代では「男女平等について、男性への啓発・意識改革」、女性の 40～50 歳代では「保育や介護サービスの充実」が最も高くなっています。



第3次南あわじ市
男女共同参画計画策定にかかる
アンケート調査
結果報告書

発行：南あわじ市 総務企画部 ふるさと創生課
TEL：0799-43-5205
FAX：0799-43-5305

発行年月：令和4年 10 月